

公第13巻 (通算第24巻)

公益財団法人日本生命済生会

日本生命病院年報



公益財団法人日本生命済生会

日本生命病院年報

2024年4月～2025年3月

これまでも これからも



vol. 13

公第十三巻 (通算第二四巻) (2024年4月～2025年3月)

2024年度 日本生命病院年報の発刊にあたって



院長 立花 功

2024年度版年報(公第13巻：2024年4月～2025年3月)をお届けします。ご高覧くだされば幸いです。

この1年間も病院機能の向上に取り組みました。産婦人科では、大阪市と委託契約を結び、病床を利用して母子同室でサポートを行う産後ケア事業を始めました。また、出産に関するお知らせやイベント情報を発信するインスタグラムを開始しました。ダヴィンチを用いたロボット支援手術は、産婦人科・泌尿器科から消化器外科にも対象を拡大したこともあり、件数が過去最高の188件となりました。脳機能センターでは新薬レカネマブによるアルツハイマー病の治療が順調に進み、2025年3月時点で累計導入症例数が47例に達し、大阪府下の病院では最多となっています。

超高齢社会となった日本、少産多死で人口が減少していき、一方で65歳以上の高齢者人口が急増します。医療はこれからどうなるでしょう？人口は減りますが、長期入院する高齢者の増加により全国の入院患者数はこれからも増加し、2040年頃にピークを迎えるとされています。今後はそういった高齢者の医療を担う体制がより求められ、急性期病床が削減され、回復期病床が増えていくことになります。しかし、日本生命病院のある大阪市西区は、若年層の流入が続いており高齢化率がまだ低く抑えられており、当院は引き続き急性期医療を提供していく方針です。

2024年7月1日、日本生命済生会は創立100周年を迎えることができました。また、「無料・低額診療事業」や児童養護施設の「無料健康診断」、母子家庭の母親を対象とした「休日の無料乳がん検診」など、社会貢献活動が評価され、2025年の天皇誕生日に際し、天皇陛下より、優良民間社会福祉事業施設・団体に対する御下賜金を拝受しました。長年にわたり、理念である「済生利民」(生命や生活を救い、人々のお役に立つこと)を実践してこられたのは、皆さまのご指導・ご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

目 次

2024年度日本生命病院年報の発刊にあたって 院長 立花 功

第Ⅰ章 軌跡

1. 日本生命病院理念と基本方針	4
2. 患者さんの権利と義務について	4
3. 施設概要	6
4. 学会認定状況	8
5. 主要医療機器	9
6. 日本生命済生会 組織図	10
7. 会議・委員会	11
8. 2024年度 業績概要	12
9. 日本生命済生会（日本生命病院）の沿革	13
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長	16

第Ⅱ章 病院統計

1. 全体統計	17
1) 一日平均外来患者数	17
2) 一日平均入院患者数	18
3) 患者年齢・診療圏構成	19
4) 病床稼働率	21
5) 救急患者数	22
6) 退院患者医療評価指標	23
①退院患者統計	23
②診療科別・月別・患者数	24
③診療科別・在院期間別・患者数	25
④疾病統計	26
⑤悪性新生物統計	28
⑥診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	29
7) 手術件数	30
①診療科別・月別手術件数（手術室実施）	30
②診療科別・年間手術件数（総件数のうち、上位のみ）	31
2. 医事統計	34
1) 診療科別医療収入	34
2) 医療行為別医療収入	36
①外来	36
②入院	37
3. その他統計	38
1) 病院従業員数	38
2) セカンドオピニオン外来件数	38

第Ⅲ章 部門別概要〈診療科・センター・部(室)〉

循環器内科	39
消化器内科	41
内分泌・代謝内科	43
呼吸器・免疫内科	45
血液・化学療法内科	47
脳神経内科	48
腎臓内科	50
消化器外科	52
呼吸器外科	54
乳腺外科	55

心臓血管外科	56
産婦人科	57
小児科	59
神経科・精神科	61
脳神経外科	64
整形外科	65
皮膚科	67
泌尿器科	70
眼科	72
耳鼻咽喉・頭頸部外科	73
形成再建外科	75
放射線診断・IVR科	76
放射線治療科	77
麻酔・緩和医療科	78
リハビリテーション科	81
救急総合診療科	84
検査診断科	85
病理診断科	86
予防診療科	87
救急総合診療センター	88
がん治療センター	89
女性骨盤底センター	91
糖尿病・内分泌センター	92
消化器内視鏡センター	94
血液浄化センター	95
脳機能センター	97
乾癬センター	99
臨床研修部	102
輸血管理室	103
化学療法室	104
リハビリテーション室	105
中央手術管理部	109
中央臨床検査部	110
中央放射線部	113
栄養管理室	114
薬剤部	117
臨床工学室	120
臨床研究管理室	121
医療安全対策室	122
感染対策室	123
あったかサポートセンター	126
ニッセイ訪問看護ステーション	135
看護部	137
国際室	144
ニッセイ予防医学センター	145

第IV章 諸活動

1. 日本生命病院医学セミナーUpdate	147
2. 1年目研修医オリエンテーション	148
3. 実習生等受け入れ	149
4. 講演会・研修会	150
5. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞	154
6. 地域活動等	154
7. ボランティアについて	155
8. 広報関係（各種メディア、表彰等）	156
9. 院内行事	157

1. 日本生命病院理念と基本方針

理念

日本生命病院は公益財団法人日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 地域・社会のニーズに対応した変革を進め、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 地域から愛され信頼される、安全・安心な病院を目指します。
7. 上記6項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者さんの権利と義務について

《患者さんの権利》

医療は患者さんと医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日本生命病院では、患者さん中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者さんの権利を大切にします。

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者さんは、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者さんは、十分な説明と情報提供を受けたうえで治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者さんは、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者さんは、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

《患者さんの義務》

日本生命病院では、ご来院・ご入院されるすべての患者さんに対し、安全・安心な環境において、良質な医療サービスを提供します。患者さんにおかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いします。

1. 患者さんには、自らの過去の病歴を含む健康に関する詳細な情報、診療中の変化を正確に伝える義務があります。
2. 患者さんには、治療や検査などの治療方針について、医療者から説明があった場合は、できるだけ明確な意思表示をする義務があります。
3. 患者さんには、医療が安全かつ効果的に実施されるよう、患者さんのご本人確認を含めた診療行為に積極的に参加し、協力する義務があります。
4. 患者さんには、病院内では、当院の規則および公共の場のルールを守って他の方の迷惑にならないように行動する義務があります。
5. 患者さんには、医療費を支払う義務があります。
6. 患者さんには、医療は医学、社会、経済、倫理等の様々な要因により限界があることを認識する義務があります。

2019年4月 制定

3. 施設概要

1. 名 称 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院
2. 所 在 地 大阪府大阪市西区江之子島2丁目1番54号
3. 竣工年月日 2018年1月5日
工事期間 2015年10月～2017年12月
4. 開設年月日 2018年4月30日
5. 構 造 鉄骨造（免震構造）
6. 延床面積 38,185.66㎡
7. 階 数 地下1階、地上14階、塔屋2階
8. 高 さ 67.99m
9. 設備概要 受 変 電：22kV特高スポットネットワーク受電（TR1.250kVA×3台）
発 電 機：非常用発電機（ガスタービン）高圧 1,500kVA
常用発電機（マイクロCGS）低圧 31kVA×10台
無停電電源：医療用100kVA、情報用100kVA
通信・信号：ナースコール、インターホン、テレビ共同受信、監視カメラ、入退室管理、
電話、LAN
熱 源 方 式：ジェネリンク機、モジュールチラー
空 調 方 式：空調機、ファンコイル、空冷パッケージエアコン、（放射空調）
給 湯 設 備：ガス給湯ヒーター、ガス連結式瞬間型給湯器、貯湯式電気温水器
消 火 設 備：スプリンクラー、連結送水管、泡消火、窒素ガス消火、フード消火
医 療 ガ ス：酸素、笑気、窒素、炭酸ガス、圧縮空気、吸引
エレベータ：一般乗用5台、寝台用1台、人荷用2台、非常用2台、小荷物専用3台
エスカレータ：6台
10. 許可病床数 350床

	一 般 病 棟	14階 (1,604㎡)
		13階 (1,604㎡)
		12階 (1,604㎡)
		11階 (1,604㎡)
		10階 (1,604㎡)
		9 階 (1,611㎡)
		8 階 (1,601㎡)
	女性病棟 (LDR室、新生児室)	7 階 (1,859㎡)
リハビリ 庭 園	リハビリテーション室／機械室／栄養管理室／厨房	6 階 (2,419㎡)
	管理部門／医局／研修医スペース／看護部管理室／福祉事業局／医療安全対策室／ 感染対策室／診療情報管理室／情報システム室／国際室／技術トレーニング室／会議室／応接室	5 階 (3,577㎡)
	手術室／集中治療室／化学療法室／血液浄化センター／ 中央臨床検査部 (検体・病理・細菌検査)／薬剤部／臨床工学室	4 階 (3,577㎡)
	予防医学センター (人間ドック・健診)／消化器内視鏡センター／ 中央放射線部／臨床研究管理室	3 階 (3,577㎡)
	外来／生理検査室／採血室／栄養指導室／医事サービス部／ あったかサポートセンター／がん治療センター／糖尿病・内分泌センター／乾癬センター	2 階 (3,769㎡)
	救急総合診療センター／リニアック治療室／訪問看護ステーション／ あったかふれあいホール／工房／コリドー／レストラン・カフェ／コンビニ	1 階 (3,534㎡)
ニッセイ 四季彩 ガーデン	駐車場	B1 階 (3,811㎡)

- ・第8回みどりのまちづくり賞ランドスケープデザイン部門「大阪府知事賞」(最高賞) 受賞
- ・第39回大阪都市景観建築賞 (愛称: 大阪まちなみ賞)「緑化賞」 受賞



ニッセイ四季彩ガーデン



病院外観



コリドー

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・高速回転式経皮経管アテレクトミー（Rotablator）施設認定
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本膵臓学会認定指導施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本超音波医学会専門医制度研修施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本アレルギー学会専門医準教育施設
- ・日本血液学会血液研修施設
- ・日本血液学会専門研修認定施設
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会認定医制度認定施設
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本臨床栄養代謝学会N S T稼働施設
- ・日本呼吸器外科学会専門研修連携施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
- ・四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会
腹部ステントグラフト実施施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会ロボット手術認定研修施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本産科婦人科学会腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）登録施設
- ・日本精神神経学会専門医制度研修施設
- ・日本総合病院精神医学会
一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本形成外科学会専門医制度認定施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
インプラント実施施設
- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医研修施設
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・画像診断管理認証施設（MRI安全管理に関する事項）
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本造血・免疫細胞療法学会
非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科）
- ・日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
- ・日本認知症学会専門医制度教育施設
- ・卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設
- ・日本インターナショナルホスピタルズ
(2025年4月1日現在)

5. 主要医療機器

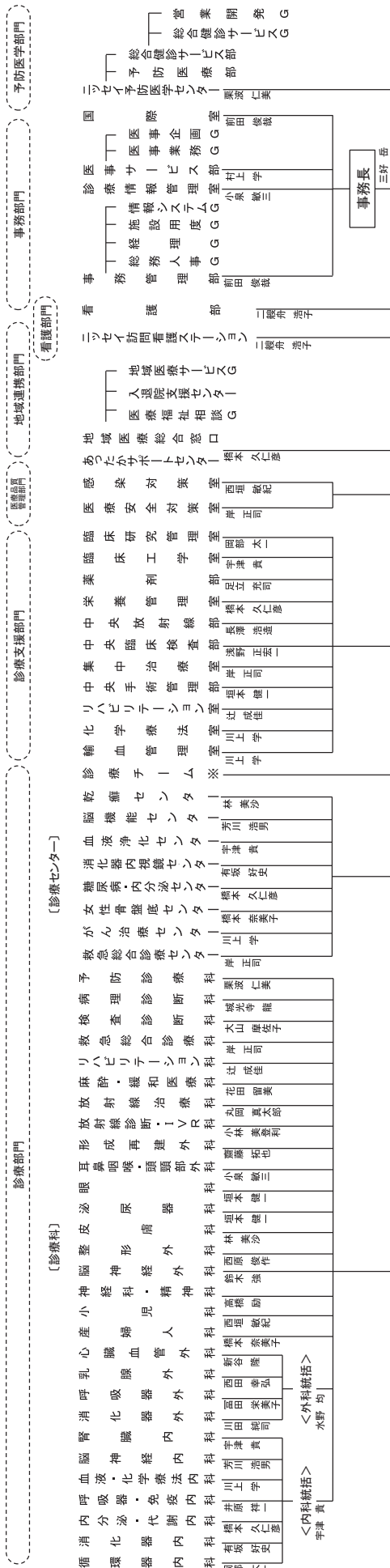
品 名	設置部署
補助循環用バルーンポンプ駆動装置 CARDIOSAVE	循環器内科
体外循環装置用遠心ポンプ駆動装置 SP200C	循環器内科
超音波内視鏡 GF-UE260AL5 GF-UCT260	消化器内視鏡 セ ン タ ー
超音波内視鏡観測装置 EU-ME3	消化器内視鏡 セ ン タ ー
超音波診断装置 Aplio i700	中央臨床検査部・ 予防医学センター
超音波診断装置 Aplio i600	予防医学センター・ 中央臨床検査部
超音波診断装置 Aplio i300	乳 腺 外 科 ・ 中央手術管理部
内視鏡本体 EVIS X1	消化器内視鏡 セ ン タ ー
内視鏡本体・スコープ EVIS LUCERA ELITE	消化器内視鏡 セ ン タ ー
内視鏡本体・スコープ VP-7000	消化器内視鏡 セ ン タ ー
ステレオ定位乳腺バイオプシーシステム	乳 腺 外 科
体外衝撃波結石破碎装置 Integra	泌 尿 器 科
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼 科
走査型超広角眼底撮影装置 CLARUS	眼 科
光干渉断層計（OCT）シラスhd-oct prus	眼 科
眼撮影装置 CASIA2	眼 科
キャビン型紫外線治療器 UV7002K-TL01	皮 膚 科
X線一般撮影装置	中央放射線部・ 予防医学センター
デジタルX線TVシステム	中央放射線部・ 予防医学センター
ポータブル撮影装置	中央放射線部
16列治療計画用CT Aquilion LB	中央放射線部
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE	中央放射線部
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE/NATURE	中央放射線部
放射線治療システム True Beam	中央放射線部
大動脈内バルーンポンプ IABP	中央放射線部
経皮的心肺補助装置 PCPS	中央放射線部
1.5テスラ全身用磁気共鳴装置（MRI） MAGNETOM Altea	中央放射線部
3.0テスラ磁気共鳴断層装置（MRI） MAGNETOM Skyra	中央放射線部
デジタルガンマカメラ NM830	中央放射線部
PET-CT装置 Discovery IQ.e	中央放射線部

品 名	設置部署
心臓用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD10/10	中央放射線部
汎用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD20	中央放射線部
透視下内視鏡用Cアーム VersiFlex VISTA	中央放射線部
マンモグラフィシステム AMULET Innovality	中央放射線部・ 予防医学センター
三次元放射線治療計画システム Eclipse	中央放射線部
FSVセントラルシステム （胎児集中監視システム）	病 棟
超音波診断装置 Aplio i700 LX Prism Edition	中央臨床検査部
超音波診断装置 ARIETTA850	中央臨床検査部
血液検査分析器 HSトランスポートーション	中央臨床検査部
血液分析装置 XN-3000/XN-1000	中央臨床検査部
生化学分析装置 LABOSPECT008 α	中央臨床検査部
微生物分類同定分析装置 バイテックMS	中央臨床検査部
遠心型血液成分分離装置 スペクトラオプティア	中央臨床検査部
自動染色装置 ベンチマークULTRA	中央臨床検査部
自動検体搬送装置 IDS-CLAS+X-1	中央臨床検査部
採血管準備装置 BC・ROBO8001RFID/P62T、BC・ROBO8001RFID/T4	中央臨床検査部・ 予防医学センター
眼科用手術顕微鏡 OPMI Lumera700	中央手術管理部
白内障手術装置 センチュリオンビジョンシステム	中央手術管理部
耳鼻咽喉・頭頸部外科用手術顕微鏡 M525 F40	中央手術管理部
手術室用FD搭載Cアーム Cios Alpha iV	中央手術管理部
手術室用X線透視診断装置 CALNEO CROSS	中央手術管理部
脳神経外科手術顕微鏡 M530-OHX	中央手術管理部
超音波手術装置 CUSA C37-1005	中央手術管理部
ロボット手術システム da Vinci Xi	中央手術管理部
腹腔鏡装置 VISERA ELITE II	中央手術管理部
ストライカーナビゲーション NAV3iプラットフォーム	中央手術管理部
高圧蒸気滅菌器	中央手術管理部
過酸化水素ガス滅菌装置	中央手術管理部
自動注射払出機 YS-APF	薬 剤 部

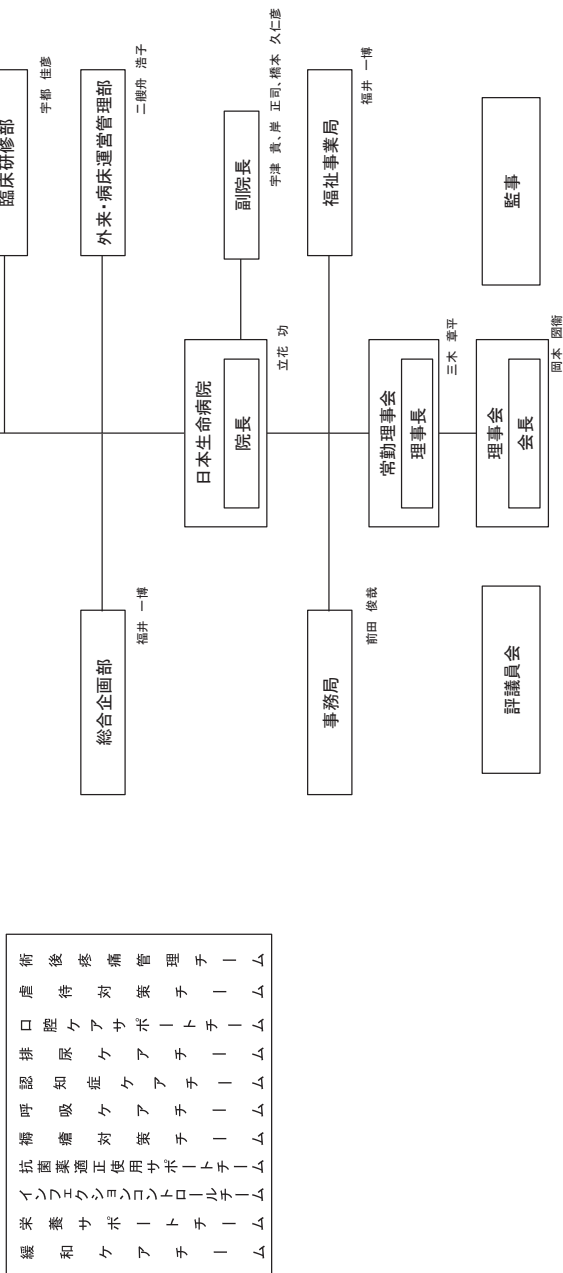
6. 日本生命済生会組織図

(2025.3.1)

患者・受診者・家族の皆さん、地域の皆さん、連携医療機関



〔※診療子一ム〕



7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が3月・6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数	委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	中川 厚	10	治験審査委員会	岡部 太一	12
安全衛生委員会	高橋 励	12	DPC・質向上委員会	富田栄美子	4
医療安全管理委員会	岸 正司	12	当直・救急・集中治療室検討委員会	岸 正司	6
医療ガス安全管理委員会	川田 純司	1	透析機器安全管理委員会	宇津 貴	2
医療機器・ディスプレイ検討委員会	立花 功	7	日本生命病院医学顕彰委員会	橋本久仁彦	1
医療従事者業務検討委員会	立花 功	5	年報作成委員会	花田 留美	2
院内感染対策委員会	西垣 敏紀	12	病院機能向上委員会	宇津 貴	3
栄養・給食委員会	橋本久仁彦	8	防災管理委員会	有坂 好史	3
化学療法運営委員会	西田 幸弘	3	放射線安全および医療放射線安全委員会	丸岡真太郎	1
教育委員会	橋本久仁彦	7	訪問看護運営委員会	二艘舟浩子	1
クリティカルパス委員会	垣本 健一	2	薬事管理委員会	立花 功	4
研修推進委員会	宇都 佳彦	3	輸血療法委員会	川上 学	6
研修管理委員会	立花 功	3	臨床検査適正化委員会	浅野 正宏	4
情報管理委員会	西原 俊作	1	臨床工学室運営委員会	宇津 貴	6
褥瘡対策委員会	齋藤 拓也	3	倫理委員会	水野 均	12
診療情報提供委員会	橋本奈美子	0	利益相反委員会	水野 均	0
診療録管理委員会	小泉 敏三	11			

8. 2024年度 業績概要

総 収 入	13,291百万円（12,294百万円*）		
新 入 院 患 者 数	9,404人	平 均 在 院 日 数	10.4日
入院患者数（1日平均）	293人	入 院 単 価	73,100円
病 床 稼 働 率	83.8%		
外 来 延 患 者 数	236,372人	外 来 単 価	19,007円
外来患者数（1日平均）	973人		
紹 介 率	93.7%	逆 紹 介 率	91.0%

*（ ）内は病院単独

9. 日本生命済生会（日本生命病院）の沿革

1924年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	1974 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂（1979年発刊）
1925 4	健康相談所（無料診療所）を開設 大地震に救護班派遣	1976 1	RI検査室を新設
1930 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け （大阪市西区新町）	1978 3	「（新）病院建築基本構想委員会」設置
1931 6	日生病院（内科、外科、理学的診療科）開院	1978 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ昇格
1932 4	看護婦養成所を設立	1979 4	医療事務をコンピュータ化
1932 7	産婦人科、小児科を新設	1982 4	新病院（現在地）の竣工、開院
1942 1	耳鼻咽喉科を新設	1983 3	日本生命と第一回特別委員会 （5カ年計画策定）
1947 1	眼科新設（その後皮膚泌尿器科、歯科、 整形外科新設）	1984 3	全科で午後外来診療を開始
1947 4	インターン制度の開始 （第1期生9名受入れ）	1984 4	社会事業局を福祉事業部に改組
1948 9	健康保険、労災保険病院の指定を受ける	1985 4	病理部を再設置
1949 7	結核病棟を設置（1973年8月、閉鎖）	1987 12	HBS社（医療経営コンサルト）の診断を 受ける
1955 12	第二種社会福祉事業（無料低額診療）を開始	1988 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術連合 会議からパイオニア賞を受賞
1956 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣工 （350床へ）	1989 2	夕食を午後6時配膳
1956 6	健康精密検査室（人間ドック）を開設	1989 10	専門外来（10科）開始
1957 8	総合病院の認可を受ける	1989 11	自動再診受付機を設置
1958 4	済生会組織、三部門体制へ （現行体制スタート）	1990 10	学校、創立30周年記念式典
1958 10	甲表採用、三基準認可	1991 4	4週6休制試行開始
1959 10	神経科新設	1991 10	地域の「健康講座」に講師派遣
1960 4	学校、准看護学院から高等看護学院 （正看護婦養成）へ	1992 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
1961 6	日本生命済生会労働組合の結成	1993 2	「病院運営会議」を再開
1965 8	各診療科に部長制採用	1993 4	MRIの稼働開始
1967 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ 拡大、充実	1993 6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得
1968 8	第1回「社会福祉カウンセリング講座」開講	1993 10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成
1969 4	沖中重雄氏（虎の門病院長）を顧問委嘱	1994 3	内科外来等で予約診療開始
1970 9	第1回「篤志解剖者慰霊祭」執行	1994 7	創立70周年記念式典、諸行事実施 （7～11月）、70年史の編纂開始
1971 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行	1994 10	脳ドック検診開始
1972 4	臨床研修指定病院の認定を受ける	1994 10	新看護体系「2：1（A）」の承認
1973 2	「日生病院医学雑誌」第1巻第1号を刊行	1994 11	無菌治療室設置、使用開始
1973 3	紀要「地域福祉研究」第1集刊	1995 2	保温保冷配膳車導入
1973 4	放射線学会「専門医修練機関」認定	1995 8	日生医学賞・医学奨励賞創設、 第1回表彰式実施
1973 9	病歴図書部を新設	1995 8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞受賞
1973 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」 開発で機械振興会賞を受賞	1996 5	総合案内・看護相談の試行実施
		1996 10	「歯科口腔外科」標榜
		1997 2	経営改善推進本部・部会の発足

1997	3	歯科臨床教育病院の新規指定	2012	4	生活習慣病センターから糖尿病センターへ組織名称変更
1997	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト（医療経済研究機構）に選ばれ、参加（全国17モデル病院）	2012	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次元画像解析」（眼科）が承認される
1998	2	「日生病院だより」創刊号発行	2012	8	320列マルチスライスCT導入
1998	5	総合診療科機能発足	2013	4	新病院新設準備室の新設
1998	7・8	DRG/PPS分析結果報告会開催	2013	4	予防医学センターで「統合健診システム」の稼働
1998	11	院外処方箋発行開始	2013	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨髄固定術」（産婦人科）が承認される
1998	11	薬剤管理指導料全科算定認可	2013	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント「自然に学ぶ!自然に遊ぶ!健康キッズ」開催
1999	3	医療材料院外SPD（物品管理システム）始動	2014	1	広報誌「日生病院あったかサポート通信『Saisei Rimin（済生利民）』」を発刊
1999	7	インフラ工事開始（2000年4月：3階新病棟オープン）	2014	1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設
2000	3	日生訪問看護ステーションを開設	2014	4	「変革4ヵ年計画」がスタート
2000	4	日生ケアプランセンター設置	2014	4	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管理部、女性骨盤底センター、救急診療センター、中央放射線部、事務管理部の新設
2001	4	病院機能評価認定証取得	2014	4	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定
2001	4	「日生病院の理念」制定、「患者様の権利」院内掲示	2014	5	新電子カルテシステムが全面稼働
2001	6	公開学術講演会開催（講師：北村国立循環器病センター総長）	2014	7	日本生命済生会 創立90周年「90年小史」作成
2001	7	第1回日生病院病診連携フォーラム開催	2014	9	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始
2002	1	開放型病院資格取得	2015	1	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定
2003	4	医療安全対策室設置	2015	4	中央手術管理部の新設
2003	4	予防医学センター設置	2015	7	新病院開設許可受ける
2004	2	内科二次救急指定病院取得	2015	9	休日診療の試験実施（9月23日、11月23日）
2005	3	電子カルテシステム稼働	2015	10	新病院着工
2006	4	血液・化学療法内科新設	2016	1	呼吸器外科新設
2006	7	DPC導入（入院医療費）	2016	3	日本産科婦人科学会の倫理委員会で承認された、不妊治療の臨床研究に係る卵巣ミトコンドリア採取手術を開始
2007	2	土曜日閉院 4週8休制開始	2016	4	耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に改組
2007	3	7対1入院基本料算定開始	2016	4	内科統括・外科統括職制の新設
2007	3	日生看護専門学校閉校	2016	6	日本総合病院精神医学会 施設認定
2007	11	がん治療センター、低侵襲医療センター開設	2016	7	腎臓・透析センター、腎臓内科を新設
2008	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン	2016	7	「入退院支援センター」をあったかサポートセンター内に設置
2008	7	生活習慣病センター開設	2016	10	日本大腸肛門病学会 施設認定
2008	10	乳腺外科新設	2016	11	日本消化管学会 施設認定
2009	3	第1回日生病院市民公開講座開催	2016	12	新病院上棟式
2009	4	大阪府がん診療拠点病院に指定	2017	3	日本胆道学会 施設認定
2010	8	無料乳がん検診開始	2017	4	形成再建外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、放射線治療科を新設
2011	4	消化器内視鏡センター開設	2017	4	日本腎臓学会 施設認定
2012	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮体がん根治手術」（産婦人科）が承認される			
2012	4	公益財団法人へ移行			
2012	4	地域医療総合窓口あったかサポートセンター創設			

2017	5	日本婦人科腫瘍学会 施設認定	2021	3	「大阪市西区消防記念日表彰」 (救急業務運営協力医療機関) を受ける
2018	1	日本呼吸器外科学会 施設認定	2021	4	日本肝臓学会、日本神経学会、 日本認知症学会 施設認定
2018	2	「地域医療支援病院」として大阪府より承認	2021	9	電子カルテシステム更新
2018	4	日本ペインクリニック学会 施設認定	2021	10	総合内科を内分泌・代謝内科、 呼吸器・免疫内科に改組
2018	4	「日本生命病院」に改称し、江之子島へ 移転・開院	2022	1	あったかふれあいホールを「臨時外来」に 転用し、発熱患者の診察やPCR検査を実施
2018	6	ダヴィンチによる手術開始	2022	3	放射線治療システムを増強
2018	10	みどりのまちづくり賞・大阪府知事賞を受賞	2022	4	予防診療科の新設
2018	11	神経内科を脳神経内科に改組	2022	5	化学療法室の増床
2018	12	「スマートフォン診察呼出アプリ」の 運用開始	2022	11	タブレット端末導入等による訪問看護シス テムのリニューアル
2019	1	日本痔臓学会 施設認定	2022	11	オンライン資格確認の運用開始
2019	4	乾癬センターの新設、総合入院体制加算の 算定開始、日本超音波医学会 施設認定	2022	12	集中出版による「癒しと安らぎの環境賞 2022」受賞
2019	5	大阪府「外国人患者受入地域拠点医療機関」 に選定される	2023	3	外来フロアの案内表示をリニューアル
2019	10	国際室の新設	2023	11	治験文書クラウド管理システムを導入
2020	1	「帰国者・接触者外来」の設置	2024	1	ダヴィンチによる結腸悪性腫瘍手術の施設 基準を取得
2020	3	JCEPの臨床研修評価を受審し認定を受ける	2024	3	認知症新薬承認に伴う保険診療開始
2020	4	救急総合診療科の改組新設、 「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」 の認証を受ける	2024	3	胸部X線読影についてのAIによる読影 サポートシステムを導入
2020	7	アミロイドPET検査開始、 「糖尿病予防プログラム」の有償サービス 開始、日本造血細胞移植学会 施設認定	2024	3	ニッセイケアプランセンターを収束
2020	12	10階病棟をコロナ専用として運用開始			

(2024年度沿革)

2024年 5月	フレイル検査の取り扱い開始 (予防医学センター)
2024年 7月	日本生命済生会 創立100周年
2024年 7月	「ニッセイ夏休みこども医療体験」を5年ぶりに開催
2024年 9月	「日本生命済生会100年史」発行
2024年10月	「産後ケア事業」の開始
2024年11月	「大阪市西部3病院合同がんサロン」の開催
2024年12月	「ダビンチ体験会」の開催
2025年 3月	「優良民間社会福祉事業施設・団体に対する天皇誕生日に際しての御下賜金」を拝受
2025年 3月	救急時医療情報閲覧機能の導入

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長

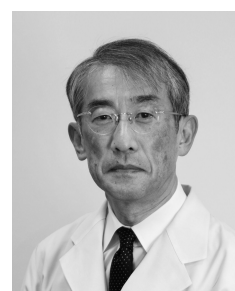
設立時の常任理事	小河 滋次郎	1924年～1925年
日本生命済生会 会 長	弘世 現	1960年～1991年
	川瀬 源太郎	1991年～2000年
	小林 幹司	2000年～2005年
	宇野 郁夫	2005年～2016年
	岡本 罔衛	2016年～(2025年6月)
日本生命済生会 理 事 長	手塚 太郎	1925年～1932年
	弘世 助太郎	1932年～1936年
	成瀬 達	1936年～1951年
	弘世 現	1951年～1960年
	若林 源蔵	1960年～1968年
	浜田 勝巳	1968年～1980年
	浅井 啓三	1980年～1986年
	鳥井 静夫	1986年～1992年
	弟子丸 兆生	1992年～1994年
	平島 一	1994年～1996年
	沼田 輝夫	1996年～2002年
	小林 三紘	2002年～2008年
	野崎 篤彦	2008年～2018年
	三木 章平	2018年～
日本生命病院 院 長	長雄 勝馬	1931年～1937年
	清水 寛一	1937年～1946年
	勝部 育郎	1946年～1948年
	新海 輝一	1948年～1971年
	諏訪 信吾	1971年～1974年
	上野 元男	1974年、1976年～1977年
	乾 久朗	1974年～1976年
	中井 俊夫	1977年～1990年
	山本 昌弘	1990年～2000年
	佐藤 文三	2000年～2004年
	宗田 滋夫	2004年～2008年
	寺川 直樹	2008年～2013年
	笠山 宗正	2013年～2021年
	立花 功	2021年～



会長 岡本 罔衛



理事長 三木 章平



院長 立花 功

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	52 (55)	54 (55)	49 (49)	49 (53)	50 (51)	49 (52)	49 (54)	50 (52)	52 (55)	55 (55)	53 (57)	49 (52)	51 (53)
消化器内科	77 (73)	71 (74)	71 (73)	69 (74)	67 (69)	80 (76)	76 (79)	74 (76)	75 (76)	74 (74)	76 (77)	74 (73)	74 (74)
内分泌・代謝内科	85 (89)	82 (85)	89 (89)	82 (85)	84 (84)	90 (90)	89 (90)	81 (88)	97 (94)	89 (88)	86 (94)	87 (91)	87 (89)
呼吸器・免疫内科	75 (71)	76 (73)	73 (75)	77 (75)	74 (69)	81 (79)	80 (73)	78 (78)	83 (71)	84 (79)	79 (77)	77 (77)	78 (75)
血液・化学療法内科	39 (36)	38 (36)	38 (32)	37 (34)	37 (34)	37 (37)	35 (39)	36 (41)	37 (42)	36 (39)	37 (39)	38 (36)	37 (37)
脳神経内科	34 (30)	31 (31)	34 (28)	35 (30)	31 (29)	37 (30)	34 (31)	31 (31)	36 (30)	36 (32)	35 (29)	34 (30)	34 (30)
腎臓内科	33 (30)	29 (30)	32 (28)	31 (31)	30 (29)	33 (31)	32 (30)	30 (31)	34 (33)	35 (31)	30 (32)	32 (33)	32 (31)
内科（計）	395 (384)	382 (385)	386 (374)	379 (380)	373 (365)	407 (395)	395 (396)	380 (398)	414 (400)	408 (399)	397 (404)	391 (391)	392 (389)
消化器外科	20 (18)	21 (21)	18 (19)	18 (18)	16 (19)	18 (19)	18 (19)	17 (21)	19 (20)	21 (20)	18 (21)	21 (21)	19 (20)
呼吸器外科	3 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (5)	4 (5)	4 (5)	5 (4)	5 (4)	5 (5)	5 (5)	5 (4)	4 (4)
乳腺外科	12 (19)	12 (20)	14 (19)	14 (19)	14 (17)	13 (22)	12 (16)	14 (16)	11 (17)	13 (14)	13 (13)	13 (14)	13 (17)
心臓血管外科	7 (7)	7 (6)	7 (7)	8 (7)	6 (6)	8 (7)	5 (6)	7 (7)	6 (8)	8 (7)	7 (7)	7 (7)	7 (7)
外科（計）	43 (48)	45 (51)	43 (48)	45 (49)	40 (46)	43 (52)	39 (47)	43 (48)	42 (49)	46 (47)	42 (46)	45 (46)	43 (48)
産婦人科	83 (79)	83 (87)	82 (76)	82 (82)	79 (80)	87 (84)	90 (85)	86 (86)	89 (84)	89 (83)	84 (81)	91 (88)	85 (83)
小児科	35 (33)	32 (36)	33 (36)	34 (37)	34 (34)	34 (35)	34 (31)	34 (35)	38 (38)	31 (32)	33 (33)	35 (34)	34 (34)
神経科・精神科	53 (57)	55 (58)	50 (51)	49 (54)	50 (49)	51 (54)	48 (54)	47 (53)	50 (53)	48 (57)	47 (56)	45 (55)	50 (54)
脳神経外科	4 (5)	3 (5)	4 (3)	5 (4)	4 (4)	4 (3)	4 (3)	4 (3)	4 (3)	5 (4)	5 (3)	5 (4)	4 (4)
整形外科	57 (54)	53 (56)	54 (54)	55 (52)	50 (48)	51 (56)	56 (56)	52 (50)	55 (54)	58 (50)	50 (55)	47 (54)	53 (53)
皮膚科	106 (101)	108 (105)	104 (100)	108 (103)	106 (96)	109 (112)	106 (104)	104 (105)	112 (105)	113 (105)	106 (107)	106 (106)	107 (104)
泌尿器科	40 (43)	41 (41)	42 (41)	42 (43)	39 (38)	44 (44)	43 (44)	38 (38)	48 (43)	46 (42)	43 (44)	40 (40)	42 (42)
眼科	38 (53)	37 (51)	39 (49)	35 (50)	34 (46)	39 (51)	35 (49)	35 (47)	41 (47)	38 (45)	39 (45)	40 (46)	37 (48)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	31 (32)	31 (32)	32 (31)	32 (33)	30 (32)	33 (36)	28 (34)	31 (38)	34 (37)	32 (36)	34 (32)	35 (32)	32 (34)
形成再建外科	9 (11)	9 (12)	9 (10)	9 (9)	9 (8)	11 (9)	8 (8)	10 (9)	10 (10)	9 (8)	9 (9)	10 (10)	9 (9)
放射線診断科	5 (6)	4 (5)	5 (6)	5 (4)	4 (5)	5 (5)	6 (5)	5 (5)	5 (4)	5 (4)	5 (6)	5 (6)	5 (5)
放射線治療科	7 (11)	12 (11)	12 (12)	11 (10)	9 (10)	13 (11)	14 (13)	8 (15)	9 (11)	11 (11)	12 (13)	10 (9)	11 (11)
麻酔・緩和医療科	20 (14)	22 (15)	20 (14)	22 (16)	21 (22)	21 (22)	22 (22)	24 (22)	23 (20)	25 (21)	23 (21)	23 (20)	22 (19)
リハビリテーション科	5 (7)	5 (7)	5 (6)	4 (5)	4 (5)	4 (6)	4 (6)	3 (6)	3 (4)	4 (4)	3 (4)	2 (3)	4 (5)
救急総合診療科	16 (17)	19 (20)	20 (17)	21 (24)	20 (25)	17 (23)	17 (19)	20 (18)	31 (21)	29 (26)	23 (22)	21 (18)	21 (21)
糖尿病・内分泌センター	6 (7)	6 (7)	7 (7)	6 (6)	7 (7)	6 (6)	7 (7)	7 (7)	7 (7)	7 (6)	7 (8)	6 (6)	7 (7)
血液浄化センター	13 (13)	13 (14)	12 (12)	13 (12)	13 (11)	12 (12)	14 (11)	14 (11)	13 (12)	15 (13)	14 (13)	15 (13)	14 (12)
予防診療科	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	967 (975)	960 (998)	961 (946)	955 (975)	928 (931)	994 (1,020)	969 (995)	945 (996)	1028 (1,003)	1023 (996)	980 (1,003)	973 (981)	973 (984)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

2 一日平均入院患者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	累計平均
循環器内科	20 (21)	19 (21)	16 (17)	19 (14)	20 (15)	17 (16)	19 (17)	14 (18)	20 (19)	24 (21)	17 (21)	21 (20)	19 (18)
消化器内科	32 (22)	20 (21)	19 (25)	20 (33)	18 (28)	21 (27)	23 (24)	28 (26)	24 (31)	26 (24)	22 (30)	25 (28)	23 (27)
内分泌・代謝内科	15 (17)	12 (15)	13 (17)	17 (13)	18 (19)	16 (18)	14 (14)	14 (12)	15 (14)	18 (14)	20 (15)	18 (17)	16 (15)
呼吸器・免疫内科	60 (48)	58 (50)	55 (59)	48 (56)	49 (52)	45 (47)	46 (48)	46 (47)	52 (47)	56 (57)	57 (62)	52 (57)	52 (52)
血液・化学療法内科	34 (26)	34 (29)	27 (30)	31 (28)	31 (24)	32 (26)	30 (29)	27 (25)	22 (28)	23 (26)	25 (33)	22 (32)	28 (28)
脳神経内科	12 (9)	11 (11)	11 (9)	13 (8)	14 (11)	13 (12)	12 (12)	11 (12)	13 (11)	16 (10)	18 (11)	13 (12)	13 (11)
腎臓内科	11 (9)	9 (11)	11 (16)	14 (12)	12 (13)	12 (12)	12 (9)	11 (9)	13 (16)	15 (18)	14 (19)	14 (17)	12 (13)
内科(計)	184 (153)	162 (159)	151 (173)	163 (163)	163 (162)	156 (158)	155 (154)	152 (150)	160 (165)	177 (168)	173 (190)	164 (182)	163 (165)
消化器外科	13 (15)	13 (16)	13 (17)	12 (17)	13 (17)	17 (16)	13 (16)	17 (14)	13 (17)	14 (17)	13 (17)	12 (19)	14 (17)
呼吸器外科	4 (2)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	3 (4)	3 (4)	3 (3)	2 (2)	3 (2)	3 (3)	2 (4)	3 (4)	3 (3)
乳腺外科	1 (5)	1 (5)	0 (7)	2 (7)	2 (6)	1 (9)	0 (5)	1 (3)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (4)
心臓血管外科	2 (2)	3 (5)	4 (4)	3 (5)	4 (5)	5 (6)	5 (6)	5 (6)	5 (6)	7 (5)	6 (4)	6 (4)	5 (5)
外科(計)	20 (25)	21 (30)	19 (30)	20 (32)	23 (33)	25 (35)	23 (32)	25 (24)	23 (28)	25 (26)	21 (24)	23 (28)	22 (28)
産婦人科	32 (31)	29 (28)	28 (30)	29 (28)	32 (30)	22 (30)	28 (26)	30 (27)	27 (30)	28 (24)	32 (27)	28 (29)	29 (28)
小児科	9 (5)	7 (5)	7 (7)	8 (6)	7 (5)	6 (5)	8 (4)	8 (5)	8 (6)	5 (3)	6 (4)	7 (6)	7 (5)
神経科・精神科	11 (9)	10 (9)	13 (14)	15 (12)	14 (9)	11 (8)	11 (13)	10 (10)	8 (9)	8 (11)	8 (9)	7 (10)	11 (10)
脳神経外科	3 (2)	0 (1)	2 (1)	1 (2)	2 (1)	4 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (3)	1 (2)	1 (2)	2 (3)	2 (2)
整形外科	15 (19)	19 (14)	16 (16)	16 (17)	16 (16)	16 (13)	15 (13)	16 (13)	18 (16)	16 (10)	17 (14)	14 (13)	16 (15)
皮膚科	7 (5)	8 (4)	10 (5)	6 (6)	9 (7)	6 (4)	6 (6)	8 (6)	9 (6)	5 (3)	8 (4)	5 (7)	7 (5)
泌尿器科	8 (11)	8 (7)	7 (11)	9 (9)	7 (8)	7 (7)	7 (8)	6 (10)	8 (7)	7 (6)	10 (6)	7 (7)	8 (8)
眼 科	3 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	1 (2)	1 (1)	2 (2)	2 (3)	2 (2)	2 (2)	2 (3)	2 (3)	2 (2)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	11 (5)	8 (8)	10 (7)	11 (6)	10 (7)	7 (9)	9 (11)	9 (12)	7 (11)	7 (11)	5 (7)	7 (10)	9 (9)
形成再建外科	2 (3)	2 (1)	3 (2)	3 (2)	5 (3)	3 (2)	2 (3)	4 (2)	4 (2)	2 (1)	0 (1)	1 (2)	3 (2)
放射線診断科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
放射線治療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
リハビリテーション科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
救急診療センター	13 (9)	16 (11)	12 (11)	16 (14)	19 (19)	15 (14)	10 (10)	10 (11)	17 (13)	25 (17)	19 (16)	17 (14)	16 (13)
合計	319 (278)	291 (278)	281 (308)	299 (299)	308 (302)	279 (286)	276 (281)	281 (272)	290 (295)	309 (284)	303 (308)	284 (312)	293 (292)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入
2. () 内は前年同月

[医事サービス部]

3 患者年齢・診療圏構成

外来 年齢階級	年度	総数	大阪市内訳（主要区）										
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	2014	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
	2015	2,092	75	48	1,969	1,293	293	52	82	76	30	42	101
	2016	1,894	56	47	1,791	1,190	271	44	103	59	30	29	65
	2017	1,771	55	44	1,672	1,144	216	37	118	50	28	21	58
	2018	1,909	68	42	1,799	1,147	234	38	155	69	30	37	89
	2019	2,010	83	64	1,863	1,151	228	33	154	68	50	51	128
	2020	1,422	42	56	1,324	735	151	35	79	56	45	50	173
	2021	1,586	60	72	1,454	811	175	25	107	65	58	41	172
	2022	1,546	44	65	1,437	767	198	27	113	64	63	45	160
	2023	1,741	69	58	1,614	867	216	37	123	61	73	54	183
	2024	1,673	41	58	1,574	838	244	35	111	57	71	45	173
10～19	2014	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
	2015	635	33	35	567	324	73	42	42	23	9	4	50
	2016	604	31	32	541	289	97	48	35	20	8	6	38
	2017	600	39	43	518	271	91	44	29	22	9	9	46
	2018	647	30	56	561	299	92	33	37	24	17	6	53
	2019	792	49	67	676	337	98	46	50	25	12	10	98
	2020	705	37	60	608	251	86	39	40	20	19	7	146
	2021	795	39	68	688	252	115	44	51	25	25	6	170
	2022	829	30	64	735	295	105	43	60	23	22	14	173
	2023	897	43	72	782	321	112	32	69	37	28	8	175
	2024	985	39	64	882	366	148	38	76	36	24	4	190
20～29	2014	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
	2015	2,254	255	303	1,696	791	222	88	61	112	105	44	273
	2016	2,444	317	365	1,762	792	235	88	67	115	106	49	310
	2017	2,293	284	334	1,675	809	181	73	77	139	89	38	269
	2018	2,246	281	334	1,631	788	182	88	60	108	73	55	277
	2019	2,307	275	314	1,718	800	183	96	69	122	83	49	316
	2020	2,123	203	295	1,625	702	148	67	67	127	119	52	343
	2021	2,064	187	283	1,594	680	153	78	48	130	104	48	353
	2022	2,032	207	299	1,526	652	145	66	46	113	98	69	337
	2023	2,009	258	273	1,478	593	153	54	43	134	102	51	348
	2024	1,914	219	287	1,408	587	157	53	36	140	81	35	319
30～39	2014	4,137	403	578	3,156	1,562	362	157	133	171	146	127	498
	2015	4,221	420	604	3,197	1,528	369	155	148	168	171	121	537
	2016	4,363	436	638	3,289	1,573	360	184	168	199	199	110	496
	2017	4,289	454	640	3,195	1,522	352	156	125	193	183	120	544
	2018	4,122	421	605	3,096	1,404	324	159	143	222	173	124	547
	2019	4,016	390	551	3,075	1,438	302	133	120	232	173	113	564
	2020	3,592	286	491	2,815	1,231	289	132	124	225	191	97	526
	2021	3,400	270	463	2,667	1,166	262	127	123	215	198	105	471
	2022	3,269	265	436	2,568	1,147	238	126	92	186	169	111	499
	2023	3,191	273	448	2,470	1,043	237	119	98	184	156	114	519
	2024	2,903	239	410	2,254	950	208	96	105	197	153	96	449
40～49	2014	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
	2015	5,541	718	1,152	3,671	1,340	561	328	153	162	161	123	843
	2016	5,806	722	1,245	3,839	1,385	607	341	169	162	156	140	879
	2017	5,870	689	1,283	3,898	1,417	568	288	181	180	197	149	918
	2018	5,695	671	1,147	3,877	1,427	575	296	183	171	192	150	883
	2019	5,656	613	1,039	4,004	1,575	526	303	203	183	212	170	832
	2020	5,006	470	922	3,614	1,352	492	257	172	196	214	134	797
	2021	4,802	458	845	3,499	1,309	466	235	176	213	191	122	787
	2022	4,637	409	798	3,430	1,340	462	221	157	184	177	143	746
	2023	4,593	402	829	3,362	1,341	401	214	143	212	215	131	705
	2024	4,241	359	727	3,155	1,298	360	177	136	203	202	139	640
50～59	2014	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
	2015	4,722	748	985	2,989	988	504	309	175	127	104	92	690
	2016	4,978	782	1,014	3,182	1,063	522	288	202	131	120	110	746
	2017	5,103	772	1,068	3,263	1,025	559	301	196	135	127	107	813
	2018	5,377	817	1,120	3,440	1,134	597	309	185	140	144	117	814
	2019	5,922	875	1,230	3,817	1,259	632	369	202	160	181	122	892
	2020	5,522	786	1,164	3,572	1,176	609	318	182	152	169	107	859
	2021	5,670	781	1,188	3,701	1,251	625	321	197	161	164	101	881
	2022	5,775	773	1,198	3,804	1,288	664	327	182	180	160	111	892
	2023	6,072	764	1,220	4,088	1,360	705	362	195	206	170	125	965
	2024	5,948	765	1,171	4,012	1,420	683	352	186	196	179	107	889
60～69	2014	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
	2015	5,789	784	1,061	3,944	1,441	600	511	308	196	113	71	704
	2016	5,883	771	1,072	4,040	1,423	654	524	330	200	116	79	714
	2017	5,633	761	1,046	3,826	1,333	618	475	330	194	129	70	677
	2018	5,512	747	986	3,779	1,300	646	435	327	177	121	76	697
	2019	5,435	814	1,002	3,619	1,249	584	384	302	164	132	77	727
	2020	5,012	700	894	3,418	1,168	576	362	275	154	129	65	689
	2021	4,954	691	915	3,348	1,141	552	347	263	161	122	73	689
	2022	5,082	689	911	3,482	1,155	622	361	271	157	122	82	712
	2023	5,271	664	956	3,651	1,220	628	388	285	164	124	81	761
	2024	5,266	670	937	3,659	1,234	641	394	267	172	126	87	738
70～79	2014	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
	2015	4,891	446	721	3,724	1,322	717	533	233	203	87	66	563
	2016	5,143	473	736	3,934	1,371	796	554	276	199	87	64	587
	2017	5,466	553	788	4,125	1,398	826	572	292	207	119	81	630
	2018	5,947	560	862	4,525	1,525	915	598	354	253	128	93	659
	2019	6,615	634	971	5,010	1,685	1,067	608	436	272	123	105	714
	2020	6,210	545	871	4,794	1,620	993	578	421	259	130	101	692
	2021	6,238	521	848	4,869	1,679	969	584	442	255	131	107	702
	2022	6,279	487	812	4,980	1,741	951	609	475	251	125	103	725
	2023	6,335	507	798	5,030	1,763	980	618	494	238	120	100	717
	2024	6,360	524	799	5,037	1,802	951	610	529	246	117	100	682
80～89	2014	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
	2015	2,718	184	275	2,259	852	414	275	96	130	73	50	369
	2016	2,834	186	294	2,354	901	450	296	117	125	73	47	345
	2017	2,887	194	328	2,365	891	482	285	109	117	56	56	369
	2018	3,094	213	308	2,573	950	573	295	138	114	81	59	363
	2019	3,527	236	376	2,915	1,032	700	348	180	123</			

入院			大阪市内訳（主要区）										
年齢階級	年度	総数	他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	2014	319	16	9	294	165	70	70	12	10	9	5	17
	2015	481	21	17	443	285	84	9	16	14	7	7	21
	2016	433	16	11	406	228	100	7	27	12	7	13	12
	2017	374	19	5	350	199	87	1	39	4	6	2	12
	2018	374	19	8	347	196	61	9	36	13	4	8	20
	2019	296	8	4	284	170	53	5	27	3	11	3	12
	2020	195	13	5	177	90	26	4	11	11	9	9	17
	2021	265	18	17	230	132	27	3	16	16	11	8	17
	2022	278	14	13	251	128	36	2	21	11	18	13	22
	2023	341	7	9	325	177	44	5	30	13	22	5	12
2024	424	12	8	404	233	73	9	26	13	20	7	23	
10～19	2014	56	1	3	52	22	7	7	8	5	2	1	7
	2015	74	4	4	66	25	11	12	3	5	1	0	9
	2016	74	6	6	62	26	14	5	4	5	4	1	3
	2017	65	9	4	52	21	13	7	3	2	1	0	5
	2018	64	4	6	54	28	6	4	3	1	1	2	9
	2019	66	4	2	60	30	6	7	3	5	1	2	6
	2020	46	3	4	39	16	6	5	2	3	2	1	4
	2021	50	2	5	43	17	8	6	3	3	1	0	5
	2022	54	2	4	48	19	12	5	4	4	0	0	4
	2023	86	4	9	73	32	15	4	8	4	1	0	9
2024	102	3	7	92	50	15	5	8	1	1	0	12	
20～29	2014	433	48	50	335	135	50	50	23	18	28	13	52
	2015	410	49	44	317	109	54	23	10	30	20	11	60
	2016	466	61	75	330	107	54	17	21	22	22	15	72
	2017	454	78	87	289	100	37	16	19	27	18	11	61
	2018	465	56	67	342	140	35	23	23	27	18	16	60
	2019	442	61	81	300	115	37	21	12	28	20	9	58
	2020	389	44	54	291	111	35	13	8	27	25	17	55
	2021	404	37	50	317	127	29	19	14	38	19	8	63
	2022	331	34	50	247	81	33	11	9	26	19	11	57
	2023	360	34	50	276	105	20	18	4	36	17	11	65
2024	377	35	56	286	117	34	11	7	34	20	5	58	
30～39	2014	840	68	111	661	324	87	87	28	29	27	36	97
	2015	925	91	120	714	303	105	38	27	44	31	34	132
	2016	869	83	134	652	265	84	35	42	52	42	32	100
	2017	802	87	135	580	257	65	23	22	38	37	37	101
	2018	914	85	122	707	295	86	24	40	46	41	35	140
	2019	879	74	104	701	317	68	32	24	52	51	37	120
	2020	849	53	101	695	295	74	27	28	54	50	32	135
	2021	832	46	103	683	287	73	28	32	51	62	28	122
	2022	727	48	79	600	270	57	15	26	51	45	27	109
	2023	744	57	84	603	264	59	26	26	41	49	21	117
2024	672	30	86	556	228	44	22	23	46	45	30	118	
40～49	2014	903	113	180	610	195	92	92	63	27	24	25	161
	2015	907	104	191	612	191	87	77	28	29	38	27	135
	2016	823	91	196	536	167	85	45	21	29	26	27	136
	2017	870	99	189	582	172	82	54	38	32	47	22	135
	2018	828	85	185	558	180	90	41	30	24	35	17	141
	2019	877	71	156	650	222	81	53	38	36	43	34	143
	2020	824	58	137	629	209	81	50	35	48	44	26	136
	2021	816	48	145	623	223	81	39	33	33	46	12	156
	2022	747	55	135	557	172	73	47	29	35	34	22	145
	2023	795	43	157	595	208	83	44	20	43	48	17	132
2024	775	55	149	571	204	57	41	27	28	48	30	136	
50～59	2014	655	86	130	439	146	67	68	47	30	19	20	100
	2015	618	77	109	432	151	78	45	25	19	19	15	84
	2016	534	63	95	376	110	71	43	25	17	14	10	86
	2017	567	59	97	411	111	93	46	27	25	21	9	79
	2018	620	72	117	431	141	84	44	27	20	15	19	81
	2019	730	84	108	538	168	108	52	32	26	22	11	119
	2020	737	65	125	547	159	79	68	35	24	29	17	136
	2021	740	57	133	550	188	103	47	32	22	24	14	120
	2022	765	77	125	563	166	105	49	31	33	24	14	141
	2023	806	87	143	576	172	99	57	32	26	34	16	140
2024	803	76	127	600	190	115	61	34	40	23	16	121	
60～69	2014	1,037	139	167	731	257	129	125	87	49	46	25	131
	2015	967	97	152	718	223	127	110	62	41	19	10	126
	2016	857	89	109	659	217	124	86	63	36	15	11	107
	2017	874	73	132	669	221	121	86	66	31	16	12	116
	2018	866	83	127	656	212	130	74	57	36	17	11	119
	2019	879	101	111	667	211	136	75	64	34	11	9	127
	2020	864	69	118	677	213	114	77	57	28	31	11	146
	2021	820	78	107	635	192	106	70	49	27	24	12	155
	2022	882	84	123	675	187	137	79	56	40	24	10	142
	2023	882	78	106	698	197	136	80	59	45	19	13	149
2024	868	94	136	638	193	127	88	51	51	14	8	106	
70～79	2014	1,275	79	187	1,009	350	194	196	147	62	54	27	158
	2015	1,191	82	145	964	299	201	131	74	69	19	20	151
	2016	1,042	73	110	859	277	191	123	68	52	12	10	126
	2017	1,221	73	139	1,009	304	218	161	61	71	28	17	149
	2018	1,335	90	155	1,090	336	264	146	82	58	29	21	154
	2019	1,468	99	148	1,221	385	312	135	108	59	26	33	163
	2020	1,501	90	160	1,251	363	277	147	108	76	29	26	225
	2021	1,510	72	146	1,292	413	261	174	116	68	27	25	208
	2022	1,525	75	156	1,294	397	283	180	115	71	27	21	200
	2023	1,548	97	144	1,307	424	276	166	129	73	26	26	187
2024	1,575	72	153	1,350	441	279	181	147	73	24	26	179	
80～89	2014	845	38	84	723	243	125	126	102	36	52	22	126
	2015	857	41	79	737	255	129	110	31	55	24	14	119
	2016	810	33	72	705	260	133	97	41	44	21	11	98
	2017	897	47	75	775	279	161	92	43	48	25	15	112
	2018	973	45	77	851	314	192	96	60	34	29	19	107
	2019	1,054	46	86	922	300	254	104	55	50	27	22	110
	2020	1,013	45	64	904	300	227	89	54	50	28	8	148
	2021	1,067	42	79	946	328	236	90	63	42	22	12	153
	2022	1,136	41	73	1,022	342	240	105	80	50	19	24	162
	2023	1,252	51	94	1,107	373	277	131	84	56	24	28	134
2024	1,230	50	93	1,087	386	271	126	89	50	30	22	113	
90以上	2014	177	12	12	153	61	27	27	20	6	12	6	20
	2015	188	6	9	173	57	32	24	8	20	6	1	25
	2016	200	8	7	185	72	33	19	13	18	11	2	17
	2017	217	11	11	195	89	32	19	10	12	9	1	23
	2018	216	14	8	194	83	29	18	8	13	12	1	30
	2019	278	10	18	250	95	45	32	13	14	13	8	30
	202												

4 病床稼働率

		定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計 平均	前年度 累計平均
7階	1日平均患者数(人)	41	39	33	33	34	37	29	31	33	32	33	38	33	34	35
	稼働率		95.6%	81.7%	80.6%	82.1%	89.5%	70.9%	76.4%	80.4%	77.0%	80.0%	92.2%	80.3%	82.2%	85.8%
8階	1日平均患者数(人)	44	42	38	37	38	39	36	33	35	39	39	38	36	37	38
	稼働率		95.2%	85.8%	83.2%	85.5%	88.9%	81.4%	76.0%	79.0%	88.0%	88.8%	86.4%	82.5%	85.0%	86.9%
9階	1日平均患者数(人)	43	40	37	35	38	38	35	36	36	32	35	34	33	36	36
	稼働率		93.2%	85.4%	80.7%	87.8%	87.4%	81.4%	82.8%	83.9%	74.2%	80.5%	78.2%	75.9%	82.6%	83.4%
10階	1日平均患者数(人)	42	39	35	35	36	36	34	35	35	35	38	38	34	36	36
	稼働率		93.6%	82.6%	82.9%	84.7%	86.2%	82.0%	83.6%	83.5%	83.8%	91.1%	90.4%	82.0%	85.5%	84.6%
11階	1日平均患者数(人)	43	40	38	37	39	41	37	36	37	37	41	38	37	38	37
	稼働率		92.2%	87.5%	86.0%	90.6%	95.3%	85.3%	83.2%	85.1%	87.2%	95.4%	88.9%	86.0%	88.6%	86.5%
12階	1日平均患者数(人)	44	40	37	35	38	39	37	35	36	38	41	39	36	38	36
	稼働率		91.2%	84.8%	79.7%	86.1%	88.7%	83.3%	80.5%	81.2%	86.0%	92.6%	88.0%	82.9%	85.4%	81.4%
13階	1日平均患者数(人)	43	38	36	32	36	38	35	33	35	37	39	37	36	36	36
	稼働率		88.2%	82.8%	74.3%	84.0%	89.0%	82.1%	77.8%	82.5%	85.0%	90.1%	86.0%	84.4%	83.9%	82.7%
14階	1日平均患者数(人)	42	38	35	35	37	37	34	33	32	37	38	37	35	36	35
	稼働率		90.1%	84.3%	82.5%	89.1%	88.6%	81.3%	78.8%	77.1%	87.5%	90.5%	88.5%	82.8%	85.1%	83.8%
小計	1日平均患者数(人)	342	316	289	278	295	305	277	273	279	286	303	299	281	290	289
	稼働率		92.4%	84.4%	81.2%	86.3%	89.2%	81.0%	79.9%	81.6%	83.6%	88.7%	87.3%	82.1%	84.8%	84.4%
集中治療室	1日平均患者数(人)	8	3	3	3	4	3	2	3	2	4	5	5	3	3	3
	稼働率		40.0%	33.5%	42.1%	44.4%	42.7%	28.3%	31.5%	26.3%	44.0%	66.1%	59.4%	38.7%	41.4%	42.1%
計	1日平均患者数(人)	350	319	291	281	299	308	279	276	281	290	309	303	284	293	292
	稼働率		91.2%	83.2%	80.3%	85.3%	88.1%	79.8%	78.8%	80.3%	82.7%	88.2%	86.6%	81.1%	83.8%	83.4%

[医事サービス部]

5 救急患者数

	人 数													累計	(内、入 院 数)																
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計					
循環器内科	17 (4)	17 (9)	20 (7)	18 (7)	17 (4)	16 (5)	16 (10)	13 (4)	21 (10)	22 (11)	19 (9)	22 (14)	218 (94)	17 (4)	17 (9)	18 (6)	18 (7)	17 (4)	15 (5)	16 (10)	12 (4)	21 (10)	22 (11)	19 (9)	20 (13)	212 (92)					
消化器内科	49 (7)	29 (5)	38 (2)	44 (3)	38 (5)	35 (2)	51 (8)	48 (3)	53 (8)	56 (9)	34 (5)	49 (6)	524 (63)	49 (7)	29 (5)	37 (2)	44 (3)	38 (5)	34 (2)	51 (8)	48 (3)	53 (8)	56 (9)	33 (4)	49 (6)	521 (62)					
内分泌・代謝内科	12 (2)	12 (5)	16 (7)	24 (11)	12 (8)	10 (4)	13 (3)	13 (5)	22 (11)	10 (5)	16 (8)	4 (3)	164 (72)	12 (2)	11 (4)	15 (6)	24 (11)	12 (8)	10 (4)	13 (3)	13 (5)	22 (11)	10 (5)	15 (8)	4 (3)	161 (70)					
呼吸器・免疫内科	35 (6)	31 (10)	47 (17)	38 (18)	41 (16)	32 (12)	39 (16)	33 (11)	51 (22)	49 (15)	40 (15)	39 (10)	475 (168)	33 (6)	30 (9)	45 (17)	37 (18)	39 (16)	31 (11)	38 (16)	32 (11)	50 (21)	47 (14)	39 (14)	37 (10)	458 (163)					
血液・化学療法内科	18 (2)	15 (2)	13 (4)	19 (3)	18 (6)	15 (6)	17 (2)	15 (8)	18 (4)	16 (6)	10 (4)	15 (9)	189 (56)	18 (2)	14 (2)	13 (4)	19 (3)	18 (6)	15 (6)	16 (2)	14 (7)	15 (4)	15 (6)	9 (3)	15 (9)	181 (54)					
脳神経内科	8 (3)	5 (2)	8 (1)	9 (5)	4 (1)	8 (2)	8 (2)	11 (1)	6 (2)	7 (4)	4 (0)	2 (1)	80 (24)	7 (2)	5 (2)	8 (1)	9 (5)	4 (1)	8 (2)	8 (2)	11 (1)	6 (2)	6 (3)	3 (0)	2 (1)	77 (22)					
腎臓内科	4 (1)	6 (3)	11 (1)	3 (2)	13 (0)	13 (5)	9 (4)	8 (2)	8 (2)	8 (4)	11 (2)	8 (5)	102 (31)	4 (1)	6 (3)	11 (1)	2 (1)	13 (0)	13 (5)	7 (3)	7 (2)	8 (2)	7 (4)	11 (2)	8 (5)	97 (29)					
内科（計）	143 (25)	115 (36)	153 (39)	155 (49)	143 (40)	129 (36)	153 (45)	141 (34)	179 (59)	168 (54)	134 (43)	139 (48)	1,752 (508)	140 (24)	112 (34)	147 (37)	153 (48)	141 (40)	126 (35)	149 (44)	137 (33)	175 (58)	163 (52)	129 (40)	135 (47)	1,707 (492)					
消化器外科	6 (3)	7 (2)	7 (3)	11 (3)	8 (2)	13 (3)	5 (0)	15 (2)	11 (1)	8 (4)	9 (2)	12 (5)	112 (30)	6 (3)	6 (2)	7 (3)	11 (3)	8 (2)	11 (3)	5 (0)	15 (2)	11 (1)	8 (4)	9 (2)	11 (4)	108 (29)					
呼吸器外科	1 (1)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (1)	16 (6)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (1)	1 (1)	3 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	13 (4)					
乳腺外科	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)					
心臓血管外科	2 (1)	2 (1)	2 (0)	2 (1)	2 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (0)	0 (0)	18 (4)	2 (1)	2 (1)	2 (0)	2 (1)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	14 (3)					
外科（計）	9 (5)	11 (3)	11 (5)	14 (4)	11 (3)	19 (4)	6 (0)	17 (2)	11 (1)	12 (6)	13 (2)	14 (6)	148 (41)	8 (4)	10 (3)	10 (4)	14 (4)	10 (3)	16 (4)	6 (0)	17 (2)	11 (1)	10 (5)	12 (2)	12 (4)	136 (36)					
産婦人科	117 (3)	109 (8)	108 (6)	118 (11)	115 (8)	114 (6)	107 (8)	85 (5)	112 (9)	115 (6)	94 (14)	158 (18)	1,352 (102)	43 (1)	37 (3)	31 (0)	37 (4)	35 (4)	28 (2)	31 (3)	32 (2)	40 (4)	42 (4)	39 (8)	40 (8)	435 (43)					
小児科	41 (1)	39 (0)	37 (2)	43 (1)	37 (0)	31 (1)	44 (0)	43 (0)	40 (0)	27 (0)	25 (2)	35 (0)	442 (7)	39 (1)	39 (0)	37 (2)	42 (0)	37 (0)	30 (0)	44 (0)	43 (0)	40 (0)	27 (0)	24 (1)	35 (0)	437 (4)					
神経科・精神科	6 (0)	8 (0)	6 (1)	4 (1)	6 (1)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	3 (0)	45 (3)	6 (0)	8 (0)	6 (1)	4 (1)	5 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	3 (0)	44 (2)					
脳神経外科	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	2 (0)	13 (2)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	2 (0)	13 (2)					
整形外科	3 (1)	6 (1)	1 (0)	2 (0)	1 (1)	1 (2)	3 (2)	4 (2)	7 (5)	4 (2)	3 (1)	4 (3)	39 (18)	2 (0)	5 (1)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (1)	4 (3)	3 (2)	2 (0)	3 (2)	26 (9)					
皮膚科	12 (1)	9 (0)	9 (0)	10 (0)	20 (3)	8 (0)	16 (0)	20 (0)	22 (0)	16 (0)	15 (0)	14 (0)	171 (4)	12 (1)	9 (0)	9 (0)	8 (0)	20 (3)	8 (0)	16 (0)	20 (0)	22 (0)	13 (0)	14 (0)	14 (0)	165 (4)					
泌尿器科	5 (0)	3 (2)	1 (0)	7 (1)	3 (0)	6 (3)	1 (0)	5 (0)	7 (1)	0 (0)	5 (1)	4 (1)	47 (9)	5 (0)	3 (2)	1 (0)	5 (1)	2 (0)	5 (2)	1 (0)	4 (0)	7 (1)	0 (0)	5 (1)	3 (1)	41 (8)					
眼 科	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
耳鼻咽喉・頭頸部外科	9 (1)	7 (3)	6 (1)	10 (3)	11 (1)	5 (1)	5 (2)	5 (2)	5 (0)	6 (0)	2 (1)	8 (4)	79 (19)	9 (1)	6 (2)	6 (1)	10 (3)	8 (0)	5 (1)	4 (2)	4 (2)	5 (0)	5 (0)	1 (1)	7 (3)	70 (16)					
形成再建外科	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)					
放射線診断・IVR科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
放射線治療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
救急総合診療センター	274 (167)	290 (181)	249 (166)	333 (217)	281 (165)	221 (140)	206 (121)	260 (171)	404 (247)	397 (238)	280 (186)	267 (175)	3,462 (2,174)	92 (63)	83 (63)	77 (50)	94 (68)	83 (55)	65 (42)	43 (26)	81 (62)	119 (82)	119 (80)	72 (50)	91 (60)	1,019 (701)					
合 計	621 (204)	597 (234)	584 (221)	699 (287)	632 (222)	535 (191)	545 (178)	581 (216)	793 (324)	747 (307)	576 (250)	648 (255)	7,558 (2,889)	358 (95)	312 (108)	326 (95)	371 (129)	344 (105)	285 (86)	299 (75)	342 (102)	428 (150)	384 (144)	303 (103)	345 (125)	4,097 (1,317)					

(注) 1. 各欄下段の()の数値は救急車で搬送された患者数 [医事サービス部、救急・当直・集中治療室検討委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

2016年退院患者から、厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10（2013年版）準拠」を使用した。

注2) 手術分類は（財）医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

2016年退院患者から、日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計した。

注4) 実退院患者 1 入院、1 主病名、1 主手術で集計した。

	算定式	2013年度 (2013.4 -2014.3)	2014年度 (2014.4 -2015.3)	2015年度 (2015.4 -2016.3)	2016年度 (2016.4 -2017.3)	2017年度 (2017.4 -2018.3)	2018年度 (2018.4 -2019.3)	2019年度 (2019.4 -2020.3)	2020年度 (2020.4 -2021.3)	2021年度 (2021.4 -2022.3)	2022年度 (2022.4 -2023.3)	2023年度 (2023.4 -2024.3)	2024年度 (2024.4 -2025.3)
病床数 (床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均 在院患者数 (人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	277	291	284	281	293	291	301	289	270	279	292	293
病床稼働率 (%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	79.1	83.1	81.1	80.3	83.7	83.1	86.0	82.6	77.1	79.7	83.4	83.7
平均在院日数 (日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	12.6	12.1	12.8	12.6	12.5	11.2	10.9	10.7	10.0	10.3	10.3	10.9
実退院患者数 (人)		7,435	8,119	8,244	7,573	7,963	8,736	9,282	9,011	8,967	8,983	9,480	9,429
転科数		192	241	278	870	791	396	426	808	880	803	899	913
総退院患者数		7,627	8,360	8,522	8,443	8,754	9,132	9,708	9,819	9,847	9,786	10,379	10,342
実退院患者 平均在院日数 (日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	13.5	13.2	12.3	13.6	13.6	12.2	12.0	11.7	11.2	11.3	11.1	11.5
院内粗死亡率 (%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.8	2.8	2.4	2.8	3.2	2.2	2.5	2.3	2.4	2.1	2.3	2.4
院内精死亡率 (%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.4	2.5	2.3	2.4	2.8	2.0	2.3	2.1	2.4	1.8	2.0	2.1
剖検率 (%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	9.3	6.2	7.5	5.7	5.5	2.6	4.3	2.3	4.1	2.1	2.3	3.4
術後死亡率 (%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	0.01	-	0.02	0.02
帝王切開率 (%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	16.6	15.7	16.8	19.4	19.1	21.2	23.0	19.3	22.3	20.4	23.0	25.6
分娩死亡率 (%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率 (%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
紹介入院率 (%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	41.5	39.8	40.1	41.6	37.9	38.4	39.1	34.2	36.4	36.8	37.9	39.0

[診療情報管理室]

② 診療科別・月別・患者数

診療科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
総数	計	9,418	862	803	773	826	808	705	763	785	849	743	714	787	224	8
	男	4,265	387	346	353	381	356	337	330	348	403	347	319	358	143	5
	女	5,153	475	457	420	445	452	368	433	437	446	396	395	429	81	3
循環器内科	計	583	47	51	48	49	49	38	46	36	60	57	40	62	18	-
	男	352	31	26	30	33	25	25	22	18	38	39	28	37	13	-
	女	231	16	25	18	16	24	13	24	18	22	18	12	25	5	-
消化器内科	計	1,219	127	101	99	110	95	95	93	113	110	99	87	90	27	2
	男	667	66	49	51	65	53	54	48	63	55	59	52	52	16	1
	女	552	61	52	48	45	42	41	45	50	55	40	35	38	11	1
内分泌・代謝内科	計	392	36	29	26	39	44	32	27	31	40	32	29	27	7	-
	男	192	17	12	11	19	22	21	10	16	20	17	12	15	2	-
	女	200	19	17	15	20	22	11	17	15	20	15	17	12	5	-
呼吸器・免疫内科	計	1,162	111	95	111	94	84	87	90	80	105	111	86	108	80	3
	男	724	73	61	70	59	48	57	51	56	66	68	49	66	58	2
	女	438	38	34	41	35	36	30	39	24	39	43	37	42	22	1
血液・化学療法内科	計	455	39	56	32	45	41	32	40	37	38	30	31	34	43	1
	男	226	19	27	15	20	18	16	22	17	22	16	18	16	24	1
	女	229	20	29	17	25	23	16	18	20	16	14	13	18	19	-
脳神経内科	計	198	21	23	16	17	18	13	18	17	17	13	13	12	2	-
	男	95	6	18	9	8	4	6	7	8	7	8	5	9	1	-
	女	103	15	5	7	9	14	7	11	9	10	5	8	3	1	-
腎臓内科	計	337	29	19	24	29	23	34	21	27	32	29	31	39	6	1
	男	202	16	12	15	16	18	16	17	12	22	18	18	22	4	-
	女	135	13	7	9	13	5	18	4	15	10	11	13	17	2	1
消化器外科	計	453	40	35	36	39	32	45	37	41	42	29	40	37	11	1
	男	254	27	17	19	22	9	30	25	19	25	14	23	24	7	1
	女	199	13	18	17	17	23	15	12	22	17	15	17	13	4	-
呼吸器外科	計	107	10	10	7	7	9	9	10	8	11	9	8	9	-	-
	男	62	3	5	4	2	5	6	5	6	7	7	6	6	-	-
	女	45	7	5	3	5	4	3	5	2	4	2	2	3	-	-
乳腺外科	計	37	3	7	1	3	5	2	3	2	2	2	2	5	1	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	37	3	7	1	3	5	2	3	2	2	2	2	5	1	-
心臓血管外科	計	114	10	8	10	11	11	5	14	9	6	7	14	9	3	-
	男	79	6	3	7	9	9	5	10	8	4	4	9	5	3	-
	女	35	4	5	3	2	2	-	4	1	2	3	5	4	-	-
産婦人科	計	1,702	152	147	132	140	154	118	144	144	141	136	154	140	1	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,702	152	147	132	140	154	118	144	144	141	136	154	140	1	-
小児科	計	507	48	47	43	49	45	37	43	52	45	29	27	42	-	-
	男	266	31	26	21	23	20	20	22	24	31	12	13	23	-	-
	女	241	17	21	22	26	25	17	21	28	14	17	14	19	-	-
神経科・精神科	計	91	11	9	11	5	12	6	5	5	7	7	7	6	-	-
	男	18	3	-	3	1	1	-	2	2	2	1	3	-	-	-
	女	73	8	9	8	4	11	6	3	3	5	6	4	6	-	-
脳神経外科	計	32	4	2	3	2	2	6	2	1	1	3	1	5	1	-
	男	19	3	2	1	2	2	2	1	1	-	-	1	4	-	-
	女	13	1	-	2	-	-	4	1	-	1	3	-	1	1	-
整形外科	計	266	16	26	26	24	21	23	21	22	27	17	21	22	1	-
	男	96	6	12	9	9	8	11	7	6	9	6	4	9	1	-
	女	170	10	14	17	15	13	12	14	16	18	11	17	13	-	-
皮膚科	計	244	17	13	16	18	29	19	19	28	26	16	25	18	-	-
	男	141	9	8	8	8	19	12	14	17	13	10	13	10	-	-
	女	103	8	5	8	10	10	7	5	11	13	6	12	8	-	-
泌尿器科	計	430	33	28	45	43	31	32	43	38	44	24	36	33	5	-
	男	334	26	21	35	28	27	23	32	36	32	20	32	22	3	-
	女	96	7	7	10	15	4	9	11	2	12	4	4	11	2	-
眼科	計	285	29	31	30	28	16	16	27	23	16	27	18	24	-	-
	男	143	14	18	19	17	8	7	9	8	10	15	9	9	-	-
	女	142	15	13	11	11	8	9	18	15	6	12	9	15	-	-
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	292	27	27	22	31	34	21	20	31	24	20	11	24	-	-
	男	154	13	14	10	17	22	10	10	17	14	11	6	10	-	-
	女	138	14	13	12	14	12	11	10	14	10	9	5	14	-	-
形成再建外科	計	101	11	7	8	8	10	5	11	13	11	8	5	4	-	-
	男	48	4	4	3	3	7	3	6	6	4	4	2	2	-	-
	女	53	7	3	5	5	3	2	5	7	7	4	3	2	-	-
麻酔・緩和医療科	計	3	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-
	男	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	女	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
救急総合診療科	計	394	41	32	26	32	38	27	26	27	43	38	27	37	18	-
	男	179	14	11	12	17	26	11	9	8	21	18	15	17	11	-
	女	215	27	21	14	15	12	16	17	19	22	20	12	20	7	-
予防医学センター	計	14	-	-	1	3	5	3	1	-	1	-	-	-	-	-
	男	13	-	-	1	3	5	2	1	-	1	-	-	-	-	-
	女	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

[診療情報管理室]

③ 診療科別・在院期間別・患者数

診療科		総数	1～ 8日	9～ 15日	16～ 22日	23～ 31日	32～ 61日	62～ 91日	3～ 6月	6月～ 1年	1～ 2年	2年～	平均 在院日数
総数	計	9,418	5,828	1,682	784	477	485	107	46	9	-	-	11.4
	男	4,265	2,445	835	413	209	267	69	22	5	-	-	12.4
	女	5,153	3,383	847	371	268	218	38	24	4	-	-	10.7
循環器内科	計	583	316	108	82	32	34	9	2	-	-	-	12.4
	男	352	193	66	48	19	18	7	1	-	-	-	12.4
	女	231	123	42	34	13	16	2	1	-	-	-	12.5
消化器内科	計	1,219	898	189	58	36	35	3	-	-	-	-	7
	男	667	513	90	31	17	15	1	-	-	-	-	6.3
	女	552	385	99	27	19	20	2	-	-	-	-	7.8
内分泌・代謝内科	計	392	130	162	53	24	21	1	1	-	-	-	13.4
	男	192	63	88	20	10	10	-	1	-	-	-	13.1
	女	200	67	74	33	14	11	1	-	-	-	-	13.7
呼吸器・免疫内科	計	1,162	454	285	178	95	106	28	15	1	-	-	17
	男	724	283	173	114	53	73	20	8	-	-	-	17.1
	女	438	171	112	64	42	33	8	7	1	-	-	16.9
血液・化学療法内科	計	455	96	102	96	64	71	23	3	-	-	-	22.7
	男	226	51	51	42	31	36	13	2	-	-	-	22.8
	女	229	45	51	54	33	35	10	1	-	-	-	22.5
脳神経内科	計	198	71	30	27	23	33	9	4	1	-	-	23.3
	男	95	25	17	18	8	21	4	1	1	-	-	25.8
	女	103	46	13	9	15	12	5	3	-	-	-	21
腎臓内科	計	337	172	64	45	18	32	5	1	-	-	-	13.4
	男	202	98	38	30	13	18	4	1	-	-	-	14.1
	女	135	74	26	15	5	14	1	-	-	-	-	12.2
消化器外科	計	453	271	98	35	20	22	4	1	2	-	-	12
	男	254	156	47	20	13	12	3	1	2	-	-	13.2
	女	199	115	51	15	7	10	1	-	-	-	-	10.4
呼吸器外科	計	107	33	63	9	2	-	-	-	-	-	-	9.5
	男	62	18	37	5	2	-	-	-	-	-	-	9.7
	女	45	15	26	4	-	-	-	-	-	-	-	9.2
乳腺外科	計	37	19	15	1	2	-	-	-	-	-	-	9.7
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	37	19	15	1	2	-	-	-	-	-	-	9.7
心臓血管外科	計	114	77	10	10	6	6	-	3	2	-	-	16.1
	男	79	49	8	10	3	5	-	3	1	-	-	17.5
	女	35	28	2	-	3	1	-	-	1	-	-	12.9
産婦人科	計	1,702	1,492	187	12	7	4	-	-	-	-	-	6.2
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,702	1,492	187	12	7	4	-	-	-	-	-	6.2
小児科	計	507	464	41	2	-	-	-	-	-	-	-	5.2
	男	266	240	25	1	-	-	-	-	-	-	-	5.2
	女	241	224	16	1	-	-	-	-	-	-	-	5.2
神経科・精神科	計	91	7	6	11	30	18	5	12	2	-	-	46.4
	男	18	2	1	3	6	4	-	2	-	-	-	39.9
	女	73	5	5	8	24	14	5	10	2	-	-	47.9
脳神経外科	計	32	9	7	9	3	1	2	1	-	-	-	20.4
	男	19	5	6	6	1	-	1	-	-	-	-	15.9
	女	13	4	1	3	2	1	1	1	-	-	-	26.9
整形外科	計	266	21	47	90	70	32	5	1	-	-	-	22.6
	男	96	13	23	29	13	12	5	1	-	-	-	23
	女	170	8	24	61	57	20	-	-	-	-	-	22.4
皮膚科	計	244	149	69	11	5	8	1	1	-	-	-	10.4
	男	141	84	43	6	3	4	1	-	-	-	-	10.3
	女	103	65	26	5	2	4	-	1	-	-	-	10.5
泌尿器科	計	430	326	75	15	5	8	1	-	-	-	-	6.5
	男	334	256	59	11	2	5	1	-	-	-	-	6.1
	女	96	70	16	4	3	3	-	-	-	-	-	7.9
眼科	計	285	285	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4
	男	143	143	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3
	女	142	142	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.5
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	292	209	50	10	1	13	8	-	1	-	-	11.3
	男	154	102	25	8	-	10	8	-	1	-	-	14.6
	女	138	107	25	2	1	3	-	-	-	-	-	7.5
形成再建外科	計	101	77	11	4	3	4	1	1	-	-	-	8.4
	男	48	35	6	2	2	2	-	1	-	-	-	9.1
	女	53	42	5	2	1	2	1	-	-	-	-	7.8
麻酔・緩和医療科	計	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3
	男	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	女	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
救急総合診療科	計	394	235	63	26	31	37	2	-	-	-	-	11.7
	男	179	102	32	9	13	22	1	-	-	-	-	12.8
	女	215	133	31	17	18	15	1	-	-	-	-	10.8
予防医学センター	計	14	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	男	13	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	女	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

[診療情報管理室]

④ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数（大分類）

コード	国際分類大項目分類	総 数	循 内	消 内	内分泌	呼吸内	血液内	神 内	腎 内	消 外	呼 外	乳腺外	心 外
	計	9,418	583	1,219	392	1,162	455	198	337	453	107	37	114
	総数	4,265	352	667	192	724	226	95	202	254	62	-	79
	男女	5,153	231	552	200	438	229	103	135	199	45	37	35
I	計	286	3	28	7	43	12	9	8	1	1	-	-
	感染症及び寄生虫症	149	1	14	5	25	6	4	6	-	-	-	-
	男女	137	2	14	2	18	6	5	2	1	1	-	-
II	計	3,211	5	780	4	546	291	1	1	229	81	37	-
	新生物（腫瘍）	1,476	4	462	1	365	143	1	1	120	45	-	-
	（悪性新生物（腫瘍））	1,735	1	318	3	181	148	-	-	109	36	37	-
III	計	87	2	13	2	11	32	1	2	3	-	-	-
	血液及び造血器の疾患	47	1	6	2	8	20	-	2	3	-	-	-
	並びに免疫機構の障害	40	1	7	-	3	12	1	-	-	-	-	-
IV	計	292	10	6	200	8	6	3	12	2	1	-	-
	内分泌、栄養及び代謝疾患	133	5	-	96	6	-	-	3	2	-	-	-
	男女	159	5	6	104	2	6	3	9	-	1	-	-
V	計	126	-	1	2	-	-	6	1	-	-	-	-
	精神及び行動の障害	38	-	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-
	男女	88	-	1	1	-	-	4	-	-	-	-	-
VI	計	158	5	1	3	1	2	95	-	-	1	-	-
	神経系の疾患	68	2	-	1	1	1	36	-	-	-	-	-
	男女	90	3	1	2	-	1	59	-	-	1	-	-
VII	計	315	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
	眼及び付属器の疾患	155	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男女	160	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
VIII	計	72	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-
	耳及び乳様突起の疾患	27	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	男女	45	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
IX	計	705	497	3	5	8	3	39	12	-	1	-	112
	循環器系の疾患	430	301	2	1	4	3	25	7	-	-	-	77
	男女	275	196	1	4	4	-	14	5	-	1	-	35
X	計	1,147	35	25	71	430	46	13	32	3	21	-	-
	呼吸器系の疾患	674	23	20	40	277	23	10	20	3	17	-	-
	男女	473	12	5	31	153	23	3	12	-	4	-	-
XI	計	622	-	339	8	13	3	1	6	204	-	-	-
	消化器系の疾患	294	-	153	3	1	1	1	2	124	-	-	-
	男女	328	-	186	5	12	2	-	4	80	-	-	-
XII	計	145	-	1	3	5	2	-	2	-	-	-	1
	皮膚及び皮下組織の疾患	79	-	1	1	2	-	-	1	-	-	-	1
	男女	66	-	-	2	3	2	-	1	-	-	-	-
XIII	計	311	1	4	5	44	4	2	6	-	-	-	-
	筋骨格系及び結合組織の疾患	112	-	1	1	12	2	2	4	-	-	-	-
	男女	199	1	3	4	32	2	-	2	-	-	-	-
XIV	計	849	7	6	30	13	18	16	146	8	-	-	1
	腎尿路生殖器系の疾患	249	2	2	12	3	5	9	99	2	-	-	1
	男女	600	5	4	18	10	13	7	47	6	-	-	-
XV	計	449	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	妊娠、分娩及び産じょく	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男女	449	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI	計	125	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	周産期に発生した病態	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男女	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVII	計	24	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-
	先天奇形、変形及び染色体異常	12	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
	男女	12	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
XVIII	計	5	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男女	5	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
XX	計	302	5	6	6	3	8	5	84	2	-	-	-
	損傷、中毒及びその他の外因の影響	139	3	5	1	1	5	4	39	-	-	-	-
	男女	163	2	1	5	2	3	1	45	2	-	-	-
XXI	計	24	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	21	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
	男女	3	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
XXII	計	163	13	6	44	35	18	5	15	1	-	-	-
	特殊目的用コード	97	10	1	27	19	9	1	10	-	-	-	-
	男女	66	3	5	17	16	9	4	5	1	-	-	-

産婦科	小児科	神 経	脳 外	整 形	皮膚科	泌尿器	眼 科	耳鼻科	形 成	麻醉科	救 急	予 防
1,702	507	91	32	266	244	430	285	292	101	3	394	14
-	266	18	19	96	141	334	143	154	48	1	179	13
1,702	241	73	13	170	103	96	142	138	53	2	215	1
9	29	-	-	1	107	1	-	1	-	-	26	-
-	13	-	-	1	61	1	-	1	-	-	11	-
9	16	-	-	-	46	-	-	-	-	-	15	-
777	1	1	2	1	19	293	-	83	46	1	12	-
-	-	1	-	1	13	239	-	52	22	-	6	-
777	1	-	2	-	6	54	-	31	24	1	6	-
11	4	-	-	-	3	2	-	-	-	-	1	-
-	2	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
11	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-
3	24	1	-	-	-	1	-	2	-	-	13	-
-	15	-	-	-	-	1	-	1	-	-	4	-
3	9	1	-	-	-	-	-	1	-	-	9	-
-	1	77	-	-	-	-	-	-	-	-	38	-
-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-
-	1	61	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-
-	5	5	9	-	2	-	-	20	-	-	9	-
-	4	-	4	-	1	-	-	12	-	-	6	-
-	1	5	5	-	1	-	-	8	-	-	3	-
-	1	-	-	-	-	-	285	-	27	-	-	-
-	1	-	-	-	-	-	143	-	11	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	142	-	16	-	-	-
-	2	1	-	-	-	-	-	48	-	-	18	-
-	2	-	-	-	-	-	-	16	-	-	7	-
-	-	1	-	-	-	-	-	32	-	-	11	-
1	-	2	5	-	2	-	-	-	-	1	14	-
-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	7	-
1	-	1	3	-	2	-	-	-	-	1	7	-
3	243	-	-	1	-	-	-	111	-	-	113	-
-	124	-	-	-	-	-	-	55	-	-	62	-
3	119	-	-	1	-	-	-	56	-	-	51	-
16	4	4	-	-	-	2	-	5	1	-	16	-
-	2	-	-	-	-	1	-	1	1	-	4	-
16	2	4	-	-	-	1	-	4	-	-	12	-
3	5	-	-	-	104	-	-	-	16	-	3	-
-	4	-	-	-	61	-	-	-	8	-	-	-
3	1	-	-	-	43	-	-	-	8	-	3	-
-	12	-	1	214	1	-	-	-	1	1	15	-
-	6	-	1	72	1	-	-	-	1	1	8	-
-	6	-	-	142	-	-	-	-	-	-	7	-
421	10	-	-	1	2	130	-	8	-	-	32	-
-	6	-	-	1	1	90	-	7	-	-	9	-
421	4	-	-	-	1	40	-	1	-	-	23	-
448	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
448	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	125	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	8	-	-	1	-	-	-	3	1	-	-	-
-	4	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-
2	4	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
8	31	-	13	47	4	1	-	10	8	-	61	-
-	18	-	10	20	2	-	-	7	5	-	19	-
8	13	-	3	27	2	1	-	3	3	-	42	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	23	-
-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	18	-
-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-

[診療情報管理室]

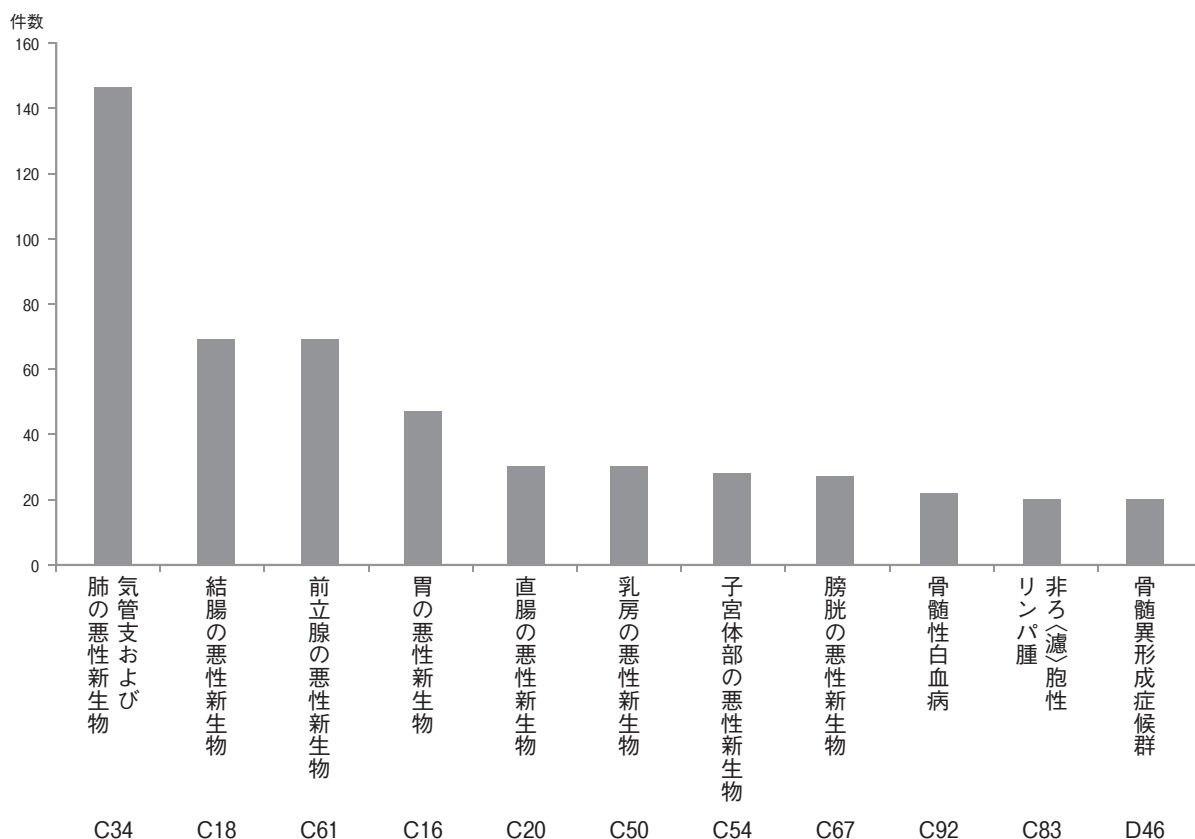
⑤ 悪性新生物統計

	算定式	平成27年度 (2015.4- 2016.3)	平成28年度 (2016.4- 2017.3)	平成29年度 (2017.4- 2018.3)	平成30年度 (2018.4- 2019.3)	2019年度 (2019.4- 2020.3)	2020年度 (2020.4- 2021.3)	2021年度 (2021.4- 2022.3)	2022年度 (2022.4- 2023.3)	2023年度 (2023.4- 2024.3)	2024年度 (2024.4- 2025.3)
悪性新生物：比率（％）	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	14.6	16.2	16.4	16.2	19.5	22.3	23.5	24.3	24.7	21.7
悪性新生物：新発患者数		447	519	547	593	752	765	819	874	857	760

○ 2024月4月～2025年3月－初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

ICD-10	疾患名	件数	在院日数計	平均在院日数
C34	気管支および肺の悪性新生物	146	1,714	12
C18	結腸の悪性新生物	69	746	11
C61	前立腺の悪性新生物	69	239	3
C16	胃の悪性新生物	47	773	16
C20	直腸の悪性新生物	30	722	24
C50	乳房の悪性新生物	30	292	10
C54	子宮体部の悪性新生物	28	270	10
C67	膀胱の悪性新生物	27	251	9
C92	骨髄性白血病	22	783	36
C83	非ろ〈濾〉胞性リンパ腫	20	490	25
D46	骨髄異形成症候群	20	386	19

[診療情報管理室]



⑥ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼科 患者数	退院 患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率
総数	死亡	224	17	30	20	20	20	17	16	15	13	33	14	9	59	9,418	224	224	8
	剖検	(8)	(-)	(1)	(1)	(2)	(2)	(-)	(1)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(5)	-	2.4	2.4	3.6
循環器内科	死亡	18	1	2	4	-	1	-	2	-	-	3	3	2	4	583	18	18	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	3.1	3.1	-
消化器内科	死亡	27	1	2	4	1	2	4	4	1	2	3	2	1	5	1,219	27	27	2
	剖検	(2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(1)	-	2.2	2.2	7.4
内分泌・ 代謝内科	死亡	7	1	-	-	1	1	1	-	-	1	2	-	-	-	392	7	7	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	1.8	1.8	-
呼吸器・ 免疫内科	死亡	80	6	12	4	6	8	4	7	8	7	10	5	3	27	1,162	80	80	3
	剖検	(3)	(-)	(-)	(-)	(1)	(2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	-	6.9	6.9	3.8
血液・化学 療法内科	死亡	43	3	11	3	4	3	2	2	5	2	5	1	2	11	455	43	43	1
	剖検	(1)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	-	9.5	9.5	2.3
脳神経内科	死亡	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	198	2	2	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	1	1	-
腎臓内科	死亡	6	1	-	-	1	1	1	1	-	-	1	-	-	1	337	6	6	1
	剖検	(1)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	-	1.8	1.8	16.7
消化器外科	死亡	11	2	-	2	2	1	-	-	-	-	3	1	-	3	453	11	11	1
	剖検	(1)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	2.4	2.4	9.1
呼吸器外科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	107	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
乳腺外科	死亡	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	37	1	1	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	2.7	2.7	-
心臓 血管外科	死亡	3	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	2	114	3	3	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	2.6	2.6	-
産婦人科	死亡	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,702	1	1	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	0.1	0.1	-
小児科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	507	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
神経科・ 精神科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	91	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
脳神経外科	死亡	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	32	1	1	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	3.1	3.1	-
整形外科	死亡	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	266	1	1	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	0.4	0.4	-
皮膚科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	244	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
泌尿器科	死亡	5	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	1	-	3	430	5	5	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	1.2	1.2	-
眼科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	285	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	292	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
形成再建 外科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	101	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
麻酔・ 緩和医療科	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-
救急総合 診療科	死亡	18	2	1	1	3	1	2	-	1	1	5	-	1	2	394	18	18	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	4.6	4.6	-
予防医学 センター	死亡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-
	剖検	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	-	-	-	-

[診療情報管理室]

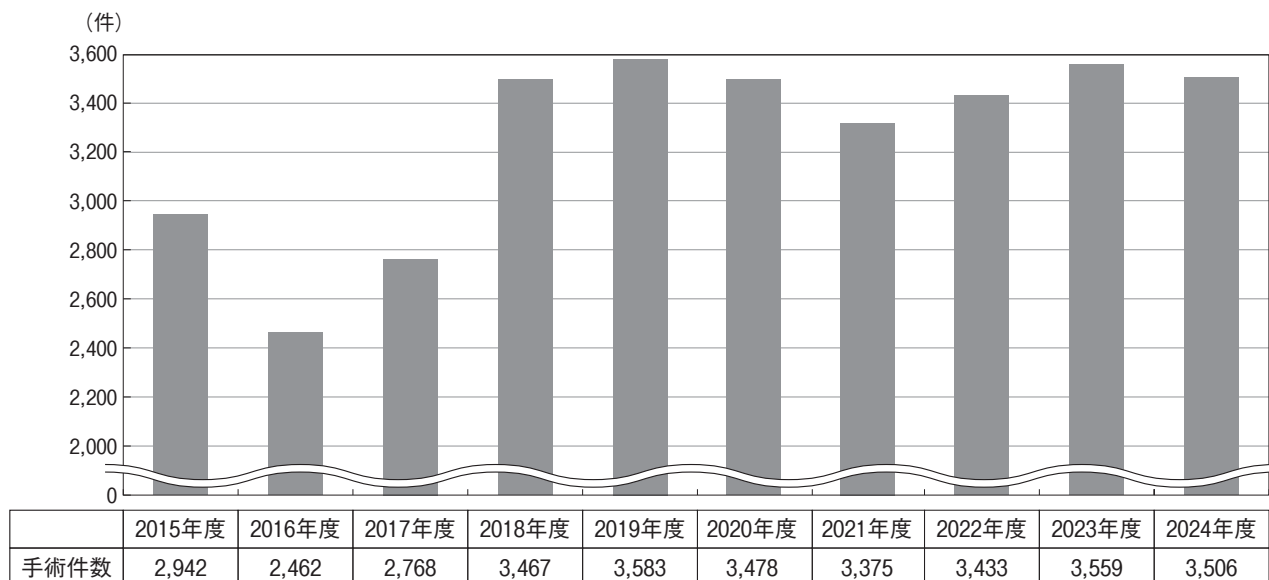
7 手術件数

① 診療科別・月別手術件数（手術室実施）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2024年度 合計	2023年度 合計
循環器内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内分泌・代謝内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器・免疫内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液・化学療法内科	全麻	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	5	7
		0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	5	5
脳神経内科	全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	全麻	32	35	23	28	30	38	38	37	34	34	32	35	396	368
		21	29	20	23	26	29	26	32	27	27	26	31	317	308
呼吸器外科	全麻	11	8	7	8	8	9	9	9	10	12	6	11	108	121
		11	8	7	8	8	9	9	9	10	12	6	11	108	121
乳腺外科	全麻	3	2	2	3	4	3	1	3	1	3	3	1	29	67
		3	2	2	3	4	3	1	3	1	3	3	1	29	54
心臓血管外科	全麻	6	9	9	18	11	11	14	10	15	14	12	17	146	143
		0	2	4	5	3	4	6	4	6	7	6	7	54	43
産婦人科	全麻	94	104	91	94	105	87	100	105	85	108	102	99	1,174	1,101
		65	69	60	69	75	53	75	77	60	70	61	63	797	809
脳神経外科	全麻	3	2	2	1	3	4	0	0	1	0	2	2	20	20
		2	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	6	10
整形外科	全麻	21	29	21	30	21	22	24	25	21	21	19	19	273	264
		19	29	19	27	19	19	24	20	19	21	19	18	253	255
皮膚科	全麻	17	19	16	13	19	19	17	17	14	19	15	20	205	205
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	全麻	29	28	35	35	25	31	32	30	29	24	30	25	353	328
		12	14	11	13	14	15	11	11	15	10	13	10	149	138
眼科	全麻	40	38	35	37	21	22	30	28	23	33	25	30	362	459
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
耳鼻咽喉・頭頸部外科	全麻	19	16	11	22	22	12	20	21	15	17	14	18	207	213
		19	13	11	18	22	11	17	15	11	16	12	17	182	176
形成再建外科	全麻	18	17	14	14	29	16	19	26	20	20	14	20	227	261
		5	1	3	2	6	1	2	3	3	1	2	0	29	26
麻酔・緩和医療科	全麻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	全麻	294	307	267	303	298	274	304	312	269	306	275	297	3,506	3,559
		157	167	138	168	178	145	171	175	154	168	149	159	1,929	1,950

手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[手術室]



② 診療科別・年間手術件数（総件数のうち、上位のみ）

循環器内科

総件数	138
経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	63
経皮的冠動脈形成術(その他)	13
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)	12
経皮的カテーテル心筋焼灼術 (心房中隔穿刺、心外膜アプローチ)	9
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	9
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)	8

腎臓内科

総件数	95
経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	73
末梢動静脈瘻造設術 (内シャント造設術)(単純)	11
経皮的シャント拡張術・血栓除去術 (1の実施後3月以内に実施)	10

消化器内科

総件数	685
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径2cm未満)	463
内視鏡的胆道ステント留置術	57
内視鏡的消化管止血術	35
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径2cm以上)	20
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 (早期悪性腫瘍胃粘膜)	18
小腸結腸内視鏡的止血術	17
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡 下胃瘻造設術を含む)	12
内視鏡的胆道結石除去術(胆道碎石術を伴う)	8
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 (その他)	8
内視鏡的食道粘膜切除術 (早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術)	7
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	7
内視鏡的胆道結石除去術(その他)	7
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等) (選択的動脈化学塞栓術)	5
食道狭窄拡張術(拡張用バルーン)	5

消化器外科

総件数	399
腹腔鏡下胆嚢摘出術	84
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	59
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル 設置(頭頸部その他)	28
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術 (内視鏡手術用支援機器)	20
中心静脈注射用植込型カテーテル設置 (頭頸部その他)	15
腹腔鏡下虫垂切除術 (虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	14
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術) (内視鏡手術用支援機器使用)	12
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径2cm未満)	12
腹腔鏡下胃切除術 (悪性腫瘍手術)	10
腹腔鏡下直腸切除・切断術 (低位前方切除術・手術用支援機器使用)	9
腹腔鏡下人工肛門造設術	9
鼠径ヘルニア手術	8
腹腔鏡下虫垂切除術 (虫垂周囲膿瘍を伴うもの)	7
腹腔鏡下結腸切除術 (小範囲切除、結腸半側切除)	7
腹腔鏡下肝切除術 (部分切除)(単回切除)	6
急性汎発性腹膜炎手術	6
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	5
直腸切除・切断術(切除術)	5

血液・化学療法内科

総件数	19
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(同種移植)	9
造血幹細胞採取(末梢血幹細胞採取)(自家移植)	4
造血幹細胞移植(臍帯血移植)	4
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(自家移植)	2

呼吸器外科

総件数	109
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は1肺葉を超える)	33
胸腔鏡下肺切除術(肺嚢胞手術(楔状部分切除))	10
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(部分切除)	10
肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超える)	9
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)	7
胸腔鏡下試験切除術	7
胸腔鏡下肺切除術(部分切除)	5

乳腺外科

総件数	33
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	16
乳腺悪性腫瘍手術 (乳輪温存乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	4
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 (マンモグラフィー又は超音波装置)	4
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わない))	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	2

心臓血管外科

総件数	153
四肢の血管拡張術・血栓除去術	36
末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純)	28
血管移植術、バイパス移植術(その他の動脈)	13
下肢静脈瘤血管内焼灼術	11
血管移植術、バイパス移植術(下腿、足部動脈)	10
ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	9
動脈血栓内膜摘出術(その他)	8
経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	6
血管結紮術(その他)	5
血管塞栓術 (頭部、胸腔、腹腔内血管等)(その他)	5

産婦人科

総件数	1,338
子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(腹腔鏡)	205
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	188
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	144
子宮頸部(腔部)切除術	90
子宮内膜ポリープ切除術(電解質溶液利用)	66
帝王切開術(選択帝王切開)	61
子宮内膜ポリープ切除術 (組織切除回収システム利用)	58
子宮鏡下子宮筋腫摘出術(電解質溶液利用)	53
腹腔鏡下腔式子宮全摘術 (内視鏡手術用支援機器使用)	52
腹腔鏡下子宮内膜症病巣除去術	45
流産手術(妊娠11週まで)(手動真空吸引法)	34
子宮内膜掻爬術	30
帝王切開術(緊急帝王切開)	29
腹腔鏡下仙骨腔固定術 (内視鏡手術用支援機器使用)	28
子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)	26
頸管裂創縫合術(分娩時)	23
子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(開腹)	19
子宮悪性腫瘍手術	16
異所性妊娠手術(腹腔鏡)	15
腹腔鏡下仙骨腔固定術	11
卵管全摘除術(両側)(腹腔鏡)	10
腹腔鏡下広靱帯内腫瘍摘出術	10
子宮筋腫摘出(核出)術(腹式)	10

小児科

総件数	1
新生児仮死蘇生術(仮死第1度)	1

脳神経外科

総件数	18
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	11
水頭症手術(シャント手術)	5

整形外科

総件数	284
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）	82
人工関節置換術（膝）	49
人工関節置換術（股）	33
骨切り術（指）	15
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	15
第一足指外反症矯正手術	15
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）	13
骨折観血の手術（大腿）	8
人工骨頭挿入術（股）	6

皮膚科

総件数	33
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	5
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	5
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上6cm未満）	5
全層植皮術（25cm ² 未満）	4
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外・長径6～12cm）（6歳以上）	2
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	2
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	2
デブリードマン（100cm ² 以上3000cm ² 未満）	2

泌尿器科

総件数	246
経尿道の尿路結石除去術（レーザー）	50
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道の手術）（電解質溶液利用）	49
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる）	28
経尿道の尿管ステント留置術	23
経尿道の電気凝固術	18
経尿道の前立腺核出術	10
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	9
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器・7センチ以下）	7
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	7
経皮的腎（腎盂）瘻拡張術	5
腹腔鏡下副腎摘出術	5
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる）（その他）	5

眼科

総件数	358
水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（その他）	347
後発白内障手術	2
角膜・強膜異物除去術	2
結膜下異物除去術	2
硝子体切除術	2

耳鼻咽喉・頭頸部外科

総件数	272
口蓋扁桃手術（摘出）	65
アデノイド切除術	29
鼓膜（排液・換気）チューブ挿入術	16
リンパ節摘出術（長径3cm未満）	13
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	11
気管切開術	11
甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術（片葉のみ）	8
顔面神経減圧手術（乳様突起経由）	8
鼻中隔矯正術	8
乳突削開術	7
粘膜下鼻甲介骨切除術	7
鼓室形成手術（耳小骨再建術）	7
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	7
扁桃周囲膿瘍切開術	6
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴わない）	6
内リンパ嚢開放術	5
自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付き）	5

形成再建外科

総件数	141
眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	20
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	11
皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25cm ² 未満）	10
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上6cm未満）	9
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	8
断端形成術（骨形成を要する）（指）	7
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	6
眼瞼下垂症手術（その他）	5

麻酔・緩和医療科

総件数	7
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	6
硬膜外腔癒着剥離術	1

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科	11,891	44,061	55,952	11,293	38,638	49,931	9,332	38,023	47,355	10,351	38,484	48,835	9,365	42,059	51,424	9,721	32,480	42,201	11,271	37,765	49,036
消化器内科	27,106	55,410	82,516	31,340	32,612	63,952	29,426	39,686	69,112	31,379	36,946	68,325	27,891	37,237	65,128	33,202	37,155	70,357	33,375	40,908	74,283
内分泌・代謝内科	22,578	21,446	44,024	23,224	17,144	40,368	22,748	17,888	40,636	23,538	28,782	52,320	22,750	28,168	50,918	21,125	21,188	42,313	25,230	19,845	45,075
呼吸器・免疫内科	80,654	99,804	180,458	84,831	91,072	175,903	84,195	93,155	177,350	92,818	85,045	177,863	78,958	82,273	161,231	74,510	70,921	145,431	85,061	78,167	163,228
血液・化学療法内科	43,704	89,499	133,203	47,913	88,225	136,138	51,466	79,841	131,307	42,503	93,877	136,380	47,913	85,502	133,415	43,435	84,553	127,988	52,956	77,546	130,502
脳神経内科	10,953	15,791	26,744	13,689	15,470	29,159	15,695	16,361	32,056	16,655	23,812	40,467	16,794	21,294	38,088	15,305	18,248	33,553	18,328	17,103	35,431
腎臓内科	8,299	17,259	25,558	7,949	15,411	23,360	8,119	19,426	27,545	8,384	26,931	35,315	8,047	22,969	31,016	8,075	21,953	30,028	8,918	21,616	30,534
内科（計）	205,185	343,270	548,455	220,238	298,572	518,810	220,980	304,378	525,358	225,627	333,878	559,505	211,716	319,503	531,219	205,373	286,499	491,872	235,141	292,950	528,091
消化器外科	7,582	31,604	39,186	9,658	36,259	45,917	9,486	31,899	41,385	10,450	30,872	41,322	9,090	35,797	44,887	11,197	42,797	53,994	10,234	37,479	47,713
呼吸器外科	1,315	20,452	21,767	2,026	12,598	14,624	1,683	9,485	11,168	1,539	12,253	13,792	2,142	11,450	13,592	1,542	14,006	15,548	1,613	15,230	16,843
乳腺外科	8,773	3,000	11,773	9,304	3,266	12,570	8,175	2,184	10,359	9,370	4,171	13,541	13,112	4,441	17,553	7,027	3,658	10,685	9,989	666	10,655
心臓血管外科	1,438	7,744	9,182	1,487	10,392	11,879	1,361	16,739	18,100	1,810	15,042	16,852	1,286	18,044	19,330	1,420	12,806	14,226	847	18,686	19,533
外科（計）	19,108	62,800	81,908	22,475	62,515	84,990	20,705	60,307	81,012	23,169	62,338	85,507	25,631	69,731	95,362	21,187	73,267	94,454	22,683	72,060	94,743
産婦人科	22,635	106,686	129,321	23,039	101,798	124,837	21,030	90,261	111,291	25,055	97,825	122,880	21,702	113,774	135,476	22,866	75,360	98,226	24,258	101,401	125,659
小児科	11,456	16,982	28,438	10,528	14,628	25,156	11,107	13,136	24,243	13,358	15,507	28,865	11,676	14,627	26,303	11,043	10,915	21,958	10,421	16,036	26,457
神経科・精神科	6,048	12,736	18,784	5,973	11,764	17,737	4,629	12,918	17,547	5,119	14,416	19,535	4,740	13,913	18,653	4,331	9,270	13,601	5,295	10,193	15,488
脳神経外科	838	4,960	5,798	1,117	733	1,850	1,302	2,805	4,107	1,410	1,660	3,070	942	3,659	4,601	1,218	5,562	6,780	1,132	1,462	2,594
整形外科	9,667	40,796	50,463	8,895	51,706	60,601	8,328	40,077	48,405	9,376	46,540	55,916	8,972	47,655	56,627	7,977	48,412	56,389	9,091	46,570	55,661
皮膚科	36,132	9,034	45,166	39,592	9,813	49,405	31,303	11,166	42,469	38,650	8,266	46,916	42,295	14,329	56,624	30,927	8,713	39,640	40,729	9,580	50,309
泌尿器科	15,658	19,345	35,003	16,780	21,470	38,250	16,026	19,579	35,605	20,537	25,947	46,484	13,998	20,151	34,149	14,370	19,369	33,739	18,014	19,973	37,987
眼科	7,816	8,741	16,557	8,804	8,128	16,932	7,946	7,896	15,842	7,932	8,324	16,256	7,652	4,270	11,922	8,856	4,531	13,387	8,172	7,431	15,603
耳鼻咽喉・頭頸部外科	7,067	19,736	26,803	8,626	16,914	25,540	6,461	19,699	26,160	8,435	25,035	33,470	5,906	20,746	26,652	5,997	11,373	17,370	6,535	24,281	30,816
形成再建外科	1,198	5,617	6,815	1,488	2,578	4,066	1,280	4,083	5,363	1,267	6,458	7,725	1,503	8,673	10,176	1,243	5,768	7,011	1,096	3,990	5,086
放射線診断科	2,833	2	2,835	2,504	6	2,510	2,609	1	2,610	2,903	0	2,903	2,525	0	2,525	2,512	0	2,512	3,310	0	3,310
放射線治療科	1,932	4,938	6,870	4,633	5,267	9,900	4,320	4,920	9,240	3,418	3,955	7,373	3,169	6,238	9,407	3,890	3,637	7,527	5,963	4,840	10,803
麻酔・緩和医療科	785	2,148	2,933	1,064	2,139	3,203	663	1,745	2,408	721	1,935	2,656	630	2,400	3,030	779	1,763	2,542	788	2,701	3,489
救急診療センター	5,708	21,669	27,377	7,045	27,975	35,020	6,278	20,581	26,859	7,692	33,933	41,625	7,009	34,505	41,514	5,366	22,832	28,198	5,756	15,480	21,236
糖尿病センター	440	0	440	466	0	466	474	0	474	456	0	456	518	0	518	387	0	387	491	0	491
リハビリテーション科	423	12,082	12,505	441	12,528	12,969	415	12,867	13,282	393	14,177	14,570	387	13,010	13,397	315	12,839	13,154	338	13,830	14,168
血液浄化センター	7,926	0	7,926	7,771	0	7,771	6,996	0	6,996	7,649	0	7,649	7,495	0	7,495	7,265	0	7,265	7,970	0	7,970
予防診療科	154	0	154	137	0	137	99	0	99	101	0	101	156	0	156	79	0	79	213	0	213
その他	31	0	31	25	0	25	33	0	33	25	0	25	26	0	26	17	0	17	23	0	23
計	363,040	691,543	1,054,583	391,641	648,534	1,040,175	372,986	626,418	999,404	403,292	700,193	1,103,485	378,647	707,184	1,085,831	355,997	600,112	956,109	407,420	642,777	1,050,197
百分率	34%	66%	100%	38%	62%	100%	37%	63%	100%	37%	63%	100%	35%	65%	100%	37%	63%	100%	39%	61%	100%

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累 計	対前年 差 額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
9,727	31,409	41,136	10,313	49,995	60,308	11,143	47,781	58,924	9,819	33,557	43,376	10,330	44,691	55,021	124,556	478,943	603,499	600,954	2,545
30,888	47,914	78,802	23,360	41,430	64,790	26,137	42,017	68,154	25,009	35,311	60,320	30,300	40,607	70,907	349,413	487,233	836,646	833,729	2,917
21,225	18,649	39,874	23,435	24,928	48,363	22,359	26,105	48,464	19,986	25,492	45,478	21,676	24,822	46,498	269,874	274,457	544,331	553,124	▲ 8,793
75,894	71,670	147,564	72,500	88,081	160,581	67,851	98,312	166,163	60,755	91,952	152,707	64,352	88,074	152,426	922,379	1,038,526	1,960,905	1,974,793	▲ 13,888
44,249	66,875	111,124	55,305	56,984	112,289	45,540	60,373	105,913	62,658	73,688	136,346	47,513	61,142	108,655	585,155	918,105	1,503,260	1,449,834	53,426
12,770	15,677	28,447	16,192	18,552	34,744	12,230	21,774	34,004	14,886	20,742	35,628	13,442	17,783	31,225	176,939	222,607	399,546	223,944	175,602
7,629	19,681	27,310	7,983	22,489	30,472	8,256	23,797	32,053	6,468	23,666	30,134	8,346	23,206	31,552	96,473	258,404	354,877	368,581	▲ 13,704
202,381	271,876	474,257	209,088	302,460	511,548	193,516	320,159	513,675	199,582	304,407	503,989	195,959	300,324	496,283	2,524,789	3,678,275	6,203,064	6,004,959	198,105
8,882	42,167	51,049	8,485	43,248	51,733	11,352	38,694	50,046	11,331	32,879	44,210	10,542	39,348	49,890	118,289	443,043	561,332	582,657	▲ 21,325
1,500	12,893	14,393	2,496	15,295	17,791	1,705	17,871	19,576	1,967	9,844	11,811	2,391	15,854	18,245	21,919	167,231	189,150	194,890	▲ 5,740
10,728	2,646	13,374	7,777	1,339	9,116	8,476	2,685	11,161	7,016	2,480	9,496	6,961	2,088	9,049	106,708	32,624	139,332	256,037	▲ 116,705
1,198	19,835	21,033	1,305	21,386	22,691	1,581	22,283	23,864	886	24,914	25,800	1,152	17,025	18,177	15,771	204,896	220,667	224,351	▲ 3,684
22,308	77,540	99,848	20,063	81,268	101,331	23,114	81,533	104,647	21,200	70,117	91,317	21,045	74,315	95,360	262,687	847,794	1,110,481	1,257,935	▲ 147,454
22,509	98,536	121,045	24,599	91,353	115,952	23,263	99,911	123,174	23,174	98,059	121,233	24,066	94,252	118,318	278,196	1,169,216	1,447,412	1,397,394	50,018
11,203	16,451	27,654	11,539	15,599	27,138	10,957	9,241	20,198	10,606	9,832	20,438	11,603	12,657	24,260	135,497	165,611	301,108	278,133	22,975
4,514	8,473	12,987	4,653	7,844	12,497	4,116	8,924	13,040	3,993	7,007	11,000	4,839	7,416	12,255	58,250	124,874	183,124	185,999	▲ 2,875
1,091	356	1,447	1,205	1,915	3,120	1,253	1,964	3,217	1,315	2,062	3,377	1,783	4,262	6,045	14,606	31,400	46,006	43,094	2,912
8,508	41,677	50,185	7,914	40,057	47,971	7,985	42,476	50,461	6,790	41,203	47,993	7,402	38,913	46,315	100,905	526,082	626,987	560,401	66,586
38,581	12,012	50,593	34,801	12,507	47,308	44,268	8,770	53,038	30,738	11,077	41,815	34,320	6,999	41,319	442,336	122,266	564,602	505,961	58,641
12,659	17,619	30,278	17,417	22,377	39,794	17,715	20,981	38,696	15,965	22,727	38,692	15,775	19,105	34,880	194,914	248,643	443,557	450,122	▲ 6,565
7,407	6,880	14,287	8,301	5,340	13,641	8,946	6,940	15,886	6,983	5,419	12,402	8,397	6,342	14,739	97,212	80,242	177,454	214,291	▲ 36,837
6,191	16,973	23,164	6,589	14,556	21,145	6,190	15,096	21,286	6,072	10,442	16,514	6,794	16,977	23,771	80,863	211,828	292,691	280,146	12,545
1,632	8,366	9,998	1,955	5,557	7,512	1,679	3,949	5,628	1,351	1,939	3,290	1,449	1,327	2,776	17,141	58,305	75,446	60,611	14,835
2,842	2	2,844	2,452	1	2,453	2,695	1	2,696	2,152	0	2,152	2,661	0	2,661	31,998	13	32,011	34,704	▲ 2,693
1,873	4,814	6,687	3,189	3,413	6,602	3,294	5,418	8,712	4,055	3,661	7,716	3,062	1,237	4,299	42,798	52,338	95,136	107,112	▲ 11,976
787	1,961	2,748	1,026	1,797	2,823	842	1,834	2,676	742	2,423	3,165	1,004	1,826	2,830	9,831	24,672	34,503	33,685	818
6,212	16,884	23,096	9,161	29,830	38,991	8,337	43,358	51,695	6,821	26,849	33,670	6,241	29,908	36,149	81,626	323,804	405,430	395,005	10,425
450	0	450	452	0	452	462	0	462	430	0	430	416	0	416	5,442	0	5,442	5,452	▲ 10
233	12,615	12,848	240	12,867	13,107	286	12,696	12,982	232	11,281	11,513	175	12,117	12,292	3,878	152,909	156,787	137,689	19,098
8,062	0	8,062	7,681	0	7,681	9,035	0	9,035	8,248	0	8,248	8,945	0	8,945	95,043	0	95,043	85,879	9,164
189	0	189	126	0	126	95	0	95	121	0	121	104	0	104	1,574	0	1,574	2,341	▲ 767
26	0	26	23	0	23	20	0	20	20	0	20	17	0	17	286	0	286	299	▲ 13
359,656	613,036	972,692	372,476	648,739	1,021,215	368,070	683,251	1,051,321	350,589	628,504	979,093	356,057	627,980	984,037	4,479,871	7,818,271	12,298,142	12,041,212	256,930
37%	63%	100%	36%	64%	100%	35%	65%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	—	—

2 医療行為別医療収入

① 外来

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
初診料	3,281	3,162	2,992	3,570	3,107	2,770	3,374	3,024	3,319	2,995	2,536	2,930	37,060	41,646	▲ 4,586
再診料	11,802	11,811	11,584	12,618	11,763	11,556	12,858	11,372	12,298	11,871	10,728	11,863	142,123	140,529	1,594
指導料	27,007	28,476	26,845	28,869	27,706	25,580	29,181	26,117	27,439	28,319	26,186	27,053	328,777	329,854	▲ 1,077
処方料	5,449	8,662	10,319	9,796	7,300	12,229	9,035	10,993	7,714	8,825	9,646	10,920	110,888	63,079	47,808
注射料	141,177	163,010	155,673	168,398	163,283	140,885	166,826	142,426	148,766	148,648	147,203	135,035	1,821,331	1,632,145	189,187
処置料	9,052	9,485	8,317	9,114	8,767	8,605	9,581	9,711	9,430	10,861	9,466	10,441	112,829	106,982	5,847
手術料	5,658	4,634	4,986	6,479	5,840	5,529	5,811	5,509	6,472	5,543	5,056	6,053	67,572	72,110	▲ 4,538
検体検査料	95,631	97,250	91,702	98,330	91,165	89,012	101,465	89,540	95,215	90,758	83,292	90,869	1,114,230	1,153,443	▲ 39,213
画像検査料	44,553	44,058	40,867	45,866	40,353	41,096	46,431	43,697	42,536	41,598	37,967	42,570	511,592	504,179	7,413
リハビリ その他	12,574	15,132	13,685	13,592	13,067	13,264	16,355	10,994	13,150	12,718	12,559	12,434	159,524	173,685	▲ 14,161
自費	6,854	5,961	6,017	6,662	6,296	5,470	6,504	6,272	6,136	5,934	5,951	5,888	73,943	78,208	▲ 4,264
計	363,040	391,641	372,986	403,292	378,647	355,997	407,420	359,656	372,476	368,070	350,589	356,057	4,479,869	4,295,859	184,010

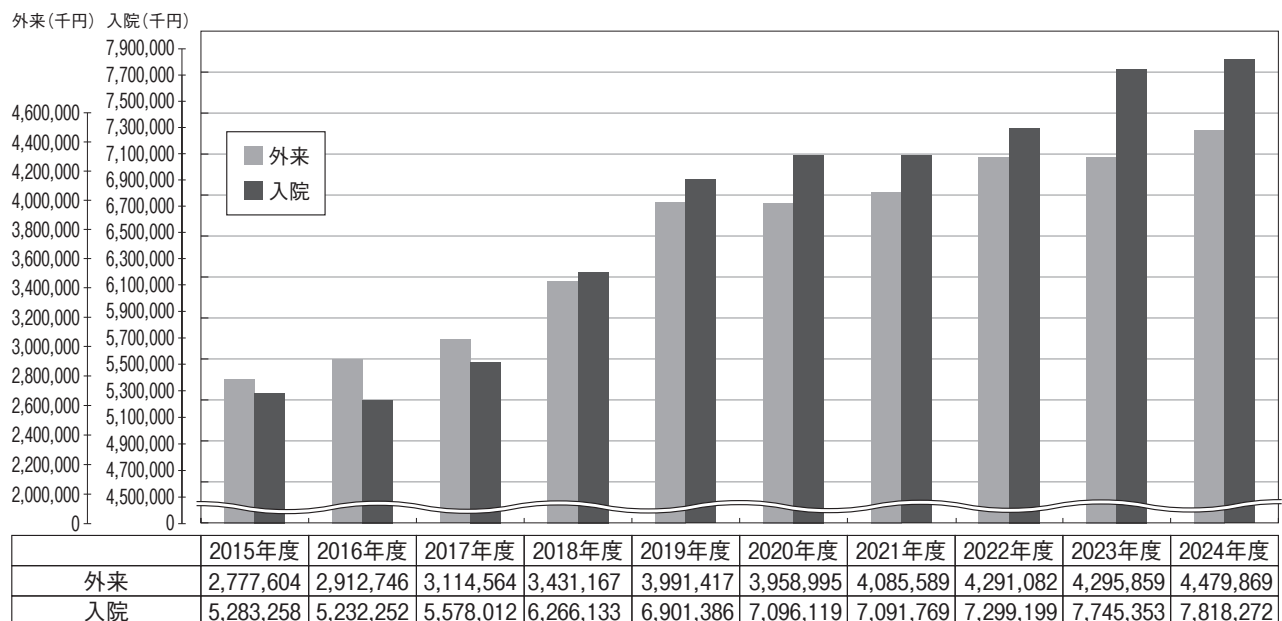
[医事サービス部]

② 入院

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
診察料	293	307	293	419	321	187	332	315	404	362	260	346	3,839	4,084	▲ 245
指導料	7,994	8,702	8,145	7,708	7,775	7,252	7,718	7,913	8,763	7,755	7,438	8,279	95,442	96,438	▲ 996
処方料	8,633	8,130	10,352	9,054	6,525	4,788	7,248	6,358	8,860	6,452	8,092	9,360	93,852	99,564	▲ 5,712
注射料	37,392	23,890	33,724	24,098	20,966	17,358	24,096	10,775	15,821	27,345	31,810	26,090	293,366	330,376	▲ 37,010
処置料	3,466	3,330	2,639	3,981	4,346	3,736	4,256	3,052	2,902	4,069	5,082	5,076	45,934	44,082	1,852
手術料	149,970	149,445	136,035	150,492	154,988	134,194	160,864	152,043	144,577	152,186	139,759	137,382	1,761,935	1,734,128	27,807
検体検査料	13,598	13,583	10,481	13,214	11,756	10,033	11,124	10,048	10,341	11,263	11,001	13,248	139,690	155,890	▲ 16,200
画像検査料	2,027	1,723	1,677	2,371	2,075	1,196	1,293	1,223	1,669	2,036	1,956	2,101	21,348	22,063	▲ 715
リハビリ その他	16,744	17,570	27,868	29,257	30,736	26,551	28,867	27,560	26,933	29,467	24,984	23,697	310,233	189,153	121,080
入院料	85,883	77,281	71,104	82,040	79,707	64,000	68,092	64,851	66,802	71,550	70,985	73,207	875,503	918,297	▲ 42,794
DPC	301,734	286,144	271,708	318,146	323,652	280,597	275,981	276,726	307,517	308,134	269,819	272,926	3,493,082	3,480,997	12,085
食事療養費	15,249	14,529	14,380	15,513	16,087	14,197	14,433	13,972	15,186	16,201	14,786	15,220	179,753	170,288	9,465
自費	48,560	43,901	38,013	43,902	48,249	36,024	38,474	38,199	38,962	46,431	42,533	41,048	504,296	499,993	4,303
計	691,543	648,534	626,418	700,193	707,184	600,112	642,777	613,036	648,739	683,251	628,504	627,980	7,818,272	7,745,353	72,919

[医事サービス部]



3. その他統計

1 病院従業員数（2024年4月1日時点）

			職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート
				男	女				
医 師	2024年度	95	63	32	14	13	1	43	
	2023年度	95	68	27	18	13	1	36	
薬剤師	2024年度	23	8	15	0	0	0	2	
	2023年度	21	8	13	0	0	0	2	
放射線技師	2024年度	20	13	7	0	0	0	0	
	2023年度	20	13	7	0	0	0	0	
医学物理士	2024年度	0	0	0	0	0	0	1	
	2023年度	0	0	0	0	0	0	1	
臨床検査技師	2024年度	35	12	23	0	0	0	2	
	2023年度	36	13	23	0	0	0	3	
理学療法士	2024年度	12	11	1	0	0	0	0	
	2023年度	11	10	1	0	0	0	0	
作業療法士	2024年度	4	3	1	0	0	0	0	
	2023年度	4	3	1	0	0	0	0	
管理栄養士	2024年度	6	0	6	0	0	0	0	
	2023年度	4	0	4	0	0	0	0	
ケースワーカー	2024年度	7	0	7	0	0	0	1	
	2023年度	8	0	8	0	0	0	0	
視能訓練士・眼鏡士	2024年度	1	0	1	0	0	0	2	
	2023年度	1	0	1	0	0	0	2	
公認心理師	2024年度	0	0	0	0	0	1	2	
	2023年度	0	0	0	0	0	0	0	
臨床心理士	2024年度	0	0	0	0	0	0	0	
	2023年度	0	0	0	0	0	0	0	
臨床工学技士	2024年度	10	5	5	0	0	0	0	
	2023年度	10	5	5	0	0	0	0	
看護師	2024年度	361	16	345	0	0	0	20	
	2023年度	355	16	339	0	0	0	17	
准看護師	2024年度	0	0	0	0	0	0	5	
	2023年度	0	0	0	0	0	0	5	
看護助手	2024年度	0	0	0	0	0	0	3	
	2023年度	0	0	0	0	0	0	3	
事務員	2024年度	51	25	26	0	0	0	27	
	2023年度	50	26	24	0	0	0	33	
一般技能労務職	2024年度	2	2	0	0	0	0	2	
	2023年度	2	2	0	0	0	0	2	
小 計		2024年度	627	158	469	14	13	2	110
		2023年度	617	164	453	18	13	1	104
ニッセイ予防医学センター	医 師	2024年度	7	1	6	0	0	2	4
		2023年度	6	1	5	0	0	1	4
	放射線技師	2024年度	6	2	4	0	0	0	3
		2023年度	5	2	3	0	0	0	5
	臨床検査技師	2024年度	1	1	0	0	0	0	9
		2023年度	1	1	0	0	0	0	8
	公認心理師	2024年度	0	0	0	0	0	0	3
		2023年度	0	0	0	0	0	0	3
	看護師	2024年度	10	0	10	0	0	0	12
		2023年度	10	0	10	0	0	0	8
	事務員	2024年度	16	6	10	0	0	0	21
		2023年度	16	6	10	0	0	0	21
	一般技能労務職	2024年度	1	1	0	0	0	0	0
		2023年度	1	1	0	0	0	0	0
小 計		2024年度	41	11	30	0	0	2	52
		2023年度	39	11	28	0	0	1	49
訪問看護	看護師	2024年度	5	0	5	0	0	0	7
		2023年度	6	0	6	0	0	0	8
小 計		2024年度	5	0	5	0	0	0	7
		2023年度	6	0	6	0	0	0	8
総 計		2024年度	673	169	504	14	13	4	169
		2023年度	662	175	487	18	13	2	161

[総務人事G]

2 セカンドオピニオン外来件数（年間計）

呼吸器・免疫内科 1 件、脳神経内科 1 件、消化器外科 1 件、産婦人科 6 件、計 9 件

[あったかサポートセンター]

循環器内科

スタッフ 部 長：岡部太一（臨床研究管理室長）
担当部長：中川 厚（救急総合診療センター副センター長）
医 長：和田有希、不二樹五郎
専 攻 医：阪本淳那、平井章大（2024年7月～8月）

1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、不整脈疾患、末梢血管疾患に加え、その危険因子である高血圧症、脂質異常症、糖尿病も併せて診療を行っている。

循環器疾患のなかでも、特に大きな課題を抱えているのが心不全である。団塊の世代が全員75歳以上になる2025年問題が指摘、2030年には心不全患者が爆発的に増加する「心不全パンデミック」も懸念されており、当科も積極的に受け入れ対応を実施、心不全の進展についてステージDである高齢化に伴う心不全の緩和ケアの重要性が増すと共に、未病という考えから心不全に至る危険因子の管理も非常に重要であり、外来においては積極的に他診療科やドック、他院よりの紹介を積極的に受け入れ、安定した後は登録医の先生方への逆紹介を積極的に行っている。

待機的な冠動脈造影検査については近年、400件程度、経皮的冠動脈形成術（PCI）も100件程度で推移している。急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても少ないスタッフの状況においても診療時間内・時間外共に積極的に対応して。

近年保険診療においてPCI実施については可能な限り虚血所見の証明を必要とされており、当院では心筋シンチ検査・運動負荷心電図検査、心臓カテーテル検査時に冠血流予備量比測定（FFR・iFRなど）にて虚血評価を実施の上、カテーテル治療を実施している。

また当科では虚血性非閉塞性冠疾患（INOCA）のにも注目しており、狭心症が疑われるも有意狭窄が認められない症例については心臓カテーテル検査中にアセチルコリン負荷と併せて精査実施している。

不整脈治療について、頻脈性不整脈に対するカテーテル心筋焼灼術については大阪医科薬科大学出身の不整脈専門医の協力のもと症例を選択して当院でアブレーション治療を再開（主に当院外来通院患者）。

2024年は定期的なアブレーション治療は実施していないが12例実施、他は薬物治療・アブレーション治療による治療の要否について循環器専門医が判断、必要と判断した症例については御本院希望に従い実施可能施設に紹介している。

徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）に対するペースメーカー治療（新規植込み・電池交換）については吉川医長の退職に伴い、新任の不二樹医長が担当している。

また2016年9月より心臓リハビリテーションを当院でも開始、主に入院患者を対象に急性心筋梗塞後のみならず心不全や閉塞性動脈硬化症などに対して実施、可能な症例に対しては入院から外来へと継続実施している。心臓リハビリテーション実施に際して安全にかつ有効に実施するため心肺運動負荷試験（CPX）実施、嫌気性代謝閾値を相定、評価実施、運動処方を行っている。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、循環器一般診療・内科一般疾患に対しても関連疾患の診療も他科と協力、幅広く診療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）
 - ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜 全日、木曜・全日、尚、緊急時には適時対応）
 - ・薬剤負荷心筋シンチ（火・木午前）
 - ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜 午後）
 - ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
 - ・経食道心臓超音波検査（午後適時）
 - ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）
 - ・ホルター心電図検査（月～木曜、午前）
 - ・CPX：心肺運動負荷試験（水午後適時）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）
- 3) 検査実績
 - 心臓カテーテル検査件数：323件（内、緊急47件）
 - PCI（冠動脈インターベンション治療）：135件（内、緊急28件）
 - ペースメーカー治療（新規/交換）：10/6件
 - 冠動脈CT：284件
 - 心臓超音波検査：3823件
 - 経食道心臓超音波検査：11件
 - トレッドミル負荷心電図：113件
 - 負荷心筋シンチ：26件
 - 冠血流予備量比測定：197件
 - ホルター心電図検査：177件
 - CPX件数：2件

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医

4名（岡部、中川、和田、不二樹）

日本内科学会総合内科専門医 1名（岡部）

循環器専門医 4名（岡部、中川、和田、不二樹）

日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医
1名（中川）

5. 業績

論文・著書

1. 中川 厚：アテレクトミーデバイスによる冠動脈穿孔に対しGUIDEPLUS II ELでカバードステント留置に成功しペイルアウトできた冠動脈硬化症の1例, Guide Plus Case Report：2024年
2. 不二樹五郎：ChatGPTと医療, Heart View, 28（13）：1161-1165, 2024年
3. 中嶋七海, 坂口健太, 吉川秀人, 和田有希, 中川 厚, 岡部太一：尿意切迫感が冠微小循環評価に影響を与えた1例, 日本生命病院医学雑誌, 52：30-33, 2024年
4. 不二樹五郎：AIを活用した心電図機能付き聴診器による左室駆出率低下を伴う心不全スクリーニング：前向き多施設観察研究, Osaka Heart Club Bulletin , 10：48（5）：13-15, 2024年

学会発表

1. 地田 紬, 岡崎浩也, 田口貴大, 吉岡佑太, 中川 厚, 吉川秀人, 坂口健太：当院で出張アブレーションを検討した報告, 第32回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2024年7月, 札幌
2. 岡崎浩也, 吉岡佑太, 田口貴大, 地田 紬, 吉川秀人, 坂口健太, 中川 厚：当院における冠微小循環障害を有する患者さんの割合, 第32回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2024年7月, 札幌
3. 吉岡佑太, 岡崎浩也, 田口貴大, 地田 紬, 中川 厚, 吉川秀人, 坂口健太：洞不全症候群に対してペースメーカー留置後、心不全が増悪した1例, 第32回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2024年7月, 札幌
4. 大石怜奈, 阪本淳那, 不二樹五郎, 中川 厚：急性心筋梗塞治療経過中に心室中隔穿孔を合併した1例, 第43回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 2024年9月, 大阪
5. 依岡未季, 阪本淳那, 不二樹五郎, 中川 厚：尿意切迫が冠微小循環評価に影響を与えた1例, 第43回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 2024年9月, 大阪

研究会発表

1. 中川 厚：冠動脈疾患に対する包括的機能診断, 第168回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年7月, 大阪
2. 阪本淳那：当科における高尿酸血症治療の現状, 高尿酸血症治療WEBセミナー～DIANA試験を踏まえて～, 2024年9月, 大阪
3. 中川 厚：Sin c Visionを用いたPCIの2症例, 京阪奈Physiology研究会, 2024年11月, 京都

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
中川	阪本	岡部	永田	中川	不二樹	岡部	宮本	宇都	中川
				長谷川				阪本 不二樹	

※長谷川は2・3週の初診（ペースメーカー外来）のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス	カンファレンス 心臓カテーテル	合同カンファレンス (放科・心外)	カンファレンス 心臓カテーテル	カンファレンス
午後			部長回診	カンファレンス	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
頸動脈エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
ホルター心電図		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		
末梢血管エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予
トレッドミル		○ 診								
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診			○ 診	○ 診		
負荷心筋シンチ			○ 診						○ 診	

●：紹介状・予約が必要 ○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	12,092	12,815	13,293	13,010	12,374
入院	6,345	8,301	7,640	6,720	6,932

表5 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症	238	5
心不全	136	23
心房細動および粗動	30	10
肺炎、病原体不詳	30	18
急性心筋梗塞	24	14
COVID-19	11	11
房室ブロックおよび左脚ブロック	10	11
その他の肺性心疾患	8	8
非リウマチ性大動脈弁障害	8	9
その他の不整脈	8	16
肺塞栓症	6	10
体液量減少（症）	5	28

スタッフ 主任部長：有坂好史（消化器内視鏡センター長）
副部長：田中敏雄（部長待遇）（～2024年11月）、若原ちか、萩巣恭平
医 長：河田奈都子、北田隆起、板東正貴、原 和也（2024年 7 月～）
専 攻 医：高橋元気（2024年10月～）
顧 問：中村秀次

1. 診療内容

全人的な医療をモットーとして、消化器疾患全般に対する診療を行っている。外科合同カンファレンス、放射線科合同カンファレンスを継続して行い、外科・放射線科の連携のもと集学的診断治療に努めている。上部・下部消化管内視鏡検査では、NBI拡大内視鏡、色素内視鏡を用いて、食道癌、胃癌、大腸癌の早期診断など高い診断精度を目指す。胆膵疾患および消化管粘膜下腫瘍に対しては超音波内視鏡検査を駆使し、超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も導入し、診断能の向上を図っている。治療の手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術に加えて、胃・食道の早期癌に対して粘膜下層剥離術（ESD）も積極的に実施しており、早期大腸癌のESDも行っている。膵・胆管領域では、総胆管結石や閉塞性黄疸に対して内視鏡的逆行性胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。食道や胃の進行癌だけでなく膵癌、胆管癌に対しても、化学療法、放射線療法など集学的治療を行っている。肝疾患では、B型慢性肝炎に対するエンテカビル、テノホビル、T A F 投与、C型慢性肝炎に対するIFN-free DAA経口療法を積極的に実施している。肝硬変に対しては肝癌の早期発見さらに発癌抑制も踏まえたきめ細かな診療を心がけ、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法、難治性腹水に対するCART療法など、QOLおよび生存率の向上を目指した治療を行っている。肝細胞癌に対しては、外科、放射線科との緊密な連携の下、外科切除、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例には分子標的治療薬も積極的に導入し、集学的治療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表 1）
- 2) 病棟体制（表 2）
- 3) 検査スケジュール（表 3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表 4）
- 2) 入院診療実績（表 4、5）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定医
5 名（有坂、河田、北田、中村、板東）
日本内科学会総合内科専門医
4 名（若原、萩巣、北田、原）
日本内科学会認定指導医
4 名（有坂、河田、北田、中村）
日本消化器病学会認定専門医
8 名（有坂、若原、河田、萩巣、北田、坂東、原、中村）
日本消化器病学会認定指導医
6 名（有坂、中村、若原、萩巣、河田、北田）
日本消化器内視鏡学会認定専門医
8 名（有坂、若原、河田、萩巣、北田、板東、原、中村）
日本消化器内視鏡学会認定指導医
3 名（有坂、若原、中村）
日本肝臓学会認定肝臓専門医
5 名（河田、萩巣、北田、原、中村）
日本肝臓学会認定指導医 1 名（中村、河田）
日本胆道学会認定指導医 2 名（有坂、萩巣）
日本膵臓学会認定指導医 2 名（有坂、河田）
日本超音波医学会専門医・指導医 1 名（河田）
日本がん治療認定医 1 名（河田）

5. 業績

論文・著書

- 1. Yamashita S, Takayama T, Kanemitsu M, Eguchi S, Morimoto Y, Bando M, Kitada R, Kawada N, Ogisu K, Wakahara C, Hoshino H, Tanaka T, Kawada J, Arisaka Y, Mizuno H : A Case of Ovarian Metastases from Colorectal Cancer, Gan To Kagaku Ryoho, 51 (13) : 1354-1356, 2024年
- 2. 原和也, 河原史明, 坂根達哉, 田中彩香, 賀来英俊, 山中広大, 松浦敬憲, 高橋卓也, 西岡千晴 : 閉塞性黄疸で発見された肺低分化型扁平上皮癌十二指腸転移の 1 例, Gastroenterol Endosc, 66 (12) : 2655-2661, 2024年
- 3. Hara K, Kawara F, Yamanaka K, Nishioka C : Gastrointestinal White Granules in the Stomach Caused by Lymphangitis Carcinomatosis from Signet-Ring Cell Gastric Carcinoma, J Gastroenterol Hepatol, doi: 10.1111/jgh.16894 : Online ahead, 2025年

学会発表

- 1. 原 和也, 河原史明, 井口謙志, 藤本 悠, 坂根達哉, 中辻政志, 田中彩香, 賀来英俊, 山中広大, 西岡千晴 : 悪性消化管閉塞に対する内視鏡併用PTEGの導入と現状, 第120回日本消化器病学会近畿支部例会 [シンポジウム], 2024年1月, 神戸
- 2. 中辻政志, 河原史明, 坂根達哉, 田中彩香, 原 和也, 金子三紀, 賀来英俊, 山中広大, 西岡千晴 : 表在性非乳頭部十二指腸上

皮性腫瘍（SNADET）に対する内視鏡切除法の選択と治療成績に関する検討，第120回日本消化器病学会近畿支部例会 [シンポジウム]，2024年1月，神戸

- 北田隆起，中村秀次，萩巣恭平，河田奈都子，若原ちか，有坂好史：免疫介在性肝機能障害発現に関する予測因子の検討，第60回 日本肝臓学会総会，2024年6月，熊本
- 岡 勇樹，増田充弘，辻前正弘，中野遼太，加藤隆夫，藤田光一，平田祐一，芦名茂人，那賀川 峻，萩巣恭平，古松恵介，藤垣誠治，重里徳子，塩見英之，船津英司，佐貫 毅，有坂好史，岡部純弘，児玉裕三：多機関共同研究から見たIgG4陰性自己免疫性膵炎の特徴，第55回日本膵臓学会大会，2024年7月，宇都宮
- 多田詩野，原 和也，板東正貴，北田隆起，萩巣恭平，若原ちか，河田奈都子，田中敏雄，有坂好史，中村秀次：短期間に胆管狭窄が進行したIgG4関連硬化性胆管炎の1例，第246回日本内科学会近畿地方会，2024年12月，大阪

研究会発表

- 板東正貴：偽胆石の1例，第3回WEST OSAKA Regional Workshop，2024年6月，大阪
- 萩巣恭平：消化器内視鏡治療の現況，第169回日本生命病院医学セミナーUpdate，2024年8月，大阪
- 北田隆起：当院における肝性脳症の診断・治療 ～改定ガイドラインを踏まえた治療戦略～，第2回大阪肝疾患フォーラム [パネルディスカッション]，2024年10月，大阪（Web開催）
- 有坂好史：「本当に大事な肝臓・胆道・膵臓」胆嚢の病気～胆石・胆嚢ポリープなど～，市民公開講座 西部肝胆膵疾患地域連携会，2025年3月，大阪

表 1 外来診察スケジュール（完全予約制）

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
有坂	萩巣	若原	北田	中村	中村	中村	中村	有坂	若原
北田	高橋	坂東	原	河田	河田	坂東	永瀬	原	
				萩巣					

表 2 病棟体制

月	火	水	木	金
肝生検	内視鏡カンファレンス	肝生検造影超音波検査	RFA病棟患者カンファレンス	回診

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内視鏡 胃	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	
内視鏡 大腸		○ 診		○ 診		○ 診				○ 診
EUS									○ 診	
ERCP			○ 診					○ 診		
膵精密エコー						● 紹・予				

●：紹介状・予約が必要 ○：当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	17,624	16,730	17,951	18,152	17,899
入院	9,424	7,484	9,025	9,729	8,431

表 5 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	383	2
結腸の悪性新生物	65	5
胆石症	60	9
腸の憩室性疾患	54	7
胃の悪性新生物	50	11
腸のその他の疾患	50	2
肝および肝内胆管の悪性新生物	49	15
胆道のその他の疾患	28	13
胃炎および十二指腸炎	25	3
直腸の悪性新生物	23	5
麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	18	13
肺炎、病原体不詳	17	20
その他の炎症性肝疾患	17	11
膵の悪性新生物	16	12
肝線維症および肝硬変	16	12

内 分 泌 ・ 代 謝 内 科

スタッフ 部長：橋本久仁彦（副院長、糖尿病・内分泌センター長、栄養管理室長、あったかさサポートセンター長）
医 長：大畔健太
専 攻 医：森本尚喜、藤吉仁史（2024年4月～11月、2025年2月～3月）、
大畑颯世（2024年4月～5月、10月～3月）、
呉 昊成（2024年4月～9月、11月～1月）
兼 任：笠山宗正（名誉院長）、三木俊治（予防医学センター）

1. 診療内容

2019年度より内分泌・代謝内科は、内分泌疾患・糖尿病を主な対象疾患として診療を担当している。具体的には、①糖尿病を持っている患者に対する知識獲得や療養についての支援、経口薬やインクレチン受容体作動薬・インスリンなどの注射薬による血糖マネジメント、糖尿病性ケトアシドーシス・高血糖高浸透圧症候群などの糖尿病救急に対する対応、糖尿病合併症治療および感染症治療など、②下垂体機能亢進症・低下症、バソプレシン分泌低下症、甲状腺機能亢進症・低下症・眼症、副甲状腺疾患、原発性アルドステロン症・クッシング症候群・褐色細胞腫パラガングリオーマなどの内分泌疾患の診断・治療を内科専攻医とともに高い専門性を持ちながら全人的視点のもとに行った。

総合内科的な診療についても、多数の内科専攻医が所属する内分泌・代謝内科において多くの患者を担当した。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

主観患者は16名程度、共観患者は30名程度を担当した。病棟担当医は研修医1～2名、専攻医3～4名、医長1名であり、部長および医長の指導の下、研修医と専攻医・医長により症例によっては複数主治医体制で診療を行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2024年度外来述べ患者数は、21,036人であった。2023年度に比べ少し減少している。通院患者の高齢化による、かかりつけ医への逆紹介も影響していると推測する。

2) 入院診療実績（表3、4）

2024年度入院述べ患者数は、依頼患者を全て受け入れており、5,785人であった。2023年度に比べて116名増加した。内分泌・代謝内科における入院患者疾患内訳については過年度までと同様に2型糖尿病が第1位、COVID-19が第2位であり、内分泌疾患では副腎疾患が最も多く下垂体疾患が次いだ。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医

4名（橋本、大畔、三木、笠山）

日本内科学会認定指導医

4名（橋本、大畔、三木、笠山）

日本内科学会総合内科専門医 3名（橋本、大畔、三木）

日本内分泌学会指導医 2名（橋本、笠山）

日本内分泌学会専門医 3名（橋本、大畔、笠山）

日本糖尿病学会指導医 2名（橋本、笠山）

日本糖尿病学会専門医 3名（橋本、大畔、笠山）

日本人間ドック学会認定医 1名（橋本）

日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1名（橋本）

5. 業績

論文・著書

1. Aono K, Koshizaka M, Shoji M, Kaneko H, Maeda Y, Hashimoto K, et al : Less frequent skin ulcers among patients with Werner syndrome treated with pioglitazone: Findings from the Japanese Werner Syndrome Registry, Aging, 16 (22) : 13526-13533, 2024年
2. Okuro K, Hashimoto H, Morita K, Noshi Y, Kasayama S, Hashimoto K, et al : Anamorelin induces hyperglycemia in a patient with type 1 diabetes by stimulating growth hormone secretion: A case report, Internal Medicine, DOI: 10.2169/internalmedicine.4887-24 : Online ahead, 2025年

学会発表

1. 橋本紘宜, 森田香葉子, 熨斗 優, 楠下 萌, 落合 進, 高森啓成, 松島 希, 大畔健太, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦 : 当科におけるセマグルチド経口薬と注射薬導入患者の臨床的特徴とその効果の比較, 第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024年5月, 東京
2. 焦 裕之, 武呂誠司, 最上伸一, 小杉圭右, 橋本久仁彦, 北川良裕, 馬屋原豊, 徳田好勇, 谷本吉造, 川岸隆彦, 谷口敏雄, 庄司繁市, 久米田靖郎, 吉内和富, 岡野理江子, 村田佳織, 姜 信牛, 安田哲行 : Tirzepatideに関するアンケート調査, 第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024年5月, 東京
3. 大畔健太, 橋本紘宜, 森田香葉子, 熨斗 優, 落合 進, 楠下 萌, 高森啓成, 松島 希, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦 : 男性原発性甲状腺機能低下症の臨床的特徴に関する検討, 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月, 横浜
4. 落合 進, 橋本紘宜, 熨斗 優, 森田香葉子, 楠下 萌, 大畔健太, 高森啓成, 松島 希, 宇都佳彦, 笠山宗正, 橋本久仁彦 : 当科における原発性副甲状腺機能亢進症の現状, 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月, 横浜
5. 橋本久仁彦 : 糖尿病症例の栄養管理, 第6回Medical Nutritionist セミナー, 2024年8月, 草津
6. 田中美音, 藤吉仁史, 森本尚喜, 大畔健太, 笠山宗正, 橋本久仁彦 : 明らかな認知機能低下を認めないもののPTP包装シー

トを誤飲した事を自覚せず嘔吐を繰り返した糖尿病の一例、第245回日本内科学会近畿地方会、2024年8月、大阪

7. 大畑颯世、呉 昊成、藤吉仁史、森本尚喜、是近彩香、高森啓成、松島 希、大畔健太、宇都佳彦、笠山宗正、橋本久仁彦：胃全摘後ダンピング症候群に伴う血糖変動をFGMで確認し分割食を導入後改善した一例、第61回日本糖尿病学会近畿地方会、2024年10月、大阪
8. 森本尚喜、大畑颯世、呉 昊成、藤吉仁史、是近彩香、高森啓成、松島 希、大畔健太、宇都佳彦、笠山宗正、橋本久仁彦：COVID-19罹患中糖尿病性ケトアシドーシスと心筋逸脱酵素上昇を認め冠動脈狭窄が判明した1例、第61回日本糖尿病学会近畿地方会、2024年10月、大阪
9. 呉 昊成、大畑颯世、藤吉仁史、森本尚喜、是近彩香、高森啓成、松島 希、大畔健太、宇都佳彦、笠山宗正、橋本久仁彦：遷延性低血糖に対しFreeStyleリブレのトレンド機能を利用して治療した一例、第61回日本糖尿病学会近畿地方会、2024年10月、大阪
10. 藤吉仁史、大畑颯世、呉 昊成、森本尚喜、是近彩香、高森啓成、松島 希、大畔健太、宇都佳彦、笠山宗正、橋本久仁彦：抗ラブリリン3A抗体陽性よりリンパ球性漏斗下垂体後葉炎と診断した若年バソプレシン分泌低下症の一例、第25回日本内分泌学会近畿支部学術集会、2024年11月、京都
11. 阿坂 玲、呉 昊成、大畑颯世、藤吉仁史、森本尚喜、大畔健太、笠山宗正、阪本淳奈、岡部太一、橋本久仁彦：パセドウ病と1型糖尿病を同時期に発症した多腺性自己免疫症候群（APS）3A型の一例、第246回日本内科学会近畿地方会、2024年12月、大阪
12. 古志真祐子、呉 昊成、大畑颯世、藤吉仁史、森本尚喜、大畔健太、笠山宗正、川上 学、橋本久仁彦：随時尿K所見からギッテルマン症候群を疑ったがアルコール多飲が主因と判明した低K血症の一例、第246回日本内科学会近畿地方会、2024年12月、大阪
13. 林 令子、梶本忠史、大畑颯世、大畔健太、笠山宗正、橋本久仁彦：慢性甲状腺炎の診断7年後にTSH分泌低下症と診断された症例、第246回日本内科学会近畿地方会、2024年12月、大阪
14. 富士原有里、大畑颯世、呉 昊成、藤吉仁史、森本尚喜、大畔健太、笠山宗正、荻巣恭平、有坂好史、橋本久仁彦：糖尿病教育入院を契機に診断された自己免疫性膵炎の一例、第247回日本内科学会近畿地方会、2025年3月、京都

研究会発表

1. 藤吉仁史、大畑颯世、呉 昊成、森本尚喜、是近彩香、松島 希、大畔健太、笠山宗正、橋本久仁彦：アナモレリンが糖尿病性ケトアシドーシスの一因と考えられた肺癌合併糖尿病患者の1例、第17回大阪内分泌・代謝学臨床カンファレンス、2024年6月、大阪
2. 橋本久仁彦：教育講演Ⅱ経口糖尿病薬のピットフォール～その機序と薬剤指導のコツ、第22回大阪糖尿病患者教育担当者研修会、2024年7月、大阪
3. 森本尚喜：COVID-19罹患中に糖尿病性ケトアシドーシスと心筋逸脱酵素上昇を認め冠動脈狭窄が判明した1例、第19回心血管糖尿病合同カンファレンス、2025年1月、大阪
4. 笠山宗正：成人GH分泌不全症とともに18年～トータルライフを見据えた下垂体機能低下症の治療、SANDOZ National Web Seminar、2025年1月、大阪（Web開催）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
大畔	森本	三木	大畑	笠山	笠山	笠山	笠山	橋本	藤吉
宇都※		橋本	橋本	橋本	高森※	大畔	呉		
						三木	松島		
						宇都※			

※救急総合診療科所属

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後	部長回診	症例カンファレンス		抄読会	

表3 年度別外来・入院延べ患者数※

	2020年度	2021年度		2022年度	2023年度	2024年度
			うち、内分泌・ 代謝内科			
外来	41,825	38,454	11,230	21,985	21,671	21,036
入院	23,300	24,488	3,042	5,457	5,669	5,785

※2018年～2020年は総合内科の人数。
2021年は旧総合内科計の人数、内分泌・代謝内科（10月～）の人数を記載。
2022年度は内分泌・代謝内科の人数。

表4 2024.4～2025.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	114	14
COVID-19	44	12
肺炎、病原体不詳	43	17
その他の副腎障害	18	7
尿路系のその他の障害	17	21
下垂体疾患（下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など）	15	6
その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	14	19
インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	13	8
1型糖尿病	12	13
急性腎盂腎炎	11	18

スタッフ 部 長：井原祥一
副 部 長：甲原雄平、二宮隆介
医 長：小中八郎、村上輝明
副 医 長：廣海汐理、田中雅樹
専 攻 医：本郷卓英（2024年6月～2025年3月）
兼 任：立花 功（院長）

1. 診療内容

2024年度は呼吸器・免疫内科としての診療を開始して3年目であった。

呼吸器内科では下気道・胸腔の臓器の疾患を担当しており、原因疾患にかかわらず当該臓器に呈した異常に対して積極的な診断をおこなっている。また下気道・胸腔を由来とする疾患においてはその合併症を含め全身管理を行っている。一方、免疫内科は自己免疫疾患を担当している。自己免疫疾患は免疫という機構の異常に伴う疾患でありその臓器特異性は低い。免疫内科では特定の臓器ではなく免疫機構の異常により惹起される様々な臓器の異常に配慮し全身疾患としての診療を行っている。臓器による診療科名である“呼吸器内科”と機構による診療科名である“免疫内科”は異質の命名であり当然病態が重複しうる。免疫機構の異常が肺野の異常陰影や胸膜・心膜の異常として検出されることや免疫疾患の加療中に呼吸器に異常をきたすことはしばしば見受けられ、さらには呼吸器悪性腫瘍に対する免疫治療の増加から悪性腫瘍治療中に免疫機構異常による病態を呈する症例も増加しており呼吸器内科医師・免疫内科医師が協力して呼吸器・免疫内科診療にあたっている。

疾患にかかわらず、信頼できる教科書および信頼できる論文の総説、さらに根本的な科学法則に基づいた知識を論理的思考を以て運用し適切な治療を施すよう心がけている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

病棟管理においては、40-70名程度の入院患者に対して常勤医7名・後期研修医1名が主治医師として対応を行った。さらに担当医師である初期研修医の指導を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2024年度には、呼吸器・免疫内科の外来患者として18,962名の診療にあたった。前年度と比較しても外来診療患者数は増加しており積極的に医療供給

の需要に応じている。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院延患者数は、2024年度は18,956名であった。これは2023年度より減少している。しかしながら、時には全入院患者の約4分の1を占める時期もあり依然日本生命病院では最も多くの入院患者対応を行っている。

3) 検査実績

診療科に特異的な検査としては気管支鏡検査や関節超音波検査などを行っている。

2024年の気管支鏡検査数は333件と多数の検査を施行している。細径気管支鏡の導入は末梢肺病変の診断率向上にも寄与している。

関節超音波検査としては、日本リウマチ学会登録ソノグラファーの指導のもと関節超音波検査を診療に役立てている。

これら診療科専門的な検査に加え、医師に必須の手法である気道確保・胸腔ドレナージ・心嚢ドレナージは言うまでもなく、一般的な検査である脳脊髄液採取・骨髄検査・関節液検査なども適応を吟味し積極的に施行している。

4. 認定医・専門医など

日本内科医学会認定内科医

5名（立花、井原、甲原、二宮、村上）

日本専門医機構認定専門医 2名（廣海、田中）

日本内科学会総合内科専門医 3名（井原、甲原、小中）

日本内科学会内科指導医 2名（立花、井原）

日本リウマチ学会専門医 2名（小中、村上、廣海）

日本リウマチ学会指導医 2名（小中、廣海）

日本呼吸器学会専門医 4名（立花、井原、甲原、二宮）

日本呼吸器学会指導医 3名（立花、井原、甲原）

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

2名（立花、井原）

日本呼吸器内視鏡学会気管支指導医 1名（立花）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医 1名（甲原）

5. 業績

論文・著書

- COVID-19 Task Force (Ihara) : Gastrointestinal symptoms in COVID-19 and disease severity: a Japanese registry-based

retrospective cohort study, J Gastroenterol, 59 (3) : 195-208, 2024年

- COVID-19 Task Force (Ihara) : Quantification of escape from X chromosome inactivation with single-cell omics data reveals heterogeneity across cell types and tissues, Cell Genom, 4 (8) : 100625, 2024年
- Takami K, Tsuji S, Sato S, Akaji K, Yamashita C, Hiroumi S, Konaka H, Hayashi M, Higashiyama M. : Long-term retention rates of anti-tumour necrosis factor and anti-interleukin-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, Mod Rheumatol, 34 (5) : 1013-1018, 2024年
- Yanagisawa A, Konaka H, Tanaka M, Ihara S, Tachibana I : Pulmonary alveolar proteinosis during intensive immunosuppressive treatment for acute exacerbation of interstitial pneumonia: A case report and literature review., Cureus, 16 (11) : e74669, 2024年
- COVID-19 Task Force (Ihara) : Blood DNA virome associates with autoimmune diseases and COVID-19, Nat Genet, 57 (1) : 65-79, 2025年

学会発表

- 田中雅樹, 神島 望, 柳澤 篤, 二宮隆介, 甲原雄平, 井原祥一, 立花 功 : 当院において気管支鏡検査で診断したアミロイドーシス3例の検討, 第103回日本呼吸器学会近畿地方会, 2024年7月, 大阪
- 柳澤 篤, 小中八郎, 田中雅樹, 甲原雄平, 二宮隆介, 井原祥一, 立花 功 : 間質性肺炎急性増悪に対する免疫抑制加療中に発症した続発性肺胞蛋白症の一例, 第103回日本呼吸器学会近畿地方会, 2024年7月, 大阪
- 保倉 望, 田中雅樹, 廣海汐理, 村上輝明, 小中八郎, 二宮隆介, 甲原雄平, 井原祥一, 立花 功, 加藤るり : 細菌性肺炎, MRSA菌血症治療中に生じた血球貪食症候群 (HPS) の1例, 第245回日本内科学会近畿地方会, 2024年8月, 京都
- 田中雅樹, 本郷卓英, 廣海汐理, 村上輝明, 小中八郎, 二宮隆介, 甲原雄平, 井原祥一, 立花 功 : 当院において気管支鏡検査で診断し得たアミロイドーシス3例の検討, 第245回日本内科学会近畿地方会, 2024年8月, 京都
- 甲原雄平 : 当院における抗CTLA-4抗体使用症例の検討, 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024年10月, 横浜
- 本郷卓英, 田中雅樹, 廣海汐理, 村上輝明, 二宮隆介, 小中八郎, 甲原雄平, 井原祥一, 立花 功 : 当院にて生物学的製剤を導入した難治性喘息患者についての検討, 第104回日本呼吸器学会近畿地方会, 2024年11月, 大阪

研究会発表

- 小中八郎 : ヒトの免疫の仕組み～感染症、アレルギー、膠原病を題材に～, 第171回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年10月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
井原	井原	甲原	二宮	暮部※	井原	立花	立花	二宮	田中
小中	小中	田中	村上	小中	小中	甲原		小中	
						村上			

※救急総合診療科所属

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			気管支鏡検査		
午後			気管支鏡検査	症例検討会・抄読会	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡					○	○				

○ : 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数※

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
		うち、呼吸器・免疫内科			
外来	41,825	38,454	7,787	16,145	18,194
入院	23,300	24,488	9,148	15,961	18,956

※2020年は総合内科の人数。

2021年は旧総合内科計の人数、呼吸器・免疫内科（10月～）の人数を記載。

表5 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	513	16
肺炎、病原体不詳	176	17
その他の間質性肺疾患	74	21
COVID-19	32	12
喘息発作重積状態	30	8
結節性多発（性）動脈炎および関連病態	27	19
その他の慢性閉塞性肺疾患	18	10
膿胸（症）	17	31
その他の外的因子による呼吸器病態	16	18
肺および縦隔の膿瘍	15	31
気胸	14	14
喘息	13	9

スタッフ 主任部長：川上 学（輸血管理室長、化学療法室長、がん治療センター長）
副 部 長：加藤るり（部長待遇）、中江吉希
専 攻 医：阿部凌子、水野 彰、濱田雅隆（2024年8月～2025年3月）

1. 診療内容

急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。白血球減少が高度な場合や同種造血幹細胞移植後等、免疫不全が高度な場合には無菌室で治療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
主として外来13診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺、骨髄生検、輸血などの診療も外来化学療法室や中央処置室において行われた。
- 2) カンファレンススケジュール（表2）
部長含め3名の常勤医と2名の専攻医（2024年8月以降は3名）にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。
- 3) 検査スケジュール
骨髄穿刺、骨髄生検は、中央処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。
- 4) 外来化学療法
多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
外来患者数はのべ9,002名（昨年度比+41）であった。外来化学療法数は、808件（昨年度比+66）であった。
- 2) 入院診療実績（表3、4）
入院延べ数 10,249（昨年比+66）であった。疾患の内訳を表4に示す。
同種造血幹細胞移植を12件行った。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会 総合内科専門医 3名（川上、加藤、中江）
日本血液学会専門医 血液指導医 2名（川上、中江）
日本血液学会専門医 1名（加藤）
日本造血・免疫細胞療法学会認定医 2名（川上、中江）
日本がん治療認定医機構 がん治療専門医 2名（川上、加藤）
日本老年学会 老年病専門医・指導医 1名（中江）

5. 業績

学会発表

1. 阿部凌子, 水野 彰, 中江吉希, 加藤るり, 川上 学：MYD88遺伝子変異陰性のBing-Neel Syndromeに対するベンダムスチン・リツキシマブ療法と髄腔内化学療法, 近畿血液学地方会, 2024年6月, 大阪
2. 赤井奎太, 阿部凌子, 中江吉希, 加藤るり, 川上 学：75歳以上の高齢者におけるびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するPola-R-CHP療法, 第86回日本血液学会総会, 2024年10月, 京都

研究会発表

1. 中江吉希：高齢DLBCLの経験, Lymphoma Webinar 2025春, 2025年3月, 大阪
2. 阿部凌子, 水野 彰, 中江吉希, 加藤るり, 川上 学：難治性貧血の一例, 北摂血液疾患談話会, 2024年5月, 大阪

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
加藤	水野	川上	川上	川上	中江	加藤	吉田	中江	川上
	中江		濱田						阿部

表2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週1回)
・抄読会	(月1回)
・血液標本検討会	(適宜)
・内科合同カンファレンス	(月1回)
・内科・地域合同症例検討会	(年1回)

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	7,649	8,081	8,752	9,043	9,002
入院	9,821	9,067	10,386	10,183	10,249

表4 2024.4～2025.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
非ホジキンリンパ腫	132	22
骨髄性白血病	50	34
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	34	21
肺炎、病原体不詳	32	15
骨髄異形成症候群	29	23
リンパ性白血病	26	30
COVID-19	16	12
紫斑病およびその他の出血性病態	15	14
尿路系のその他の障害	10	18
臓器および組織の提供者〈ドナー〉	9	4

スタッフ 部 長：芳川浩男（特任副院長、脳機能センター長）
副 部 長：仁科拓也（部長待遇）
医 長：塚原彰弘
顧 問（非常勤）：森 悦朗

1. 診療内容

神経内科部門は2013年4月より循環器・神経内科から分離独立し、浅野彰彦と仁科拓也の2名で発足したが、同年6月より佐藤智彦が加わり3名体制で運営していた。また2017年より前東北大学神経内科教授の森悦朗先生に特任顧問に就任いただき認知症分野の充実も図っていたが、2019年11月に前兵庫医科大学脳神経内科教授の芳川浩男が浅野彰彦の後任の主任部長となった。2021年3月末佐藤智彦が退職し、9月以降は鈴木由希子が加わり、外来診察のみを担当。2022年4月より塚原彰弘が新たにスタッフとなった。

めまいや痺れ、頭痛、もの忘れといった身近な症状の相談から、てんかん、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やアルツハイマー型認知症、パーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞が最も多く、次にパーキンソン病関連疾患となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生による往診での訪問診療や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応しているが、今後ともより一層努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も脳神経内科医師が対応できるように分担している。救急診療要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

仁科・塚原の両医師が主治医となり運営しているが、毎週月曜日の回診と火曜日のカンファレンスで主科と共観の全患者の病状と治療方針を情報共有している。

3) 検査スケジュール

脳神経内科医師が実際に担当する検査は針筋電図のみであるが、脳波や誘発電位検査は中央臨床検査部と連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期が長く、神経内科単独のデータはまだ5年目であるが、延べ外来患者数は順調に増加している。また診療内

容も一般内科疾患の割合が減少し、より神経内科疾患に特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表2、3）

順調に新規入院患者数は増加し、平均在院日数はほぼ横ばいで延べ入院患者数も増加していたが、COVID-19感染症の影響で2021年度は入院総数が減少している。

なお、2024年3月以降の入院患者数でアルツハイマー病が増加したのは、抗Aβ抗体（レカネマブ）の初回治療を1泊入院で導入した影響である。

3) 検査実績

CT・MRA・RIなど各種検査は部門別の統計となっており、当科単独の実績としては計算していないが、アルツハイマー病の確定診断、ならびにレカネマブによる加療対象の判定目的でアミロイドPET検査を2024年2月より開始した。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の准教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医	4名（芳川、仁科、塚原、森）
日本内科学会総合内科専門医	1名（仁科）
日本神経学会専門医	3名（芳川、仁科、森）
日本循環器学会専門医	1名（仁科）
日本老年精神医学会専門医	1名（芳川）
日本認知症学会専門医	1名（森）
日本脳卒中学会専門医	1名（森）

5. 業績

論文・著書

- Hirose M, Watani T, Sato R, Midiov P, Okayama M, Yoshikawa H, et al. : How can we help doctors stay in rural areas of Japan? A comparison in medical students' attitudes toward general practice and clinical research of a medical school in Japan and Sweden., J Rural Med, 19 (4) : 264-272, 2024年
- Tokuhashi Y, Ukon S, Watanabe S, Tatsumi Y, Yoshikawa H, Ohmuraya M et al : Morphological analysis of autophagy in axonal degeneration in gracile axonal dystrophy mice, Exp Anim, doi:10.1538/expanim.24-0041 : Online ahead, 2024年
- 芳川浩男：アルツハイマー病による軽度認知症に対するレカネマブ治療導入を経験して、大阪保険医雑誌, 52 (696) : 53-56, 2024年

研究会発表

- 芳川浩男：認知症をよりよく理解するために、大阪市西区認知症講演会（認知症等高齢者支援地域連携事業）、2024年11月、大阪

2. 芳川浩男：レカネマブの適性使用について～使用経験を踏まえて～, 大阪市西区医師会学術講演会, 2024年, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
芳川 ※①	仁科	芳川	芳川	仁科	物忘れ 外来 ※②	芳川	芳川 ※③	塚原 (初診)	
			仁科	森			森 (脳機能 障害外来)		
			森 (物忘れ 外来)						

※①10:30～鈴木

※②1・3・5週は佐々木、2・4週は芳川

※③2・4週は塚原

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	6,783	7,317	7,245	7,335	8,249
入院	3,040	1,030	3,563	3,899	4,714

表3 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
アルツハイマー〈Alzheimer〉病	35	2
脳梗塞	33	27
炎症性多発（性）ニューロパチ〈シ〉ー	18	13
パーキンソン〈Parkinson〉病	14	41
尿路系のその他の障害	13	35
肺炎、病原体不詳	12	38
他に分類されるその他の感染症および 寄生虫症における髄膜炎	6	23

スタッフ 部長：宇津 貴（副院長、内科統括、血液浄化センター長、臨床工学室長）
副 部 長：水本 綾、光本憲祐
副 医 員：西垣内俊也
専 攻 医：大畑颯世（2024年8月～9月）、呉 昊成（2024年10月）、
平井章大（2024年4月～6月、11月～3月）

1. 診療内容

急性腎不全などの急性腎疾患、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群から末期腎不全に至るまで、腎疾患全てを対象にしている。特に、糖尿病関連腎臓病（DKD）に関しては、早期腎症から末期腎不全まで、血糖・血圧・脂質管理を含めた合併症予防に対する総合的な治療を行っている。

慢性腎臓病（CKD）に対しては、連携診療による進行予防に努めると共に、適切な時期に共通意思決定（SDM）により腎代替療法（血液透析、腹膜透析療法、腎移植）への導入を行うとともに、血管合併症の検査・治療を行い予後の改善に努めている。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本内科学会認定医	3名（宇津、水本、光本）
日本内科学会総合内科専門医	2名（宇津、水本）
日本腎臓学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）
日本糖尿病学会専門医	1名（宇津）
日本高血圧学会専門医・指導医	1名（宇津）
日本透析医学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）
日本腹膜透析医学会 連携認定医	1名（光本）

5. 業績

論文・著書

1. Nishigaito T, Mitsumoto K, Katsunuma R, Hirai Y, Yamashita C, Mizumoto A, et al.: Crystalline Light Chain Casts and Hypercalcemia Induced Acute Kidney Injury: A Rare Presentation of Multiple Myeloma, Intern Med, 63: 1751-1755, 2024年
2. Uzu T.: Proximal Renal Tubular Dysfunction Induces Severe Hypocalcemia in the Elderly, Intern Med, 63: 1975-1976, 2024年
3. Uzu T, Hirai S, Nishigaito T.: Unexpected Severe Acute Abdominal Pain in a Hemodialysis Patient., Kidney360, 5: 1948-1949, 2024年
4. 宇津 貴：慢性腎臓病患者に対するこれからの貧血治療, 日本生命病院医学雑誌, 52: 1-6, 2024年

学会発表

1. 水本 綾, 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 光本憲祐, 宇津 貴：大腸にアミロイド沈着を認めた長期血液透析患者の1例, 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024年6月, 横浜
2. 西垣内俊也, 山下千賀子, 平井祐里, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津 貴：高マグネシウム（Mg）血症に対する血液浄化は凝固系異常を考慮すべきである, 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024年6月, 横浜
3. 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津 貴：ロキサデュスタット（ROXA）の長期投与中に甲状腺機能低下症をきたした輸血後鉄過剰症の1例, 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024年6月, 横浜
4. 新名航平, 光本憲祐, 平井章太, 西垣内俊也, 水本 綾, 宇津 貴：急激な転帰をたどった後腹膜線維症の1例, 第244回日本内科学会近畿地方会, 2024年6月, 大阪
5. 西垣内俊也, 新名航平, 平井章太, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津 貴：不明熱と急速進行性糸球体腎炎（RPGN）の臨床経過を呈したNSAIDsによる薬剤性尿管間質性腎炎の一例, 第54回日本腎臓学会西部学術大会, 2024年10月, 姫路
6. 光本憲祐, 平井章太, 西垣内俊也, 水本 綾, 宇津 貴：集中治療を要した溶連菌感染後急性糸球体腎炎（APSGN）の1例, 第54回日本腎臓学会西部学術大会, 2024年10月, 姫路
7. 平井章太, 西垣内俊也, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津 貴：原発性アルドステロン症に合併したNon-Lupus Full-House Nephropathy（NLFHN）の一例, 第54回日本腎臓学会西部学術大会, 2024年10月, 姫路
8. 光本憲祐, 平井章太, 西垣内俊也, 水本 綾, 水野 均, 宇津 貴：Edwardsiella tardaを含むPolymicrobial peritonitisを来した腹膜透析患者の1例, 第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2024年11月, 福岡
9. 宇津 貴：糖尿病関連腎臓病の進展と貧血に対する理解と対応, 第35回日本糖尿病性腎症研究会, 2024年12月, 東京
10. 宇津 貴：血液透析におけるカリウム管理の考え方 その「野菜・果物制限」は患者さんのためになっていますか?, 第102回大阪透析研究会, 2025年3月, 大阪

研究会発表

1. 宇津 貴：これからの糖尿病性腎臓病診療とフィネレノンへの期待, ケレンディア錠WEB講演会, 2024年4月, Web開催
2. 宇津 貴：今、カリウム管理の重要性を再考する, Cardio-Renal HK Symposium, 2024年4月, 大阪
3. 宇津 貴：糖尿病合併症・CKDをいかに抑制するか～SGLT2阻害薬の役割～, 心・腎・代謝関連セミナー in 後志, 2024年5月, Web開催
4. 宇津 貴：病態から考えたCKD診療～実臨床でSGLT2阻害薬をどう使うか～, CKD Lunchtime seminar, 2024年5月, 大阪
5. 宇津 貴：治療抵抗性高血圧とARNIへの期待, Hypertension Web Seminar, 2024年6月, Web開催
6. 宇津 貴：SGLT2阻害薬によって見えてきた糖尿病合併症予防の課題と展望, Diabetes Online Conference, 2024年6月, 横浜
7. 宇津 貴：CKDに対しSGLT2阻害薬をどう使うか～EMPA-KIDNEY試験から学ぶ～, Short Lunch Seminar, 2024年6月, 大阪

8. 宇津 貴：CKD早期介入の意義とSGLT2阻害薬の役割, 地域で診る慢性腎臓病診療”を考える会, 2024年7月, 東大阪
9. 宇津 貴：変わりゆくCKD診療の実態とSGLT2阻害薬への期待, 地域医療連携と糖尿病治療の会, 2024年7月, さいたま
10. 宇津 貴：CKD診療を考える会 in AOMORI, CKD診療を考える会 in AOMORI, 2024年7月, 青森
11. 宇津 貴：糖尿病関連腎臓病（DKD）を抑制するためにいつからSGLT2阻害薬を開始すべきなのか, ジャディアンス全国WEB講演会, 2024年9月, Web開催
12. 光本憲祐：なぜ、今、腹膜透析なのか, 第170回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年9月, 大阪
13. 宇津 貴：アルブミン尿を再考する～CKD診療新時代を迎えて～, CKD WEBセミナー in 箕面, 2024年10月, 箕面
14. 宇津 貴：CKDをいかに抑制するか～現在の課題とSGLT2阻害薬の役割～, 池田市医師会合同学術講演会, 2024年10月, 池田
15. 宇津 貴：CKD早期介入の意義, 第33回東近江臨床勉強会, 2024年11月, 東近江
16. 宇津 貴：糖尿病・CKDにおける降圧治療の課題とARNIの役割, 心腎連関と降圧治療を考える会, 2024年11月, 大阪
17. 宇津 貴：CKDの病態と早期介入の意義～CKD新時代の診療～, 北足立郡市医師会学術講演会, 2025年1月, さいたま
18. 宇津 貴：CKDの課題とSGLT2阻害薬の役割, Young Clinician Meeting ～健康寿命の延伸に向けて～, 2025年1月, 姫路
19. 宇津 貴：CKD診療の実態と病診連携SGLT2阻害薬をどう使うか, プライマリーケアにおけるCKD加療を考える会, 2025年3月, Web開催
20. 宇津 貴：慢性腎臓病（CKD）って何でしょう, 日本生命病院市民健康セミナー, 2025年3月, 大阪
21. 西垣内俊也：知っておきたい慢性腎臓病（CKD）の大切なこと, 日本生命病院市民健康セミナー, 2025年3月, 大阪

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
宇津	宇津	水本	水本	光本	光本	光本	宇津	水本	宇津
西垣内	平井	宇津			西垣内		光本 (腹膜透 析外来)		

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
腎生検				○ 診				○ 診		

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	5,410	6,107	6,839	7,485	7,704
入院	4,703	4,427	5,010	4,841	4,427

表4 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
腎生検目的	34	-
透析導入	28	-
慢性腎不全	89	16
心臓および血管のプロステシス、挿入物および移植片の合併症	78	4
肺炎、病原体不詳	26	20
COVID-19	14	11
慢性腎炎症候群	13	4
急性腎不全	9	15
心不全	8	16
ネフローゼ症候群	8	30
のう〈嚢〉胞性腎疾患	8	22
その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	7	14
尿路系のその他の障害	7	16

スタッフ 部長：川田純司
担当部長：山下晋也
副部長（部長待遇）：星野宏光
副 医 長：江口 聡
外科統括（特任副院長）：水野 均

1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。上部消化管、下部消化管、肝胆膵の消化器外科の広い領域の疾患に対応している。頻度の多い疾患としては、食道癌、胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌、肝癌などの悪性疾患、胆石症や鼠径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患などである。手術は腹腔鏡手術を積極的に導入しており、鼠径ヘルニア、虫垂炎や胆石症のみならず、食道癌、胃癌、大腸癌等の悪性疾患に対しても腹腔鏡手術を積極的に行っている。2022年4月からは結腸悪性腫瘍に対するda Vinci手術が保険収載され、当院でも2022年10月から開始している。

手術以外にも、化学療法、緩和治療、栄養療法にもチームとして取り組んでいる。また、化学療法等で用いられる皮下埋め込み型中心静脈リザーバーに関しては他科の患者さんにも対応している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表に示す予定で外来診療を行っている。院内／院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

表に示す予定で病棟診療を行っている。
研修医1名と常勤医5名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、主治医以外でも代理医が対応している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数を表3に示している。

2) 手術実績（表4）

手術件数を表4に示している。

3) 検査実績

手術対象患者さんを中心に上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医 5名（水野、川田、山下、星野、江口）
日本外科学会指導医 3名（川田、山下、星野）
日本消化器外科学会専門医 5名（水野、川田、山下、星野、江口）

日本消化器外科学会指導医 2名（川田、山下）
日本消化器病学会専門医 4名（水野、川田、山下、星野）
日本大腸肛門病学会専門医 1名（山下）
日本がん治療認定医機構がん治療認定医 5名（水野、川田、山下、星野、江口）
日本内視鏡外科学会技術認定医 3名（水野、川田、山下）

5. 業績

論文・著書

- Ota H, Hoshino H, Jokoji R, Arisaka Y, Mizuno H : Pancreatic Adenosquamous Carcinoma Discovered Upon a Resection for Neck Tuberculous Lymphadenitis: A Case Report, Cureus, 16 : e57382, 2024年
- 川田純司, 丸山 南, 岡内義隆, 野村知礼, 池田裕二, 水野真夏, 江口 聡, 谷口嘉毅, 星野宏光, 山下晋也, 水野 均, 佐々木洋 : 終末期消化器癌患者の栄養評価と予後予測, 癌と化学療法, 51 : 1077-1079, 2024年
- 川田純司, 丸山 南, 岡内義隆, 野村知礼, 池田裕二, 水野真夏, 江口 聡, 谷口嘉毅, 星野宏光, 山下晋也, 水野 均, 佐々木洋 : 栄養不良とビタミンB1欠乏症を認めた消化器癌手術後症例, 癌と化学療法, 51 : 1074-1076, 2024年
- 太田英夫, 星野宏光, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均 : 下部胆管癌術後肝門部再発の状況下で生じたEdwardsiella tarda 菌血症の1例, 癌と化学療法, 51 : 1627-1629, 2024年
- 山下晋也, 植村 守, 永井健一, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均 : 馬蹄腎を伴うS状結腸癌に対して腹腔鏡下S状結腸切除術を施行した1例, 癌と化学療法, 51 : 463-465, 2024年
- 山下晋也, 高山敬範, 金光麻衣, 江口 聡, 森本祐太郎, 板東正貴, 北田隆起, 河田奈都子, 萩原恭平, 若原ちか, 星野宏光, 田中敏雄, 川田純司, 有坂好史, 水野 均 : 大腸癌術後単独卵巣転移に対して単孔式腹腔鏡下両側子宮付属器切除術を施行した1例, 癌と化学療法, 51 : 1354-1356, 2024年
- 星野宏光, 江口 聡, 山下晋也, 太田英夫, 萩原恭平, 川田純司, 有坂好史, 水野 均 : 術前診断が可能であった十二指腸乳頭部NET G1の一切除例, 癌と化学療法, 51 : 1381-1383, 2024年

学会発表

- 村上萌恵, 山下晋也, 新名航平, 星野宏光, 太田英夫, 生島裕文, 水野 均 : 重積により肛門外脱出を伴うS状結腸癌に対してロボット支援下S状結腸切除術を施行した1例, 第653回大阪外科集談会, 2024年3月, 大阪
- 太田英夫, 星野宏光, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均 : 下部胆管癌術後肝門部再発の状況下で生じたEdwardsiella tarda 菌血症の1例, 第46回日本癌局所療法研究会, 2024年6月, 長浜
- 星野宏光, 江口 聡, 山下晋也, 太田英夫, 萩原恭平, 川田純司, 有坂好史, 水野 均 : 術前診断が可能であった十二指腸乳頭部NET G1の一切除例, 第46回日本癌局所療法研究会, 2024年6月, 長浜
- 太田英夫, 星野宏光, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均 : ICG蛍光

造影を用いた腹腔鏡下肝部分切除術を施行した肝限局性結節性過形成の1切除例, 第79回日本消化器外科学会総会, 2024年7月, 下関

5. 川田純司, 谷口嘉毅, 田村茂行, 水野 均: 化学療法が奏効した食道癌の1例, 第78回日本食道学会学術集会, 2024年7月, 東京
6. 川田純司, 谷口嘉毅, 飛鳥井慶, 大澤日出樹, 岸本朋也, 金 浩敏, 吉岡慎一, 田村茂行, 佐々木洋: 80歳以上の胃癌手術患者における術後短期成績の検討, 第79回日本消化器外科学会総会, 2024年7月, 下関
7. 川田純司, 山下晋也, 田村茂行: 胃癌手術患者の高齢者評価, 第61回日本外科代謝栄養学会, 2024年7月, 大阪
8. 中村 賢, 山下晋也, 村上萌恵, 江口 聡, 星野宏光, 川田純司, 水野 均: 肛門外脱出を認めたS状結腸癌に対してロボット支援下S状結腸切除術を施行した1例, 第37回近畿内視鏡外科学会研究会, 2024年9月, 大阪
9. 太田英夫, 星野宏光, 萩原恭平, 有坂好史: 胆管狭窄を来し診断困難であった孤立性線維性腫瘍に類上皮型血管筋脂肪腫を合併した1例, 第60回日本胆道学会総会, 2024年10月, 名古屋
10. 山下晋也, 江口 聡, 星野宏光, 河田奈都子, 川田純司, 水野 均: 腸重積で発見された盲腸癌の1切除例, 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024年11月, 横浜
11. 太田英夫, 星野宏光, 山下晋也, 水野 均: 腹腔鏡下でスック管水腫切除術を施行したスック管水腫感染の一例, 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡
12. 川田純司, 江口 聡, 星野宏光, 山下晋也, 谷口嘉毅, 藤田淳也, 水野 均: 悪性リンパ腫を合併した胃癌に対しロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除を施行した1例, 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡
13. 山下晋也, 村上萌恵, 江口 聡, 星野宏光, 川田純司, 水野 均: 重積により肛門外脱出を認めたS状結腸癌に対して整復後にロボット支援下S状結腸切除術を施行した1例, 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡
14. 星野宏光, 江口 聡, 山下晋也, 川田純司, 水野 均: 術前診断が困難であった腸重積を伴った小腸脂肪腫の1例, 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月, 福岡
15. 山下晋也, 中村 賢, 川田純司: 腹部放射線加療歴のあるS状結腸膀胱瘻の1切除例, 第21回日本消化管学会総会学術集会, 2025年2月, 東京
16. 川田純司, 田村茂行: 食道癌術後に栄養不良とビタミンB1欠乏を認めた1例, 第40回日本栄養治療学会学術集会, 2025年2月, 横浜
17. 川田純司, 水野 均, 藤田淳也, 田村茂行: イマチニブが奏効し根治切除を施行した胃GISTの1例, 第97回日本胃癌学会総会, 2025年3月, 名古屋
18. 山下晋也, 高山敬範, 江口 聡, 星野宏光, 川田純司, 水野 均: 大腸癌術後単独卵巣転移に対して単孔式腹腔鏡下両側子宮付属器切除術を施行した1例, 第46回日本癌局所療法研究会, 2024年6月, 長浜
19. 川田純司, 後藤昌弘, 遠藤俊治, 田中 亮, 宮垣博道, 大森 健, 高橋直樹, 益澤 徹, 古川陽菜, 佐藤雄哉, 加藤健志, 藤谷和正, 川上尚人, 坂井大介, 黒川幸典, 辻仲利政, 下川敏雄, 佐藤太郎: 大型3型/4型胃癌に対する術前S-1+Oxaliplatin+Docetaxel併用療法の有効性と安全性確認第II相試験(OGSG1902) 短期成績報告, 第32回日本消化器関連学会週間, 2024年10・11月, 神戸

研究会発表

1. 川田純司: 胃癌患者の身体機能の低下, 第174回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2025年2月, 大阪

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
水野	水野	交代	交代	山下	山下	江口	江口	交代	交代
川田	川田						星野		

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝診療	早朝診療	早朝診療	早朝診療	早朝診療
午後				病棟カンファレンス 術前症例・ 病理カンファレンス	消化器外科・ 消化器内科合同 カンファレンス

表 3 外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	4,819	4,878	4,622	4,785	4,537
入院	7,632	5,662	5,373	6,076	4,940

表 4 手術実績

手 術 名		件数
胃悪性腫瘍手術 (GIST含む)	開腹	1
	腹腔鏡	13
結腸悪性腫瘍切除術	腹腔鏡 (ロボット支援)	24 (16)
直腸悪性腫瘍切除術	腹腔鏡 (ロボット支援)	25 (20)
膵臓悪性腫瘍切除術	腹腔鏡	1
肝胆道悪性腫瘍切除術	開腹	2
	腹腔鏡	8
胆嚢摘出術	腹腔鏡	88
虫垂切除術	腹腔鏡	20
鼠経ヘルニア手術	腹腔鏡	53

呼吸器外科

スタッフ 部 長：富田栄美子
副 医 長：川岸耕太郎

1. 診療内容

当科は2016年1月よりで診療を開始した。2023年4月からは川岸医師が着任し、2人体制で診療を行っている。

対象疾患としては肺癌が最も多く、呼吸器・免疫内科で診断及び病期判定を行った後に紹介されるケースが多いが、他院呼吸器内科からの手術依頼も増加傾向である。昨今、肺癌治療において組織採取の重要性が増しており、生検手術も積極的に取り組んでいる。

その他の疾患としては、自然気胸、転移性肺腫瘍、胸腔感染症、縦隔腫瘍などを診察している。

2021年度からは、術後合併症の予防目的に、リハビリテーション科及び手術部と協力し、トライボール等を使用した呼吸訓練を手術決定時から開始する取り組みを行っている。術前から器具を用いて呼吸訓練を行うことで、患者意識も高まり、術後無気肺などの発生頻度が低下している。

胸腔鏡下手術を主に行っているが、2023年からは術後疼痛対策として、肋間神経ブロックを取り入れ、術後早期の疼痛管理として良好な効果を得ている。また、これによって硬膜外麻酔が不要となり、手術室在室時間も短縮できたため、今後も継続予定である。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医 2名（富田・川岸）
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医 2名（富田・川岸）

5. 業績

学会発表

1. 川岸耕太郎, 富田栄美子：胸水貯留を契機に発見された、淡明細胞型腎細胞癌術後16年後の単独の胸膜転移の一例, 第41回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024年5月, 軽井沢
2. 富田栄美子, 川岸耕太郎：コロイド腺癌の一切除例, 第65回日本肺癌学会各術集会, 2024年10月, 横浜

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
				富田	富田				
				川岸	川岸				

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術	手術			
午後	手術	手術		病棟回診 カンファレンス	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	623	760	823	1,051	1,039
入院	706	1,084	888	1,034	1,032

表4 2024.4～2025.3入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	60	10
気胸	14	11
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	8	8
中耳、呼吸器および胸腔内臓器の性状不詳または不明の新生物	3	7
膿胸（症）	3	20
その他の呼吸器障害	3	8

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘

1. 診療内容

乳癌検診に関しては、マンモグラフィと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に病理検査等を施行し1～2週間後には結果を出すシステムである。もし悪性の場合はがん性疼痛看護認定看護師も同席し告知します。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の化学療法室にて、初回入院の後は術前・術後ともに通院での外来化学療法を行っている。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応している。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し必要に応じて再建術も施行しておます。再建術は当院形成再建外科にてすべての術式に対応できる。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検では、より確実なOSNA法を併用しより正確な診断を目指している。また乳癌の約10%を占める遺伝性乳癌に関しては原因の一つである遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)該当する患者さんに対してBRCA遺伝子検査も実施しております。診断部門では、微細な石灰化に対する診断としてステレオガイド下マンモトーム生検も実施している。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール (表1)
- 2) 外来・病棟体制 (表2)

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績 (表3)
- 2) 入院診療実績 (表3、4)

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会認定医 1名 (西田)
 がん治療認定医 1名 (西田)
 マンモグラフィ 読影認定医 1名 (西田)
 日本外科学会専門医 1名 (西田)

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
菊川		西田	西田	菊川				西田	西田

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前				手術	
午後	回診 病棟カンファ		検査 超音波・ステレオ ガイド下吸引生検	検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	4,192	4,529	4,642	4,220	3,107
入院	1,448	1,512	1,787	1,435	366

表4 2024.4～2025.3入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	35	10
皮膚のその他の良性新生物	1	10
その他および部位不明の性状不詳 または不明の新生物	1	3

心 臓 血 管 外 科

スタッフ 部長代行：新谷 隆
医 長：山田 裕

1. 診療内容

2018年4月から「血管外科」を専門とした常勤医師による診療を開始した。下肢閉塞性動脈硬化症を主とした末梢動脈疾患に対して薬物・運動療法を第一として適応に応じて血管内治療や外科的バイパス術などの血行再建術を実施している。下肢静脈瘤に対しては低侵襲である血管内焼灼術や血管内塞栓術、従来のストリッピング術や硬化療法も行っている。また腎臓内科と連携し慢性腎不全患者の透析用血管アクセス治療も行っている。内シャント作製、修復と内シャント血管内治療も積極的に行っている。2019年度より腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を開始した。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午前に血管外科外来を行っている。

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本外科学会専門医 2名（新谷、山田）
三学会構成心臓血管外科専門医 2名（新谷、山田）
日本脈管学会専門医・指導医 1名（新谷）

5. 業績

学会発表

- 新谷 隆：当院における膝窩動脈瘤の手術成績の検討, 第55回日本心臓血管外科学会総会, 2024年2月, 下関
- 山田 裕：膝窩動脈瘤バイパス術後、空置瘤の拡大に対して硬化療法が奏功しなかった2症例から考える膝窩動脈瘤の手術治療, 第52回日本血管外科学会総会, 2024年5月, 北九州
- 新谷 隆：足関節部の静脈鬱滞性潰瘍に対して逆行性穿刺による血管内塞栓術を施行した3例の検討, 第44回日本静脈学会総会, 2024年6月, 軽井沢
- 新谷 隆：滑膜組織迷入説の関与が強く指示された膝窩動脈外膜嚢腫の1例, 第65回日本脈管学会, 2024年10月, 東京
- 中村 賢：上腸間膜動脈症候群様症状を呈した腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の1例, 第38回日本血管外科学会近畿地方会, 2025年3月, 和歌山

研究会発表

- 新谷 隆：血管外科の扱う疾患-若手外科医に知って欲しいこと-, 第653回大阪外科集団会, 2024年3月, 大阪

- 新谷 隆：下肢静脈瘤-どうしたら良いの？-, よく分かる健康講座, 2024年7月, 大阪
- 新谷 隆：末梢側吻合部に内側足底動脈を選択したバイパス2症例, PASM2025, 2025年2月, 下関

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
山田 (予約)				新谷 (予約)		澁谷 ※ (予約)		新谷 (予約)	

※1・3・5週のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			カンファレンス		
午後		手術		手術	血管内治療

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	982	1,272	1,596	1,664	1,679
入院	1,335	1,704	1,194	1,809	1,681

※2017.1～心臓血管外科を新設

表4 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
アテローム〈じゅく〈粥〉状〉硬化（症）	52	21
大動脈瘤および解離	23	9
下肢の静脈瘤	15	3
その他の動脈瘤	11	22
動脈の塞栓症および血栓症	9	23
動脈および細動脈のその他の障害	2	18
静脈炎および血栓（性）静脈炎	1	5
膀胱炎	1	7

スタッフ 部長：橋本奈美子（女性骨盤底センター長）
副部長：高山敬範、八田幸治、田中絢香
医 長：宮本真由子、志村寛子、角田沙保里、小松伶奈
副医長：金光麻衣、山田美由美、新垣佑里香
専攻医：藤崎佳乃、富山大勝、関谷直正

1. 診療内容

当科では、良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術、ロボット支援手術含む）を主として行っており、婦人科手術の半数以上を占めている。婦人科悪性腫瘍に対しては、広汎子宮全摘術・傍大動脈リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、放射線治療を行っており、子宮頸癌については腹腔鏡下手術、子宮体癌についてはロボット支援含む腹腔鏡下手術に関する施設認定を受け、悪性疾患に対する低侵襲医療も積極的に行っている。

子宮鏡下手術に関しては細径式を導入し、入院期間の短縮につながっている。

骨盤底疾患に対しては「女性骨盤底センター」にて従来の膣式子宮全摘術、膣壁形成術などに加え、メッシュを利用した腹腔鏡下仙骨膣固定術（ロボット支援含む）を行って。また、2024年度より経膣腹腔鏡手術を導入した。

周産期においては、自然分娩を基本とし、助産師外来・母乳育児相談を行っている。2024年から産後ケア事業も開始した。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

2024年度

- ・分娩数：350件
- ・総手術総数：1,338件

腹腔鏡下手術

腹腔鏡下腔式子宮全摘術 229件
（ロボット支援 52件含む）

腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術 205件
腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 144件

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体癌）12件
（ロボット支援 7件含む）

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸癌） 6件
子宮鏡下手術

子宮鏡下子宮筋腫摘出術 53件
子宮内膜ポリープ切除術 124件

開腹手術

子宮悪性腫瘍手術 16件
子宮附属器悪性腫瘍手術（卵巣癌） 26件

開腹単純子宮全摘術 9件

帝王切開術 90件

骨盤臓器脱（女性骨盤底センター）

腹腔鏡下仙骨膣固定術 39件
（ロボット支援 28件含む）

膣壁形成術（膀胱瘤手術） 12件

VNOTES 11件

子宮脱手術（子宮全摘術及び膣壁形成） 4件
膣閉鎖 4件

4. 認定医・専門医など

日本産科婦人科学会専門医 11名
（橋本、高山、八田、田中、宮本、角田、志村、小松、金光、山田、新垣）

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 5名
（橋本、高山、八田、田中、宮本）

日本内視鏡外科学会技術認定医 3名
（橋本、高山、八田）

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 1名（橋本）
母体保護法指定医 5名

（橋本、高山、田中、宮本、金光）

日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 3名
（橋本、宮本、角田）

麻酔標榜医 1名（八田）

5. 業績

論文・著書

1. 植田真帆, 田中絢香, 山田美由美, 角田沙保里, 八田幸治, 高山敬範, 山下晋也, 橋本奈美子：緊急帝王切開術後の絞扼性腸閉塞に対して腹腔鏡下腸管癒着剥離術を施行した1例, 産婦人科の進歩, 77：35-39, 2025年
2. 北山和樹, 山田美由美, 金光麻衣, 角田沙保里, 田中絢香, 八田幸治, 高山敬範, 橋本奈美子：慢性骨髄性白血病を背景に発症した大量卵巣出血を腹腔鏡下に止血した一例, 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌, in Press

学会発表

1. 新垣佑里香, 増田公美, 仲尾有美, 市川冬輝：経膣回収における糸糸誘導法の有用性について, 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024年4月, 神奈川
2. 橋本奈美子：＜教育セミナー3＞産婦人科医と貧血～我々は貧血とどう付き合うべきか？, 第150回近畿産科婦人科学会学術集会, 2024年6月, 奈良
3. 橋本奈美子：子宮マニピュレーターを使用しないロボット支援子宮全摘術における尿管剥離の重要性, 第12回日本婦人科ロボット手術学会, 2024年6月, 大津
4. 藤崎佳乃, 八田幸治, 植田真帆, 北山和樹, 山田美由美, 金光麻衣, 角田沙保里, 志村寛子, 宮本真由子, 田中絢香, 高山敬範, 橋本奈美子：当院における腹式筋腫核出術の工夫～ター

ニケット法の併用一、第150回近畿産科婦人科学会学術集会、2024年6月、奈良

5. 宮本真由子、金光麻衣、藤崎佳乃、植田真帆、北山和樹、高木江利華、山田美由美、角田紗保里、志村寛子、小和貴雄、田中絢香、八田幸治、高山敬範、橋本奈美子：子宮筋腫の術前診断で核出術を施行し子宮adenomatoid tumorと診断した1例、第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2024年7月、鹿児島
6. 角田紗保里、関谷直正、富山大勝、藤崎佳乃、新垣佑里香、山田美由美、金光麻衣、小松伶奈、志村寛子、宮本真由子、田中絢香、八田幸治、高山敬範、橋本奈美子：術前診断子宮体癌IA期でロボット支援腹腔鏡下術後に卵管へ孤発性転移が判明した1例、第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会、2024年9月、東京
7. 新垣佑里香、関谷直正、富山大勝、藤崎佳乃、山田美由美、金光麻衣、小松伶奈、角田紗保里、志村寛子、宮本真由子、田中絢香、八田幸治、高山敬範、橋本奈美子：当院における細径硬性子宮鏡の使用経験、第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2024年9月、東京
8. 高山敬範、宮本真由子、八田幸治、橋本奈美子：婦人科腹腔鏡下手術における術後下肢末梢神経障害についての検討、第37回日本内視鏡外科学会総会、2024年12月、福岡

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
藤崎	藤崎	金光	金光	角田	角田	志村	志村	新垣	新垣
橋本	橋本	佐伯	佐伯	橋本	橋本	小松	小松	田中	田中
宮本	宮本	八田	八田	高山	高山	小和	小和		関谷
			富山						

初診・再診ともに、すべて予約が必要（紹介状をお持ちの方、妊娠されている方は11：30迄にお越しの場合、予約なしでも受診できます）

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会 周産期 カンファレンス				
午後		病理/ CTGカンファ (月1回)		術前 カンファレンス	画像 カンファレンス

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
子宮鏡検査		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予
パッドテスト								○ 紹・予		○ 紹・予

○：当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	20,145	20,546	19,931	20,211	20,696
入院	11,444	11,111	10,358	10,325	10,530

表 5 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	395	7
単胎自然分娩	238	7
卵巣の良性新生物	146	6
女性性器のポリープ	123	3
子宮内膜症	81	6
子宮体部の悪性新生物	79	7
子宮頸（部）の異形成	75	3
女性性器脱	70	7
卵巣の悪性新生物	51	7
子宮頸（部）の悪性新生物	48	7
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	44	9
受胎のその他の異常生成物	35	2
帝王切開による単胎分娩	27	9
女性生殖器の性状不詳または不明の新生物	23	8

スタッフ 部長：西垣敏紀（感染対策室長）
副部長：中長摩利子（部長待遇）、三浦夕子
医 長：巽 亜子

1. 診療内容

外来診療では、午前診は感染症を中心とした一般小児科診療、午後診は、神経・発達・代謝（月・木曜：西垣）、発育・栄養・内分泌（月・木曜：中長）、アレルギー（木曜：巽）、フォローアップ外来（金曜：三浦）の専門外来を設けて診療を行っている。神経・発達・代謝外来では、小児神経疾患（てんかん、神経筋疾患、神経発達症、知的発達症など）、代謝疾患を対象とするが、言語発達遅滞、神経発達症の受診が増えている。代謝疾患に対しては酵素補充療法を含む多様な治療に対応している。発育・栄養・内分泌外来では低身長症、思春期早発症、甲状腺疾患など広く小児内分泌疾患を扱う。また、消化器疾患に関しては消化器内科に協力いただき、年長児に対しての内視鏡検査も行っている。アレルギー外来では喘息、アレルギー性鼻炎に対してアレルギー免疫療法（ダニ・スギ）も行い、乳児湿疹やアトピー性皮膚炎ではスキンケア指導、食物アレルギーに対しては食物経口負荷試験を行い食物の摂取指導、エピペン導入も含めてアレルギー症状出現時の対処法の指導を行なっている。

当院出生児は、退院後1か月検診（水曜）を行い、必要に応じて、そのフォローアップ（金曜）も行っている。フォローアップ外来では当院出生の児を中心として新生児から乳児～幼児期にわたり、病的症候だけでなく発育発達を含めフォローアップしている。

また、基礎疾患を有する小児も含め、ワクチンを接種（火曜、BCG接種は第2金曜、HPVワクチン接種は随時）している。第1・3・5火曜午後には、発達の評価が必要な外来患者に対して、臨床心理士・公認心理師による心理検査を行っている。

入院診療は、感染症を中心とした急性期疾患の精査・加療に加え、内分泌負荷テスト、食物経口負荷試験、鎮静を要する画像検査など検査入院を行っている。また、院内出生新生児全員に、出生時、退院時の診察を行い、周産期の病態に応じた緊急処置、検査、加療が必要な場合、小児科入院の上対応している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診察スケジュールを表1に示した。午後は、専門外来、検診、予防接種、心理検査で、原則として予約外来としている。

2) 病棟体制

8階病棟で入院診療、7階新生児室で小児科入院

の新生児管理を行う。小児科カンファレンス（火曜）では、情報を共有し、治療方針を検討している。また、産婦人科との合同周産期カンファレンス（月曜）も行っている。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

当科の専門外来が周囲の開業医に周知されたこと、近隣の小中学校、西区、港区等の保健福祉センターとの連携も進み、専門外来の患者数は増加している。2023年度に引き続き、外来延べ患者数は、コロナ禍以前のレベルに戻り、維持された。

2) 入院診療実績（表2、3、4）

新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、コロナ禍では抑えられていた感染症の流行が2023年以降持続した。その中でRSウイルス感染症は2023年度からの流行がなかなか消退せず、2023年末から増加したマイコプラズマ感染症は2024年度に入り大流行となった。2024年度はこれらの感染症による肺炎、呼吸状態悪化などを理由とした入院が増加した。RSウイルス感染症は45例（2023年度38例）マイコプラズマ感染症69例（同 7例）であった。呼吸器感染症の入院増加もあり、入院患者数は2023年度の1.5倍近くに増加した。コロナ禍において全国的に減少に転じていた川崎病も増加、入院も前年度5名から12名に増加した。食物アレルギー患者に対する食物経口負荷試験は、入院パスを作成、毎週金曜日入院が定着した。新生児は、院内出生児の3分の1強の133名が、小児科管理入院となった。うち9例を呼吸管理等が必要と判断、新生児診療相互援助システム（NMCS）により他院NICUに搬送した。

4. 認定医・専門医など

日本小児科学会専門医	4名（西垣、中長、三浦、巽）
日本小児神経学会専門医	1名（西垣）
ICD（インфекションコントロールドクター）	1名（西垣）
臨床遺伝専門医・指導医	1名（西垣）
小児感染症認定医	1名（巽）
日本小児栄養消化器肝臓学会認定医	1名（中長）
日本アレルギー学会専門医	1名（巽）
新生児蘇生法専門コースインストラクター	1名（三浦）

5. 業績

論文・著書

- 1. 山下朋代, 田中裕子, 三輪谷隆史, 岡本伸彦, 武内俊樹, 上原朋子, 鈴木寿人, 小崎健次郎, 西垣敏紀: 自閉スペクトラム症と知的障害、特徴的な乳歯の早期萌出を認めたADNP症候群の1例, 脳と発達, 56: 142-144, 2024年
- 2. 巽 亜子, 三浦夕子, 中長摩利子, 西垣敏紀: 食物経口負荷試験 (OFC:Oral food challenge) を実施した急性food protein-induced enterocolitis syndrome (FPIES) の4症例, 日本生命病院医学雑誌, 52: 20-24, 2024年

学会発表

- 1. 中長摩利子, 萩原真一郎 (大阪母子医療センター): ダニ舌下免疫療法導入直後に心窩部痛を呈し治療中止後も症状が持続した好酸球性食道炎の9歳女児の1例, 第51回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会, 2024年10月, 東京
- 2. 古川ななみ, 中長摩利子, 巽 亜子, 三浦夕子, 有坂好史 (消化器内科), 野村元成 (阪大小児外科), 西垣敏紀: 偶発的に発見された脾Solid-pseudopapillary neoplasm (SPN) の10歳女児例, 第38回近畿小児科学会学術集会, 2025年3月, 大阪

研究会発表

- 1. 中長摩利子: 成長曲線、思春期早発症、成長ホルモン治療について, 大阪市西区小学校養護教諭勉強会, 2024年7月, 大阪
- 2. 西垣敏紀: 2024年に入院となったマイコプラズマ感染症の特徴, 西区医師会病診連携の会 (小児科の会), 2024年11月, 大阪
- 3. 西垣敏紀: 就労者を感染症から守る 成人に接種するワクチン, 第17回日本生命病院産業医セミナー, 2025年1月, 大阪
- 4. 中長摩利子, 巽 亜子, 三浦夕子, 西垣敏紀: ダニ舌下免疫療法導入直後に心窩部痛を呈し治療中止後も症状が持続した好酸球性食道炎の9歳女児の1例, 第21回日本小児消化管感染症・免疫アレルギー研究会, 2025年2月, 大阪
- 5. 西垣敏紀: こどもの神経発達症の理解と対応について, 福島区医師会学校医と養護教諭の勉強会, 2025年2月, 大阪

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
西垣	神経・発達 西垣 (予約)	巽	予防接種 巽 (予約)	西垣	1カ月検診 (予約)	西垣	神経・代謝 西垣 (予約)	西垣	フォローアップ 三浦 (予約)
中長	内分泌・消化器 中長 (予約)	三浦		巽		中長	内分泌・消化器 中長 (予約)	三浦	
							アレルギー 巽 (予約)		

表 2 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	5,041	6,908	7,306	8,390	8,247
入院	1,013	1,458	1,472	1,839	2,635

表 3 2024.4～2025.3—小児科入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
肺炎、病原体不詳	133	5
有害作用、他に分類されないもの	31	1
急性気管支炎	27	5
急性細気管支炎	25	6
喘息	24	6
下垂体疾患 (下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	15	3
結節性多発 (性) 動脈炎および関連病態	11	7
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	7	4
インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	7	3
急性咽頭炎	6	6
多部位および部位不明の急性上気道感染症	6	4
喘息発作重積状態	6	6
その他の細菌性腸管感染症	5	5
その他の胃腸炎および大腸炎、感染症および詳細不明の原因によるもの	5	4

表 4 2024.4～2025.3—新生児入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
新生児の呼吸窮 (促) 迫	34	7
妊娠期間短縮および低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	27	7
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	13	4
出産時仮死	8	5
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	8	7
周産期に特異的なその他の感染症	5	6
その他の多量の溶血による新生児黄疸	5	5
新生児の哺乳上の問題	4	6
現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児および新生児	3	8

スタッフ 部 長：高橋 励
副 部 長：青木保典
常 勤 医：前西真梨子

1. 診療内容

2024年度の人的体制は常勤医3名で前年と不変である。

2020年2月から3年間余、COVID-19蔓延により（全科中で精神科のみ）入院数が激減したが、2023年5月の5類感染症指定以後、完全回復し続けている。

特徴的な診療分野として従来と同じく「認知症」、「産業精神医学」を掲げているが、さらに新たな外来診療プロジェクトを開始した。早期アルツハイマー病に対する疾患修飾薬（レカネマブ、ドナネマブ）治療である。

「認知症」に対しては芳川センター長、森悦郎先生、池田学大阪大学精神科教授のご指導のもと、脳神経外科、脳神経内科、神経科・精神科で構成される脳機能センターで取り組み、これまで主に脳の変性や血管障害による認知症の正確な診断対応という面で地域医療圏のニーズにきてきた。

今年度以後は、早期のアルツハイマー病であれば根本的な治療を施すことが可能というエポックを地域医療圏にもたらすが、疾患修飾薬治療には厚労省の指定する病院単位の要件を安定して満たす必要があり、また診断にもより神経心理学的なスキルが求められるなど、難しさもある。

当院精神科・脳神経内科は大阪大学精神医学教室とその関連病院、認知症疾患医療センターとネットワークを組み、データ蓄積や情報交換の体制づくりを行った。当院内では脳機能センター、統括内科、救急診療科、放射線科、看護部（外来・入院）、皮膚科、医事課が連携して準備を進めた。

診療開始後の結果をみると、想定外事象や大きな有害事象の発生はごく少なく、また森悦郎先生の症例ではアミロイドPET撮像前の臨床診断が他院に比して格段に正確であることがわかり、前述の脳機能センターでの診断の正確性を裏づけた。またレカネマブ治療例数は西日本最大となった。今後は、地域医療圏一般医療機関とのネットワークが重要な課題になると考える。

次に、「産業精神医学」では従来に引き続き（1）産業医、関連・連携企業、院内からの紹介診療以外に、高橋は（2）予防医学センターと連携し、当院が各企業に派遣する産業医の業務を補助するセカンド=オピニオン外来、（3）当院職員の精神的問題への対応、産業医業務補助、医師の長時間労働面接対応、安全衛生委員

会にかかわり、職場巡視にも積極的に参加させて頂いている。

昨今は産業構造から、社員のメンタルヘルス問題が前景で精神科医の産業医も増えているが、高橋は「産業精神疾患は、いわゆる純粋な精神疾患として取り扱うのでは不十分で、社内環境や作業に固有の物理・化学・社会的要因に着目し、企業のリスクアセスメントと一体化して「神経精神医学」的にアプローチすることがのぞましい」と考えている。このため（1）～（3）のような事例対応に加えて、（4）職場改善方法の開発・代表的には、職場復帰基準・手順の適正化実践、長時間労働に対する指導実践、ストレスチェック=データの独自解析法の開発などに取り組んでいる。

また（5）日本生命傘下の特例子会社（障害者重点雇用企業）の相談・指導・健康管理を行う他、健康経営プログラムの一部を作成し、予防医学センターの関藤心理士の協力を得て睡眠習慣改善のプロジェクトを継続している。これは、労働人口の高齢化に対応する従来のトータル=ヘルス=プロモーション（THP）の若年者・障害者向け拡充であり多様性への対応といえる。

（6）産業精神保健の研究会を、当科前部長の江川、院外の精神科医・産業医と定期的に行っている。

次に、有床総合病院精神科としてののルーティン業務（一般・専門外来診療、入院診療、院内他科連携）について報告する。

当科の一般外来では（1）うつ病・パニック障害などのうつ病圏、（2）全般的不安障害などの神経症圏、（3）適応障害などストレス関連疾患の、診療所・院内他科からの紹介例が多い。

専門外来は一般診療の枠内で時間を確保して行っている。（4）「慢性疲労（症候群）」（高橋）では、一般の精神科では対応が難しい慢性疲労・各種の心身症（身体表現性障害）・一部の慢性疼痛などの紹介を総合病院・医療センター・大学病院等から受けてきた。（5）「認知症」は脳機能センターにかかわる医師全員が担当する。昨今は人口構造の変化から（1）～（4）に比して、（6）脳の変性や血管障害によらない認知機能低下も著増しており、精神症状の取り扱いも認知症とは異なる。当院では精神科医が脳機能センターを兼務する枠組みにより対応できている。また高齢者の身体因性精神医学・神経精神医学的診療は院内他科との連携を通じて行うことが多い。

（7）顕在・潜在的な発達障害への対応は当科の課題

であるが、症例数としてはそれほど多くない。

入院診療は、総合病院精神科の入院病床が全国的に減少しているため紹介入院先として機能している。一般医療法に基づき、他科との混合病棟体制であるため、受け入れには原則的にADLが概ね自立し行動制限の必要が無い症例との条件があり、心理教育的な症例が多い。昨今入院患者の特性にも外来と同様（5）（6）の変化がある。（5）の入院や身体科からの転科などADL低下症例について、当科は病棟・病院全体と連携している。

院内他科との連携には、（4）のように心身の問題を一元的に特定できない症例の併診（高橋）の他、コンサルテーション・リエゾン＝サービス（CLS）や緩和ケアのコンサルテーション（相談）・リエゾン（直接診療）の枠組みも用いて対応している。他科入院患者が従来合併する精神疾患、せん妄・適応障害の新たな発症、高齢初発のてんかん（青木）など診療数も多く、他科からの転科入院も増えている。

緩和ケア業務については、（1）がん診療拠点病院の要件である当院主催の緩和ケア研修会に、高橋・青木・前西・丸山心理士が協力する。（2）前西・丸山が院内緩和ケア業務に定期参加している。（3）高橋は他病院が主催する研修会の精神・心理部門講師として協力している。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

受け入れの円滑化をはかるために、初診患者はあったかサポートセンター経由の紹介を前提にしている。2診完全予約制であるが、随時予約外の対応は必要であり、診察室としてはDブロックの2～3診・カウンセリング室が常時稼働している。

心理検査・診療面において、脳機能センターと協働する業務も多い（脳機能センター山本）。また治療の質向上のため、完全予約制で心理士によるカウンセリングを行う症例もある（神経科・精神科丸山）。

2) 検査体制（表2）

当科では心理検査、脳波検査、脳画像検査を多用する。

まず心理検査は一般分野と認知機能分野に分かれる。一般分野では重症度（うつ状態など）の半定量的評価、性格・人格特性の定性的評価を行っている。認知機能分野では、「認知症専門」をうたう多くの病院でスクリーニングレベルの検査にとどまっているが、当院では高次機能障害や神経疾患を特定するための豊富なバッテリーを施行可能である。

次に脳波検査はてんかん診療や、他科連携における症候性・器質性病態の推定において有用である。

認知症に対する画像検査も頻用されている（頭部

MRIの定量的計算・定性的評価法、脳血流SPECT、DLB/ParkinsonismへのDATscan、心筋MIBG検査など）。

神経精神医学を重視する立場から検血・検尿など一般身体検査も行う。アルツハイマー病（AD）のリスクファクターは生活習慣病のそれと大きく重なり、初期認知症や軽度認知障害（MCI）の認知機能マネージメントのため生活習慣病モニタリングは有効である。

特殊な検査として、当科では以前より認知機能低下の生理学的評価を積極的に行っている（例：パルスオキシメトリーの援用、多重注意・遂行機能測定ソフトウェアの独自開発）。青木は認知症の客観的な初期診断・病態把握を可能にする脳波分析手法を開発したが、続々と研究論文を産出している。

3) 病棟体制

非常勤医を除いて、外来での主治医が入院加療をも受け持ち、3名が10床前後で加療を行っている。

4) CLSおよび緩和ケア業務体制

前西・青木が中心になり、緩和ケア業務とCLSを一体化した枠組みでリエゾン（＝直接診療）を行う他、主要メンバーが随時コンサルテーション（＝相談）を受ける。丸山心理士は血液・化学療法内科と連携し「無菌室化学療法カウンセリング」を続けている。

5) 心理士業務体制

認知機能検査は2名の心理士が分担している。丸山は心理カウンセリング・一般心理検査・緩和ケア・産業精神保健・認知機能スクリーニングなど多彩な業務に従事する。山本は神経心理学を専門に研究しており、豊富な認知機能検査バッテリーを操る。

6) 教育体制の診療体制への包含

- （1）大阪大学医学部学生の臨床実習を毎年行っている。前述の業務のうち一般・専門外来診療・院内他科連携・心理検査・脳波検査）について、常勤医3名・心理士2名が、専門分野に応じて実習・講義を分担する。
- （2）精神科の前期研修は研修協力病院（水間病院・藍野病院）で行われるべき業務が殆どであるため、当科は精神科の最終レポート作成や評価過程のみにかかわるが、前期研修医にとって、院内他科連携の実務を通して得る精神科領域の経験は有意義と考えられる。
- （3）新専門医制度に関連して、学会による教育施設認定に積極的である。

1. 精神科を専門とする医師のための、日本精神神経学会の専門医研修（3年間の後期研修）認定施設（大阪大学、やまと精神医療センターとの連携型）である。

2. 神経・社会精神医学のサブスペシャリティを目指す精神科上級医のための、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設になっている。
3. 神戸学院大学大学院 博野信次先生がご指導の修士学生を対象に、公認心理師資格取得のための病院実習を行っている。
4. 脳機能センターではカンファレンスを月1回行っている。神経科・精神科内では薬物療法・臨床精神医学全般に関する勉強会を月2回程度行っている。

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）
入院数は完全に回復したまま続いている。

4. 認定医・専門医など

- ・日本精神神経学会専門医 3名（高橋・青木・前西）
- ・同 指導医 1名（高橋）
- ・日本総合病院精神医学会専門医 1名（高橋）
- ・同 指導医 1名（高橋）
- ・精神保健指定医 2名（青木・前西）
- ・日本医師会認定産業医 3名（高橋・青木・前西）
- ・厚生労働省 労働衛生コンサルタント 1名（高橋）

5. 業績

学会発表

1. 山本諭希, 西尾慶之, 高崎昭博, 鐘本英輝, 吉山顕次, 森 悦朗, 池田 学：音楽性幻聴を呈した神経変性疾患例の神経心理学的検討, 第48回日本神経心理学会学術集会, 2024年9月, 京都

研究会発表

1. 高橋 励：講義「気持ちの辛さ」「せん妄」, 日本生命病院緩和ケア研修会, 2025年2月, 大阪
2. 青木保典：脳波によるアルツハイマー型認知症の早期予測, 第175回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2025年2月, 大阪
3. 関籐 碧, 高橋 励：睡眠セミナー, ニッセイニュークリエーション社内研修会, 2024年10月, 大阪

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
高橋	日高	火曜日医	前西	高橋	前西	青木	青木	高橋	高橋	
青木							前西		前西	青木
担当医 認知機能検査										

表2 検査体制

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波				○診		○診		○診		○診
心理テスト	○診	○診	○診	○診			○診	○診	○診	○診

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	14,482	14,612	14,754	13,225	12,030
入院	3,280	2,308	2,754	3,705	3,910

表4 2024.4～2025.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均 在院日数
うつ病エピソード	48	45
身体表現性障害	9	54
統合失調症	4	45
持続性妄想性障害	4	27
双極性感情障害〈躁うつ病〉	4	46
重度ストレスへの反応および適応障害	4	28
解離性〔転換性〕障害	4	19
その他の不安障害	3	23

脳 神 経 外 科

スタッフ 部 長：鈴木 強、田村和義（～2024年 4 月）

1. 診療内容

主な対象疾患としては、一般的な脳外科疾患で、脳血管障害、外傷、水頭症、認知症関連疾患、頭痛関連疾患、脳腫瘍、脊椎疾患、下垂体疾患、機能外科などである。すべての緊急疾患・急性期治療に対応できるわけではないものの、大阪大学脳神経外科医局および関連病院と常に連携しながら、主に外来診療、手術も行っている。

脳血管疾患：当院の予防医学センターで見つかる脳血管疾患の精査も多数行っている。核医学検査（脳血流SPECT、PET）や脳血管造影も可能で、さらに未破裂脳動脈瘤や内頸動脈狭窄症においては医局関連施設からの応援で血管内治療も可能。

認知症関連疾患：脳機能センターにも所属しており、認知症関連疾患も数多く診療している。またその中には外科的治療が可能な正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫も含まれ、迅速な連携で当科が外科的治療を担当している。また正常圧水頭症については特に力を入れており、リハビリ科と協同して綿密で総合的な診断を行っている。まず髄液排出試験（タッピングテスト）は入院で施行し、神経心理検査（認知機能検査）および歩行機能を詳細に評価、適応のある方について髄液シャント術を施行する（脳室腹腔シャント術、脳室腰部くも膜下腔シャント術どちらも対応可能。）病棟では、認知症ケアチーム、身体拘束最小化チーム（2025年度～発足）に所属している。

腫瘍関連疾患：脳腫瘍については、摘出が必要となった場合は大阪大学および関連施設の協力を得ている。放射線治療科の協力を頂き、術後の集学的治療（抗癌剤と放射線治療）や定位照射も可能となっている。髄液播種の場合はオンマヤ貯留槽設置や髄腔化学療法も可能。

頭痛関連疾患：頭痛専門医として慢性頭痛疾患の診療も力を入れている。片頭痛予防薬の抗CGRP関連製剤を扱っていて患者数は増えている。

2025年度より、総合的シビレ診療、下垂体疾患、機能外科（てんかん・痙攣）に特化した外来も始めた。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール(表1)

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2、3）

4. 認定医・専門医など

日本脳神経外科学会専門医	1名（鈴木）
日本脳卒中学会専門医・指導医	1名（鈴木）
日本頭痛学会専門医・指導医	1名（鈴木）
日本リハビリテーション医学会認定臨床医	1名（鈴木）
日本認知症学会専門医・指導医	1名（鈴木）
日本がん治療認定医	1名（鈴木）

5. 業績

研究会発表

1. 鈴木 強：日常遭遇する脳外科疾患, 第172回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年11月, 大阪

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
			押野 ※①	鈴木				鈴木	
			青木 ※②						

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	993	1,069	1,068	925	1,001
入院	911	880	1,055	589	568

表3 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
頭蓋内損傷	14	17
水頭症	9	24
脳の悪性新生物	2	43
脳内出血	2	17
脳梗塞	2	16
他に分類される疾患における脳血管障害	1	23
その他の脊椎障害	1	16
体内プロステーシス、挿入物および移植片の合併症	1	8

スタッフ 部長：西原俊作（救急総合診療センター副センター長）
副 部長：行方雅人（部長待遇）、辻 成佳（リハビリテーション科部長、リハビリテーション室長）
医 長：高見賢司（～2024年7月）、鄭 相紘（2024年10月～2025年3月）
専 攻 医：井上健太

1. 診療内容

当科は、主に関節外科（股関節、膝関節）、脊椎外科、足の外科、骨折外傷を中心に診療してきた。

関節外科では股関節および膝関節の変形性関節症や関節リウマチに対して人工関節手術を施行してきた。2021年7月から筋腱温存前方アプローチ（DAA）による人工股関節置換術を開始し、脱臼のリスクをほぼなくし、従来法と比較して早期の回復と早期の退院が可能となった。2021年12月から手術ナビゲーション（人工股関節）を導入し骨盤インプラント（カップ）を術前計画通りに正確に設置できるようになった。筋腱温存前方アプローチ（DAA）と手術ナビゲーションの導入により術後脱臼のリスクがほぼなくなり、初回手術においては術後の生活動作制限を撤廃した。

2022年8月から手術ナビゲーション（人工膝関節）を導入し、インプラント（大腿骨側、脛骨側）をニュートラルアライメントの通りに正確に設置できるようになった。長期耐久性や患者満足度の向上に貢献することが期待される。

脊椎外科では下肢痛、歩行困難を呈する腰部脊柱管狭窄症の患者さんに対して開窓術や椎体間固定術を施行している。また手の巧緻性障害、痙性跛行がある頸椎症性脊髄症の患者さんに対して頸椎椎弓形成術を施行している。

2022年6月から外反母趾や関節リウマチによる足部変形に対して矯正骨切り術を施行している。

外傷では高齢者の骨折が増加しており、麻酔科が許す範囲内で、できるだけ早期の手術を目標としている。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携し、早期退院・早期社会復帰を目標に治療している。手術患者さんに対しては手術前からリハビリテーションを行うだけでなく、術後早期から運動療法を集中し早期退院を図っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は28、常勤医4名が担当し診療を行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は前年度より微減した。

2) 入院診療実績（表4）

入院患者数は前年度より増加した。

4. 専門医・指導医など

日本整形外科学会認定整形外科専門医

3名（西原、行方、辻）

日本人工関節学会認定医 2名（西原、辻）

日本リウマチ学会指導医 1名（辻）

日本脊椎脊髄病学会指導医 1名（行方）

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医
1名（行方）

5. 業績

論文・著書

- 辻 成佳：【薬物療法が奏効する整形外科疾患】脊椎関節炎（解説），整形・災害外科，67（04）：359-363，2024年
- 辻 成佳：【脊椎関節炎SpAを理解する-疾患概念・診断基準・最新治療】掌蹠膿疱症性骨関節炎の診断と治療（解説），臨床整形外科，59（4）：397-402，2024年
- 辻 成佳：Modified pustulotic arthro-osteitis diagnostic guidance 2022 - Modified Sonozaki criteria - Secondary publication, Mod Rheumatol, 34（5）：1076-1078，2024年
- 辻 成佳：【リウマチ膠原病疾患Up To Date!-押さえておきたい最新の診断と治療】膠原病の診断と治療 脊椎関節炎の診断と治療 - 体軸性・末梢性脊椎関節炎, Medicina, 61（9）：1524-1530，2024年

学会発表

- 辻 成佳：脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"について，第68回日本リウマチ学会学術総会，2024年4月，神戸
- 辻 成佳：脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について，第68回日本リウマチ学会学術総会，2024年4月，神戸
- 辻 成佳：ウバダシチニブの投与を受けたPsA患者における152週時の疾患コントロールの達成 2つの第3相試験の長期継続試験の事後解析（アンコール発表），第68回日本リウマチ学会学術総会，2024年4月，神戸
- 辻 成佳，高見賢治：歯根膿疱部の16S rRNA解析を行った掌蹠膿疱症性骨関節炎の一例，第47回日本骨・関節感染症学会，2024年7月，出雲
- 井上健太，高見賢治，辻 成佳：男性PsA患者の骨折リスクの高い重症骨粗鬆症に対するロモソズマブの臨床成績，第34回日本脊椎関節炎学会，2024年8月，大阪
- 辻 成佳：荷重関節病変で層別化した乾癬性関節炎患者におけるウバダシチニブの有効性 SELECT-PsA 1/2試験の事後解析，第34回日本脊椎関節炎学会，2024年8月，大阪
- 辻 成佳：脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・

SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について（JCR2024 アンコール発表）、第34回日本脊椎関節炎学会、2024年8月、大阪

- 西原俊作, 大木莉夏, 井上健太, 高見賢司, 行方雅人：Safety of tranexamic acid regarding the risk of deep venous thrombosis after direct anterior total hip arthroplasty without routine chemical thromboprophylaxis, 44th World Congress SICOT, 2024年9月, セルビア, ベオグラード

研究会発表

- 行方雅人：高齢者の腰痛（腰椎圧迫骨折を中心に）、第176回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2025年3月, 大阪
- 西原俊作：人工股関節置換術の生存率を高めるために～脱臼と骨粗鬆症による脆弱性骨折～, Osaka Orthopaedic Meeting, 2025年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
行方 (初診)		西原 (初診)		交代 (初診のみ)		行方 (予約)	行方 特診	西原 (予約)	特診 関節外来
鄭 (予約)		井上 (予約)				鄭 (初診)	脊椎外来 (予約)	井上 (初診)	(予約)
			関節症性 乾癬外来 辻 (予約)			脊椎関節 炎外来 辻 (予約)	脊椎関節 炎外来 辻 (予約)		脊椎関節 炎外来 辻 (予約)

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		術前カンファ、 カルテ回診		抄読会	
午後					

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	11,459	11,510	12,498	12,992	12,955
入院	8,166	6,103	6,239	5,329	5,918

表4 2024.4～2025.3一入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
その他の変形性脊柱障害	48	22
膝関節症 [膝の関節症]	44	24
その他の脊椎障害	40	26
股関節症 [股関節部の関節症]	31	17
大腿骨骨折	15	27
脊椎症	13	20
その他の椎間板障害	10	20
(四) 肢のその他の後天性変形	8	27
前腕の骨折	8	4
その他の関節リウマチ	7	24
下腿の骨折、足首を含む	5	22

スタッフ 部長代行：林 美沙（乾癬センター長代行）
医 長：山下千佳紗（～2024/12）
副 医 長：赤路和哉
医 員：山根沙紀（2025/1～）
専 攻 医：藤田悠花
顧 問：東山真里

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹、円形脱毛症、尋常性白斑、強皮症などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗癌剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し、病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月8日に「ニッセイ いい皮膚の日」として患者対象の学習会を皮膚科医師と看護師で開催。帯状疱疹とふけ症をテーマに講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）、全身型紫外線照射装置2機（UVA、ナローバンドUVB）、部分型紫外線照射装置、手足用ナローUVB/UVA照射装置、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

1. 診療内容

専門外来【乾癬外来】年間初診患者数は尋常性乾癬が約120名、乾癬性関節炎が50名で再診は延べ1,500名余り。掌跖膿疱症および掌跖膿疱症性骨関節炎の初診も増加（1）治療内容 1. 外用療法 2. 光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト、手足用ナローUVB/UVA照射）3. 内服療法（レチノイド、シクロスポリン、アプレミラスト、メトトレキサート）4. 生物学的製剤。これらより個々の患者に最適な治療を選択（2）乾癬センターとして扁桃炎・脂質異常症・糖尿病など乾癬の悪化要因や心血管系イベントを含む併存症につき関連診療科と連携して精査。（3）重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、セトリズマブペゴル・ウスチキヌマブ、セクキヌマブ、プロダリマブ、イクセキズマブ、グセルクマブ、リサンキズマブ、ビメキズマブなどの種々の生物学的製剤を積極的に導入している。特に乾癬性関節炎に奏効。乾癬・掌跖膿疱症に関する臨床治験や臨床研究も実施。（4）乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。（5）療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。
【アトピー外来】重症例では光線療法やシクロスポリン

療法、生物学的製剤、JAK阻害剤も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。

【エキシマライト治療】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。

【皮膚外科手術】良性悪性腫瘍の切除術は皮膚科で可能な症例は大阪大学から皮膚外科医を週1回派遣いただき手術。ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。動脈硬化による下肢動脈狭窄症による足趾壊死や潰瘍は血管外科と密に連携して治療している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診療 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診察。初診外来あり。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火・木（午前・午後）、完全予約制（ただし初診は、あったかサポートセンター経由のみ予約可）。

手術：水曜午前は局所麻酔

2) 病棟体制（表3、4）

病棟担当医は常勤医3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は15.3名/月、入院患者数年間のべ患者数は2,628名、1日平均5.2名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、水痘、じんま疹、蜂窩織炎、薬疹、多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍/悪性腫瘍、下腿潰瘍、自己免疫性水疱症など。乾癬パス入院や、食物アレルギー、薬疹の原因薬精査なども行った。

形成外科と協力して褥瘡回診を行っている。

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テストを、月・火・木・金の午後に皮膚生検などを行っている。表在エコー検査は随時施行。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2024年度の外来延べ患者数26,055名、1日平均107名紹介患者数 50名/月。

年間手術件数 205件

2) 入院診療実績 (表3、4)

3) 検査実績

皮膚生検数 318件/年

4. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

4名 (林・山下・赤路・東山)

5. 業績

論文・著書

1. Takami K, Tsuji S, Jokoji R, Okubo Y, Higashiyama M.: Paediatric pustulotic arthro-osteitis patient with an IL36RN variant, heterozygous c.115+6T>C, who was successfully treated with tonsillectomy: A case report and literature review., *Experimental Dermatology*, 33 (1): e15016, 2024年
2. 佐藤祥奈 (市立池田病院皮膚科), 井上栄美, 赤路和哉, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山眞里: 【水疱をきたす疾患】陰部に初発したエムボックス, *皮膚病診療*, 46 (3): 228-231, 2024年
3. 菅井順一, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎, 東山眞里: 実臨床における新しい尋常性乾癬外用療法であるフォーム剤の可能性 (DEFENDER study), *日本臨床皮膚科医会雑誌*, 41 (3): 474-484, 2024年
4. Takami K (Department of Orthopaedic Surgery, Nippon Life Hospital), Tsuji S, Sato S, Akaji K, Yamashita C, Hiroumi S, Konaka H, Hayashi M, Higashiyama M.: Long-term retention rates of anti-tumour necrosis factor and anti-interleukin-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, *Modern Rheumatology*, 34 (5): 1013-1018, 2024年
5. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S.: Osteoporosis and osteopenia in patients with psoriatic arthritis: A single-centre retrospective study, *Modern Rheumatology*, 34 (6): 1252-1257, 2024年
6. 山下千佳紗, 今中洋子, 田中久仁子, 赤路和哉, 林 美沙, 東山眞里, 他: アプレミラスト内服中に抗p200類天疱瘡を発症した乾癬性関節炎の1例, *皮膚の科学*, 23 (4): 295-300, 2024年
7. 井上栄美, 林 美沙, 東山眞里: 【乾癬再考-治療の前に-】(Part2.) 乾癬と病態が似ている皮疹? (case5) COVID-19 ワクチン接種と乾癬の増悪・再燃, *Visual Dermatology*, 24 (1): 45-47, 2024年
8. 羽田基樹 (日本生命病院/臨床研修部), 佐藤祥奈, 赤路和哉, 山下千佳紗, 林 美沙, 巽 亜子, 東山眞里: 体幹の汎発疹を認めた三叉神経第1枝領域の汎発性帯状疱疹の小児例, *日本生命病院医学雑誌*, 52: 34-37, 2024年
9. 井上栄美 (日本生命病院/皮膚科), 田中久仁子, 林 美沙, 東山眞里: 日本生命病院におけるCOVID-19感染症に対するmRNAワクチン接種後に帯状疱疹を発症した15例の検討, *日本生命病院医学雑誌*, 52: 7-11, 2024年
10. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S.: Sarcopenia and osteoporosis in patients with psoriatic arthritis: A single-center retrospective study, *Nutrition*, 129: 112595, 2025年
11. 菅井順一, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎, 東山眞里: 診療情報データベースを用いた尋常性乾癬の治療実態調査 (DEFENDER study) から考える今後の外用療法, *日本臨床皮膚科医会雑誌*, 42 (1): 53-65, 2025年

学会発表

1. 羽田基樹, 赤路和哉, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山眞里, 丸岡真太郎etal: 放射線治療で縮小を認めた乳房外Paget病の1例, 第502回大阪地方会, 2024年3月, 大阪
2. 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 菅井順一, 津田雄一郎, 東山眞里: 診療情報データベースを用いた尋常性乾癬の治療実態

調査 (DEFENDERstudy), 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 2024年4月, 栃木

3. 赤路和哉, 佐藤祥奈, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山眞里, 辻 成佳: 生物学的製剤投与中の乾癬性関節炎に発症した2期梅毒の1例, 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 2024年4月, 栃木
4. 藤田悠花, 赤路和哉, 山下千佳紗, 東山眞里, 林 美沙: 頭部に生じた疼痛を伴わないせん腺腫の1例, 第503回大阪地方会, 2024年5月, 大阪
5. 林 美沙, 佐藤祥奈, 赤路和哉, 山下千佳紗, 辻 成佳, 東山眞里, 他: イキセキズマブ投与後に全身性エリテマトーデスを発症した乾癬性関節炎の1例, 第123回皮膚科学会総会, 2024年6月, 京都
6. 赤路和哉, 藤田悠花, 山下千佳紗, 東山眞里, 林 美沙, 吉池遙南, 齋藤拓也, 橋本奈美子: 全腹腔鏡下子宮筋腫核出術施行後2年を経過して発症・診断に至った寄生筋腫の1例, 第117回近畿集談会, 2024年7月, 大阪
7. 山下千佳紗, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山眞里, 辻 成佳, 林 美沙, 他: 掌蹠膿疱症・掌蹠膿疱症性骨関節炎における扁桃誘発試験と扁桃摘出術の有用性の検討, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
8. 赤路和哉, 藤田悠花, 山下千佳紗, 東山眞里, 林 美沙: 当院におけるデュークラバシチニブ投与患者18例についての臨床的検討, 第39回日本乾癬学会学術大会, 2024年8月, 大阪
9. 東山眞里, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎, 菅井順一: 開業医診療情報データベースを用いた実臨床におけるCal/BDP配合薬フォーム剤の臨床評価 (DEFENDERstudy), 第39回日本乾癬学会学術大会, 2024年8月, 大阪
10. 小中八郎, 村上輝明, 廣海汐理, 井上健太, 林 美沙, 東山眞里, 他: 膠原病や間質性肺炎を合併する脊椎関節炎患者の臨床的特徴, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
11. 藤田悠花, 赤路和哉, 山下千佳紗, 東山眞里, 林 美沙: 結節性モルフィアの2例, 第505回日本皮膚科学会大阪地方会, 2024年10月, 大阪
12. 山下千佳紗, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山眞里, 辻 成佳, 林 美沙: イキセキズマブ投与中に掌蹠膿疱症を発症した乾癬性関節炎の1例, 第75回日本皮膚学会中部支部学術大会, 2024年10月, 名古屋
13. 山下千佳紗, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山眞里, 林 美沙: 自己内服により誘発された葛根湯による薬疹の1例, 第54回日本皮膚科免疫アレルギー学会学術総会, 2024年12月, 福島
14. 藤田悠花, 赤路和哉, 山下千佳紗, 東山眞里, 林 美沙: 列序性を呈した脂腺母斑に基底細胞癌が生じた1例, 第507回日本皮膚科学会大阪地方会, 2025年2月, 大阪
15. 山根沙紀, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山眞里, 林 美沙: Desmoplastic Trichoepitheliomaの2例, 第508回日本皮膚科学会大阪地方会, 2025年3月, 大阪

研究会発表

1. 林 美沙: 日本生命病院の乾癬診療について, 第9回リウマチセンター合同カンファレンス, 2024年2月, 大阪
2. 林 美沙: 失禁関連皮膚炎 (IAD) とスキンケアと褥瘡の違いって何? ~症例で学ぶ失禁関連皮膚炎とスキンケアの予防的・治療的スキンケア~, 院内褥瘡対策委員会主催勉強会, 2024年2月, 大阪
3. 林 美沙: 乾癬センターにおける乾癬診療の実態!, 中国乾癬バイオロジクスセミナー, 2024年2月, 岡山
4. 東山眞里: 症例から学ぶ乾癬診療のTips & Pitfall, 第38回ギンナン皮膚科談話会, 2024年6月, 大阪
5. 東山眞里: どう使う? 進化する乾癬治療~外用剤治療を中心に~, 第3回北和・西和皮膚科治療連携セミナー, 2024年7月, 大阪
6. 林 美沙: 日本生命病院における乾癬診療の現状 ~ビンゼ

レックスを含めて～, 第3回 Kansai Dermatology Conference, 2024年7月, 大阪 (web開催)

7. 藤田悠花, 秦野暢子, 松村 裕, 吉岡華子, 中川幸延, 藤本 学, 泉健太郎: COVID-19罹患を契機に発症した全長BP180ELISA陽性水疱性類天疱瘡の1例, 第117回近畿集談会, 2024年7月, 大阪
8. 林 美沙: 日本生命病院における乾癬診療の現状と医療連携, Psoriasis Expert Seminar, 2024年9月, 大阪 (web開催)
9. 東山眞里: どう使う? 進化する乾癬治療～外用剤治療を中心に～, 皮膚科 Early Autumn Seminar, 2024年9月, 大阪
10. 東山眞里: 乾癬をもっと知ろうー治療の進歩と日常生活の注意について, 皮膚の日, 2024年11月, 大阪
11. 藤田悠花: 帯状疱疹について, いい皮膚の日, 2024年11月, 大阪
12. 東山眞里: 乾癬診療におけるチーム医療, 第7回あわぎ乾癬セミナー, 2024年11月, 大阪
13. 林 美沙: 皮膚科医だからこそできる尋常性乾癬外用療法とは? ～プロフェッショナルリズムを考える～, 常性乾癬治療Forum, 2024年11月, 大阪
14. 藤田悠花: 耳介後面の疣状皮膚腫瘍に生じた皮膚腫瘍, 大阪症例検討会, 2024年11月, 大阪 (web開催)
15. 東山眞里: 乾癬センターにおける病診連携について, 第2回 Psoriasis meeting, 2024年11月, 大阪
16. 東山眞里: 尋常性乾癬治療の外用療法とブイタマクリームへの期待, 大阪ブイタマ発売記念WEBセミナー～乾癬治療の最前線～, 2024年12月, 大阪 (web開催)
17. 林 美沙: 爪病変の見方, ウマチ・膠原病科 Mini lectur, 2024年12月, 大阪 (web開催)
18. 赤路和哉: エンホルツマブ・ベトチンによる中毒性表皮壊死症 (TEN) の1例, キャンサーボード, 2025年1月, 大阪
19. 林 美沙: 抗がん薬の皮膚障害の症状, 地域薬業連携研修会, 2025年2月, 大阪
20. 林 美沙: 褥瘡処置に必要な知識と予防ケアの重要性, 褥瘡対策委員会主催勉強会, 2025年2月, 大阪
21. 藤田悠花: 帯状疱疹 ウイルス性髄膜炎を中心に, 第23回わかろう会, 2025年3月, 大阪
22. 林 美沙: 乾癬センターでの乾癬診療の実際～ソーティクツを交えて～, 乾癬web Seminar, 2025年3月, 岡山

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
診察室	山根		乾癬 外来 赤路 (予約)	乾癬 外来 林 (予約)	林		乾癬 外来 林 (予約)	乾癬 外来 赤路 (予約)	赤路	
	東山 (予約)	検査 パッチ テスト 生検 等 (予約)	乾癬 外来 東山 (予約)	乾癬 外来 東山 (予約)	東山	検査 光線 テスト 生検 (予約)	藤田 (初診 予約)	乾癬 外来 東山 (予約)	山根	検査 ・ 生検
	赤路 (初診)		藤田 (紹介 初診 のみ)	関節性 乾癬 外来 辻 (予約)	山根 (初診)		平野	乾癬 初診 林 (予約)	林 (初診)	
検査室	藤田									

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○ 診		○ 診				○ 診		○ 診

○: 当院診察が必要

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	21,815	23,327	25,463	25,376	26,055
入院	3,098	2,715	2,880	1,907	2,628

表 4 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
帯状疱疹 [帯状ヘルペス]	91	8
蜂巣炎 (蜂窩織炎)	41	11
乾せん (癬)	15	11
丹毒	8	10
摂取物質による皮膚炎	8	10
皮膚のその他の悪性新生物	5	9
多形紅斑	5	16
皮膚および皮下組織の毛包のう (嚢) 胞	5	3

スタッフ 主任部長：垣本健一（中央手術管理部長、眼科部長代行、血液浄化センター副センター長）
副 部 長：湊 のり子、王 聡

1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行なった。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、化学療法、免疫療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、泌尿器科癌に対する新規の抗癌剤、抗アンドロゲン剤、免疫療法薬が次々と承認されて治療選択肢が増加していることが特徴である。当科でも、最新の薬物治療と他の治療を組み合わせる集学的治療を積極的に行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

泌尿器科外来1～2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ10,191人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ2,768人であった。

3) 治療実績

経直腸的前立腺生検術は113例に対して行った。前立腺癌に対するロボット技術支援の腹腔鏡下前立腺全摘除術は24例に行った。去勢抵抗性前立腺癌に対しては新規ホルモン剤であるエンザルタミド、アピラテロン、アパルタミド、ダロルタミドを使用することで治療の幅を広げ良好な治療成績を収め、また患者数も着実に増加している。

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術78例、膀胱筋層浸潤のある進行膀胱癌に対するロボット支援膀胱全摘除術および尿路変向術を3例に対して行った。膀胱癌、尿管癌の治療あるい

は再発予防として、BCG膀胱内注入療法（上部尿路がん症例には尿管ステント留置下）を施行した。局所浸潤膀胱癌に対しては原則、術前化学療法を施行した上で手術を行う方針とした。転移を有する尿路上皮癌症例に対しては最近承認されたペンプロリズマブ+抗体複合薬エンフォルツマブベドチン併用療法を積極的に早期から導入しCR（完全消失）例も経験した。従来からのレジメンであるシスプラチン（またはカルボプラチン）+ゲムシタビン療法でSD以上を維持している症例には免疫療法薬であるアベルマブ維持療法を行い良好な効果を得た。また、アベルマブに続く3次治療としてのエンフォルツマブベドチンも積極的に使用した。

腎癌に対するロボット支援腎摘除術（腎部分切除術も含む）、腎盂尿管癌に対するロボット支援尿管全摘除術は、それぞれ12例、9例に行った。特に、ロボット支援尿管全摘除術は、従来法よりも創部が小さくできるため、術後の回復が早くメリットが大きいと考えられた。

尿路結石（腎結石、尿管結石、膀胱結石）に対して経尿道的尿管碎石術を76例に、レーザーを用いた碎石を行った。腎臓の下腎杯に落ち込んだ結石に対しては最新型のディスポーザブル細径軟性鏡を用いて良好な視野の下、破碎術を施行した。

その他、陰のう水腫根治術、精巣摘除術など陰囊内容、陰茎、尿道に関する手術が14例であった。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医 3名（垣本、湊、王）

日本泌尿器科学会指導医 3名（垣本、湊、王）

ダビンチサージカルシステム認定資格

3名（垣本、湊、王）

日本がん治療認定医機構認定医 2名（垣本、王）

日本泌尿器科学会腹腔鏡技術認定医 2名（垣本、王）

5. 業績

論文・著書

1. Koyama J, Yamashita S, Kakimoto K, Uemura M, Kishida T, Kawai K, Nakamura T, et al. : Comorbidities in Japanese testicular cancer survivors: A multi-institutional, cross-sectional study, Int J Urol. 32 (2) : 198-202, 2025年

研究会発表

1. 垣本健一：「夜中に何回トイレに行きますか？」～夜間頻尿のおはなし～, 30分でよくわかる健康講座, 2024年6月, 大阪

2. 垣本健一：前立腺がんの診断と治療 ～その変遷と個別化治療も含めて～, 泌尿器科医薬カンファレンス2024, 2024年10月, 大阪

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
湊		王	垣本 (予約)	深江		湊	湊 (予約)	王	垣本 (予約)
						垣本	垣本 (予約)	藤田 (昌)※	

※ 1・3・5 週のみ

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影*	○ 診		○ 診	○ 診	○ 診		○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○：当院診察が必要 *は火曜午後のみ

表 3 泌尿器科年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	10,855	10,435	10,355	10,183	10,191
入院	3,739	3,085	3,558	2,987	2,768

表 4 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	158	5
膀胱の悪性新生物	71	8
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	37	4
腎結石および尿管結石	25	4
尿管の悪性新生物	21	8
腎盂の悪性新生物	18	15
腎盂を除く腎の悪性新生物	17	9
前立腺肥大（症）	15	6
急性腎盂腎炎	12	10
下部尿路結石	7	5
その他の部位の続発性悪性新生物	5	9

眼科

スタッフ 部長代行：垣本健一（泌尿器科主任部長、中央手術管理部長、血液浄化センター副センター長）
 副 医 長：伊藤 潤
 専 攻 医：熊ノ郷有希
 常勤嘱託：林 明日香（2024年9月～）
 主 任：天野知子（視能訓練士）

1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。

2017年から常勤医体制を再開し現在に至る。

最新の設備を用いた質の高い医療の提供と、患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また、病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で診療を行っている。

ほぼ全ての診療科を網羅する日本生命病院の一診療科として、全身状態の不良症例や、眼科単科では対応困難な症例の眼科治療も他科・センターと連携しながら行っているとともに、ニッセイ予防医学センターとも協力し、眼底検診による疾患の早期発見・予防に努めている。また、眼科疾患の難病認定申請に関する検査および臨床調査個人票の発行や、身体障害者手帳申請に関する検査および診断書・意見書の発行も行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本眼科学会専門医 2名（伊藤、林）
 視覚障害者用補装具適合判定医師 1名（伊藤）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
林	手術	林	特殊 検査	伊藤	手術	伊藤	特殊 検査	林	特殊 検査
金井		咲尾		辻川		駒井		伊藤	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
光凝固 YAG 蛍光造影 硝子体注射 ボトックス	硝子体 注射		硝子体 注射		光凝固 YAG 蛍光造影 硝子体注射 ボトックス	硝子体 注射		光凝固 YAG 蛍光造影 硝子体注射 ボトックス	硝子体 注射	光凝固 YAG 蛍光造影 硝子体注射 ボトックス

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	11,444	11,711	11,775	11,768	9,087
入院	838	727	596	830	681

表4 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患

疾患名	件 数	平均在院日数
白内障	284	2
硝子体の障害	1	3

スタッフ 部 長：小泉敏三（診療情報管理室長）
副 部 長：金澤成典（部長待遇）
副 医 長：柳田真希

1. 診療内容

内耳疾患（突発性難聴、メニエール病、頭位めまい症など）、顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群など）、中耳疾患（慢性中耳炎、耳硬化症など）、頭頸部腫瘍・がん、および鼻疾患（慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎）等の診療に注力している。近年は耳疾患や顔面神経疾患に対する各種検査や画像検査、鼻疾患への画像検査、頭頸部腫瘍への穿刺針細胞診などは受診当日に実施し、患者への治療方針決定への根拠を即時に提示できる診療体制をととのえている。また耳鼻咽喉・頭頸部外科におけるほぼ全領域での手術治療（鼓室形成術、メニエール病に対する内リンパ嚢開放術や顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術、耳硬化症へのアブミ骨手術、がんに対する再建を含めた拡大手術）に取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜am
（火、木：手術日のため初診のみ）
専門診療：腫瘍（月pm、水pm、金pm：金澤）
めまい（月pm、水pm：小泉）
難聴・中耳炎（月pm、水pm：小泉）
甲状腺（月pm、水pm、金pm：金澤、柳田）
鼻・副鼻腔（月am、水am、金am：柳田）
聴器（水pm：担当者）

初診時に原則的に耳鼻咽喉科領域の各専門の医師が診療を担当する方針としている。

2) 病棟体制

耳鼻咽喉・頭頸部外科は10床の定床数（9階病棟）で入院診療を行っている。外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として診療を行っている。頭頸部がん症例については、複数医師で患者を担当している。

3) 検査スケジュール

- ・聴力検査：月～金曜日am・pm
- ・めまい・平衡機能検査（カロリック、VEMP含む）：月～金曜日am・pm
- ・ABR検査：随時・即時
- ・ENOG検査：随時・即時
- ・内耳造影MRI検査：月・水曜全日
- ・超音波検査、鼻咽頭内視鏡検査：随時・即時
- ・嚥下内視鏡検査：随時・即時

- ・頸部造影CT：随時・即時
- ・頭頸部単純・造影MRI：随時
- ・PET：随時

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

耳鼻咽喉領域の急性難聴やめまいなどの耳疾患、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）については専門医が診療を担当している。他に鼻副鼻腔疾患や扁桃疾患に対しても手術体制が整っている。近隣の医療施設からの紹介や救急患者を随時受入れ、その患者の症状が安定すれば逆紹介も行っている。大阪市西区やその周辺地域の基幹病院としての役割を果たしている。まためまい専門検査は大阪府広域からの患者を受け入れている。

2) 入院診療実績（表3、4）

近年、手術件数増加に伴い入院件数の増加もみられる。また、従来から急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、急性めまいや急性感音難聴、顔面神経麻痺の加療も実施している。他診療科と連携して、頭頸部がんに対する集学的治療も積極的に実施している。

3) 検査実績

聴力検査：1,492件
めまい総合検査：33件
VEMP、カロリック検査：105件
シェロング：93件
内耳造影MRI検査：65件
頸部超音波検査：1,461件
鼻咽頭内視鏡検査：1,507件

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医

2名（小泉、金澤）

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

補聴器相談医	1名（柳田）
補聴器適合判定医	1名（小泉）
がん治療認定医	1名（金澤）
頭頸部がん専門医・指導医	1名（金澤）
身体障害者福祉法15条指定医	2名（小泉、金澤）
めまい相談医	1名（小泉）
耳科認定医	1名（小泉）

5. 業績

論文・著書

1. Koizumi T, Seo T, Saito K, Fujita H, Kitahara T : Gray-tone appearances on 4-hour delayed gadolinium-enhanced magnetic resonance imaging indicates severe inner ear pathology and symptoms in sudden sensoryneural hearing loss, Laryngoscope Investigative Otolaryngology, 9 (4) : e1295, 2024年
2. Kimura T, Kitahara T, Okayasu T, Sakagami M, Shiozaki T, Inui H, Koizumi T, Kakudo M : Prognosis of asymptomatic endolymphatic hydrops in healthy volunteers: A five-year cohort study, Laryngoscope Investigative Otolaryngology, 9 (6) : e70026, 2024年

学会発表

1. 柳田真希, 小泉敏三、金澤成典, 北原 紘 : 遅発性内リンパ水腫の手術後再発に対する半規管ストレプトマイシン灌流手術症例, 第86回耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会, 2024年6月, 福井
2. 小泉敏三, 瀬尾 徹, 齋藤和也、北原 紘 : 突発性難聴におけるガドリニウム遅延造影MRIの所見 ～PPIとPEIの解析～, 第34回日本耳科学会総会学術講演会, 2024年10月, 名古屋

研究会発表

1. 小泉敏三 : ノド・頸部に関わる呼吸困難 再訴飽和度は正常 あなたはどのように対応しますか, 第2回日本生命病院医療安全研修会, 2024年2月, 大阪
2. 小泉敏三 : 当科で行っている顔面神経麻痺治療, 西区ENTカンファレンス, 2024年5月, 大阪

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
小泉 (予約)	金澤 (腫瘍) (予約)	担当医 (初診のみ 松村)		小泉 (予約)	小泉 (めまい・ 聴神経・ 補聴器 (予約))	担当医 (初診のみ 清水)		金澤 (予約)	金澤 (腫瘍) (予約)
金澤 (予約)	小泉 (難聴・ 中耳炎) (予約)			金澤 (予約)	金澤 (腫瘍) (予約)			柳田 (予約)	柳田 (予約)
柳田 (予約)	柳田 (予約)								

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
聴力検査 めまい平衡機能	○		○		○		○		○	
聴性脳幹反応		○				○				○
内耳造影MRI	○				○					

○：当院診察が必要

表 3 耳鼻咽喉科年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	9,636	8,520	8,179	8,191	7,720
入院	3,009	2,301	2,850	3,168	3,113

表 4 2024.4～2025.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
急性扁桃炎	37	7
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	31	8
顔面神経障害	16	7
前庭機能障害	16	7
甲状腺の悪性新生物	13	12
化膿性および詳細不明の中耳炎	13	6
慢性副鼻腔炎	13	5
喉頭の悪性新生物	11	41
処置の合併症、他に分類されないもの	10	5
下咽頭の悪性新生物	8	31
扁桃の悪性新生物	7	32
非化膿性中耳炎	7	4
扁桃周囲膿瘍	7	5
甲状腺の良性新生物	6	6
中耳真珠腫	5	6

形成再建外科

スタッフ 部長代行：齋藤拓也

専攻医：吉池遥南

1. 診療内容

形成再建外科では体表の外傷や腫瘍、変形、異常を取り扱っている。また治らない傷や目立つ傷あと、眼瞼下垂、がんの切除およびその修復（頭頸部再建や乳房再建など）の治療も行う。疾患の根治のみでなく、整容性に配慮した治療を心がけている。

外傷については全身を対象に対応しており、特に露出部である顔面や四肢を多く治療している。擦過創、挫滅創、裂創、剥脱創、咬創、熱傷、凍傷など幅広い外傷に対応している。顔面骨骨折も変形や機能障害の程度に応じて手術をしている。皮膚、皮下腫瘍については理学所見を中心にエコー、CT、MRIなどの画像検査を組み合わせる複合的に病態を診断し、皮膚科と合同カンファレンスを行い、治療計画を立てている。また、切除した腫瘍については同カンファレンスにて病理診断の検討会を行っている。眼瞼疾患については眼瞼下垂を中心に、睫毛内反症などの治療を行っている。顔面神経麻痺においては静的再建やボトックスによる痙攣の治療を主に行っている。乳房再建では人工物や自家組織（広背筋皮弁、腹直筋皮弁、腹部穿通枝皮弁など）を用いた再建方法の中から患者に合った治療方法を選択している。褥瘡については皮膚科と合同で治療を行っており、入院患者の褥瘡治療は形成外科及び皮膚科、多職種を含めた褥瘡対策チームで対応している。糖尿病性足壊疽や重症虚血肢などの難治性創傷は他科と連携の上治療を行っている。この他にも副耳、耳瘻孔、ケロイド、腋臭症、陥入爪の治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診療は原則1診体制。初診、再診共に1診体制で対応している。月、水曜は齋藤が担当。火、金は吉池が担当。また緊急の外傷も随時引き受けて対応している。

2) 病棟体制

病棟は齋藤、吉池ともに担当。形成外科内でも情報を共有し、対応できるようにしている。共観患者に関しても同様に行っている。

3) 手術スケジュール

主には月曜日と金曜日午後に局所麻酔の手術、全身麻酔や臨時の局所麻酔の手術に関しては、全科共通枠で必要に応じ、対応している。手術は全て中央手術室で行っているが、外傷や緊急性のある

小手術に対しては外来処置室にて対応している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

3) 手術実績（表3）

4. 認定医・専門医など

日本形成外科学会専門医 2名（齋藤、吉池）

乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施医

1名（齋藤）

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医 1名（齋藤）

5. 業績

学会発表

1. 齋藤拓也：表皮母斑から発生した基底細胞癌の一例，第136回関西形成外科学会学術集会，2024年7月，大阪

研究会発表

1. 齋藤拓也：自宅のできるケガの応急処置，よくわかる健康講座，2024年9月，大阪

2. 齋藤拓也：眼瞼下垂，いい皮膚の日，2024年11月，大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
齋藤				齋藤				齋藤	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	2,406	2,645	3,148	2,297	2,258
入院	528	324	506	670	937

表3 2024.4～2025.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
眼瞼のその他の障害	27	3
その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	15	3
皮膚のその他の悪性新生物	14	11
頭蓋骨および顔面骨の骨折	5	3
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	4	5
じょく〈褥〉瘡性潰瘍	4	59
乳房の悪性新生物	3	11

放射線診断・IVR科

スタッフ 部長：小林美登利
副部長（部長待遇）：牧 大介、合田晴一

1. 診療内容

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、生検など）、核医学診断（SPECT、PET-CT）を行っている。

3名の放射線診断専門医（常勤）が、大阪大学ならびに大阪市立大学の専門医（非常勤）の支援を得て、質の高い画像診断とIVRを実践している。

2. 臨床実績（2024年4月1日から2025年3月31日）

- 画像診断CT 18,362例、MRI 7,213例、SPECT 496例、PET-CT 498例
- 血管系IVR 8例（肝動脈塞栓術、止血術など）
- 非血管系IVR 2例（CT下生検（肺など）1例、経皮的膿瘍ドレナージ 1例）

3. 認定医、専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 3名（小林、牧、合田）
日本IVR学会専門医 2名（牧、合田）
PET核医学認定医 1名（小林）

表1 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
IVR		○						○		

※放射線診断は毎日実施

表2 外来検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
単純撮影	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹
CT(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
MRI(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
骨塩定量	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
RI	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
PET-CT	● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可

表3 年度別外来延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
放射線診断・IVR科	1,006	1,013	1,190	1,230	1,201

放 射 線 治 療 科

スタッフ 部長代行：丸岡真太郎

1. 診療内容

2017年4月より「放射線治療科」を新設し、診療を開始した。

がん治療の三本柱の一つである放射線により各種がんに対する放射線治療を行っており、根治目的の放射線治療だけでなく、がんによる各種症状を和らげるための緩和的照射も行っている。2018年5月より新リニアック装置TrueBeamに機器更新を行い、体幹部定位照射をはじめとした高精度放射線治療を行っている。

2022年4月よりⅢ期肺癌に対する高精度放射線治療を開始した。

主な対象疾患は下記の通り

頭頸部腫瘍、消化器腫瘍（食道癌、膵臓癌、肝臓癌等）、泌尿器科腫瘍（前立腺癌、膀胱癌等）、婦人科腫瘍（子宮頸癌、卵巣癌等）などの悪性腫瘍に対する放射線治療、頭蓋内腫瘍、体幹部腫瘍（肺、肝臓等）、Oligometastasisに対する定位放射線治療、ケロイド等良性疾患に対する放射線治療、骨髄移植前処置としての全身照射

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

総計203件

・原疾患別

造血器・リンパ	37件
婦人科	21件
頭頸部	22件
乳腺	7件
消化器	9件
泌尿器	41件
肺縦隔	64件
うち	
定位照射	23件
全身照射	12件

4. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線科専門医・指導医 1名（丸岡）

日本医学放射線学会放射線治療専門医 1名（丸岡）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
丸岡	丸岡	清水	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡

表2 年度別外来延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
放射線治療科	2,721	2,722	2,718	2,761	2,602

スタッフ 部 長：花田留美（中央手術管理部部長代理）
副 部 長：玉井 裕（部長待遇）、藤原優子、津村八江、日野未来、博多紗綾
常勤嘱託：清水梨江

1. 診療内容

診療内容としては、主に手術麻酔管理、ペインクリニック外来、緩和医療をおこなっている。

1) 手術麻酔管理

手術時の麻酔だけでなく、術前評価、手術麻酔、術後診察を一連として麻酔管理としている。

予定手術においては、外来受診可能な状態の患者の術前診察を麻酔科外来で週5日行っている。術前診察で、患者の全身状態の評価を行い、最も適した麻酔法を選択する。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・神経ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。麻酔法およびその合併症について患者さんに十分に説明し、理解していただき、信頼関係を確立するためにも術前診察は非常に重要であると考えている。

できるだけベストな状態で手術に臨めるように他部門とも連携している。まず、術前問題点を早期に把握するため麻酔科管理症例については、2017年より全例スクリーニングを兼ねて麻酔科術前問診票を記入いただき、術前問題点があれば、早期に手術認定看護師が介入し、術前禁煙指導、呼吸器内科での治療や呼吸器リハビリ、術前体重コントロールのための栄養指導、薬剤部へ入院前の内服薬の把握などを依頼し、麻酔科での術前診察が行われるまでに問題点が少しでも改善され、周術期合併症のリスク軽減がなされるようなシステムを構築している。緊急手術では、適宜術前診察を行うが、当日緊急手術においても、迅速に効率よく手術まで行えるように手順を整理している。

術後疼痛管理も以前から積極的に行っており、必要時はPCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用していたが、2023年度からはさらに術後疼痛管理チーム立ち上げた。まずはフェンタニルなどの麻薬での静注PCA症例、硬膜外麻酔併用症例において看護師だけでなく、臨床工学技士、薬剤師にも術後疼痛管理チームスタッフとして参加してもらい、2023年2月より本格的に活動している。2023年度の介入件数の実績は、294名（延べ日数694件）件、2024年度は、286名（延べ日数552件）となっている。

2) ペインクリニック外来

2024年度は週5日開設し、他科、他院からの紹介患者を主に診察している。外来では、硬膜外ブロック、エコー下ブロックなどを行い、必要時は週1～2回水曜日（月曜日）に、放射線科での透視下ブロックをおこなっている。2022年度からは手術室運用見直しとともに透視下ブロックは放射線科のアンギオ室を使用させていただくこととなり、ブロックのための時間がしっかり確保できたので、水曜午後からはすべて透視下ブロックの枠に変更し、透視下ブロック件数は増加してきている。2023年度の透視下ブロック件数は、134件であったが、2024年度は164件となっている。また、ペインクリニック診療と並行して、緩和ケアチーム介入症例で外来受診時に麻薬調整などの疼痛コントロールが必要な際には、適宜緩和ケア外来として行っている。

3) 緩和医療

2008年2月より緩和ケアチームが発足し、入院中は依頼患者に主治医と連携しながら直接介入で対応し、主に身体症状の軽減に携わっている。日々の回診は、担当麻酔科医と専従の緩和ケア認定看護師で行っているが、チーム全体での回診とカンファランスは、週に1回月曜日に行い、薬剤部、認定看護師、ソーシャルワーカー、放射線治療医、臨床心理士と常に連携し、よりよい症状緩和を目指している。また、緩和ケア研修会（PEACE）も2015年度より麻酔科医減少のため一時中断していたが、スタッフの増加に伴い、2020年度から再開している。COVID-19感染対応の影響を受けた後の2022年度からは、がん患者の診療に携わる当院の医師、看護師のみならず、地域医療を担う訪問看護師や他院の医療従事者の方にもご参加いただき、いろいろな立場からの活発なグループワークを行うことができた。

4) その他

当院のプログラムでは初期研修中の1年目の1ヶ月は麻酔科を研修する。初期研修中に到達すべき経験目標としての基本的手技のうち、気道確保、静脈ルート確保、腰椎穿刺、気管挿管の技術に関しては、当科にて身につけさせるように指導している。1ヶ月では、なかなか技術の習得までは難しいが、その後の研修の基礎となるような指導を

心がけている。また、将来どの診療科に進んでも役に立つように、緩和医療に関しても興味がある初期研修医には、さらに1か月麻酔科を選択していただき、緩和ケアチームに積極的に参加してもらい、基本的な医療用麻薬の使い方やその他の症状緩和への対応などができるように指導している。COVID-19への対応上、2019年度から2022年度まで外部からの研修の受け入れは困難と判断してお断りしていた救急救命士の挿管実習は2023年度から再開したが、2024年度は5月、1月の2期で2名の研修を受け入れることができた。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制

2020年度からは緩和ケアチームの回診を1名/日交代で担当している。緩和ケアチーム介入患者の疼痛などの身体症状管理を緩和ケア認定看護師と連携して行っている。

3. 診療実績

2024年度の総手術件数3,506例、うち麻酔科管理手術件数は2,142例、緊急手術は136例と総手術件数は減少傾向であったが、麻酔科管理症例は増加となり、緊急手術も少しずつ増加傾向のため、手術室の勤務時間は延長することとなっている。（2023年度は、総手術件数3,559例、うち麻酔科管理手術件数2,122例、緊急症例は63例であった。）

当院では、血液浄化センターを併設していることも有り、症例も重症化、複雑化、多様化し、透析患者の手術症例も増えて来ていたが、依然としてその傾向がある。

緩和ケアチーム依頼患者は、2024年度で入院は181例、そのうち、がん患者は155例、非がん患者（慢性心不全、末梢血管障害、透析患者など）は26例、外来は30例となっている。〔2023年度は、入院はのべ222例、そのうち、がん患者は201例、非がん患者は21例、外来は30例の患者に対応した。〕2023年度より全体的に減少しているようにみえるが、内訳をみると診断から治療初期にかけての疼痛コントロールが難しい症例においての依頼件数はむしろ増加しており、治療途中や治療終了後の患者での依頼が減っている。これは、緩和ケア研修会が広く受講されて、疼痛コントロールがある程度安定した状態での患者さんの疼痛コントロールは自科で行うことが出来ているためと思われる。また、非がん患者の症例も依然として微増しており、非がん患者の身体的苦痛に対しての緩和ケアにも注目されるようになってきたためと思われる。緩和ケア研修会の受講が浸透し、簡単な症例ではそれぞれの科で対応できているということより、現在の診断時から緩和ケアという考え方も浸透してきていると思われる。今後も治

療開始前、非がん患者での症状コントロールの依頼が増加すると思われる、依頼件数だけでなく、それぞれの内容にも注意して引き続き対応していく必要がある。

ペインクリニック外来では、2018年度より大阪大学から月曜日にペインクリニック専門医を招聘し、手術室での外来透視下ブロック、超音波ガイド下ブロックなども積極的におこなってきたが、2022年度からは2週間に1回の水曜日に西宮市立中央病院から松村陽子先生に来ていただいている。午前は外来、午後からはアンギオ室での透視下ブロックの指導を行っていただくことにより技術の向上が見られ、スタッフのみでのブロック件数も徐々にふえてきている。外来患者の延べ人数も2024年度は、5,397件と2023年度の4,652件を上回り、2021年度以降徐々に増加してきている。2024年度はペイン外来を週4日から5日に増加したことも影響していると思われる。2023年度のブロック件数は、超音波ガイド下 290例、透視下 134例、高周波熱凝固 32例、硬膜外ブロックなどのその他のブロック 109例であったが、2024年度では、超音波ガイド下 354例、透視下 164例、高周波熱凝固 38例、その他のブロック 111例とすべてのブロックの件数が増加している。また、初診は紹介患者のみとしているが、院内紹介は2023年度63例に対して2024年度は66例、院外からは2023年度は16例に対して2024年度も16例と院外からは変化ないが、院内からの紹介患者は微増している。皮膚科からの帯状疱疹患者と整形外科からの腰下肢痛患者が多く、整形外科から紹介の脊椎疾患症例においては、当科でのブロック後、手術へと移行する患者も多い。

緩和ケアにおいては、ペイン患者での透視下ブロック枠があるため、院内の緩和ケア介入患者への不定期な内臓神経ブロックなどの透視下ブロックも以前より積極的に行える体制となっており、2022年度は3例ほど透視下に緩和的ブロックをおこなったが、2023年度は症例がなく経過した。2024年度は、西宮市立中央病院から松村陽子先生に来ていただいている上に、NTT東日本病院ペインクリニック科の研修から帰阪した博多紗綾副部長も活躍してくれたことにより、内臓神経ブロックは2例であったが、そのほかの不对神経節ブロック、上下腹神経叢ブロック、下腸間膜動脈神経叢ブロック、腰部交感神経節ブロックなど症状に応じて多彩なブロックが施行出来るようになって来た。今後は、厚生労働省からもがん患者の痛みへの対応について、地域で連携することにより神経ブロック等活用していくことが通達されており、他院からの緩和ケア患者への神経ブロック依頼も増えると予想され、院内での対応症例数を増やしてスタッフ全体のスキルをあげていながら、他院からも受け入れる体制作りが必要と考えている。

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医・専門医

7人（花田、玉井、藤原、津村、日野、博多、清水）

日本緩和医療学会 認定医 3人（花田、玉井、博多）

麻酔科標榜医

7人（花田、玉井、藤原、津村、日野、博多、清水）

日本ペインクリニック学会専門医

3人（花田、博多、清水）

5. 業績

論文・著書

1. 日野未来, 玉井 裕, 藤原優子, 清水梨江, 三上麻紀子, 花田留美: 硬膜外麻酔後の広範囲な知覚低下からカテーテルの硬膜下腔迷入を疑い、X線透視およびCT撮影を行いカテーテルの位置を確認した1例, 日本生命病院医学雑誌, 52: 26-29, 2024年

学会発表

1. 日野未来, 玉井 裕, 清水梨江, 土井美奈子, 花田留美: コントロール困難な癌性髄膜炎による頭痛に対してケタミン持続投与が有用であった一例, 第29回日本緩和医療学会学術大会, 2024年6月, 神戸
2. 小山佐知子, 土井美奈子, 玉井 裕, 日野未来, 清水梨江, 松榮優子, 西田幸弘, 丸岡真太郎, 花田留美: 乳がん局所再発に伴う難治性疼痛に対して、患者の意向を尊重し通院で10年以上の長期に症状コントロールをしている一例, 第29回日本緩和医療学会学術大会, 2024年6月, 神戸

研究会発表

1. 花田留美, 日野未来, 津村八江, 玉井 裕, 清水梨江, 博多紗綾: 乳がん患者に対して脊髄くも膜か鎮痛管理中に穿刺針が切断しポート内に遺残した1例, 疼痛勉強会 2025, 2025年3月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
佐藤 (術前)	佐藤 (術前)	森本 (術前)	森本 (術前)	清水 (術前)	藤原 (術前)	玉井 (術前)	藤原 (術前)	博多 (術前)	花田 (術前)
清水 (ペイン)		玉井 (ペイン)	玉井 (術前)	日野 松村 (ペイン)		博多 (ペイン)	博多 (術前)	花田 (ペイン)	日野 (術前)

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	4,296	3,600	3,728	4,652	5,397
入院	36	5	0	6	7

表3 2024.4～2025.3 ブロック実績

ブロック名	件 数	
	2023年	2024年
超音波ガイド下ブロック	290	354
透視下神経ブロック	134	164
高周波熱凝固（パルス高周波を含む）	32	38
その他外来ブロック	109	111

リハビリテーション科

スタッフ 部長：辻 成佳（リハビリテーション室室長）

1. 診療内容

当院のリハビリテーション診療の目標は、各診療科と連携し、入院患者さんを中心に最適な状態で日常生活が過ごせるように入院患者さんを中心にサポートすることであり、その目標のために理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が共同して適切なリハビリテーションの質と量で患者さんをサポートしていく体制をとっています。

リハビリテーション科診療

入院患者さんを中心に以下の業務を行っています。

- ①急性期疾患で入院された方の回復を促進するリハビリテーション。
- ②慢性疾患の急性増悪で入院された方に、在宅生活につなげるリハビリテーション。
- ③急性期から回復期・維持期へ移行する患者さんは、退院調整看護師、MSWと連携し、転院先へ繋げます。また在宅復帰される患者さんは、在院中に日常生活動作を確認し、速やかに地域包括支援センター等と連携し、在宅支援の引継ぎを推進。

リハビリテーション科・室の“ミッション”

上記の診療を行っていくうえで当院のリハビリテーション科・室では、

“当科のミッション”として

“患者さんの身体を癒し、心を豊かに活力のあるものにする”を掲げています。

そのための“5つの約束”を決めています。

- ①お互いに尊厳と承認の心をもって接し、働きやすい環境を作る。
- ②医療上で不可欠な要素として、多様性を積極的に受け入れる。
- ③リハビリテーション技師として常に最高級レベルの治療技術を目指す。
- ④患者さんが心から満足するサービスを常に提供する。
- ⑤地域社会や環境保護に積極的に貢献する。

患者さんにより良い医療サポートを提供できるよう、リハビリテーション科・室スタッフは一丸となって取り組んでいます。

代表的な対象疾患は以下の通りです

- ・運動器リハビリテーション・・・骨折、人工関節、脊椎疾患（腰、頸部）、筋・腱外傷など
- ・脳血管疾患等リハビリテーション・・・脳卒中、脳外傷、水頭症、パーキンソン病、脳脊髄変性疾患など
- ・心大血管リハビリテーション・・・心大血管疾患、

心臓・循環器、腎臓・透析など（例）急性心筋梗塞や心臓手術後、心不全の増悪、末梢血管閉塞など

- ・廃用症候群リハビリテーション・・・消化器疾患・感染症・各疾患手術後などに生じる廃用症候群。
- ・がん患者リハビリテーション・・・各領域のがん治療。
- ・呼吸器リハビリテーション・・・肺炎、慢性閉塞性肺疾患の急性増悪、外科手術の周術期の呼吸機能障害など

当院の特徴的な取り組みとして

- ①骨盤底筋リハビリテーション・・・婦人科・外科・泌尿器科などにおける疾患・術後の骨盤底筋の機能低下およびその障害など
- ②乾癬センターの一部門として乾癬患者の体幹および関節障害に対するリハビリテーション・・・乾癬センター通院中の乾癬性関節炎患者さんの体幹・四肢関節障害など

下記3の診療実績に見られるように、幅広いリハビリテーションが可能になり増加しています。

2. 診療体制

外来診察スケジュール、月曜から金曜の午前中に実施。

3. 診療実績

2024年4月～2025年3月

運動器リハビリテーション	7,969件
脳血管疾患等リハビリテーション	5,075件
心大血管疾患リハビリテーション	3,390件
呼吸器リハビリテーション	8,289件
廃用症候群リハビリテーション	8,680件
がん患者リハビリテーション	7,114件
合計	40,517件

2024年4月～2025年3月

リハビリテーション実施によるADL（日常生活動作）の変化	BI点数（初回）	BI点数（リハ後）	利得点数
運動器リハビリテーション	64.9点	84.8点	19.9点
脳血管疾患等リハビリテーション	50.1点	69.1点	19.0点
心大血管疾患リハビリテーション	62.8点	79.9点	17.1点
呼吸器リハビリテーション	54.4点	67.6点	13.2点
廃用症候群リハビリテーション	50.7点	61.4点	10.7点
がん患者リハビリテーション	72.3点	81.5点	9.2点

BI：Barthel Index、バーセル指数はリハビリテーション領域のADLの評価方法のひとつで、100点を満点で自立としています。利得は、BI利得＝（BIリハ後－BI初回）の計算で求め、高値はリハビリテーション効果を出し生活動作の各項目が自立していることとなります。

4. 担当医師 専門医・認定医など

辻 成佳 (つじ しげよし)

理事：日本脊椎関節炎学会

評議員：日本リウマチ学会・日本骨関節感染症学会・

日本リウマチの外科学会

日本臨床栄養学会

指導医：日本化学療法学会 / ICD

専門医：日本整形外科学会・日本人工関節学会・

日本骨粗鬆学会

からだ運動器の痛み専門医療者・サルコペニア

フレイル指導士

5. 業績

論文・著書

- 辻 成佳：【薬物療法が奏効する整形外科疾患】脊椎関節炎 (解説), 整形・災害外科, 67 (04) : 359-363, 2024年
- 辻 成佳：【脊椎関節炎SpAを理解する-疾患概念・診断基準・最新治療】掌蹠膿疱症性骨関節炎の診断と治療 (解説), 臨床整形外科, 59 (4) : 397-402, 2024年
- Okamura G, Hirao M, Noguchi T, Etani Y, Ebina K, Kurihara T, Goshima A, Tsuboi H, Tsuji S, Takami K, Okada S, Hashimoto J. : Flatfoot Surgery for Flexible Progressive Collapsing Foot Deformity With Inflammatory Joint Diseases: A Report of 3 Cases, JBJS Case Connect, doi: 10.2106/JBJS.CC.23.00673. : Online ahead, 2024年
- Tsuji S, Okubo Y, Kishimoto M, Taniguchi Y, Ishihara Y, Tamura M, Kobayashi S, Watanabe R, Takakubo Y, Tomita T. : Modified pustulotic arthro-osteitis diagnostic guidance 2022 - Modified Sonozaki criteria - Secondary publication, Mod Rheumatol, 34 : 1076-1078, 2024年
- 辻 成佳：【リウマチ膠原病疾患Up To Date-押さえておきたい最新の診断と治療】膠原病の診断と治療 脊椎関節炎の診断と治療 - 体軸性・末梢性脊椎関節炎, Medicina, 61 (9) : 1524-1530, 2024年
- Kojima A, Tomita T, Tsuji S, Kadono Y, Tada K, Nozaki T, Tamaki M, Koyama Y, Dobashi H, Okano T, Kawaai S, Atsumi T, Tamura N, Matsumoto Y, Goto H, Taniguchi Y, Ueki Y, Takagi M, Matsui K, Hagimori K, Shimizu A. : Bone marrow edema detection for diagnostic support of axial spondyloarthritis using MRI, Int J Comput Assist Radiol Surg, 19 : 1699-1711, 2024年
- Kunugiza Y, Tsuji S, Fujito T, Tamaki M, Nishikawa M, Nomura K, Ishibashi T, Tomita T. : Tenderness over the Pes anserinus and Gerdy's tubercle before and after total knee arthroplasty, J Orthop, 62 : 133-138, 2024年
- Sakata M, Hirao M, Noguchi T, Okamura G, Higuchi Y, Tabuse Y, Etani Y, Ebina K, Tsuboi H, Miyama A, Takahi K, Takami K, Tsuji S, Okada S, Hashimoto J. : Early full weight-bearing and gait exercise after cemented total ankle arthroplasty with a modified anterolateral approach, Mod Rheumatol, 34 : 1258-1264, 2024年
- Takami K, Higashiyama M, Tsuji S. : Osteoporosis and osteopenia in patients with psoriatic arthritis: A single-centre retrospective study, Mod Rheumatol, 34 : 1252-1257, 2024年
- Kavanaugh A, Mease P, Gossec L, Ranza R, Tsuji S, Douglas K, Lane M, Lippe R, Mittal M, Gao T, Setty A, Ciecinski S, Aletaha D, Nash P. : Association Between Achievement of Clinical Disease Control and Improvement in Patient-Reported Outcomes and Quality of Life in Patients With Psoriatic Arthritis in the Phase 3 SELECT-PsA 1 and 2 Randomized Controlled Trials, ACR Open Rheumatol, 6 : 736-745, 2024年
- 麦田盛穂, 泉本亮二, 片岡宏一郎, 辻 成佳, 宮本浩樹, 賀戸ひとみ, 吉川秀人, 中川 厚, 岡部太一：心臓リハビリテーション立上げまでの経緯とその意義について－EAP待機患者に対するPCIパスへの心リハ導入の成果と課題－, 日本生命医学雑誌, 52 : 12-19, 2024年
- 辻 成佳：【乾癬再考-治療の前に-】(Part4.) 乾癬の皮膚以外の状態も理解する (総説6) 乾癬性関節炎, Visual Dermatology, 24 (1) : 69-73, 2024年
- Takami K, Higashiyama M, Tsuji S. : Sarcopenia and osteoporosis in patients with psoriatic arthritis: A single-center retrospective study, Nutrition, 129 : 112595, 2025年
- Perez-Alamino R, Maldonado-Ficco H, Moltó A, Waimann C, Maldonado-Cocco J, Dougados M, Landewé R, van der Heijde D, Van den Bosch F; ASAS-COMOSPA study. : Trends to shorter diagnostic delay in spondyloarthritis patients during the last decades and association with clinical presentation: data from ASAS-COMOSPA study, RMD Open, 11 (1) : e004756, 2025年
- 辻 成佳：【脊椎関節炎診療のアップデート】掌蹠膿疱症性骨関節炎診療のアップデート, リウマチ科, 73 (1) : 41-45, 2025年
- Okubo Y, Murakami M, Kobayashi S, Tsuji S, Kishimoto M, Ikeda K, Jibiki M, Neimark E, Padilla B, Shen J, Peters S, Terui T. : Risankizumab in Japanese patients with moderate-to-severe palmoplantar pustulosis: Results from the randomized, phase 3 JumPPP study, J Dermatol, 52 : 593-602, 2025年
- Yamamoto H, Taniguchi Y, Tsuji S, Helliwell PS, Kishimoto M. : Efficacy of IL-23 inhibitors in axial involvements of chronic non-bacterial osteitis with palmoplantar pustulosis: a case series, Rheumatology (Oxford), doi: 10.1093/rheumatology/keaf088. : Online ahead, 2025年
- Shirakawa K, Mugita M, Hirota M, Izumoto R, Tanaka T, Arai T, Fujioka E, Yabuta H, Yoden T, Sakamoto T, Hiraga K, Watanabe N, Kataoka K, Tsuji S. : Association between phase angle and hospital-associated disability in hospitalized patients in the internal medicine ward: A prospective observational study, Clin Nutr ESPEN, 67 : 296-302, 2025年
- 辻 成佳, 山本みどり, 佐々木公子, 大池教子：監修および著者, 臨床栄養デクシオナリー 日本人の食事摂取基準 (2025年版) 対応, 辻 成佳 (監修), 1-480, 改訂7版, 2025年, (株) メディカ出版 大阪

学会発表

- 辻 成佳, Kavanaugh Arthur, Mizelle Kristi V., Fitzgerald Oliver, Soriano Enrique R., Nash Peter, Ciecinski Sandra, Zhou Limei, Setty Arathi, Gossec Laure : ウバダシニブの投与を受けたPsA患者における152週時の疾患コントロールの達成 2つの第3相試験の長期継続試験の事後解析 (アンコール発表), 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
- 伊藤 宣, 石川 肇, 辻 成佳, 中山政憲, 西田圭一郎, 望月 猛, 蛭名耕介, 小嶋俊久, 松本卓巳, 窪田綾子, 中島 新, 金子敦史, 松下 功, 原 良太, 櫻庭康司, 赤崎幸穂, 松原 司, 持田勇一, 神戸克明, 桃原茂樹：リウマチ性疾患の手術 (休薬・合併症・その他) 関節リウマチの整形外科手術において, 周術期の休薬は非休薬に比べて術後合併症を増やすか, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
- 辻 成佳, 亀田秀人, 岸本暢将, 渥美達也, 大久保ゆかり, 岡本奈美, 川上 純, 藤本 学, 宮川一平, 森 雅亮, 森田明理, 渡邊 玲, 富田哲也：脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ "SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について,

- 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
4. 辻 成佳, 松井 聖, 谷口義典, 大久保ゆかり, 金子祐子, 田村直人, 亀田秀人, 岸本暢将, 土橋浩章, 川上 純, 渥美達也, 岡本奈美, 小田 良, 門野夕峰, 高窪祐弥, 中島亜矢子, 中島康晴, 藤尾圭志, 藤本 学, 松野博明, 松原優里, 宮川一平, 森 雅亮, 森田明理, 山村昌弘, 渡邊 玲, 野崎太希, 玉城雅史, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"について, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 5. 辻 成佳: 脊椎関節炎の最新の診断と治療・リウマチ医が知っておくべき脊椎病変・脊椎疾患 掌蹠膿疱症性骨関節炎, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 6. Tomita T, Mikami H, Tomioka H, Tsuji S, Nakagami H: Development of IL17A vaccine targeting axial spondyloarthritis., EULAR2024, 2024年6月, オーストリア, ウィーン
 7. 小野慶介, 岸本暢将, 川合聡史, 多田久里守, 田村直人, 谷口義典, 亀田秀人, 辻 成佳, 金子祐子, 土橋浩章, 岡野匡志, 土師陽一郎, 森田明理, 岡田正人, 富田哲也: 炎症性腸疾患の既往歴・合併がある脊椎関節炎患者の臨床的特徴と炎症性腸疾患関連脊椎関節炎の診断について ASAS-PerSpA研究からの報告, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 8. 鍾 天慈, 富田哲也, 門野夕峰, 多田久里守, 辻 成佳, 野崎太希, 小山芳伸, 土橋浩章, 岡野匡志, 川合聡史, 清水昭伸: 仙骨と腸骨のsegmentation maskによる骨髓浮腫検出の改善 (Improvement of Bone Marrow Edema Detection with Sacrum and Ilium Segmentation Masks) (英語), 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 9. 小倉周真, 富田哲也, 門野夕峰, 多田久里守, 辻 成佳, 野崎太希, 小山芳伸, 土橋浩章, 岡野匡志, 川合聡史, 清水昭伸: MRI画像を用いた体軸性脊椎関節炎の診断支援における骨びらん検出処理の改善, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 11. 辻 成佳: 乾癬性関節炎Year in Review 2023-2024, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 12. 山下千佳紗, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山真里, 高見賢司, 辻 成佳, 柳田真希, 金澤成典, 小泉敏三, 林 美沙: 掌蹠膿疱症・掌蹠膿疱症性骨関節炎における扁桃誘発試験と扁桃摘出術の有用性の検討, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 13. 辻 成佳, Mizelle Kristi V., Tillett William, Ali Mira, Iyile Thomas, Gao Tianming, Setty Arathi, Walsh Jessica, Coates Laura C.: 荷重関節病変で層別化した乾癬性関節炎患者におけるウパダシチニブの有効性 SELECT-PsA 1/2試験の事後解析, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 14. 辻 成佳, 亀田秀人, 岸本暢将, 渥美達也, 大久保ゆかり, 岡本奈美, 川上 純, 藤本 学, 宮川一平, 森 雅亮, 森田明理, 渡邊 玲, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について (JCR2024 アンコール発表), 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 15. 大久保ゆかり, 辻 成佳, 岸本暢将, 田村誠朗, 小林里実, 石原陽子, 谷口義典, 高窪祐弥, 渡邊 玲, 藤本 学, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における掌蹠膿疱症性骨関節炎の臨床的特徴について (JCR2024アンコール発表), 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 16. 井上健太, 高見賢司, 辻 成佳: 男性PsA患者の骨折リスクの高い重症骨粗鬆症に対するロモソズマブの臨床成績, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪市
 17. 辻 成佳, 高見賢司: 歯根膿疱部の16S rRNA解析を行った掌蹠膿疱症性骨関節炎の一例, 第47回日本骨関節感染症学会, 2024年10月, 出雲
 18. 泉本亮二, 平賀絢史朗, 麦田盛穂, 世傳智貴, 花田留美, 新谷

隆, 辻 成佳: 下肢虚血性疼痛へSCS埋め込みにより疼痛緩和を得られた症例, 第54回日本慢性疼痛学会, 2025年2月, 仙台

19. Tsuji S, Tomita T: PREVALENCE AND CLINICAL CHARACTERISTICS OF HLA-B27 IN JAPANESE PATIENTS WITH PSORIATIC ARTHRITIS, CORA2025, 2025年3月, イタリア/ヴェネツィア

研究会発表

1. 松本吉史, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 廣田将史, 阪本拓也, 辻 成佳: 関節リウマチ患者に対する作業療法の現状と今後の展開, 第10回リウマチセンター合同カンファレンス, 2025年2月, 加古川

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
辻		辻		交代 (初めての 方のみ)		辻		辻	

表2 年度別外来延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	3,607	3,522	2,786	1,253	925

救 急 総 合 診 療 科

スタッフ 主任部長：岸 正司（副院長、救急総合診療センター長、集中治療室長、医療安全対策室長）
副 部 長：宇都佳彦（臨床研修部長代行）
医 長：暮部裕之
副 医 長：高森啓成
専 攻 医：藤吉仁史（2024年12月～2025年1月）、本郷卓英（2024年4月～5月）、
大畑颯世（2024年6月～7月）、呉 昊成（2025年2月～3月）、
平井章大（2024年9月～10月）

1. 診療内容

救急外来初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、臨床研修医のプライマリケア、救急全般に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムも担っている。

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
呉 (暮部)/ 岸	高森/ 暮部	暮部 (呉)/岸	呉 (高森)/ (宇都、 岸)	高森 (呉)/ (宇都)	呉 (暮部)/ (宇都)	暮部 (呉)/岸	高森/ 暮部	呉 (高森)/ 岸	暮部 (呉)/ (宇都)

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
外来	5,613	6,152	5,601	5,088	5,124
入院	1,532	2,903	3,059	4,849	5,772

4. 認定医・専門医など

日本救急医学会指導医 1名（岸）
日本専門医機構救急科専門医 1名（岸）
日本内科学会認定専門医 1名（宇都）
日本内科学会認定内科医 2名（宇都、暮部）
日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名（暮部）
日本専門医機構内科専門医 1名（高森）

5. 業績

学会発表

- 岸 正司：当院において胸部X線の画像診断にAIを導入し、その機種を選定した経緯，第52回日本救急医学会総会，2024年10月，仙台

研究会発表

- 岸 正司：災害医療に関する基礎知識 ～当院での災害対応に向けて～，第25回 あわぎフォーラム，2024年7月，大阪
- 宇都 佳彦：診断学入門（初診外来の症例を通して），第173回日本生命病院医学セミナーUpdate，2024年12月，大阪

検 査 診 断 科

スタッフ 部 長：大山摩佐子（予防医学センター副センター長）

1. 診療内容

日常診療において、診断・治療を行うには、正確かつ迅速な検査が求められる。

当院は地域医療支援病院として病診連携を進める上で、高度で専門的な検査を行うことや、患者さんへの継続的なケアを安定して受けていただくために、病診連携検査（CT、MRI、消化管検査、生理検査）を行っている。

検査診断科では、特に地域のかかりつけ医の先生方へ生理検査として、各種超音波検査（頸部エコー、甲状腺エコー、心エコー、腹部エコー、血管エコー）や呼吸器、循環器、神経学的検査を病診連携検査として行っている。

地域の様々な医療機関がその機能を十分に発揮しながら相互に連携することで、地域の患者さんを総合的、効果的かつ継続的にケアし、患者さんのための医療を目指していく。

スタッフ 部長代行：城光寺 龍

1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学のおよび遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、病理診断管理加算Ⅰの算定を行なっているほか、病理部門システム（松波ガラスPathwindow）にて、標本作製過程へのバーコード導入により検体取り違い防止のための機構を導入しているほか、デジタル画像の報告書への添付も行っている。

新規診療内容としては、液状化細胞診（Thinprep）を非婦人科以外の材料へ広げ、標本作製の標準化および省力化を行っている。

一部医療機関との間で検査（免疫染色）の受託を行っている。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師 1名（大阪大学より）

臨床検査技師（中央検査部兼任）：

6名（細胞検査士4名）

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：6,241件

細胞診断：9,690件

術中迅速診断：160件

病理解剖：8件（内科系7件、剖検率2.4%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
R02	6,060	9,670 (3,402)	195	4
R03	6,069	9,696 (4,146)	171	8
R04	6,479	9,752 (4,266)	213	5
R05	6,417	9,718 (4,342)	177	5
R06	6,241	9,690 (4,603)	160	8

2024年度はCPCの開催は7回行われ、内容は下記の如くであった。

第326回 8月30日：慢性リンパ球性白血病（血液内科）

第327回 10月24日：非閉塞性腸管虚血（消化器外科）

第328回 11月22日：高Ca血症（腎臓内科）

第329回 12月24日：肺癌（呼吸器・免疫内科）

第330回 1月28日：膿胸（呼吸器・免疫内科）

第331回 3月4日：播種性クリプトコッカス症
（呼吸器・免疫内科）

第332回 3月25日：睪癌（消化器内科）

4. 業績

論文・著書

- Ota H, Hoshino H, Jokoji R, Arisaka Y, Mizuno H : Pancreatic Adenosquamous Carcinoma Discovered Upon a Resection for Neck Tuberculous Lymphadenitis: A Case Report, Cureus, 16 : e57382, 2024年

学会発表

- 隅田裕子, 城光寺 龍, 水口洋一, 大嶽雄也, 伊藤今日子, 堤涼一郎 : Collagenous spherulosis を伴う乳腺筋上皮腫の1例, 第65回日本臨床細胞学会総会（春季大会）, 2024年6月, 大阪

予 防 診 療 科

スタッフ 部 長：栗波仁美（予防医学センター長）
松岡洋人（予防医学センター副センター長）
梅下光子

1. 2024年の概要

予防医学センターにて健診を行い要治療、要精密検査となった受診者に対しては主に日本生命病院の各専門診療科へ予約紹介を行っているが、専門診療科を受診する必要性が明らかでない検査異常について再検査を行う外来診療科として予防診療科を2022年に新設した。現在は週1回水曜午後、予防医学センターからのみの紹介を受けており2024年度は初診138件、再診89件の計227件の診療を行った。予防診療科への依頼で最も多かったのは表1の通りSCC（腫瘍マーカー）高値35件、CEA（腫瘍マーカー）高値32件、脂質異常および糖代謝異常の6か月後再検査29件、末梢血液検査（白血球、血小板）異常15件、CRP高値8件であった。上位の紹介症例は2023年度と同様であった。予防診療科にて再検査、精密検査を行った結果専門診療科へ紹介となったのは63件であった。専門科紹介のうちドックや健診結果に基づくものは61件、精密検査を行った結果新たに見つかった所見について紹介したものが2件あった。予防診療科から紹介した先の診療科内訳を表2-1、2-2に示す。2024年度も一番多い紹介先は消化器内科であった。

なお禁煙外来は現在休止中であるが、今後は薬剤供給の目処がつき次第行っていく予定である。

表1 予防診療科紹介内訳

NO	科への依頼内容	%（占率）	件数
1	SCC高値	25.4%	35
2	CEA高値	23.2%	32
3	脂質異常 6か月後再検査	21.0%	29
4	末梢血液（WBC, Plt）異常	10.9%	15
5	CRP高値	5.8%	8

表2-1 予防診療科から他科への紹介
（ドック、健診結果に基づくもの）

NO	診療科	人数
1	消化器内科	12人
2	呼吸器・免疫内科	9人
3	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	7人
4	血液・化学療法内科	6人
5	泌尿器科	5人

表2-2 予防診療科から他科への紹介
（検査にて新たに見つかった所見）

NO	診療科	人数
1	循環器内科	1人
1	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1人

救 急 総 合 診 療 セ ン タ ー

スタッフ センター長：岸 正司（副院長、救急総合診療科部長、集中治療室長、医療安全対策室長）
副センター長：中川 厚（循環器内科担当部長）、西原俊作（整形外科部長）
医 師：宇都佳彦、暮部裕之、高森啓成、森本尚喜、阿部凌子、阪本淳那、藤吉仁史、
水野 彰、本郷卓英、平井章大、大畑颯世、呉 昊成、井上健太、藤田悠花
看 護 師：千嶋しおり、原 実保、松本美香、岩崎由希子、牧田佐和子、坪内由理、
辻井美恵、丸岡 綾、河合洋子、湯浅賀容子、飯田志保、中村弘美、荒木真弓、
豊田浩子、木村祐貴、本田 愛、北村萌乃、根来 楓、太田佳江、源川和平、
熊井紫洋、芝氏佑果、原 佳代、近明日香、阿波千明
薬剤師・医療技能職：玉川雄一（中央臨床検査部）、田中恵介（臨床工学室）、
藤丸泰一（中央放射線部）、中村由美（栄養管理室）、足立充司（薬剤部）
事 務：吉永純一（総務人事G）、森本太輔（医事サービス部）

1. センターの概要

地域の救急医療における役割を意識しながら、その中核として円滑に機能するよう心がけている。

センター長（救急科専門医、指導医）、救急診療科スタッフのみならず、関連する診療科を代表する副センター長、内科当番医、外科系・内科系各科担当医（これらの指導の下で臨床研修医等も）が、総合力で救急患者の診療にあたっている。

2. 主な対象疾患

- ・重症度、内因・外因を問わず、当センター受審が必要と判断する急性病態
- ・紹介すべき診療科が特定しづらい病態

3. 主な検査と治療

- ・救急室における呼吸・循環管理（人口呼吸器など）
- ・ポータブル画像撮影
- ・超音波検査
- ・創傷処置
- ・小手術
- ・洗浄処置

4. 業績

研究会発表

1. 岸 正司：災害医療に関する基礎知識 ～当院での災害対応に向けて～、第25回あわぎフォーラム、2024年7月、大阪

がん治療センター

スタッフ センター長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、輸血管理室長、化学療法室長）
医 師：田中敏雄（消化器内科）、甲原雄平、二宮隆介（呼吸器・免疫内科）、
川田純司（消化器外科）、富田栄美子（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、
橋本奈美子（産婦人科）、高橋 励（神経科・精神科）、垣本健一（泌尿器科）、
金澤成典（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、小林美登利（放射線診断・IVR科）、
丸岡真太郎（放射線治療科）、花田留美、玉井 裕、日野未来、清水梨江、
津村八江、博多紗綾（麻酔・緩和医療科）
看護 師：小山佐知子、酒井亜紀子、玉井千春、村上弘子、西川由佳子、里井景子、阪井理恵、
土井美奈子、鄭 恩愛（看護部）
薬剤師・医療技能職：田中 孝（リハビリテーション室）、浅井正宏（中央臨床検査部）、
矢野勝之（中央放射線部）、吉原早紀（栄養管理室）、宮麻紀子（薬剤部）、
本家裕子（あったかサポートセンター）、丸山加奈（神経科・精神科）
事 務：阿瀬康治（予防医学センター）、新村愛佑美（医事サービス部）、山口美里、
岡山麻未（あったかサポートセンター）

1. 診療内容

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

【主たる業務】

- 1) がんに関する集学的治療の充実
- 2) 緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する教育研修
- 3) がん治療に関する相談対応、情報提供
- 4) がん登録の推進

【具体的内容】

1) 集学的治療

- ①多診療科・多職種が参加するキャンサー・ボードを月1回の頻度で開催した。当番診療科（表1）の経験症例を中心に、それ以外の診療科における症例や緩和ケアチームが介入した症例に関する診断・治療方針の検討を行った。

②レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

2) 緩和ケア

- ①緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスを開催した。緩和ケアチーム依頼件数（入院）181件、緩和ケア外来：46件であった。

②緩和医療啓発のための講演会の開催

未開催

- ③がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく緩和ケア研修会

2025年2月15日に開催し、26名が参加した。

3) 相談支援

①がん患者指導管理料の算定

がんの診断を受けた患者に対して、PEACE研修会を受講した医師と有資格看護師（がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師・がん薬物療法看護認定看護師）とが共同して指導した場合に算定できるものであ

るが、377件に対して行った。

②がん患者指導管理料の算定

がん患者の心理的不安を軽減するための指導を422件に対して行った。

③がん患者指導管理料の算定

抗悪性腫瘍の投薬又は注射の必要性などについての説明を80件に対して行った。

④がん相談

がん治療に伴って生じる様々な相談を3125件受けた。治療・副作用、緩和ケア、ギアチェンジ・ACP、在宅医療・ホスピス等の療養の場、就労や医療費、アビランス等の相談があった。

⑤がんサロン（あったか茶論）の企画・運営

月1回の定期開催を継続している。2024年11月には、近隣の大阪府がん診療拠点病院（済生会泉尾病院・多根総合病院）と「大阪市西部3病院合同がんサロン」を企画、実施した。（表2）

4) がん登録

がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

5) がん治療センター便りの配信

がん治療センターの活動内容を院内に周知する目的で、「がん治療センター便り」を月1回院内グループウェアで配信した。

表1 キャンサーボード

開催月	当番診療科	参加人数
2024年		
4月	放射線診断・IVR科	34名
5月	がん治療センター	41名
6月	耳鼻咽喉・頭頸部外科	47名
7月	麻酔・緩和医療科	40名
8月	放射線治療科	45名
9月	消化器内科	37名
10月	血液・化学療法内科	49名
11月	泌尿器科	39名
12月	呼吸器・免疫内科	38名
2025年		
1月	皮膚科	46名
2月	リハビリテーション科	43名
3月	消化器外科	39名

表2 がんサロン

開催月	テーマ	講師
2024年		
4月	がん相談支援センターを上手に活用しよう！～病気と上手につきあっていくために～	がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子 MSW 本家裕子
5月	がんと上手に向き合うためのリフレッシュ！～アロママッサージのセルフケア体験～	緩和ケア認定看護師 土井美奈子
6月	想いをかたちに～カリグラフィー体験～	カリグラファー 高橋晶子 ひとりプロジェクト 川西真由美 代表
7月	アピアランスケア～夏のトラブル対策～	アートネイチャー
9月	ヨガ体験～椅子に座ってできるやさしいヨガ～	ヨガインストラクター Miyako
10月	がん相談支援センターを上手に活用しよう！～情報交流会～	がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子 MSW 本家裕子
12月	長澤放射線技師長が解説！『PET検査で何がわかる？』	放射線科（技師長） 長澤浩造
2025年		
2月	がん化学療法～治療をしながら自分らしく過ごそう～	がん薬物療法認定薬剤師 六車裕一 がん化学療法認定看護師 玉井千春 がん薬物療法認定薬剤師 鄭 恩愛 緩和ケア認定看護師 土井美奈子 MSW 本家裕子
	ヨガ体験～椅子に座ってできるやさしいヨガ～	BCY乳がんヨガ指導者 JUNCO
3月	玉川臨床検査技師に聞こう！『腫瘍マーカーって？』	臨床検査技師 玉川雄一

【大阪市西部3病院合同がんサロン】

2024年		
11月	ミニ講座①「治療中も運動しよう！」	ルネサンス運動支援センター 石野田神
	ミニ講座②「高額医療・傷病手当・障がい年金」	済生会泉尾病院MSW 中山智史
	ミニ講座③「乳がんセルフチェック」	多根総合病院 がん看護専門看護師 植村美奈子
	ミニ講座④「治療中の食事の工夫」	管理栄養士 岩田真季
	運動能力測定&相談	ルネサンス運動支援センター
	パーソナルカラー診断&おしゃれケア帽子	志穂さん
	リンパドレナージュ体験	がん化学療法認定看護師/LETTAリンパ浮腫指導技術者養成協会認定セラピスト 玉井千春 日本医療リンパドレナージュ協会セラピスト 酒井希代子 済生会泉尾病院 緩和ケア認定看護師 木下富貴子 緩和ケア認定看護師 土井美奈子 看護師/アロマセラピスト 酒井希代子 済生会泉尾病院 緩和ケア認定看護師 木下富貴子
	アロマセラピー体験	(株)アートネイチャー/ アプロディーテスタイル
	アピアランスケア相談	認定看護師、MSW、 管理栄養士 他
	個別相談	
(敬称略)		

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：橋本奈美子（産婦人科部長）

医師：高山敬範、八田幸治、田中絢香、宮本真由子、志村寛子、角田紗保里、金光麻衣、山田美由美、小松伶奈、新垣佑里香、藤崎佳乃、関谷直正、富山大勝（産婦人科）、山下晋也（消化器外科）、垣本健一、湊のり子（泌尿器科）

看護師：吉岡真奈、麦田友里、石井広美、岩崎由希子、浅利めぐみ（看護部）

薬剤師・医療技能職：藤岡栄悟（リハビリテーション室）、倉本訓子（中央臨床検査部）、山田純子（中央放射線部）、植田早紀（栄養管理室）、森岡浩子（薬剤部）

事務：友永桂汰（医事サービス部）

1. 診療活動

我が国における高齢化は様々な問題を引き起こしており、婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50歳以上の女性の11%が手術を受けているという報告がある。

骨盤内臓器脱は直接的死因にはならないが、QOL（生活の質）をひどく低下させる疾患である。疾患の特徴として、婦人科または泌尿器科のどちらを受診するかを迷い、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの、受診をためらう女性が多い。

当センターは、これらの疾患を治療しより良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートすることを目的としている。

手術療法の適応とならない軽症例については、リハビリテーション室にて指導を行い、再発予防のための減量目的に主に手術患者さんを対象に栄養指導も行っている。

1) 治療部門

〈外科的治療〉

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）：腹腔鏡下ロボット支援仙骨脛固定術（LSC,RSC）、腔式子宮全摘術、腔壁形成術、会陰形成術、ル・フォー中央腔閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁：中部尿道スリング手術（TOT手術）

●腹腔鏡下仙骨脛固定術について

腹腔鏡下仙骨脛固定術（LSC）およびロボット支援下手術（RSC）は、メッシュを使用する再発の少ない術式とされ、当院にでも導入している。

●vNOTES（経腔腹腔鏡手術）

骨盤臓器脱に対する腔式子宮全摘症例を対象に、2024年よりvNOTES（経腔腹腔鏡手術）を施行している。卵巣腫瘍を認める症例など、従来の経腔手術が難しいと考えられる場合でも低侵襲治療が可能となった。

【2024年度 入院手術件数】

LSC/RSC	39件
腔壁形成（膀胱瘤手術）他	12件
VNOTES	11件
腔式子宮全摘（VT）	4件
腔閉鎖	4件
合計	70件

〈保存的治療〉

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁、過活動性膀胱（OAB）に対する薬物治療
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー修復・指導

【2024年度 栄養指導件数】

合計 2 件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	0	0	0	1	0	0
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	0	0	1	0	0

【2024年度 リハビリ：骨盤底筋運動指導人数】合計78件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	7	5	5	10	8	5
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	5	7	1	11	7	7

2) 広報（サービス）部門

総合受付、予防医学センターでのパンフレット配布

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 セ ン タ ー

スタッフ センター長：橋本久仁彦

(副院長、内分泌・代謝内科部長、栄養管理室長、あったかサポートセンター長)

医 師：中川 厚 (循環器内科)、大畔健太、高森啓成、松島 希、森本尚喜、藤吉仁史、
大畑颯世、呉昊成 (内分泌・代謝内科)、宇都佳彦 (救急総合診療科)、
宇津 貴、水本 綾、光本憲祐、西垣内俊也 (腎臓内科)、中長摩利子 (小児科)、
垣本健一 (泌尿器科)、齋藤卓也 (形成再建外科)、
是近彩香、芳村悠太 (ニッセイ予防医学センター)

看 護 師：高崎かおり、角南ちえ子、秦久美子、高山由美子 (看護部)、
石井泉美 (予防医学センター)

管理栄養士：坂本彩弥、岩田真季、中村由美 (栄養管理室)

薬剤師・医療技能職：倉本訓子 (中央臨床検査部)、野村暢彦 (薬剤部)、
麦田盛穂 (リハビリテーション室)

事 務：木下奈美 (医事サービス部)、熊田洋子 (あったかサポートセンター)、
松野洋子 (総合企画部)

1. 診療内容

糖尿病・内分泌センターにおいては、糖尿病および内分泌疾患を有する患者を中心として、専門性を有する院内の各診療科医師および各部門のメディカルスタッフにより、患者個人個人に合わせたオーダーメイドの質の高い診療を展開している。

2. 診療体制

糖尿病および内分泌疾患を有する患者の中でも、過食・偏食・運動不足などの生活習慣が影響を及ぼす糖尿病・肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などを有する患者を主体に、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士などによるチームが患者の状態を評価し生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑止し少しでも健康に近づけるような診療を目指している。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～金曜日の5日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、内分泌・代謝内科、腎臓内科、看護部、栄養管理室、リハビリテーション室、中央臨床検査部、薬剤部が協力しながら、糖尿病に関する集団指導 (糖尿病ふれあい教室) を週2日実施した。またセンター長による回診 (COVID-19流行後は単独で診察) を毎週月曜日に行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

① オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取

エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。2024年度に当センターを受診した患者数は延べ1,870名 (2023年度は1,973名) であった。

② 糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した (糖尿病合併症管理)。2024年度における実施件数は119件 (2023年度は128件) であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した (糖尿病透析予防指導管理)。2024年度における実施件数は681件 (2023年度は544件) であった。

2) 入院患者の診療

① 糖尿病集団指導

〈糖尿病ふれあい教室講師〉

- ・内分泌・代謝内科：大畔、藤吉、大畑、森本、呉
- ・腎臓内科：宇津、光本、平井
- ・薬剤師：古久保、森岡、野村、内藤、宮原、奈良
- ・理学療法士：麦田、廣田、新井、
- ・検査技師：浅野、倉本、玉川、大嶽、小西、大澤、山添、渡辺、鈴木、山崎、村崎、高橋
- ・管理栄養士：岩田、吉原
- ・看護師：角南、西川

2024年度における糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ168名 (2023年度は225名) であった。

3) 活動

① 日本生命病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関す

る正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、血糖測定、医療相談などを実施した。

〈日時〉2024年11月15日（金）11：30～13：30

〈場所〉日本生命病院1F あったかふれあいホール

〈内容〉

- ・血糖測定
- ・筋肉量・握力測定
- ・血管年齢測定
- ・栄養相談、ベジチェック（野菜摂取量チェック）
- ・服薬相談
- ・医師相談
- ・ミニセミナー など

②公開セミナーの開催

例年、患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催しているが、2024年度は引き続きCOVID-19感染状況から開催を中止した。

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：有坂好史（消化器内科主任部長）

医師：田中敏雄、若原ちか、河田奈都子、萩巢恭平、北田隆起、板東正貴、
原 和也（消化器内科）、宇都佳彦（救急総合診療科）、
水野 均、川田純司、山下晋也、星野宏光、江口 聡（消化器外科）、
栗波仁美、大山摩佐子（予防医学センター）

看護師：芳賀宣子、榎本知奈美、村上真紀、杉浦理絵、酒井亜紀子（看護部）、
森 エミ、阪井理恵、木下恵利子、西田幸子（予防医学センター）

薬剤師・医療技能職：浅野正宏（中央臨床検査部）、足立充司（薬剤部）、加藤千尋（臨床工学室）

事務：岩谷正人（総合企画部）、阿瀬康治（予防医学センター）

1. 診療内容

消化器内視鏡センターは、日本生命病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指している。安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。日本生命病院での内視鏡検査、加療、ならびに予防医学センターでの人間ドック、企業健診を行い、消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療を目指す。また、地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約できるよう便宜をはかり、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本大腸肛門病学会、日本消化管学会、日本膵臓学会、日本胆道学会の指導施設としての役割を果たしている。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

膵・胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ

管腔内超音波検査法（IDUS）

下部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

超音波内視鏡（EUS）

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：カンファレンス

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

血 液 浄 化 セ ン タ ー

スタッフ センター長：宇津 貴（副院長、内科統括、腎臓内科部長、臨床工学室長）

副センター長：垣本健一（泌尿器科部長）

医 師：不二樹五郎（循環器内科）、水本 綾、光本憲祐、西垣内俊也、
平井章大（腎臓内科）、新谷 隆（心臓血管外科）、湊のり子（泌尿器科）、
王 聡（泌尿器科）

看 護 師：酒井亜紀子、河村理香、柏井由美子、安藤圭子、神谷香里、川端千里、宇埜美奈子

薬剤師・医療技能職：池田久雄、加藤千尋、田中恵介、坂本彩弥、田口貴大

事 務：萩原佑気（あったかサポートセンター）

1. 診療内容

腎臓内科・泌尿器科の医師スタッフ、看護部、ME部門、薬剤部、栄養管理部などの他職種が共同して診療を行うことを特徴としている。新病院移転後は外来透析を開始し、透析ベッドも3床から20床へ増床したため、他施設での外来透析患者の入院対応など幅広く対応している。2018年4月から心臓血管外科医師も当センターのメンバーに加わり、ブラッドアクセスの造設・再検を積極的に行っている。また生理検査室の協力を得て、SPPを用いたフットケアなどにも新しく取り組んでいる。

集中治療室での血液浄化療法においても、持続血液濾過透析（CHDF）のみでなく、血液透析（HD）にも対応可能となっている。

近年は透析患者に対する運動療法に注目が集まっており、当センターでも運動指導研修を受講した医師、看護師、理学療法士が、外来透析患者さんを対象に運動指導を実施し、身体・認知機能低下やフレイル合併などの予防に取り組んでいる。

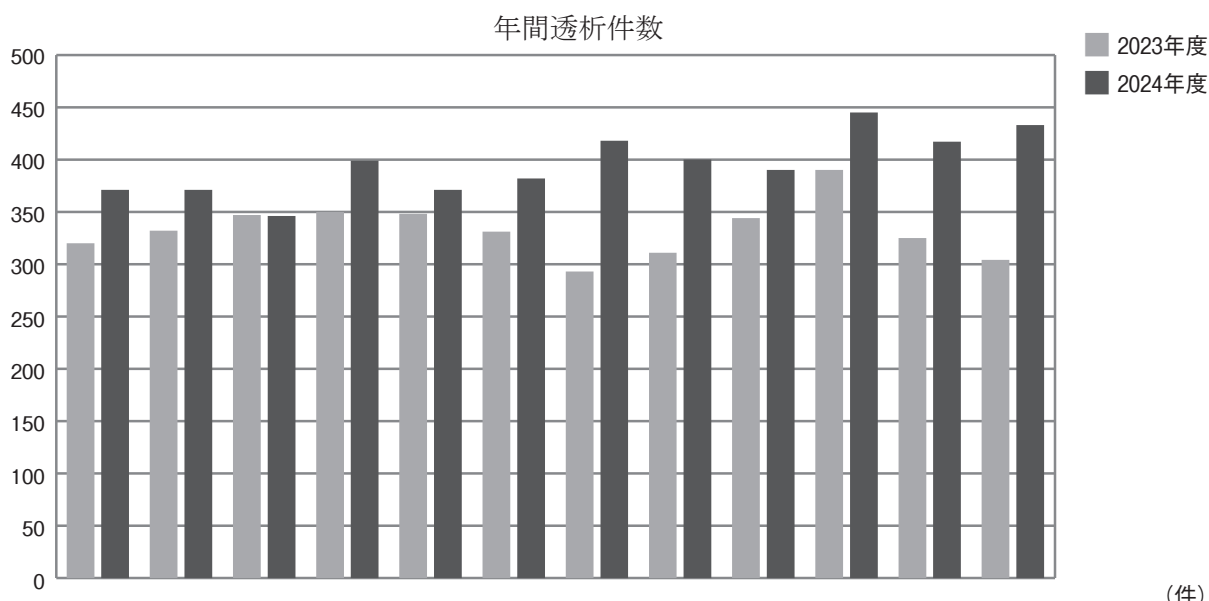
2. 診療実績

透析導入患者	38名
内シャント手術件数	40件
シャントPTA件数	92件

3. 専門医・指導医など

日本透析医学会専門医・指導医 2名（宇津・水本）

図1 2024年度 月別血液透析延べ件数



4. 業績

論文・著書

1. Uzu T, Hirai S, Nishigaito T.: Unexpected Severe Acute Abdominal Pain in a Hemodialysis Patient., *Kidney*360, 5: 1948-1949, 2024年
2. 宇津 貴: 慢性腎臓病患者に対するこれからの貧血治療, 日本生命病院医学雑誌, 52: 1-6, 2024年

学会発表

1. 水本 綾, 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 光本憲祐, 宇津貴: 大腸にアミロイド沈着を認めた長期血液透析患者の1例, 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024年6月, 横浜
2. 西垣内俊也, 山下千賀子, 平井祐里, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津貴: 高マグネシウム (Mg) 血症に対する血液浄化は凝固系異常を考慮すべきである, 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024年6月, 横浜
3. 山下千賀子, 平井祐里, 西垣内俊也, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津貴: ロキサデュスタット (ROXA) の長期投与中に甲状腺機能低下症をきたした輸血後鉄過剰症の1例, 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024年6月, 横浜
4. 新名航平, 光本憲祐, 平井章太, 西垣内俊也, 水本 綾, 宇津貴: 急激な転帰をたどった後腹膜線維症の1例, 第244回日本内科学会近畿地方会, 2024年6月, 大阪
5. 西垣内俊也, 新名航平, 平井章太, 光本憲祐, 水本 綾, 宇津貴: 不明熱と急速進行性糸球体腎炎 (RPGN) の臨床経過を呈したNSAIDsによる薬剤性尿管管間質性腎炎の一例, 第54回日本腎臓学会西部学術大会, 2024年10月, 姫路
6. 光本憲祐, 平井章太, 西垣内俊也, 水本 綾, 水野 均, 宇津貴: *Edwardsiella tarda*を含むPolymicrobial peritonitisを来した腹膜透析患者の1例, 第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2024年11月, 福岡
7. 宇津 貴: 血液透析におけるカリウム管理の考え方 その「野菜・果物制限」は患者さんのためになっていますか?, 第102回大阪透析研究会, 2025年3月, 大阪

スタッフ センター長：芳川浩男（特任副院長、脳神経内科部長）
 顧問：森 悦朗
 医師：仁科拓也、塚原彰弘、鈴木由紀子（脳神経内科）、
 高橋 励、青木保典、前西真梨子、竹田佳世、日高洋介（神経科・精神科）、
 田村和義、鈴木 強（脳神経外科）
 看護師：新部里美、森蘭祐子、井上けい子、安藤圭子、小谷口早苗（看護部）
 薬剤師・医療技能職：山本諭希（臨床心理士）、福庭加奈（あったかサポートセンター）、
 千原亜紀子（薬剤部）
 事務：堀本政希（予防医学センター）、津野百合香（医事サービス部）

1. 診療内容

新病院の新築・移転に際してはその基本構想に「高齢社会を支える診療機能の強化」「健康寿命延伸に向けた予防医療・先制医療の推進」を掲げ、認知症に係る診断・治療の強化を重点課題とした。この目的のために2017年4月に認知症疾患医療センター準備室（室長：森悦朗顧問）を新設し、具体的な検討と準備を進めてきた。

そして2018年4月に、認知症の予防・早期診断・治療を中心に脳機能障害をきたし得る疾患について幅広く診療する観点から、名称を「脳機能センター」とし、脳神経内科、神経科・精神科、脳神経外科の各診療科と看護部を中心としたチームによる体制を整備し診療を開始した。2019年11月芳川特任副院長が脳神経内科主任部長に赴任後は、笠山院長から芳川特任副院長にセンター長が変更された。

脳機能センターでは、種々の認知症性疾患や軽度認知障害（認知症前駆状態）、さまざまな原因による記憶障害、言語障害、高次脳機能障害に対する診療・セカンドオピニオン・コンサルテーションを実施してきた。治療法のみならず介護法にも原因疾患の診断と病態の把握が大きく関わるため、専門医による診察、詳細な神経心理評価、先進的な画像検査などを用いることにより原因疾患を診断することが重要である。認知症性疾患に対する治療から介護法や社会資源の利用についての指導までを含め、病態に合わせた治療を実施した。

2. 診療体制

外来診療では、脳神経内科および神経科・精神科の両診療科で、対象疾患の診療を行ってきた。特に、毎週月曜日午前と火曜日午後には神経科・精神科による「物忘れ外来」、水曜日午後には脳神経内科による「物忘れ外来」、木曜日午後には「脳機能障害外来」の専門外来を実施した。

認知症性疾患の診療においては、脳神経内科医、神経・精神科医、脳神経外科医が連携し診療を行った。3.0テスラMRI、脳血流SPECT、DATスキャン、MIBG心筋シンチグラムなどの高度医療器を用いた画像診断を行うとともに、公認臨床心理師および言語聴覚士に

よる認知機能評価、認知症看護認定看護師による看護を実施した。

正常圧水頭症が疑われた患者については入院により精密検査を行い、適応となる患者に対しては脳神経外科でシャント手術を施行した。

3. 診療実績

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、前頭側頭型認知症、原発性進行性失語症、特発性正常圧水頭症、脳血管障害や外傷性脳損傷などに伴う高次脳機能障害などの診療を中心に行ってきた。入院および外来患者数を含む診療実績は脳神経内科および神経科・精神科の項に記す。

また、1ヵ月に1～2回、脳機能センターの全体カンファレンスを実施し、診断・治療困難な症例についての検討、診療技術の向上のための勉強会および情報共有を行った。

また、レビー小体型認知症を対象とした新規薬剤の臨床試験に参加した（継続中）。

令和6年3月12日より、アルツハイマー病患者に対するレカネマブ治療を開始した。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会専門医	3名（森、芳川、仁科）
日本神経学会指導医	3名（森、芳川、仁科）
日本認知症学会専門医	1名（森）
日本認知症学会指導医	1名（森）
日本老年精神医学会専門医	1名（芳川）
日本脳卒中学会専門医	2名（森、田村）
日本脳神経外科学会専門医	1名（田村）
日本精神神経学会専門医	2名（高橋、鈴木）
日本精神神経学会指導医	2名（高橋、鈴木）
PET核医学認定医	1名（芳川）

5. 業績

論文・著書

1. 森 悦朗：特発性正常圧水頭症の症候学, Brain and Nerve,

- 76 (2) : 101-107, 2024年
2. Taomoto D, Sato S, Kanemoto H, Suzuki M, Hirakawa N, Takasaki A, Akimoto M, Satake Y, Koizumi F, Yoshiyama K, Takahashi R, Shigenobu K, Hashimoto M, Miyagawa T, Boeve B, Knopman D, Mori E, Ikeda M : Utility of the Japanese version of the Clinical Dementia Rating® plus National Alzheimer's Coordinating Centre Behaviour and Language Domains for sporadic cases of frontotemporal dementia in Japan, *Psychogeriatrics*, 24 (2) : 281-294, 2024年
3. Mori E, Ikeda M, Ohdake M. : Donepezil for dementia with Lewy bodies: meta-analysis of multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled phase II, III, and, IV studies., *Psychogeriatrics*, 24 (3) : 589-596, 2024年
4. Mori E, Ikeda M, Iseki E, Katayama S, Nagahama Y, Ohdake M, Takase T. : Efficacy and safety of donepezil in patients with dementia with Lewy bodies: results from a 12-week multicentre, randomised, double-blind, and placebo-controlled phase IV study., *Psychogeriatrics*, 24 (3) : 542-554, 2024年
5. 森 悦朗 : 認知症診療における脳神経内科医の役割, *Brain and Nerve*, 76 (8) : 903-910, 2024年
6. Saito Y, Baba T, Narita W, Kanno S, Mugikura S, Tatewaki Y, Nishio Y, Iizuka O, Taki Y, Tominaga T, Mori E, Suzuki K : Blake's Pouch Cyst-like imaging abnormalities in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus, *Brain Disorders*, 15 : 100153, 2024年
7. Hirose M, Watani T, Sato R, Midiov P, Okayama M, Yoshikawa H, et al. : How can we help doctors stay in rural areas of Japan? A comparison in medical students' attitudes toward general practice and clinical research of a medical school in Japan and Sweden., *J Rural Med*, 19 (4) : 264-272, 2024年
8. Tokuhara Y, Ukon S, Watanabe S, Tatsumi Y, Yoshikawa H, Ohmuraya M et al : Morphological analysis of autophagy in axonal degeneration in gracile axonal dystrophy mice, *Exp Anim*, doi:10.1538/expanim.24-0041 : Online ahead, 2024年
9. Revankar GS, Ozono T, Suzuki M, Kanemoto H, Furuya K, Shigenobu K, Yoshiyama K, Yamamoto Y, Ogasawara I, Yoshida N, Iwasaki S, Saeki C, Nishio Y, Nakatani D, Asai K, Kajiyama Y, Shimizu M, Hayashi T, Taniguchi S, Suzuki Y, Inada R, Taminato T, Nagai Y, Hashimoto M, Ikeda M, Mori E, Mochizuki H, Nakata K. : Perceptual constancy of pareidolias across paper and digital testing formats in neurodegenerative diseases, *Heliyon*, 10 : e40254, 2024年
10. 芳川浩男 : アルツハイマー病による軽度認知症に対するレカネマブ治療導入を経験して, *大阪保険医雑誌*, 52 (696) : 53-56, 2024年

学会発表

1. 森 悦朗 : DESH の発見から確立までの道, そしてこれから, 第25回日本正常圧水頭症学会, 2024年2月, 大阪
2. Etusuro Mori : Plenary lecture: Innovations in Dementia Studies: A Look Back at the Contributions of Japanese Behavioral Neurologists, World Federation of Neurology Speciality Group on Aphasia, Dementia and Cognitive Disorders, 2024年4月, 奈良
3. 森 悦朗 : 特別講演 : 認知症早期診断と神経心理学, 第39回日本老年精神医学会, 2024年7月, 札幌
4. Etsuro Mori : Debate session: DESH, 16th Hydrocephalus World Congress, 2024年9月, 名古屋
5. 山本諭希, 西尾慶之, 高崎昭博, 鐘本英輝, 吉山顕次, 森 悦朗, 池田 学 : 音楽性幻聴を呈した神経変性疾患例の神経心理学的検討, 第48回日本神経心理学学会学術集会, 2024年9月, 京都

6. 森 悦朗 : シンポジウム「iNPHの鑑別/併存診断と脳神経外科医との診療連携」日常診療に役立つSINPHONIからのエビデンス, 第43回日本認知症学会学術集会, 2024年11月, 郡山

研究会発表

1. 鈴木 強 : 日常遭遇する脳外科疾患, 第172回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年11月, 大阪
2. 芳川浩男 : 認知症をよりよく理解するために, 大阪市西区認知症講演会 (認知症等高齢者支援地域連携事業), 2024年11月, 大阪
3. 芳川浩男 : レカネマブの適性使用について～使用経験を踏まえて～, 大阪市西区医師会学術講演会, 2024年, 大阪
4. 芳川浩男 : レカネマブの適性使用について～アルツハイマー病による軽度認知症に対するレカネマブ治療導入を経験して～, 大阪府保険医協会内科研究会, 2024年, 大阪

スタッフ センター長代行：林 美沙（皮膚科部長代行）

顧問：東山真里

医師：山下千佳紗、赤路和哉、山根沙紀、藤田悠花（皮膚科）、辻 成佳（リハビリテーション科）、和田有希（循環器内科）、小中八郎（呼吸器・免疫内科）、北田隆起（消化器内科）、橋本久仁彦（内分泌・代謝内科）、芳川浩男（脳神経内科）、宇津 貴（腎臓内科）、小泉敏三（耳鼻咽喉・頭頸部外科）

看護師：森蘭祐子、高山由美子、丸岡 綾、林 恵理子

薬剤師・医療技能職：千原亜紀子（薬剤部）、片岡宏一郎、廣田将史（リハビリテーション室）、岩田真季（栄養管理室）、松榮優子（あったかサポートセンター）

事務：山下智咲、熊田洋子（あったかサポートセンター）

1. センターの概要

乾癬は炎症性角化症に分類される難治性皮膚疾患で、約12%以上の患者に関節炎を併発する。いまだ完全に病因は解明されていない。皮膚症状、関節症状のため乾癬患者さんのQOLは身体的、精神的にも著しく障害されている。また有病率は増加傾向にあり人口の0.34%、43万人と推定される。乾癬の治療は近年生物学的製剤の登場など新薬の開発も進み治療は飛躍的に進歩した。患者の重症度に応じた積極的な治療が求められる。一方乾癬は多くの併存症（メタボリック症候群、高脂血症、心血管系障害、糖尿病、関節炎、ぶどう膜炎、肺気腫、慢性腎不全、炎症性腸炎、骨粗鬆症、鬱病など）があり全身の炎症性疾患と認識されている。乾癬は皮膚のみならずトータルマネジメントを要する疾患である。乾癬患者のQOL及び生命予後の改善をめざして①最適な治療により早期かつ安全に皮膚症状・関節症状を寛解に導く②併存症の早期診断や治療により乾癬患者の健康状態の改善を図るとともに、合併症の発症を予防し心身ともに健全な状態に導く③大学やその他の医療機関と協力して乾癬に関する病態の解明、治療の進歩に貢献しうる臨床研究・臨床治験を行うことを目標に2019年4月に乾癬センターを開設した。当センターでは院内関連診療科、多職種との密なる連携による乾癬のトータルマネジメントを実践している。また掌蹠膿疱症と掌蹠膿疱症性骨関節炎についても診断・治療を行っている。

2. 診療内容

1) 乾癬の皮疹の治療

適切な重症度の評価（皮疹の重症度・QOL障害・併存症）のもと、個々の患者のニーズに応じた最適な治療を患者とともに決定。外用治療、外用指導を重視し光線治療はエキシマライト、手足型光線照射機器、全身型ナロー照射機器、入浴PUVA療法などを選択。内服療法（エトレチナート・シクロスポリンA、アプレミラスト、メトトレキサート）は重症度、合併症、年齢などを考慮し選択。

また既治療で効果不十分な患者には生物学的製剤も積極的に使用。

皮膚疾患ケア看護師（日本皮膚科学会認定）が、外用指導、看護相談、生物学的製剤自己注射指導も行ない、患者さんの早期寛解をサポートしている。

2) 乾癬性関節炎の早期診断・治療と掌蹠膿疱症性骨関節炎の診断と治療

辻成佳医師（整形外科・リウマチ医）が火曜日に乾癬センターで乾癬性関節炎の患者の診断と治療を行っている。皮膚科医と密な連携により治療方針を決定。乾癬性関節炎の早期診断・治療に努めている。診察・関節エコー・骨単純撮影・MRI・血液検査などを実施し診断。治療は内服薬・生物学的製剤・リハビリテーションなどを行う。

3) 併存症の早期診断・予防

1. 院内関連診療科とのチーム医療

初診時 採血（高脂血症・糖尿病・肝機能障害・高尿酸血症・腎障害・感染症）血圧・体重・身長・BMI・腹囲測定、症例により頸部動脈エコーを施行。併存疾患が疑われると院内関連診療科へ紹介。紹介頻度の高い診療科一整形外科・リハビリ科・内分泌内科・循環器内科・腎臓内科・耳鼻科・脳神経内科・精神科などと横断的に乾癬患者の併存症の予防と治療を行う。また年に2回、関連診療科、コメディカルスタッフとのカンファレンスを開催。関節炎カンファレンスを皮膚科・整形外科・免疫内科医師で行っている。掌蹠膿疱症では耳鼻科と連携し扁桃炎などの病巣感染につき精査・治療を行った。

2. 外来での患者指導プログラム

2019年度は乾癬・乾癬性関節炎の早期改善・悪化予防・併存症の治療のため栄養指導・リハビリ指導・看護指導・看護相談・薬剤指導などを火曜日と木曜日の午後に集団で指導していたが、2021年度以降、感染対策のため集団指導は実施せず。指導の必要な患者にはリハビリテーション科に紹介して作業指導、運動指導を行った。看護師による生活指導や外用指導、管理栄養士による栄養指導（糖尿病・高脂血症・高尿酸血症・

肥満など）も個人単位で行った。

4) 乾癬バス入院

1 週間の教育入院を行った。入院中は外用指導・栄養指導・疾患教育を行う。また併存症のスクリーニングを行い個々の悪化因子を検索する。皮疹が短期間で改善することで治療意欲を向上させることができる。

5) 乾癬に関する乾癬に関する病態の解明、治療に関する臨床研究、臨床治験

乾癬の病態や治療については、まだ完全に解明されていない。当センターでは大阪大学や全国の乾癬治療施設と協力して乾癬に関する病態の解明、治療に関する共同研究を行っている。また院内の他科連携により臨床研究も今後すすめて行く予定。また乾癬・乾癬性関節炎、掌蹠膿疱症の新薬の臨床治験も実施した。

6) 地域医療機関との連携

2018年11月より乾癬、乾癬性関節炎に特化した、セミナーを当院で主催し、2024年11月14日に第7回「あわぎ乾癬セミナー」を開催。治療、診断について、講演や症例検討を行った。

3. 診療実績

①2024年度初診患者数

尋常性乾癬	約120名
乾癬性関節炎	約50名
掌蹠膿疱症	約25名
掌蹠膿疱症性骨関節炎	約15名

4. 業績

論文・著書

1. Takami K, Tsuji S, Jokoji R, Okubo Y, Higashiyama M.: Paediatric pustulotic arthro-osteitis patient with an IL36RN variant, heterozygous c.115+6T>C, who was successfully treated with tonsillectomy: A case report and literature review., *Experimental Dermatology*, 33 (1): e15016, 2024年
2. 菅井順一, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎, 東山眞里: 実臨床における新しい尋常性乾癬外用療法であるフォーム剤の可能性 (DEFENDER study), *日本臨床皮膚科医会雑誌*, 41 (3): 474-484, 2024年
3. 辻 成佳: 【薬物療法が奏効する整形外科疾患】脊椎関節炎 (解説), *整形・災害外科*, 67 (04): 359-363, 2024年
4. 辻 成佳: 【脊椎関節炎SpAを理解する-疾患概念・診断基準・最新治療】掌蹠膿疱症性骨関節炎の診断と治療 (解説), *臨床整形外科*, 59 (4): 397-402, 2024年
5. Tsuji S, Okubo Y, Kishimoto M, Taniguchi Y, Ishihara Y, Tamura M, Kobayashi S, Watanabe R, Takakubo Y, Tomita T.: Modified pustulotic arthro-osteitis diagnostic guidance 2022 - Modified Sonozaki criteria - Secondary publication, *Mod Rheumatol*, 34: 1076-1078, 2024年
6. 辻 成佳: 【リウマチ膠原病疾患Up To Date!-押さえておきたい最新の診断と治療】膠原病の診断と治療 脊椎関節炎の診断と治療 - 体軸性・末梢性脊椎関節炎, *Medicina*, 61 (9): 1524-1530, 2024年
7. Takami Kenji (Department of Orthopaedic Surgery, Nippon Life Hospital), Tsuji Shigeyoshi, Sato Sachina, Akaji Kazuya, Yamashita Chigusa, Hiroumi Shiori, Konaka

Hachiro, Hayashi Misa, Higashiyama Mari: Long-term retention rates of anti-tumour necrosis factor and anti-interleukin-17 antibodies for patients with psoriatic arthritis, *Modern Rheumatology*, 34 (5): 1013-1018, 2024年

8. Kojima A, Tomita T, Tsuji S, Kadono Y, Tada K, Nozaki T, Tamaki M, Koyama Y, Dobashi H, Okano T, Kawai S, Atsumi T, Tamura N, Matsumoto Y, Goto H, Taniguchi Y, Ueki Y, Takagi M, Matsui K, Hagimori K, Shimizu A.: Bone marrow edema detection for diagnostic support of axial spondyloarthritis using MRI, *Int J Comput Assist Radiol Surg.*, 19: 1699-1711, 2024年
9. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S: Osteoporosis and osteopenia in patients with psoriatic arthritis: A single-centre retrospective study, *Modern Rheumatology*, 34 (6): 1252-1257, 2024年
10. Kavanaugh A, Mease P, Gossec L, Ranza R, Tsuji S, Nash P, et al: Association Between Achievement of Clinical Disease Control and Improvement in Patient-Reported Outcomes and Quality of Life in Patients With Psoriatic Arthritis in the Phase 3 SELECT-PsA 1 and 2 Randomized Controlled Trials, *ACR Open Rheumatol.*, 6: 736-745, 2024年
11. 山下千佳紗, 今中洋子, 田中久仁子, 赤路和哉, 林 美沙, 東山眞里, 他: アプレミラスト内服中に抗p200類天疱瘡を発症した乾癬性関節炎の1例, *皮膚の科学*, 23 (4): 295-300, 2024年
12. 井上栄美, 林 美沙, 東山眞里: 【乾癬再考-治療の前に-】(Part2.) 乾癬と病態が似ている皮疹? (case5) COVID-19 ワクチン接種と乾癬の増悪・再燃, *Visual Dermatology*, 24 (1): 45-47, 2024年
13. 辻 成佳: 【乾癬再考-治療の前に-】(Part4.) 乾癬の皮膚以外の状態も理解する (総説6) 乾癬性関節炎, *Visual Dermatology*, 24 (1): 69-73, 2024年
14. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S.: Sarcopenia and osteoporosis in patients with psoriatic arthritis: A single-center retrospective study, *Nutrition*, 129: 112595, 2025年
15. 辻 成佳: 【脊椎関節炎診療のアップデート】掌蹠膿疱症性骨関節炎診療のアップデート, *リウマチ科*, 73 (1): 41-45, 2025年
16. Okubo Y, Murakami M, Kobayashi S, Tsuji S, Kishimoto M, Terui T, et al: Risankizumab in Japanese patients with moderate-to-severe palmoplantar pustulosis: Results from the randomized, phase 3 JumPPP study, *J Dermatol*, 52: 593-602, 2025年
17. Yamamoto H, Taniguchi Y, Tsuji S, Helliwell PS, Kishimoto M.: Efficacy of IL-23 inhibitors in axial involvements of chronic non-bacterial osteitis with palmoplantar pustulosis: a case series, *Rheumatology (Oxford)* ., doi: 10.1093/rheumatology/keaf088.: Online ahead, 2025年
18. 菅井順一, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎, 東山眞里: 診療情報データベースを用いた尋常性乾癬の治療実態調査 (DEFENDER study) から考える今後の外用療法, *日本臨床皮膚科医会雑誌*, 42 (1): 53-65, 2025年

学会発表

1. 辻 成佳, Kavanaugh Arthur, Mizelle Kristi V, Fitzgerald Oliver, Soriano Enrique R, Gossec Laure et al: ウパダシニブの投与を受けたPsA患者における152週時の疾患コントロールの達成 2つの第3相試験の長期継続試験の事後解析 (アンコール発表), 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
2. 伊藤 宣, 石川 肇, 辻 成佳, 中山政憲, 西田圭一郎, 望月猛, 蛭名耕介, 他: リウマチ性疾患の手術 (休業・合併症・その他) 関節リウマチの整形外科手術において, 周術期の休業は非休業に比べて術後合併症を増やすか, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
3. 辻 成佳, 亀田秀人, 岸本暢将, 渥美達也, 大久保ゆかり, 富

- 田哲也, 他: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
4. 辻 成佳, 松井 聖, 谷口義典, 大久保ゆかり, 金子祐子, 富田哲也, 他: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"について, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 5. 辻 成佳: 脊椎関節炎の最新の診断と治療・リウマチ医が知っておくべき脊椎病変・脊椎疾患 掌蹠膿疱症性骨関節炎, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 6. 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 菅井順一, 津田雄一郎, 東山眞里: 診療情報データベースを用いた尋常性乾癬の治療実態調査 (DEFENDERstudy), 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 2024年4月, 栃木
 7. 赤路和哉, 佐藤祥奈, 山下千佳紗, 林 美沙, 東山眞里, 辻 成佳: 生物学的製剤投与中の乾癬性関節炎に発症した2期梅毒の1例, 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 2024年4月, 栃木
 8. 林 美沙, 佐藤祥奈, 赤路和哉, 山下千佳紗, 辻 成佳, 東山眞里, 他: イキセキズマブ投与後に全身性エリテマトーデスを発症した乾癬性関節炎の1例, 第123回皮膚科学会総会, 2024年6月, 京都
 9. Tetsuya Tomita, Hiroshi Mikami, Hideki Tomioka, Shigeyoshi Tsuji, Hironori Nakagami: Development of IL17A vaccine targeting axial spondyloarthritis., EULAR2024, 2024年6月, オーストリア, ウィーン
 10. 井上健太, 高見賢司, 辻 成佳: 男性PsA患者の骨折リスクの高い重症骨粗鬆症に対するロモソズマブの臨床成績, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 11. 山下千佳紗, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山眞里, 辻 成佳, 柳田真希, 金澤成典, 小泉敏三, 林 美沙: 掌蹠膿疱症・掌蹠膿疱症性骨関節炎における扁桃誘発試験と扁桃摘出術の有用性の検討, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 12. 小中八郎, 村上輝明, 廣海沙理, 井上健太, 林 美沙, 東山眞里, 他: 膠原病や間質性肺炎を合併する脊椎関節炎患者の臨床的特徴, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 13. 鍾 天慈, 富田哲也, 門野夕峰, 多田久里守, 辻 成佳, 清水昭伸, 他: 仙骨と腸骨のsegmentation maskによる骨髓浮腫検出の改善 (Improvement of Bone Marrow Edema Detection with Sacrum and Ilium Segmentation Masks) (英語), 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 14. 小倉周真, 富田哲也, 門野夕峰, 多田久里守, 辻 成佳, 清水昭伸, 他: MRI画像を用いた体軸性脊椎関節炎の診断支援における骨びらん検出処理の改善, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 15. 辻 成佳: 乾癬性関節炎Year in Review 2023-2024, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 16. 辻 成佳, Mizelle Kristi V, Tillett William, Ali Mira, Iyile Thomas, Gao Tianming, Coates Laura C. et al: 荷重関節病変で層別化した乾癬性関節炎患者におけるウパダシニブの有効性 SELECT-PsA 1/2試験の事後解析, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 17. 辻 成佳, 亀田秀人, 岸本暢将, 渥美達也, 大久保ゆかり, 富田哲也, 他: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について (JCR2024 アンコール発表), 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 18. 大久保ゆかり, 辻 成佳, 岸本暢将, 田村誠朗, 小林里実, 富田哲也, 他: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における掌蹠膿疱症性骨関節炎の臨床的特徴について (JCR2024アンコール発表), 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 19. 小野慶介, 岸本暢将, 川合聡史, 多田久里守, 辻 成佳, 富田哲也, 他: 炎症性腸疾患の既往歴・合併がある脊椎関節炎患者の臨床的特徴と炎症性腸疾患関連脊椎関節炎の診断について ASAS-PerSpA研究からの報告, 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会, 2024年8月, 大阪
 20. 赤路和哉, 藤田悠花, 山下千佳紗, 東山眞里, 林 美沙: 当院におけるデュークラバシチニブ投与患者18例についての臨床的検討, 第39回日本乾癬学会学術大会, 2024年8月, 大阪
 21. 東山眞里, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 津田雄一郎, 菅井順一: 開業医診療情報データベースを用いた実臨床におけるCal/BDP配合薬フォーム剤の臨床評価 (DEFENDERstudy), 第39回日本乾癬学会学術大会, 2024年8月, 大阪
 22. 辻 成佳, 高見賢司: 歯根膿疱部の16S rRNA解析を行った掌蹠膿疱症性骨関節炎の一例, 第47回日本骨関節感染症学会, 2024年10月, 出雲
 23. 山下千佳紗, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山眞里, 辻 成佳, 林 美沙: イキセキズマブ投与中に掌蹠膿疱症を発症した乾癬性関節炎の1例, 第75回日本皮膚学会中部支部学術大会, 2024年10月, 愛知
 24. Tsuji S, Tomita T: PREVALENCE AND CLINICAL CHARACTERISTICS OF HLA-B27 IN JAPANESE PATIENTS WITH PSORIATIC ARTHRITIS, CORA2025, 2025年3月, イタリア/ヴェネツィア
- ### 研究会発表
1. 林 美沙: 日本生命病院の乾癬診療について, 第9回リウマチセンター合同カンファレンス, 2024年2月, 大阪
 2. 林 美沙: 乾癬センターにおける乾癬診療の実態!, 中国乾癬バイオロジクスセミナー, 2024年2月, 岡山
 3. 東山眞里: 症例から学ぶ乾癬診療のTips & Pitfall, 第38回ギンナン皮膚科談話会, 2024年6月, 大阪
 4. 東山眞里: どう使う? 進化する乾癬治療～外用剤治療を中心に～, 第3回北和・西和皮膚科治療連携セミナー, 2024年7月, 大阪
 5. 林 美沙: 日本生命病院における乾癬診療の現状～ビンゼレックスを含めて～, 第3回 Kansai Dermatology Conference, 2024年7月, 大阪 (web開催)
 6. 林 美沙: 日本生命病院における乾癬診療の現状と医療連携, Psoriasis Expert Seminar, 2024年9月, 大阪 (web開催)
 7. 東山眞里: どう使う? 進化する乾癬治療～外用剤治療を中心に～, 皮膚科 Early Autumn Seminar, 2024年9月, 大阪
 8. 東山眞里: 乾癬をもっと知ろうー治療の進歩と日常生活の注意について, 皮膚の日, 2024年11月, 大阪
 9. 東山眞里: 乾癬診療におけるチーム医療, 第7回あわぎ乾癬セミナー, 2024年11月, 大阪
 10. 林 美沙: 皮膚科医だからこそできる尋常性乾癬外用療法とは?～プロフェッショナルリズムを考える～, 常性乾癬治療Forum, 2024年11月, 大阪
 11. 東山眞里: 乾癬センターにおける病診連携について, 第2回 Psoriasis meeting, 2024年11月, 大阪
 12. 東山眞里: 尋常性乾癬治療の外用療法とブイタマクリームへの期待, 大阪ブイタマ発売記念WEBセミナー～乾癬治療の最前線～, 2024年12月, 大阪 (web開催)
 13. 林 美沙: 爪病変の見方, ウマチ・膠原病科 Mini lectur, 2024年12月, 大阪 (web開催)
 14. 林 美沙: 乾癬センターでの乾癬診療の実際～ソーティクツを交えて～, 乾癬web Seminar, 2025年3月, 岡山

臨床研修部

スタッフ 部長代行：宇都佳彦（救急総合診療科副部長）

医師：中川 厚（循環器内科担当部長）、水野 均（特任副院長、外科統括）、
八田幸治（産婦人科副部長）、
岸 正司（副院長、救急総合診療科部長、集中治療室長、医療安全対策室長）

初期研修医：2年目 阿坂 玲、多田詩野、中本和宏、新名航平、村上萌恵

1年目 大石怜奈、田中美音、中村 賢、古川ななみ、保倉 望、依岡未季、
富士原有里、古志真祐子

事務：谷由美子（総務人事G）

1. 活動内容

新研修制度の開始に伴い、2005年度臨床研修部が創設された。当院単独型（日本生命病院研修プログラム）での定員11名（2023年度5名+2024年度6名）に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすきがけ研修医が当院で研修を行う。ローテート科の変更など、個々の研修医の要望に柔軟に対応している。2018年度より、2年目研修医に日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）の基本的臨床能力評価試験を受験してもらい（2021年度からは1年次・2年次共受験）、研修医の臨床能力評価と研修プログラムの評価・改善に役立てることとした。

2019年度にはより一層の研修環境の充実を目指し、卒後臨床研修評価機構（略称JCEP）を受審し、認定を受けた。

2. 実績

1) マッチング試験（2024年8月17日）

男性19名 女性21名、計40名が受験した。

内容：筆記試験・小論文・面接・適性検査

マッチング結果決定後 留年の為1名の辞退があり、
二次募集をかけ追加採用した。

二次試験（2024年11月8日）

内容：適性検査・面接

募集定員6名マッチし、出身大学は 大阪大学4名、
和歌山県立医科大学1名、大分大学1名であった。

2) JAMEP基本的臨床能力評価試験受験（2025年1月24日29日・2年次研修医5名受験、1年次研修医8名受験）

3) 病院見学学生

男性：54名 女性：82名 計136名。

4) 病院説明会への参加

レジナビフェア2024（2024年5月26日）

6年生：12名 5年生：78名 4年生：7名

計97名

近畿厚生局臨床研修病院説明会（2025年2月15日）

31名

阪大病院および関連臨床研修病院による内科系

合同説明会（2025年3月15日）

5年生：9名

3. 業績

学会発表

1. 新名航平：急激な転帰をたどった後腹膜線維症の1例, 第243回日本内科学会近畿地方会, 2024年6月, 大阪
2. 田中美音：明らかな認知機能低下を認めないもののPTP包装シートを誤飲したことを自覚せず嘔吐を繰り返した糖尿病の1例, 第245回日本内科学会近畿地方会, 2024年8月, 京都
3. 保倉 望：細菌性肺炎、MRSA菌血症治療中に生じた血球貪食症候群（HPS）の1例, 第245回日本内科学会近畿地方会, 2024年8月, 京都
4. 中村 賢：肛門外脱出を認めたS状結腸癌に対してロボット支援下S状結腸切除術を施行した1例, 第37回近畿内視鏡外科研究会, 2024年9月, 大阪
5. 大石怜奈：急性心筋梗塞治療経過中に心室中隔穿孔を合併した1例, 第43回CVIT日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 2024年10月, 大阪
6. 依岡未季：尿意切迫により冠微小循環の評価に影響を与えた1例, 第43回CVIT日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 2024年10月, 大阪
7. 阿坂 玲：バセドウ病と1型糖尿病を同時期に発症した多腺性自己免疫症候群（APS）3A型の1例, 第246回日本内科学会近畿地方会, 2024年12月, 大阪
8. 多田詩野：短期間に胆管狭窄が進行したIgG4関連硬化性胆管炎の1例, 第246回日本内科学会近畿地方会, 2024年12月, 大阪
9. 村上萌恵：レビー小体型認知症に超皮質性感覚失語を合併した1例, 第135回近畿精神神経学会, 2025年2月, 奈良
10. 中村 賢：上腸間膜動脈症候群様症状を呈した腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の1例, 第38回血管外科学会近畿地方会, 2025年3月, 和歌山
11. 古川ななみ：偶発的に発見された膵頭部Solid-pseudopapillary neoplasm（SPN）の10才女児例, 第38回近畿小児学会, 2025年3月, 大阪

輸 血 管 理 室

スタッフ 室 長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、がん治療センター長、化学療法室長）
玉川雄一（中央臨床検査部）

1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

①担当技師

玉川が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

②責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

③輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヵ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	3,276単位
自己血	60単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	856単位
③血漿交換療法におけるFFP	400単位
④アルブミン	3,816.3単位
濃厚血小板	8,445単位

*FFPおよびアルブミン製剤の使用量は、適正とされる基準

$$\text{FFP/RBC比} = (\text{②} - \text{③}/2) / \text{①} = 0.20 < 0.54$$

$$\text{アルブミン/RBC比} = \text{④}/\text{①} = 1.16 < 2$$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RBC 6単位、FFP 4単位、PC 20単位

3) 2024年度における変更点

①輸血療法マニュアルにおいて以下の内容を追記した。

輸血副作用が発生した時の初期対応の「③副作用が疑われ、重篤な場合には直ちに輸血を中止する」の後に中止した輸血製剤を輸血管理室へ返却すると一文を追加した。

②骨髄バンクドナーのカルテ作成

骨髄バンクドナーの血液型の検査結果を間違えなく管理するために、骨髄バンクドナーのカルテを作成することとした。

4. その他

1) 院内にて献血を2回行った。

2024年8月27日 21名（受付27名）

2025年3月12日 19名（受付21名）

の職員から献血をさせていただいた。

2) 輸血教育講演会（年1回）

2025年1月31日に以下の演題と演者で講演を行った。演題：「クイズで学ぶ輸血療法 パートII」 演者：血液・化学療法内科 川上 学
参加者は38名であった。

化 学 療 法 室

スタッフ 室 長：川上 学（血液・化学療法内科主任部長、がん治療センター長、輸血管理室長）

看 護 師：玉井千春（がん化学療法看護認定看護師）、里井景子、野津真弓、大藤弘美（以上看護部）、
六車裕一（薬剤師）

事 務：西野仁美

1. 診療内容

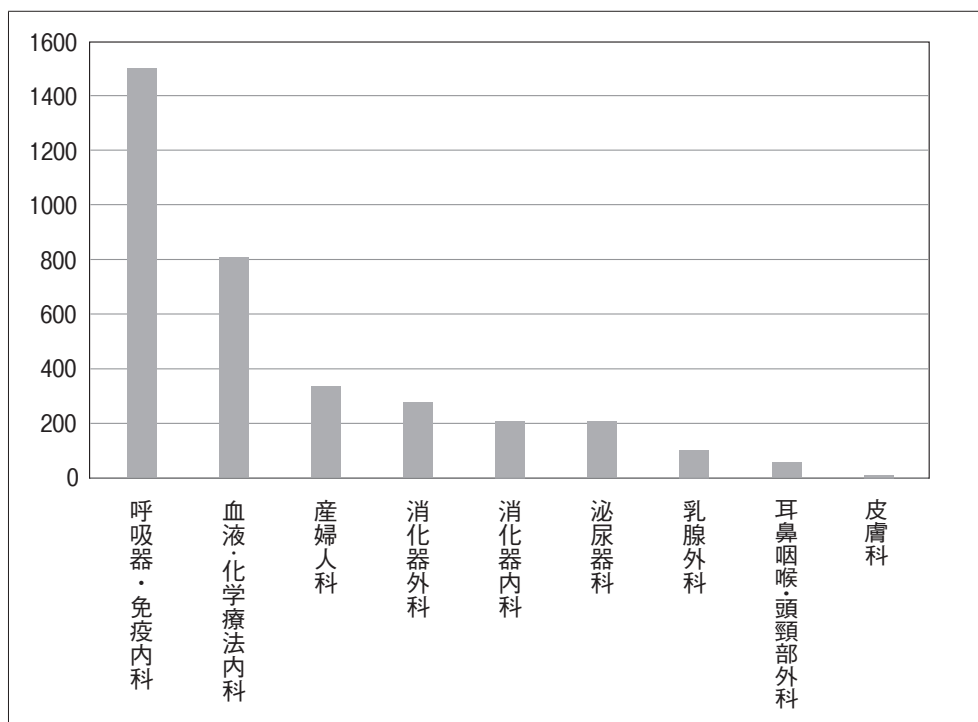
外来通院での抗がん剤治療、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与などの専用治療室として運用、外来化学療法加算を算定している。疾患や治療に対する不安が強い患者さんに対しては、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者及び家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は、患者及び家族に副作用のセルフモニタリングを指導し、自宅で起こった副作用の対処は随時電話相談を受けながら、速やかに対応できる体制を整えている。また、2022年度より受付に事務を配置し、来室した患者さんが

スムーズに治療を開始できるよう配慮している。さらに2023年中頃より専任薬剤師が在籍するようになり、院外薬局との情報共有を実施し薬薬連携が強化された。

2. 診療実績

化学療法室利用者件数は、総数4,246件（前年度比+352件）で、その内化学療法加算の算定（点滴抗がん剤の投与）件数は3,507件（前年度比+52件）で、診療科別の内訳は図1の通りであった。尚、呼吸器・免疫内科、消化器内科、皮膚科の集計には、各々関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎、乾癬に対する生物学的製剤の投与が含まれている。専任薬剤師の薬薬連携に対する2024年度連携充実加算は1,653件の実績であった。

図1 2024年度 診療科別化学療法加算算定件数



リハビリテーション室

スタッフ 室長：辻 成佳（リハビリテーション科部長）
副室長：片岡 宏一郎（リハビリテーション室技師長）
理学療法士：麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、泉本亮二、新井聖章、
藪田拓武、世傳智貴、廣田智也、井上直樹、入江ほのか
作業療法士：松本吉史、阪本拓也、平賀絢史朗、渡辺のあ
言語聴覚士：四釜淳子、清水晴奈

1. 診療内容

各診療科からのリハビリテーション（以下 リハ）依頼に対し、身体機能の向上を目標に理学療法士と作業療法士、言語聴覚士が連携し合いながら最良のリハ医療を提供してきた。

リハの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・悪性疾患・循環器疾患の患者などを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器リハは関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、高齢者の方の運動器不安定症などの患者が対象となり、2024年度は8,029件の実績があった。脳血管疾患等リハは脳梗塞、脳出血、ギランバレー症候群等、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの患者が対象となり、5,133件の実績があった。呼吸器リハは肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、全身麻酔手術をする患者の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者が対象となり、8,512件の実績があった。がんリハは消化器疾患、呼吸器疾患、血液疾患、乳がん、婦人科疾患などの患者に対し治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動機能の低下や生活機能の低下予防・改善を目的とする患者が対象となり、7,305件の実績があった。心大血管疾患リハは、心筋梗塞、心不全、不安定狭心症、閉塞性動脈硬化症、ペースメーカ植え込み術などの患者に対し、運動耐容能の向上や運動習慣の習得を目標とする患者が対象となり、3,445件の実績があった。廃用症候群リハは、外科の開胸開腹手術、泌尿器科手術、婦人科手術後などの廃用予防、嚥下障害、脱水症、皮膚疾患、胆のう炎などの患者が対象となり8,855件の実績があった。

総合計件数は41,279件の実績があった。

早期リハを継続して行うために、連休を中心に休日にもリハを実施し、早期離床を促した。

地域連携としては、退院後の生活について不安を抱いている入院患者に対して退院前に自宅を訪問し、手すりなどの環境整備を確認したり、自助具の活用方法について指導を行った。退院後の生活においてADLなどの支障が出た場合は訪問看護ステーションの訪問看護師を通じて、間接的に患者に指導をすることでADLの改善に努めた。地域への情報発信として運動領域における講演

を院内外で行った。

予防領域においては、ウィークエンド糖尿病・メタボ精査入院などにおいて、個々の患者に対する運動機能評価を行い、その結果をもとにオーダーメイドの運動指導を行った。

チーム医療においては、リハカンファレンスの定期的な開催や循環器内科部長回診・乳腺外科部長回診・整形外科部長回診・NST回診・RST回診などに同行するとともに、緩和ケアカンファレンスなどへの参加を行い、ADLを阻害している現象の把握や原因の追求を行った。また、糖尿病ふれあい教室での運動指導、女性骨盤底センターからの紹介に対する骨盤底筋体操の指導など、他職種との連携を図りながらリハの専門性を発揮した。言語聴覚士による言語機能訓練や摂食嚥下機能療法を実施し、口腔機能の改善や食種提案に向けて取り組んだ。

リハの質向上においては、院内での勉強会はさることながら院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、最新の情報を収集し、その内容をスタッフ間で共有した。さらに認定理学療法士（2名）、登録理学療法士（8名）、心臓リハ指導士（1名）、3学会合同呼吸療法認定士（5名）、日本糖尿病療養指導士（1名）、がんのリハビリテーション研修会修了者（18名）などの資格を有するとともに、関連学会である日本リハビリテーション医学会、日本心臓リハビリテーション学会、呼吸ケアリハビリテーション学会、ペインクリニック学会などに所属し、最良の医療が臨床の中で活かせるよう努めた。学術活動においては、病院の特性を生かした症例を対象にデータを集め、リハ医療を向上させるために関連学会にて発表や論文投稿を行った。

リハ教育分野においては、リハ関連学科の大学や専門学校から実習生を積極的に受け入れ、教育しやすい環境を整備した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）

3. スタッフ資格など

- ・ 片岡宏一郎 リハビリ室副室長 兼 技師長・理学療法士
登録理学療法士
介護支援専門員
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 麦田盛穂 次席技師長・理学療法士
修士号（健康科学：畿央大学）
認定理学療法士（代謝）
登録理学療法士
心臓リハビリテーション指導士
3学会合同呼吸療法認定士
日本糖尿病療養指導士
緩和ケア研修修了
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 廣田将史 主任理学療法士
登録理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
健康運動実践指導者
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 白川 桂 主任理学療法士
認定理学療法士（介護予防）
登録理学療法士
地域ケア会議推進リーダー
介護予防推進リーダー
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 泉本亮二 理学療法士
登録理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 田中 孝 理学療法士
登録理学療法士
第一種衛生管理者
衛生工学衛生管理者
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 藤岡栄悟 理学療法士
登録理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 新井聖章 理学療法士
登録理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 薮田拓武 理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 世傳智貴 理学療法士
福祉住環境コーディネーター2級
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 廣田智也 理学療法士
3学会合同呼吸療法認定士
- ・ 井上直樹 理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 入江ほのか 理学療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 松本吉史 主任作業療法士
福祉住環境コーディネーター2級
がんのリハビリテーション研修修了
認知症ライフパートナー2級
認知症ケア専門士

- ホームヘルパー1級
介護支援専門員
医療安全管理者
3学会合同呼吸療法認定士
社会福祉士
作業療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 阪本拓也 作業療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 平賀絢史朗 作業療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 渡辺のあ 作業療法士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 四釜淳子 言語聴覚士
がんのリハビリテーション研修修了
- ・ 清水春奈 言語聴覚士
がんのリハビリテーション研修修了

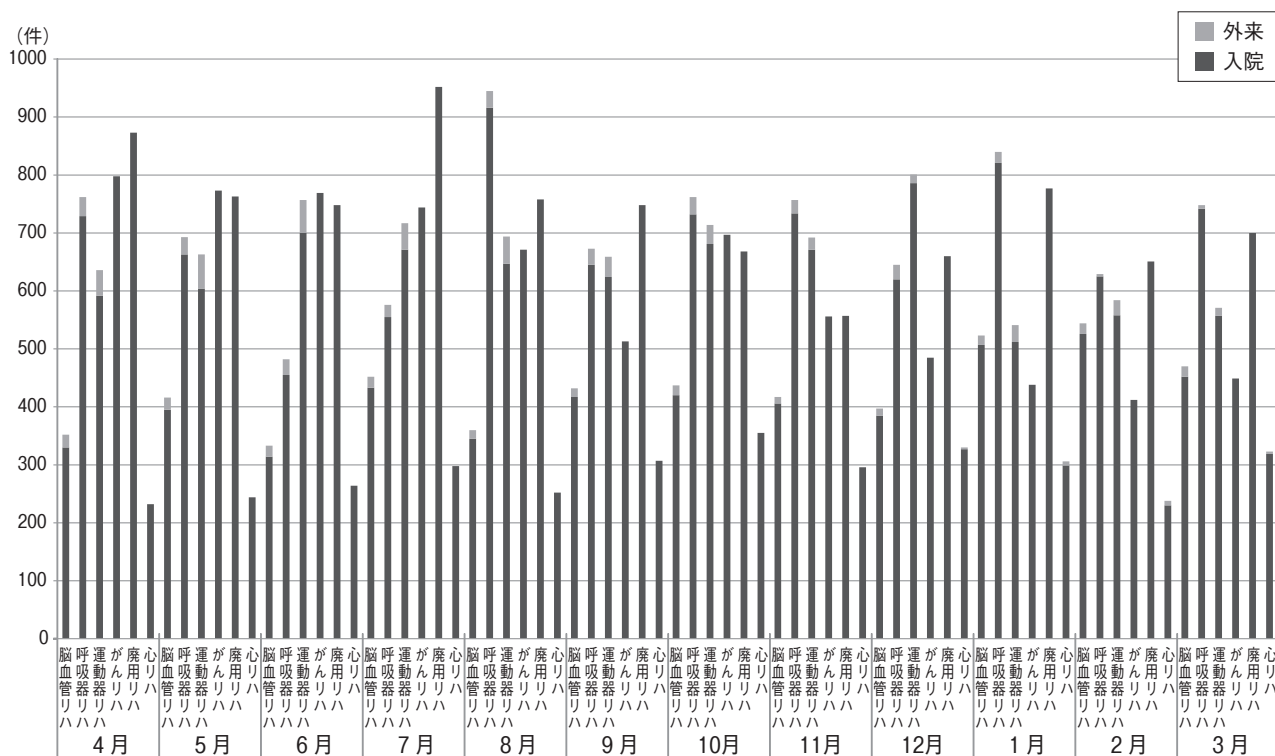
4. 業績

論文・著書

1. 辻 成佳：【薬物療法が奏効する整形外科疾患】脊椎関節炎（解説），整形・災害外科，67（04）：359-363，2024年
2. 辻 成佳：【脊椎関節炎SpAを理解する-疾患概念・診断基準・最新治療】掌趾膿疱症性骨関節炎の診断と治療（解説），臨床整形外科，59（4）：397-402，2024年
3. Okamura G, Hirao M, Noguchi T, Etani Y, Ebina K, Kurihara T, Goshima A, Tsuboi H, Tsuji S, Takami K, Okada S, Hashimoto J.: Flatfoot Surgery for Flexible Progressive Collapsing Foot Deformity With Inflammatory Joint Diseases: A Report of 3 Cases, JBJS Case Connect, doi: 10.2106/JBJS.CC.23.00673. : Online ahead, 2024年
4. Tsuji S, Okubo Y, Kishimoto M, Taniguchi Y, Ishihara Y, Tamura M, Kobayashi S, Watanabe R, Takakubo Y, Tomita T.: Modified pustulotic arthro-osteitis diagnostic guidance 2022 - Modified Sonozaki criteria - Secondary publication, Mod Rheumatol, 34 : 1076-1078, 2024年
5. 辻 成佳：【リウマチ膠原病疾患Up To Date!-押さえておきたい最新の診断と治療】膠原病の診断と治療 脊椎関節炎の診断と治療 - 体軸性・末梢性脊椎関節炎, Medicina, 61（9）：1524-1530, 2024年
6. Kojima A, Tomita T, Tsuji S, Kadono Y, Tada K, Nozaki T, Tamaki M, Koyama Y, Dobashi H, Okano T, Kawai S, Atsumi T, Tamura N, Matsumoto Y, Goto H, Taniguchi Y, Ueki Y, Takagi M, Matsui K, Hagimori K, Shimizu A.: Bone marrow edema detection for diagnostic support of axial spondyloarthritis using MRI, Int J Comput Assist Radiol Surg, 19 : 1699-1711, 2024年
7. Kunugiza Y, Tsuji S, Fujito T, Tamaki M, Nishikawa M, Nomura K, Ishibashi T, Tomita T.: Tenderness over the Pes anserinus and Gerdy's tubercle before and after total knee arthroplasty, J Orthop, 62 : 133-138, 2024年
8. Sakata M, Hirao M, Noguchi T, Okamura G, Higuchi Y, Tabuse Y, Etani Y, Ebina K, Tsuboi H, Miyama A, Takahi K, Takami K, Tsuji S, Okada S, Hashimoto J.: Early full weight-bearing and gait exercise after cemented total ankle arthroplasty with a modified anterolateral approach, Mod Rheumatol, 34 : 1258-1264, 2024年
9. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S.: Osteoporosis and osteopenia in patients with psoriatic arthritis: A single-centre retrospective study, Mod Rheumatol, 34 : 1252-1257, 2024年
10. Kavanaugh A, Mease P, Gossec L, Ranza R, Tsuji S, Douglas K, Lane M, Lippe R, Mittal M, Gao T, Setty A, Cieciński S, Aletaha D, Nash P.: Association Between Achievement of Clinical Disease Control and Improvement in Patient-Reported Outcomes and Quality of Life in Patients With Psoriatic Arthritis in the Phase 3 SELECT-PsA 1 and 2 Randomized Controlled Trials, ACR Open Rheumatol, 6 : 736-745, 2024年

11. 麦田盛穂, 泉本亮二, 片岡宏一郎, 辻 成佳, 宮本浩樹, 賀戸ひとみ, 吉川秀人, 中川 厚, 岡部太一: 心臓リハビリテーション立ち上げまでの経緯とその意義についてーEAP待機患者に対するPCIパスへの心リハ導入の成果と課題ー, 日本生命医学雑誌, 52: 12-19, 2024年
 12. 辻 成佳: 【乾癬再考-治療の前に-】(Part4.) 乾癬の皮膚以外の状態も理解する (総説6) 乾癬性関節炎, Visual Dermatology, 24 (1): 69-73, 2024年
 13. Takami K, Higashiyama M, Tsuji S.: Sarcopenia and osteoporosis in patients with psoriatic arthritis: A single-center retrospective study, Nutrition, 129: 112595, 2025年
 14. Perez-Alamino R, Maldonado-Ficco H, Moltó A, Waimann C, Maldonado-Cocco J, Dougados M, Landewé R, van der Heijde D, Van den Bosch F; ASAS-COMOSPA study.: Trends to shorter diagnostic delay in spondyloarthritis patients during the last decades and association with clinical presentation: data from ASAS-COMOSPA study, RMD Open, 11 (1): e004756, 2025年
 15. 辻 成佳: 【脊椎関節炎診療のアップデート】掌蹠膿疱症性骨関節炎診療のアップデート, リウマチ科, 73 (1): 41-45, 2025年
 16. Okubo Y, Murakami M, Kobayashi S, Tsuji S, Kishimoto M, Ikeda K, Jibiki M, Neimark E, Padilla B, Shen J, Peters S, Terui T.: Risankizumab in Japanese patients with moderate-to-severe palmoplantar pustulosis: Results from the randomized, phase 3 JumPPP study, J Dermatol, 52: 593-602, 2025年
 17. Yamamoto H, Taniguchi Y, Tsuji S, Helliwell PS, Kishimoto M.: Efficacy of IL-23 inhibitors in axial involvements of chronic non-bacterial osteitis with palmoplantar pustulosis: a case series, Rheumatology (Oxford), doi: 10.1093/rheumatology/keaf088.: Online ahead, 2025年
 18. Shirakawa K, Mugita M, Hirota M, Izumoto R, Tanaka T, Arai T, Fujioka E, Yabuta H, Yoden T, Sakamoto T, Hiraga K, Watanabe N, Kataoka K, Tsuji S.: Association between phase angle and hospital-associated disability in hospitalized patients in the internal medicine ward: A prospective observational study, Clin Nutr ESPEN, 67: 296-302, 2025年
 19. 辻 成佳, 山本みどり, 佐々木公子, 大池教子: 監修および著者, 臨床栄養ディクショナリー 日本人の食事摂取基準 (2025年版) 対応, 辻 成佳 (監修), 1-480, 改訂7版, 2025年, (株) メディカ出版, 大阪
- 学会発表**
1. 辻 成佳, Kavanaugh Arthur, Mizelle Kristi V., Fitzgerald Oliver, Soriano Enrique R, Nash Peter, Ciecinski Sandra, Zhou Limei, Setty Arathi, Gossec Laure: ウパダシニブの投与を受けたPsA患者における152週時の疾患コントロールの達成2つの第3相試験の長期継続試験の事後解析 (アンコール発表), 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 2. 伊藤 宣, 石川 肇, 辻 成佳, 中山政憲, 西田圭一郎, 望月猛, 蛭名耕介, 小嶋俊久, 松本卓巳, 窪田綾子, 中島 新, 金子敦史, 松下 功, 原 良太, 櫻庭康司, 赤崎幸穂, 松原 司, 持田勇一, 神戸克明, 桃原茂樹: リウマチ性疾患の手術 (休業・合併症・その他) 関節リウマチの整形外科手術において, 周術期の休業は非休業に比べて術後合併症を増やすか, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 3. 辻 成佳, 亀田秀人, 岸本暢将, 渥美達也, 大久保ゆかり, 岡本奈美, 川上 純, 藤本 学, 宮川一平, 森 雅亮, 森田明理, 渡邊 玲, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 4. 辻 成佳, 松井 聖, 谷口義典, 大久保ゆかり, 金子祐子, 田村直人, 亀田秀人, 岸本暢将, 土橋浩章, 川上 純, 渥美達也, 岡本奈美, 小田 良, 門野夕峰, 高窪祐弥, 中島亜矢子, 中島康晴, 藤尾圭志, 藤本 学, 松野博明, 松原優里, 宮川一平, 森 雅亮, 森田明理, 山村昌弘, 渡邊 玲, 野崎太希, 玉城雅史, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"について, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 5. 辻 成佳: 脊椎関節炎の最新の診断と治療・リウマチ医が知っておくべき脊椎病変・脊椎疾患 掌蹠膿疱症性骨関節炎, 第68回日本リウマチ学会学術総会, 2024年4月, 神戸
 6. Tetsuya Tomita, Hiroshi Mikami, Hideki Tomioka, Shigeyoshi Tsuji, Hironori Nakagami: Development of IL17A vaccine targeting axial spondyloarthritis., EULAR2024, 2024年6月, オーストリア, ウィーン
 7. 小野慶介, 岸本暢将, 川合聡史, 多田久里守, 田村直人, 谷口義典, 亀田秀人, 辻 成佳, 金子祐子, 土橋浩章, 岡野匡志, 土師陽一郎, 森田明理, 岡田正人, 富田哲也: 炎症性腸疾患の既往歴・合併がある脊椎関節炎患者の臨床的特徴と炎症性腸疾患関連脊椎関節炎の診断について ASAS-PerSpA研究からの報告, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 8. 鍾 天慈, 富田哲也, 門野夕峰, 多田久里守, 辻 成佳, 野崎太希, 小山芳伸, 土橋浩章, 岡野匡志, 川合聡史, 清水昭伸: 仙骨と腸骨のsegmentation maskによる骨髓浮腫検出の改善 (Improvement of Bone Marrow Edema Detection with Sacrum and Ilium Segmentation Masks) (英語), 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 9. 小倉周真, 富田哲也, 門野夕峰, 多田久里守, 辻 成佳, 野崎太希, 小山芳伸, 土橋浩章, 岡野匡志, 川合聡史, 清水昭伸: MRI画像を用いた体軸性脊椎関節炎の診断支援における骨びらん検出処理の改善, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 10. 辻 成佳: 乾癬性関節炎Year in Review 2023-2024, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 11. 山下千佳紗, 藤田悠花, 赤路和哉, 東山眞里, 高見賢司, 辻 成佳, 柳田真希, 金澤成典, 小泉敏三, 林 美沙: 掌蹠膿疱症・掌蹠膿疱症性骨関節炎における扁桃誘発試験と扁桃摘出術の有用性の検討, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 12. 辻 成佳, Mizelle Kristi V., Tillett William, Ali Mira, Iyile Thomas, Gao Tianming, Setty Arathi, Walsh Jessica, Coates Laura C.: 荷重関節病変で層別化した乾癬性関節炎患者におけるウパダシニブの有効性 SELECT-PsA 1/2試験の事後解析, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 13. 辻 成佳, 亀田秀人, 岸本暢将, 渥美達也, 大久保ゆかり, 岡本奈美, 川上 純, 藤本 学, 宮川一平, 森 雅亮, 森田明理, 渡邊 玲, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における乾癬性関節炎の臨床的特徴について (JCR2024 アンコール発表), 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 14. 大久保ゆかり, 辻 成佳, 岸本暢将, 田村誠朗, 小林里実, 石原陽子, 谷口義典, 高窪祐弥, 渡邊 玲, 藤本 学, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ"SPARKLE-J"における掌蹠膿疱症性骨関節炎の臨床的特徴について (JCR2024アンコール発表), 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 15. 井上健太, 高見賢司, 辻 成佳: 男性PsA患者の骨折リスクの高い重症骨粗鬆症に対するロモソズマブの臨床成績, 第34回日本脊椎関節炎学会, 2024年8月, 大阪
 16. 辻 成佳, 高見賢司: 歯根膿疱部の16S rRNA解析を行った掌蹠膿疱症性骨関節炎の一例, 第47回日本骨関節感染症学会, 2024年10月, 出雲
 17. 泉本亮二, 平賀絢史朗, 麦田盛穂, 世傳智貴, 花田留美, 新谷隆, 辻 成佳: 下肢虚血性疼痛へSCS埋め込みにより疼痛緩和を得られた症例, 第54回日本慢性疼痛学会, 2025年2月, 仙台
 18. Shigeyoshi Tsuji, Tetsuya Tomita: PREVALENCE AND CLINICAL CHARACTERISTICS OF HLA-B27 IN JAPANESE PATIENTS WITH PSORIATIC ARTHRITIS, CORA2025, 2025年3月, イタリア/ヴェネツィア
- 研究会発表**
1. 松本吉史: 呼吸器疾患患者に対する作業療法, 大阪府作業療法士会大阪市北ブロック研修会, 2025年2月, 大阪
 2. 平賀絢史朗: 脳梗塞により右肩麻痺を呈した患者に対し右手での食事動作自立に向けて介入した一例, 大阪府作業療法士会大阪市北ブロック研修会, 2025年2月, 大阪
 3. 松本吉史, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 廣田将史, 阪本拓也, 辻 成佳: 関節リウマチ患者に対する作業療法の現状と今後の展開, 第10回リウマチセンター合同カンファレンス, 2025年2月, 加古川

図1 2024年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ・廃用リハ・心リハ件数



	4月						5月						6月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	330	729	592	798	873	232	395	663	604	773	763	244	314	455	700	769	748	264
外来	22	33	44	0	0	0	21	30	59	0	0	0	19	27	57	0	0	0

	7月						8月						9月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	433	555	671	744	952	298	345	916	647	671	758	252	417	645	624	513	748	307
外来	19	21	46	0	0	0	15	29	47	0	0	0	15	28	35	0	0	0

	10月						11月						12月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	420	732	681	697	668	355	406	734	671	556	557	296	385	620	786	485	660	327
外来	17	30	33	0	0	0	11	23	21	0	0	0	12	25	15	0	0	3

	1月						2月						3月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	507	821	512	438	777	299	526	625	558	412	651	230	452	742	557	449	700	319
外来	16	19	29	0	0	7	18	4	26	0	0	8	18	6	14	0	0	4

中央手術管理部

スタッフ 部 長：垣本健一（泌尿器科主任部長、眼科部長代行、血液浄化センター副センター長）
部 長 代 理：花田留美（麻酔・緩和医療科部長）
医 師：川田純司（消化器外科）、富田栄美子（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、
新谷 隆（心臓血管外科）、橋本奈美子（産婦人科）、鈴木 強（脳神経外科）、
西原俊作（整形外科）、林 美沙（皮膚科）、伊藤 潤（眼科）、
小泉敏三（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、齋藤拓也（形成再建外科）
看 護 師：木下園子、二井千里
医療技能職：足立充司（薬剤部）、三木和美（臨床工学室）
事 務：高松由夫（情報システムG）、田中大輔、梅村 匠（施設用度G）

1. 概要

中央手術管理部は手術室の効率的な運営等を目的として、2015年4月に中央管理部門の一つとして新設され、現在に至っている。2024年度の手術件数は3,506例で、このうち全身麻酔手術数は1,929例であった。

2. 診療内容

〈主たる業務〉

- 1) 医療機器、手術材料、薬剤並びに手術枡等、手術室全般の適切な運営管理
- 2) 安全で質が高くかつ効率的な手術室運営の企画実施

3. 診療実績

- 1) 毎月第2週月曜日に「中央手術管理部定例会」を開催し、効率的な運営のために各診療科の実績や要望に応じて手術枡の変更を随時行った。

- 2) 2024年度のロボット支援手術が192件と前年度よりも大幅に増加傾向であったため、術中の大量出血など開腹手術へのコンバージョンを想定した、医師・看護師・臨床工学技士等の多職種協働で緊急ロールアウトのシミュレーションを施行した。今後に向けて指摘された改善点を協議し、知識の共有を行った。
- 3) 手術看護認定看護師が実施している、術前看護外来を認定看護師とともに他のスタッフも実施し、外来から周術期看護に関わることのできる基本システムを昨年度構築し、運用した。

スタッフ 部長兼技師長兼医療技能部長：浅野正宏
精度管理担当医：永瀬寿彦

1. 組織体制

常勤：27名（うち産・育休：2名）、パート：2名
（2025年3月末時点）

2. 全体の主な実績

- 2024年度の行動テーマは2023年度の継続として、運用・体制・手技等を再検討・再構築するとし、組織醸成をより意識した利用者への価値提供行動へ繋げた。例えば、試薬資材の価格高騰に関する問題では、各部門が主体的にTAT；Turn Around Timeを重視した運用・体制と再検率を見直し、当該年度の試薬資材費を昨年度比微増に留めることができた。
- 中検実績 中間期の振り返り「中央臨床検査部の主な項目の実績一覧；別頁」より
2023年度同時採血患者数は74,642件、前年度比98.8%。検体検査では血糖、HbA1c、緊急検査項目の目安となる電解質、血ガスの他、生化学、免疫学検査、血球数算定件数は前年とほぼ同等。イムノクロマト法による感染症迅速抗原テスト、呼吸器パネルは小児科感染症者数増を反映している。
- 6月1日より中央臨床検査部に属していた予防医学センター検査部門が当該センター所属に組織変更した。
- サイバー攻撃による電子カルテ使用不可時の検査体制といわゆる紙カルテ時代のリソースを基本とした運用を構築した。
- 2024年12月年末年始の検査体制に β -Dグルカン検査、タクロリムス、呼吸器・脳髄液パネル検査を加え感染症診療に対応した。
- 臨床検査技師養成機関の臨地（学生）実習、2大学、1専門学校の計8名を受け入れた。

3. 各部門の主な実績

検体検査：

- 検体処理行程のTurn Around Time；TATシステムを見直し、検体が検体検査室に到着した時間を「検体到着時刻」と再設定した（4月10日）。
- アデノウイルスおよびA群 β 溶血連鎖球菌；StrepAに対するイムノクロマト法による迅速抗原検出検査（POCT；Point of Care Testing）を1回の検体採取で2種の検査が可能なイムノキャッチテストキット（栄研化学）に変更した。

- 自動生化学分析装置ラボスペクト008a（HITACHI）で測定するAST、ALT、電解質等の精度管理試料QAPコントロールの早朝2回測定を業務改善と試薬節約より電解質の試薬プライム後、電解質測定を除く他の項目の再測定を取り止めた。
- 一酸化炭素ヘモグロビン；COHb異常症例は稀であるが、大事にいたる重要な項目であり、水タバコの利用者増加の状況にあることから、血液ガス測定装置GEMプレミア5000（ILジャパン）による測定結果に「パニック値」を新設した。またメトヘモグロビン；MetHbも同様に定めた。
- 予防医学センター検体測定結果の異常値に対する緊急連絡法の一部を変更した。追加項目は中性脂肪。尿酸を除外した。また前回値との乖離が一定範囲内は連絡対象としない条件を加えた。
- 自動免疫測定装置ルミバスのL2400（フジレリオ社）の各項目の内部精度管理のための試薬、感染症、腫瘍マーカー、内分泌ホルモンに関わる全18試薬を検討し、良好な結果が得られたため、運用の効率化と経費削減のため変更した。
- 日本臨床一般検査学会より、抗マイコプラズマ薬トスフロキサシン；TFLX投与患者尿における腎障害について注意喚起がされたことを受け、小児科患者の尿中TFLX結晶析出所見を発信した。
- 日本医療安全調査機構より2024年12月、「血液検査パニック値に係る死亡事故の分析」の公開を受けて当院のパニック値一覧を見直し、PT-INR；プロトロンビン時間-国際標準化比のパニック値を設定し、パニック値一覧に加えた。
- 2023年11月に導入したUSCANNER尿中有形成成分分析装置（東洋紡）により技師による鏡検率を約65%から約35%に減少できた。また検体到着後30分超の報告件数減少策については検体検査スタッフの状況対応による配置変更を行った。

微生物検査：

- 院内感染対策として、従来の薬剤耐性緑膿菌のカルバペネム耐性、多剤耐性、海外での報告例などの検出状況について、日本臨床微生物学会の手引き書「多剤耐性菌が仮定した際の主治医、および関連部署への報告の注意点」を根拠に情報発信を開始した。
- 微生物検査において連続する8検体に検体汚染が疑われた事象が発生したことを受け、安全キャビ

ネット内の環境整備と作業工程および検査資材、検体処理の順番等を見直し、機器取扱説明書、検査マニュアルに沿った標準的操作法の統一化を図り、再発防止に取り組んだ。

- 3) 2023年度版アンチバイオグラムを作成した。2022年度版と比べ1菌種増、抗菌薬欄を入院と外来で分けた。2菌種の抗菌薬効果に変化している。
- 4) 検査結果報告の運用をAmpC産生菌、PRSP：Penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae*検出時、抗酸菌培養陽性時、髄膜炎菌検出時について一部変更した（第2版）。

生理検査：

- 1) 脳波検査の患者案内文を平易な表現に変更した（例：検査は「仰向けで目を閉じて」とし、検査自体に痛みはありません。リラックスした状態で検査を受けて下さい等）。
- 2) 紙カルテ時期の2012年から生理検査心電計3台のバックアップ用のCFカード使用を経費管理より代替法を含め見直し廃止とした。
- 3) 超音波診断装置キャノンAplio-i700を後継機導入した（11月）。
- 4) 心電図等のユニットサーバを更新（フクダ電子）し、結果送信前の確認が可能となった。併せて、採血採尿／生理検査の各サーバ更新（テクノメディカ）し、生理検査受付画面のデザイン変更を図ったことで検査の進捗管理が容易になった。
- 5) 多機能心電計FCP-9800（フクダ電子）を3機、後継購入した。電極がワイヤレス仕様になり、合成18誘導や21誘導検査も可能となったことから、循環器系診療の質の向上に貢献できている。

※病理検査と輸血検査：病理診断科と輸血療法室の項を各々参照にされたい。

4. 精度管理

- 1) 臨床検査の第三者評価として、日本臨床検査技師会、日本医師会、大阪府臨床検査技師会、大阪府医師会のほか、日本超音波検査学会画像サーベイ、日本病理精度機構免疫染色サーベイに参加した。これら精度管理調査の結果に基づき、技術、検査手法、検査の意義と解釈、運用等を見直し、その成果や対策は臨床検査適性化委員会で報告し、フィードバックを受ける仕組みとしている。
調査結果については以下の事項を除き良好な結果を得ている。
- 2) 日本臨床検査臨技会精度管理調査：RSウイルス迅速抗原検査イムノクロマト法が誤判定の「D判定」となった。原因についてメーカーは、検体採取用スワブの品質改善に取り組むとし、テストプレート感度のロット間差によると回答された。感度差は理論上1間差で許容されると受け止め、検体採取時のリスク管理の視点より現行試薬を継続するとした。

一般検査のフォトサーベイの項では正解が尿細管上皮細胞と判断すべきところ、扁平上皮細胞と誤判断したが、日常検査にマイナスの影響を及ぼすことはない。

- 3) 大阪府臨床検査技師会精度管理調査：血小板数項目で自動血球数測定器の検体測定モードが人工産物試料として不適切だったため、誤判定「D判定」となった。機器特性、測定原理等、取扱説明書を十分把握した業務姿勢が求められることを改めて学習した。

5. 業績

学会発表

1. 大嶽雄也：当院のOSNA法検査体制見直しについて、第73回日本医学検査学会, 2024年5月, 金沢
2. 隅田裕子：Collagenous spherulosisの所見を伴う乳腺筋上皮腫の1例, 第65回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2024年6月, 大阪

研究会発表

1. 大澤由布子：尿検査の実際, 30分でよく分かる健康講座, 2024年4月, 大阪
2. 大澤由布子：CareshereLWS使用における検査業務の効率化, シスメックスLabマネジメントセミナー, 2025年2月, 大阪（Web開催）

2024年度（年間）主な実績（件）

部門	領域	項目名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2023年度比 (%)	項目名
検体検査	生化学	血糖	93,721	95,738	102,325	91,498	94,611	98,964	100,883	97,664	96.8	血糖
		HbA1c	56,101	59,658	61,959	55,165	58,438	61,064	62,398	61,110	97.9	HbA1c
		総蛋白	92,625	96,563	102,106	97,496	101,442	105,379	110,272	109,505	99.3	総蛋白
		電解質	93,818	97,629	102,163	97,155	99,856	103,282	107,057	105,745	98.8	電解質
		APTT	10,961	11,739	13,120	13,147	15,352	16,377	16,751	15,508	92.6	APTT
	血液学	血液ガス（動・静・臍帯）	3,991	5,024	6,553	6,737	8,144	7,985	8,559	9,272	108.3	血液ガス（動・静・臍帯）
		血算	121,833	127,567	128,373	111,263	123,662	129,068	132,472	130,843	98.8	血算
	一般（尿）	骨髄検査	227	221	254	266	267	297	279	263	94.3	骨髄検査
		尿定性	51,449	56,753	42,754	41,197	43,236	45,542	45,798	46,697	102.0	尿定性
	便潜血	ヒトヘモグロビン	29,961	32,845	33,063	27,230	30,182	1,427	1,239	1,249	100.8	ヒトヘモグロビン
	免疫学	アデノウイルス（迅速抗原検出キット）	679	656	423	69	104	123	246	117	47.6	アデノウイルス（迅速抗原検出キット）
		RSウイルス（迅速抗原検出キット）	173	176	101	11	40	26	45	56	124.4	RSウイルス（迅速抗原検出キット）
		インフルエンザウイルス（迅速抗原検出キット）	1,700	1,180	1,128	30	13	185	220	38	17.3	インフルエンザウイルス（迅速抗原検出キット）
		SARS-CoV2/インフルエンザウイルス A/B(迅速抗原検出キット)							2,383	2,822	118.4	SARS-CoV2/インフルエンザウイルス A/B(迅速抗原検出キット)
		StreptA（迅速抗原検出キット）	730	669	472	89	114	109	286	217	75.9	StreptA（迅速抗原検出キット）
		CEA	11,110	12,401	15,620	14,432	15,742	16,212	16,516	16,309	98.7	CEA
		CA19-9	5,480	6,386	8,124	7,949	8,387	8,322	8,659	8,802	101.7	CA19-9
		シフラ	728	1,557	1,988	1,942	2,173	2,564	2,974	2,956	99.4	シフラ
		ProGRP	1,194	1,338	1,515	1,414	1,522	1,885	2,261	2,290	101.3	ProGRP
		PSA	6,296	6,566	7,338	6,761	6,548	6,624	6,928	7,019	101.3	PSA
		TSH	13,634	15,178	16,634	14,913	16,027	16,776	17,160	17,179	100.1	TSH
		インスリン	6,451	6,462	7,158	5,618	7,812	6,545	6,431	6,702	104.2	インスリン
		HB s Ag	13,922	15,396	15,791	13,782	15,298	15,559	15,500	15,177	97.9	HB s Ag
		HCVA b	13,412	14,568	14,922	13,059	14,655	14,638	14,516	14,186	97.7	HCVA b
	輸血学	血液型	5,340	6,296	6,184	5,726	6,329	6,423	7,729	7,181	92.9	血液型
		交差適合試験	1,533	1,668	1,893	1,895	2,052	2,234	1,833	1,889	103.1	交差適合試験
	遺伝子・核酸	β -D-グルカン								3,566	-	β -D-グルカン
		呼吸器パネル				606	1,782	2,118	288	369	128.1	呼吸器パネル
微生物検査	一般細菌培養	呼吸器	2,220	2,372	2,634	2,289	2,044	2,268	2,836	2,929	103.3	呼吸器
		消化器	744	968	931	1,010	889	880	883	904	102.4	消化器
		泌尿器・生殖器	1,948	2,390	2,388	2,741	2,717	2,703	2,829	2,724	96.3	泌尿器・生殖器
		血液・穿刺液	3,746	4,159	4,614	5,282	5,370	5,472	5,600	5,881	105.0	血液・穿刺液
		その他	1,359	1,684	1,681	1,866	1,780	1,708	1,345	1,121	83.3	その他
超音波	心臓	心臓	3,550	3,923	3,950	3,916	4,080	4,215	4,106	3,708	90.3	心臓
		頸動脈	1,110	1,093	1,056	942	1,049	1,349	1,354	1,340	99.0	頸動脈
		四肢血管（下肢静脈・下肢動脈・シャント）	956	1,369	1,252	1,092	1,184	1,262	1,297	1,395	107.6	四肢血管（下肢静脈・下肢動脈・シャント）
		経食道心臓	17	14	17	8	6	2	1	15	1500.0	経食道心臓
		腹部	4,919	5,073	4,991	4,697	4,745	4,654	4,678	4,393	93.9	腹部
		腎動脈	101	197	255	277	274	264	244	225	92.2	腎動脈
		脾精密	136	80	92	103	34	60	61	77	126.2	脾精密
		腹部造影	26	24	19	16	33	30	24	27	112.5	腹部造影
		体表	719	718	715	621	648	747	714	596	83.5	体表
	心電図	安静	11,195	12,090	12,297	11,461	12,075	12,973	13,340	12,861	96.4	安静
		CVR-R（自律神経R-R間隔）	192	180	175	150	220	305	327	302	92.4	CVR-R（自律神経R-R間隔）
		マスター運動負荷試験	341	277	200	149	168	180	120	66	55.0	マスター運動負荷試験
		トレッドミル運動負荷試験	206	126	116	136	155	138	107	103	96.3	トレッドミル運動負荷試験
	肺機能	一般	4,321	4,909	4,688	3,452	2,603	2,996	3,039	2,845	93.6	一般 肺機能
		呼気中一酸化窒素濃度（NO）	2,030	1,978	2,334	1,338	349	277	339	449	132.4	呼気中一酸化窒素濃度（NO）
		精密	67	52	55	64	50	18	45	47	104.4	精密
	他の循環器・呼吸器系生理	24時間ホルター心電図	275	257	180	203	228	227	178	198	111.2	24時間ホルター心電図
		24時間自動連続血圧	68	35	43	24	11	12	6	5	83.3	24時間自動連続血圧
		簡易睡眠時無呼吸（SAS）	87	92	91	76	55	58	57	44	77.2	簡易睡眠時無呼吸（SAS）
		ABI・TBI（足関節上腕血圧比・足趾上腕血圧比）	1,394	1,332	1,136	998	1,209	1,439	1,341	1,357	101.2	ABI・TBI（足関節上腕血圧比・足趾上腕血圧比）
		SPP/TCPO2（皮膚還流圧測定/経皮酸素分圧測定）	-	54	62	60	63	43	98	55	56.1	SPP/TCPO2（皮膚還流圧測定/経皮酸素分圧測定）
		CPX（心肺運動負荷試験）	8	13	33	0	2	1	3	2	66.7	CPX（心肺運動負荷試験）
		アデノシン負荷心筋シンチ	138	118	87	58	64	31	28	32	114.3	アデノシン負荷心筋シンチ
	神経系生理	神経伝導	234	234	205	190	178	178	176	169	96.0	神経伝導
		脳波	274	299	305	250	235	303	260	222	85.4	脳波
耳鼻科系生理		平衡機能検査（VOG、重心動揺、VEMP）	206	346	389	444	437	460	454	382	84.1	平衡機能検査（VOG、重心動揺、VEMP）
		聴力検査（純音、語音、ティンパノ、OAE）	1212	1,747	1,881	1,912	1,964	1,654	1,752	1,513	86.4	聴力検査（純音、語音、ティンパノ、OAE）
		神経検査（ABR、味覚、ENoG）	21	25	32	20	21	17	11	11	100.0	神経検査（ABR、味覚、ENoG）

中央採血室 採血患者数		65,829	73,514	69,682	70,073	73,134	75,540	74,642	98.8	採血室患者数
-------------	--	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	------	--------

中 央 放 射 線 部

スタッフ 部 長：長澤浩造（兼技師長）
 副 技 師 長：新谷泰正
 次席技師長：矢野勝之、藤丸泰一
 主 任：安部 弘、山田純子、中農智絵、北埜希望、勘田雅浩
 坂田奈葉、芝 理賀、安藤 真、奥 昂祐、越智由知、坂田航矢、土山裕生、
 北山 瑛、草野麗夏、荒井真優、山中翔太

1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 診療体制（機器）

CT	2 台（320列・320列）
MRI	2 台（3.0T・1.5T）
PET／CT	1 台
RI	1 台
リニアック	1 台
治療計画用CT	1 台（16列）
一般撮影	2 台
X線TV	2 台
乳房撮影	1 台
骨塩定量	1 台
アンギオ	2 台
結石破碎	1 台
外科用イメージ	3 台
ポータブル	2 台

4. その他

1) 取得資格

第1種放射線取扱主任者	2 名
健診マンモグラフィ認定技師	5 名
放射線治療専門放射線技師	3 名
放射線治療品質管理士	2 名
胃がんX線検診技術部門B資格	1 名
放射線管理士	2 名
放射線機器管理士	1 名
X線CT認定技師	3 名
臨床実習指導教員	1 名
診療放射線技師実習施設指導者	9 名

5. 業績

研究会発表

- 長澤浩造：PET検査で何がわかる？～PET・PET/CT検査の特徴と画像診断機器について～，日本生命病院 ニッセイ あったか茶論，2024年12月，大阪

3. 診療実績（2024年度 検査件数）

検査項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
CT	1,570	1,561	1,491	1,661	1,493	1,409	1,593	1,495	1,572	1626	1385	1507	18363
MRI	612	610	586	641	635	581	669	604	604	558	536	578	7214
RI	40	38	31	62	38	34	47	38	41	40	39	50	498
PET/CT	52	42	37	37	38	43	40	49	40	38	39	43	498
単純X線	2,454	2,438	2,201	2,474	2,213	2,149	2,327	2,033	2,342	2380	1975	2096	27082
MMG	73	73	85	78	100	69	75	90	43	64	68	76	894
リニアック（新患）	22	17	13	17	24	22	15	20	14	19	12	13	208

栄 養 管 理 室

スタッフ 栄養管理室長：橋本久仁彦（副院長、内分泌・代謝内科部長、糖尿病・内分泌センター長、あったかサポートセンター長）

スタッフ：坂本彩弥、中村由美、西本絵実、岩田真季、吉原早紀、小田有沙

*栄養サポートチーム（NST） 水野 均、森山綾乃、藤井克至、橋爪 香、中村由美、吉原早紀

1. 診療内容

糖尿病、腎臓病、心臓病、脂質異常症など食事療法を必要とする患者に対する個別栄養指導及び集団栄養指導を実施している。

また、入院患者には、栄養管理計画書を作成し、栄養管理によって疾患の治療に貢献できるように努めている。栄養サポートチーム（NST）ラウンドを通して、必要な患者に対して低栄養の改善、食事内容の見直し、栄養補給法について検討している。周術期栄養管理加算では医師と連携し、術前・術後の患者さんの栄養管理を行っている。早期栄養介入加算では集中治療室入室後、早期に栄養管理を行っている。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

栄養指導室で外来個別栄養指導、糖尿病・内分泌センターで外来個別栄養指導と透析予防指導を行っている。また、腎臓病、糖尿病は集団栄養指導を実施している。

2) 病棟体制（表2）

病棟を担当制として、受け持ち病棟の対象患者を中心に入院個別栄養指導を適宜行っている。

3. 診療実績

各診療科で栄養指導を行った結果は以下の内容である。

1) 入院個別栄養指導の実績（表3）

117件/月

2) 外来個別栄養指導の実績（表3）

88件/月

3) 集団栄養指導の実績（表3）

5件/月

4) 診療科別個別栄養指導の実績（表4）

前年度に比して消化器外科、小児科の指導件数は増加している。栄養指導だけでなく周術期栄養管理加算、早期栄養介入加算の算定が加わることで診療実績が増加している。

5) 入院食事提供の実績

表5参照

6) 病棟での取り組み

患者給食について、選択食のアレルギー表を改定した。

7) 新しい取り組み

・周術期栄養管理加算（2022年5月～）

・早期栄養介入管理加算（2023年10月～）

・慢性腎臓病透析予防指導管理料（2024年8月～）

8) その他 活動

1. 2024年8月9日

ニッセイ夏休みこども医療体験 講演
「朝食を食べてない？チョーショック!!」
小田有沙

2. 2024年9月4日

ニッセイオレンジ茶論（認知症カフェ） 講演
「食事のおはなし」中村由美

3. 2024年11月15日

糖尿病フェア
「ベジチェック」・・・カゴメより機器をレンタルし野菜の摂取状況を簡易的に測定し、結果をふまえて栄養相談を実施した。

4. 2024年11月22日

大阪市西部3病院合同がんサロン あったか茶論
講演
「治療中の食事の工夫(BCAAについて)」
岩田真季

5. 2024年3月21日 世界腎臓デー 講演

「CKDクッキング講座」坂本彩弥

*院外敷地内阿波座大食堂とのコラボ事業

昼食メニュー「バランス定食」監修を毎月

（献立内容、献立・栄養バランス、栄養価計算を含む）

*あったかサポート通信 依頼時に執筆

9) イベント食と行事食カードおすすめメニューの提供
・行事食に加え、食育イベント食と行事食カードを提供した。さらには、検食を実施した医師におすすめメニューを選んでもらい、それらについてコメントを記載した「おすすめメニュー」というイベントカードも提供。イベント食の充実へつながった。

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会	3名
日本臨床栄養代謝学会	4名
日本栄養士会	1名

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士	4名
栄養サポートチーム（NST）専門療法士	3名
病態栄養専門管理栄養士	1名

5. 業績

研究会発表

1. 小田有沙：「朝食」食べていない？チョーショック！！，ニッセイ夏休み子供医療体験，2024年8月，大阪
2. 中村由美：食事のおはなし，ニッセイオレンジ茶論（認知症カフェ），2024年9月，大阪
3. 岩田真季：治療中の食事の工夫（BCAAについて），大阪市

- 西部3病院合同がんサロン，あったか茶論，2024年11月，大阪
4. 坂本彩弥：CKDのクッキング講座，よくわかる健康講座，世界腎臓デー市民公開講座，2025年3月，大阪
 5. 坂本彩弥，中村由美，岩田真季，吉原早紀，小田有沙：昼食メニュー「バランス定食」監修（献立内容・栄養価計算）院外敷地内，あわぎ大食堂とのコラボ事業，2018/5月～2025/3月，大阪

表1 個別栄養食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
外来 栄養指導室	吉原	中村	岩田	坂本	小田
糖尿病・内分泌 センター	小田	坂本	小田 坂本	岩田 小田	岩田

回診業務 木曜午前（NST） 午後（褥瘡/口腔ケア）

表2 担当病棟

病 棟	担 当
HCU	中村
7 階	坂本 小田
8 階	中村
9 階	坂本
10階	吉原
11階	岩田
12階	岩田
13階	吉原
14階	坂本 小田

表3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
入 院 個 別	102	113	99	100	107	151	135	111	126	106	111	140	1,401	117	1,141	95
外 来 個 別	88	69	72	95	84	82	97	77	100	97	93	102	1,056	88	1,008	84
DM外来個別	60	76	83	68	84	61	80	66	72	73	64	69	856	71	1,024	85
DM透析予防	58	57	53	57	64	49	61	61	56	59	55	52	682	57	544	45
慢性腎臓病透析予防指導 管 理 料					3	3	2	1	2	0	3	1	15	2		
栄養サポートチーム加算	44	59	58	59	60	58	75	54	35	53	58	41	654	55	582	49
周術期栄養管理実施加算	20	27	20	35	55	55	59	58	52	51	55	56	543	45	266	22
早期栄養介入管理加算	20	19	28	30	23	13	16	13	21	27	44	10	264	44	171	29
集 団	9	6	4	9	5	7	5	4	2	3	8	2	64	5	73	6
合 計	401	426	417	453	485	479	530	445	466	469	491	473	4,134	345	4,809	

疾患別個別栄養指導件数（糖尿病・内分泌センター/集団指導含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
が ん	7	17	4	14	11	31	21	20	19	11	20	18	193	16	55	5
胃 腸 病	47	50	44	38	38	55	55	57	63	50	55	62	614	51	565	47
肝 臓 病	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	40	3
糖 尿 病	62	43	45	49	58	57	64	43	54	55	51	47	628	52	605	50
高血・心臓・高脂	30	32	36	38	53	56	56	36	61	63	49	72	582	49	411	34
腎 臓 病	24	20	20	25	22	20	25	26	26	20	27	41	296	25	261	22
脾 臓 食	3	1	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	55	5
貧 血 食	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	11	1
肥 満 症	12	11	11	20	0	0	0	0	0	0	0	0	54	5	95	8
母 子 栄 養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
嚥 下	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	1
低 栄 養	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	17	1
ア レ ル ギ ー	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	22	2
そ の 他	2	1	0	1	9	14	11	6	3	3	2	2	54	5	5	0
合 計	190	182	171	195	191	233	232	188	226	202	204	242	2,456		2,149	

表 4 診療科別個別栄養指導実績（糖尿病内分泌センター・集団含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	9	19	18	17	18	16	19	8	25	24	11	18	202	17
消化器内科	38	39	36	40	29	42	46	39	44	37	31	43	464	39
内分泌内科	40	20	31	37	32	40	30	27	30	41	32	27	387	32
呼吸器内科	5	6	7	6	9	18	10	6	8	7	11	8	101	8
血液内科	8	6	7	6	2	7	7	9	8	5	4	4	73	6
腎臓内科	23	21	27	26	21	21	20	25	24	20	27	36	291	24
消化器外科	18	18	4	15	13	23	21	21	26	19	24	28	230	19
整形外科	4	2	2	3	12	14	9	8	7	6	5	9	81	7
精神科	1	2	6	1	2	2	2	1	1	1	2	3	24	2
皮膚科	13	12	13	11	9	12	16	13	23	13	20	14	169	14
泌尿器科	3	3	5	0	3	2	4	4	1	1	1	7	34	3
産婦人科	16	20	8	20	21	18	25	15	17	12	21	21	214	18
乳腺外科	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
救急診療科	2	2	0	0	0	3	2	0	0	1	1	2	13	1
小児科	4	6	4	8	10	4	11	3	6	8	2	10	76	6
耳鼻咽喉科	3	3	0	2	3	4	1	3	0	4	5	0	28	2
麻酔科	1	1	1	1	1	1	1	0	2	2	1	0	12	1
呼吸器外科	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	5	0
形成外科	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0
その他	2	1	2	0	6	4	6	5	2	1	6	12	47	4
合 計	190	182	171	195	191	233	232	188	226	202	204	242	2,456	

表 5 患者給食数

患者給食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年累計
常 食	8,946	8,645	7,903	8,980	8,935	7,896	8,056	8,033	8,645	7,989	7,779	7,598	99,405	92,018
軟 菜 食	4,506	4,773	4,170	5,219	6,317	5,187	5,361	4,267	4,116	5,944	4,900	5,209	59,969	53,695
特 食	883	7,904	8,018	7,546	7,404	6,872	6,910	7,361	8,537	8,820	8,080	8,507	86,842	92,611
合 計	14,335	21,322	20,091	21,745	22,656	19,955	20,327	19,661	21,298	22,753	20,759	21,314	246,216	238,324
調乳本数	2,301	2,092	1,862	1,460	2,532	1,198	1,617	1,509	1,676	1,805	2,336	2,223	22,611	21,844
特食加算率	41.3%	38.6%	41.5%	35.9%	34.0%	35.4%	35.5%	39.1%	41.3%	39.8%	40.4%	41.4%		

スタッフ 薬剤部長：足立充司

課 長：池田久雄

主 任：古久保有希子、宮麻紀子、平田貴宏、森岡浩子、野村暢彦、六車裕一

薬 剤 師：千原亜紀子、平田亜紀、内藤 睦、小寺由香、藤井克至、

宮原阿友美、神原弘和、藤田真弓、奈良味菜子、窪田由夏、徳力麻希、神村真由、

清水 咲、橋爪 香、熊谷亜美

パート薬剤師：辻 俊美、中野静香

事 務 員：岩城淳子

1. 業務内容

本年度は、医薬品に関する運用について、薬剤師のみならず、医師、看護師など多職種チームのもとに策定し、安全でかつ確実な運用を実現した。医薬品の適正な在庫管理、法令を遵守した保管管理のもと調剤、病棟業務を通して、医薬品の安定供給、適正使用、チーム医療へ参画に継続的に取り組んだ。2022年4月からの診療報酬改定で薬剤師が算定取得可能な「周術期薬剤管理加算」「術後疼痛管理チーム加算」に対して体制作りに取り組み、算定が可能となった。

手術決定時の入院前服用薬の確認業務で、手術決定後、入院前に術前休薬必要薬を確認することで、手術を安全に行えるように支援した。医薬品安全管理について、職員への医薬品安全管理の講演や、医師を含む多職種をメンバーとした医薬品安全管理ワーキングによる院内ラウンドの実施、疑義照会の一元管理可能なデータベース化による、問題点の把握と共有など、業務改善ができる取組みを継続した。DIニュースの定期的な発行で院内の情報発信が円滑に行うことができた。また最適使用推進ガイドラインの遵守確認、糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などのチーム医療への参画により医薬品の適正使用を図った。

また、一般名処方加算を維持するために外来処方に一般名名称で院外処方を入力できるようマスタ整備を実施した。

がん化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請レジメン51件（一部変更申請レジメン5件）の承認審査並びに登録を行うと共に、オーダ内容の確認・承認、抗癌剤の調製から、曝露・拡散防止など、安全で安心な薬物療法の更なる向上に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての有用性や安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。新規市販された同効製品の購入にも積極的に関わり、製剤業務量の軽減・効率化を引き続き図った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は前年度並で推移している。

採用医薬品の製品回収（クラスⅡ）や特に後発医薬品

メーカーにおける出荷調整が今年度も継続して発生し、回収に伴う院内の対応、運用の変更や他メーカーへの切り替えなど保険調剤薬局の連携を図りながら患者様の不利益にならないよう十分な配慮を行いながら対応した。

医療外業務として薬学部5年次学生1期（11週）3～4名の病院実務実習の受け入れ体制を継続した。

今後も、医薬品情報の有用かつ適時な情報管理の強化により、安心で安全な薬物療法の実践を更に深化する組織体制を発展させると共に、常に「患者さんのために何ができるか」を考えて行動できる人材育成を行う。

2. 業務体制

1) 人員配置 2025年3月時点

人員：薬剤師24名（パート2名を含む）、事務員1名	
配置：調剤・製剤業務12名、薬剤管理指導業務9名	
DI（薬品情報室）	1名
臨床研究管理室（事務局）	1名
薬品管理 事務員	1名
外来薬剤指導	1名

2) 病棟体制

新病院より専任薬剤師8名とし病棟業務実施加算体制を継続。手術予定患者の入院前持参薬の確認、薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施し、適正かつ、安心・安全な薬物療法に努めた。

周術期薬剤管理加算を維持継続するため担当者1名を配属し病棟専任薬剤師と周術期に必要な薬学的管理を実践した。

3. 活動内容

1) 日常業務

外来処方箋枚数	255枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数	245枚/日
入院注射処方箋枚数	922枚/日
服薬指導件数	862件/月（薬剤管理指導業務）
抗癌剤調製件数	441件/月
外来腫瘍化学療法診療料1（連携充実加算）	138件/月
麻酔管理料（Ⅰ、Ⅱ）（周術期薬剤管理加算）	151件/月

- 2) 院内学術活動（講演）
医療安全講演会・医薬品安全管理講習会、
院内感染対策委員会 教育講演会
よくわかる健康講座
- 3) 院内広報活動
医薬品情報（安全性情報） 10通
DSU（医薬品安全対策情報） 10通
新規採用薬情報 3通
お薬ニュース 4通
4. 認定薬剤師など
日本医療薬学会専門薬剤師 2名
がん薬物療法認定薬剤師 2名
感染制御認定薬剤師 2名
抗菌化学療法認定薬剤師 1名
日本糖尿病療養指導士 6名
日本循環器学会心不全療養指導士 1名
認定実務実習指導薬剤師 4名
日本病態栄養学会認定NST研修終了者 1名
日本臨床栄養代謝学会認定NST研修終了者 1名
日本麻酔科学会認定術後疼痛管理研修終了者 1名
(2025年3月31日現在)

5. 論文・学会発表など
- 学会発表
1. 橋爪 香, 内藤 睦, 池田久雄, 平田貴宏, 神原弘和, 足立充司：日本生命病院における入院患者での抗インフルエンザ薬の使用実態調査, 第34回日本医療薬学会年会, 2024年11月, 千葉
2. 森岡浩子, 池田久雄, 古久保有希子, 千原亜紀子, 宮原阿友美, 神原弘和, 足立充司, 橋本奈美子：日本生命病院での子宮筋腫治療に対する全腹腔鏡下子宮全摘出術症例における、肝障害の発現状況と病棟薬剤業務の検討, 第34回日本医療薬学会年会, 2024年11月, 千葉
- 研究会発表
1. 池田久雄：日本生命病院における薬薬連携の実際 ～連携充実加算と江之子島薬薬連携連絡会～, 第18回大阪市東部「地域医療連携」に向けた薬剤業務研修会, 2024年8月, 大阪
2. 野村暢彦：知っておきたい、災害時に役立つおくすりの話, 30分でよくわかる健康講座, 2024年8月, 大阪
3. 野村暢彦：血糖降下薬の副作用, 糖尿病・内分泌センター主催勉強会, 2024年12月, 大阪
4. 野村暢彦：日本生命病院における病棟薬剤師の活動, 第10回リウマチセンター合同カンファレンス, 2025年2月, 加古川

薬剤関係件数

摘 要				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	累計	前年度累計
処方箋	外来	枚数	枚数	4,795	4,261	4,805	5,721	5,235	4,907	5,317	5,350	5,804	5,070	5,094	5,406	61,765	55,344
			件数	6,490	5,078	6,387	7,593	6,907	6,604	7,095	7,058	7,562	6,025	6,852	7,169	80,820	73,355
		1日当り	枚数	228	203	240	260	249	258	242	268	290	267	283	270	3,059	2,726
			件数	309	242	319	345	329	348	323	353	378	317	381	358	4,002	3,614
	入院	総数	枚数	8,293	7,666	6,832	7,839	7,923	6,679	7,029	6,867	7,727	8,051	7,246	7,403	89,555	89,781
			件数	13,725	12,891	11,300	13,288	12,952	11,129	12,131	11,255	13,276	13,684	12,429	12,722	150,782	149,529
		1日当り	枚数	276	247	228	253	256	223	227	229	249	260	259	239	2,945	2,943
			件数	458	416	377	429	418	371	391	375	428	441	444	410	4,958	4,902
注射	入院	総数	枚数	29,369	27,490	25,048	29,776	30,461	25,392	26,652	27,052	28,082	32,392	27,504	27,320	336,538	319,725
		1日当り	枚数	979	887	835	961	983	846	860	902	906	1,045	982	881	11,066	10,490

摘 要				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定				941	900	861	890	865	803	849	909	898	784	749	892	10,341	10,276
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)				274	300	295	343	304	278	307	270	270	289	293	279	3,502	3,271
(入院化学療法)				209	194	162	201	168	138	137	106	102	123	158	93	1,791	2,076
TPN調製件数				51	52	57	97	62	32	33	38	5	36	51	54	568	432

摘 要				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	累計	前年度累計
麻薬処方箋	外来	内 用		2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	7
		外 用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		注 射		1	0	0	0	2	0	0	0	2	4	0	2	11	4
	入院	内 用		119	104	78	109	36	53	58	52	65	72	57	76	879	1398
		外 用		12	16	10	23	14	11	21	18	8	11	5	6	155	116
		注 射		425	446	385	446	463	369	429	414	381	479	410	380	5,027	5,067

製剤室

摘 要				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	累計	前年度累計
一般製剤		件数		3	4	12	8	10	8	7	4	8	7	3	9	83	186
無菌製剤		件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45

[薬剤部]

臨床工学室

スタッフ 室 長：宇津 貴（副院長、内科統括、腎臓内科部長、血液浄化センター長）
次席技師長：田中恵介

1. 診療内容

臨床工学室は、2017年4月より中央臨床検査部から独立し新設された。現在10名の臨床工学技士が様々な臨床業務に関わり、医師・看護師や各種医療技術者と共に治療に携わっている。

2. 診療体制

1) 臨床業務

主に下記の臨床業務に関わっている。

①手術室

手術支援ロボット手術、血管外科による血管内治療、術中自己血回収術

②血管造影室

心臓カテーテル検査・治療、心臓ペースメーカーの植込み・ジェネレーター交換、植込み型心臓モニタの植込み、心臓電気生理学的検査、血管内治療

③集中治療室

血液浄化（血液透析、持続血液濾過透析法、血漿交換療法）、補助循環業務（IABP・ECMO）

④血液浄化センター

血液透析・オンラインHDF、特殊血液浄化（顆粒球除去療法、血漿交換療法、LDL吸着療法、末梢血幹細胞採取、顆粒球採取）

⑤外来

ペースメーカー外来、ペースメーカーMRI対応

⑥その他

腹水濾過濃縮、術前術後・緊急時のペースメーカーチェック、人工呼吸器・経鼻高流量酸素療法（HFNC）使用時対応、RST（呼吸サポートチーム）ラウンド、術後疼痛管理チームラウンド

2) 医療機器の保守・修理・点検業務

外来・病棟や手術室・集中治療室などで使用する様々な医療機器の保守・修理・点検を行い、医療機器がいつも清潔で安全に使用できるよう管理運用している。

医療機器のトラブルや不具合に院内で対応し、医療機器のダウンタイムを削減している。

看護師に向けて医療機器に関する勉強会を定期的に行い、医療機器を安全に正しく使用出来る環境作りに努めている。

「臨床工学室のお知らせ」として年に4回程度、医療機器に関する様々な情報発信を行っている。

3. 認定資格

透析技術認定士	7名
心血管インターベンション技師	4名
3学会呼吸療法認定士	5名
臨床ME専門認定士	1名
第1種消化器内視鏡技師	1名
認定血液浄化臨床工学技士	1名
周術期管理チーム臨床工学技士	1名
腎代替療法専門指導士	1名

4. 業績

学会発表

- 岡崎浩也, 吉岡佑太, 田口貴大, 地田 紬, 吉川秀人, 坂口健太, 中川 厚：当院における冠微小循環障害を有する患者さんの割合, 第32回日本心血管インターベンション治療学会, 2024年7月, 札幌
- 地田 紬, 岡崎浩也, 田口貴大, 吉岡佑太, 中川 厚, 吉川秀人, 坂口健太：出張アブレーションを経験した報告, 第32回日本心血管インターベンション治療学会, 2024年7月, 札幌
- 吉岡佑太, 岡崎浩也, 田口貴大, 地田 紬, 中川 厚, 吉川秀人, 坂口健太：洞不全症候群に対してペースメーカー留置後、心不全が増悪した1例, 第32回日本心血管インターベンション治療学会, 2024年7月, 札幌
- 岡崎浩也：メディカルスタッフプログラム 基礎セッション「カテ室で使用する薬剤」, 第44回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会, 2025年3月, 大阪

研究会発表

- 岡崎浩也：iFR Co-RegistrationのTips, SyncVision徹底活用術（フィリップスジャパン主催）, 2024年6月, 大阪
- 岡崎浩也：血管内イメージングバックスビードの検討, 大阪血管内イメージングカンファレンス, 2024年9月, 大阪

スタッフ 室 長：岡部太一（循環器内科部長）
CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子（看護師）
寺西由加里（臨床検査技師）
坂田真美（看護師）
事務局：藤田真弓（薬剤師）、小原秀子（ソラスト）

1. 活動内容

臨床研究管理室では、治験審査委員会・倫理委員会の事務局として治験、臨床研究、製造販売後調査の窓口業務を行っている。新規治験受託に関しては、受託可能な疾患を調査し病院HPに公開している。また治験依頼者（製薬会社）やCRO（開発業務受託機関）へ直接打診したり、すでに契約しているSMO（治験施設支援機関）2社からも治験案件の紹介を受けながら新規案件を受託し院内全体の治験件数の増加に向けて取り組んでいる。さらに治験依頼者との調整が円滑に運べるよう病院HPには施設情報チェックリストも公開している。

IRBの業務効率化と書類のペーパーレス化のため2023年11月より導入した治験文書管理の電磁化（DDworks）についての運用も滞りなく進んでいる。

日常業務では、CRCが治験受託時から治験終了まで、安心・安全で質の高い治験・臨床研究が提供できるよう被験者対応、治験依頼者対応、治験責任医師・分担医師への対応を行っている。また、院内各部署との調整を行い、工夫・改善しながらチームとして治験が推進出来るよう支援している。

他部署からの院内留学の受け入れをして職員への治験啓発にも努めた。

また、臨床研究管理室の定例会議を1回/月開催し、運営等について協議している。

院内職員向けの治験・倫理研修会では、100%受講を目指し、未受講者へ個別に声かけを行った。

2. 活動実績

- 1. 治験審査委員会（IRB） 12回開催
倫理委員会 12回開催
- 2. 年間治験実施件数 20件
（前年度からの継続実施15件、2024年度新規受託5件）
- 3. 製造販売後調査 新規契約 11件
- 4. 臨床研究 実施件数 34件

新規受託件数は5件であった。目標である新規受託件数5件は達成した。

年間治験実施件数は20件であり、2019年から2024年までの6年間をみると多少増減はあるもののほぼ横ばいである。臨床研究実施件数や、製造販売後調査新規契約は前年と比べ減少している（図1）。

治験における被験者対応人数がやや減少しているのは、新規案件の1試験あたりの契約被験者数が少ないた

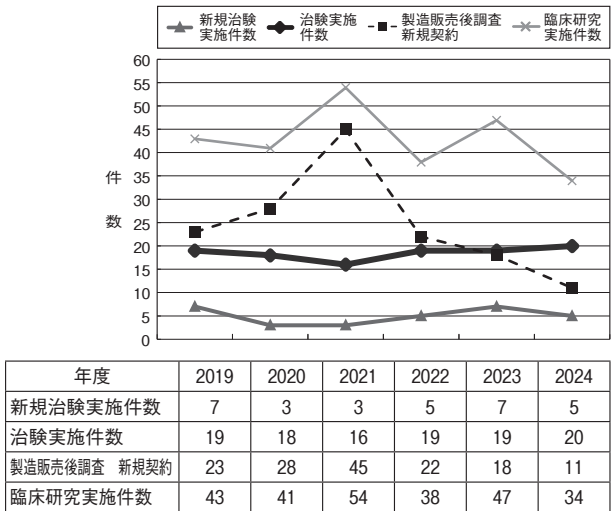
めである。

また、モニター対応時間に関しては、COVID-19感染拡大以来、依頼者側がモニターの来院を制限していることもあり減少していたが、感染症法の位置付けが5類感染症に変更して徐々に増加傾向である。しかし、2019年の約半数と減少しているのは、依頼者からリスクの低い治験実施施設として評価を受けているためである。（図2）。

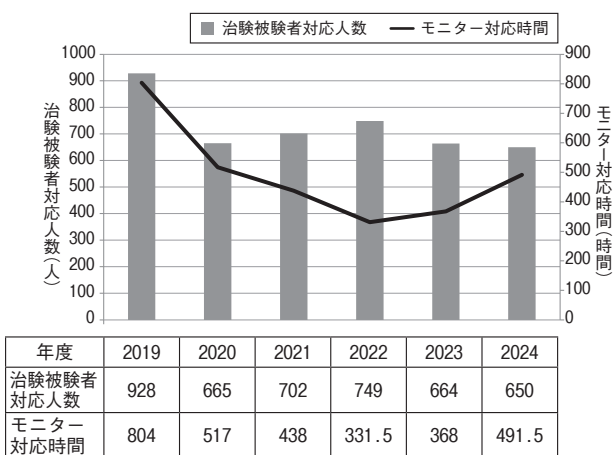
3. 認定

日本臨床薬理学会認定CRC 2名（谷口、寺西）

【図1（治験・臨床研究等実施状況）】



【図2（治験被験者対応人数・モニター対応時間）】



医療安全対策室

スタッフ 室 長：岸 正司（副院長、救急総合診療科部長、救急総合診療センター長、集中治療室室長）
医療安全管理者：賀戸ひとみ（副看護部長）
室 員：足立充司（薬剤部長）、近石克也（医事サービス担当部長）

1. 概要

インシデント・アクシデントレポート及びオカレンスレポートについての分析・情報共有を「医療安全ミーティング」として医療安全対策室で週単位に実施、再発防止策を検討した。また多職種によるワーキング活動を引き続き行っている。医療安全対策地域連携加算Ⅰを継続した。

2. 活動内容

- 以下の医療安全管理マニュアルの見直し、改訂
 - ①DNARに関するガイドライン
 - ②身体拘束に対する指針
 - ③虐待対策チーム運営要綱
 - ④集中治療室における患者観察カメラに関する管理規定
- 医療安全管理者の育成
看護安全対策委員会では、毎月、事例の共有及び対策の検討を行った。看護管理者のリスクのとらえ方や医療安全管理に対する意識が高まるように働きかけた。
- 医療安全対策地域連携加算Ⅰ
 - ①Ⅰ－Ⅰ連携
・12月19日JCHO大阪みなと中央病院から当院へ訪問審査
・2月12日大野記念病院を訪問審査
 - ②Ⅰ－Ⅱ連携
・11月6日 咲洲病院を訪問審査
- ワーキング・チーム活動
医療安全管理委員会では、下部組織として、医薬品安全管理ワーキング、転倒・転落防止ワーキング、VTE予防ワーキング、CVC認定ワーキングという4つの実働的な多職種ワーキンググループを設置、活動を行っている。医薬品安全管理ワーキングでは、定期的なラウンドを行い、薬剤の適切な管理の確認を行った。また、薬剤に関するインシデント事例に対する対策の検討等を行った。転倒・転落防止ワーキングでは、毎月病棟のラウンドを行い、療養環境の確認やアセスメント評価の内容やそれに伴う看護計画の妥当性を評価し、対策を検討した。VTE予防ワーキングでは、入院患者のリスク評価を行うと伴に、医師、看護師への周知、看護師向けの勉強会を開催した。CVC認定ワーキングでは、7月9日、10日に、CVC認定の為の講習会を

開催し13名の医師が参加した。また、新たに12名のCVC認定の承認を行った。

2021年度より虐待対策チームを設置し年2回研修を行い、職員への周知を図った。

5) 医療安全ミーティング

週単位でのインシデント・アクシデントレポートの分析、事例の検討を毎週1回開催した。また、インシデント・アクシデント報告とは別に、合併症の報告としてオカレンスの報告の検討を行った。オカレンスの件数は2023年度は11件、2024年度は22件の報告があった。

◆インシデント・アクシデント報告の推移 (2022年度～2024年度)

	薬 剤	転 倒 ・ 転 落	輸 血	治 療 ・ 処 置	ド レ ン ・ チ ュー ブ	検 査	医 療 機 器	療 養 上 の 世 話	そ の 他	合 計
2022年度	450	375	12	44	188	113	35	105	118	1,440
2023年度	566	352	9	56	163	152	26	137	144	1,605
2024年度	571	362	5	66	165	205	36	143	107	1,660

6) 医療安全研修

【第1回】2024年8月8日（木）17：15～17：50

1. テーマ：「医療用麻薬等の取り扱いと医薬品安全管理WG活動報告」

講 師：薬剤部長 足立充司

2. テーマ：「虐待対策チームの活動について」

講 師：MSW 福庭加奈

参加者：774名（ビデオ視聴含む）

受講率 94%

総合評価：「良い」 96%

【第2回】2024年11月26日（木）17：15～18：15

1. テーマ：「パートナーからの暴力と妊娠期からの支援」

講 師：聖泉大学 別科助産専攻 教授

佐保美奈子

参加者：838名（ビデオ視聴含む）

受講率 98%

総合評価：「良い」 96%

スタッフ 室 長：西垣敏紀（インфекションコントロールドクター、小児科部長）
副 室 長：大野典子（感染症看護専門看護師）
薬 剤 師：池田久雄（抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師）
看 護 師：堤 早苗（感染管理認定看護師）
検査技師：佐古大輔

1. 活動内容

感染対策室は病院の理念に基づき「最良の医療サービス」を目標に日々の感染症予防と感染が発生した場合の拡大防止、感染症の診断及び治療、適切な抗菌薬使用支援といった役割を担う。

昨年度と同様に、感染防止策の徹底と環境整備、外来トリアージの整備と職員の不安・負担の軽減、日常診療機能が維持できるよう支援した。

2025年4月から大阪夢洲で開催される日本国際博覧会（大阪・関西万博）に備え、国際的マスギャザリング時の感染症のリスク、海外の感染症事情、診断・治療、感染対策など幅広く院内外の講師による研修を行い、今年度は、実際に輸入感染症やその疑いのある患者が当院に来られた時に、混乱なく当院でできる診療が行えるように「大阪・関西万博を迎えるに当たっての輸入感染症に関する情報提供の会」を実施した。

新たな取り組みとして、「ICT/ASTはメンバーそれぞれが確かな知識と技術を発揮し融合させ、科学的かつ斬新な感染管理、抗菌薬適正使用支援を目指す」ことをコンセプトに2024年11月よりPICASSOを創刊した。PICASSOでは、感染症流行状況に合わせた内容や大阪・関西万博に向けての内容等を発刊した。

ICT/ASTは「抗菌薬適正使用支援と院内感染防止・耐性菌拡大抑制」を目的に、看護感染員をはじめとする現場からの質問や提案などの確認評価、微生物検出状況と抗菌薬使用状況の把握、それらに基づくカンファレンスの開催とラウンドを実施した。

社会的活動としては、引き続き、外来加算連携医療期間への訪問、地域に向けた学習会の企画開催、地域医療機関からの相談の受け付けなどを行った。

2. 活動体制

感染対策室は医師、看護師、薬剤師、微生物検査技師、事務職員から構成されるAST/ICTと連携し、感染症診療や感染防止に関する支援・介入を速やかに開始できる体制となっている。

また、患者の最も近くで感染リスクを評価している看護感染委員が、異常を察知すれば速やかに感染対策室へ報告できる体制をとっている。

院内感染およびアウトブレイク発生時等において、ICT/AST、看護感染委員では対応が困難と判断した場合は、院内感染対策委員会の臨時の開催を召集し早急な対応が可能な体制をとっている。

3. 活動実績

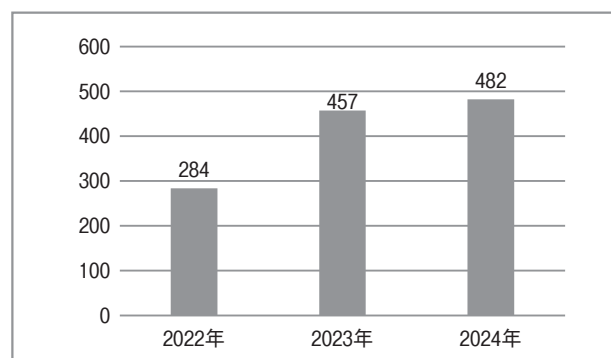
【感染症診療の支援】

ICT/ASTの介入件数は482件（COVID-19対応除く）（平均40件/月）であった。（図1）介入内容は、届け出

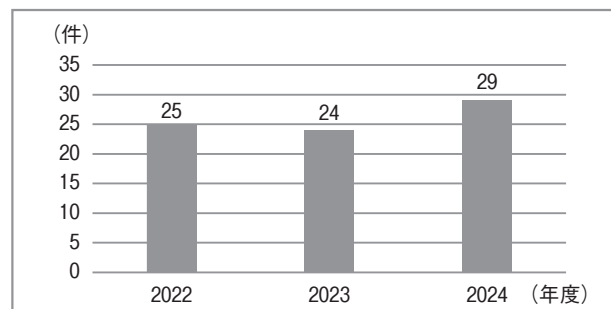
抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択と効果判定などであった。今年度は、結核発生患者数は増加傾向であった。（図2）昨年度に引き続き、接触者の調査等について介入を行った。また、今年度はインフルエンザが昨年度に比べ大幅な増加を認め、大流行の年であったが院内感染はなかった。

さらに、ウイルス性感染症等の感染予防対策の支援を行なうとともに、PICASSOを発刊し注意喚起を行った。

COVID-19が5類移行し2年目となったが、患者・職員のCOVID-19孤発事例はあったが集団感染はなかった。

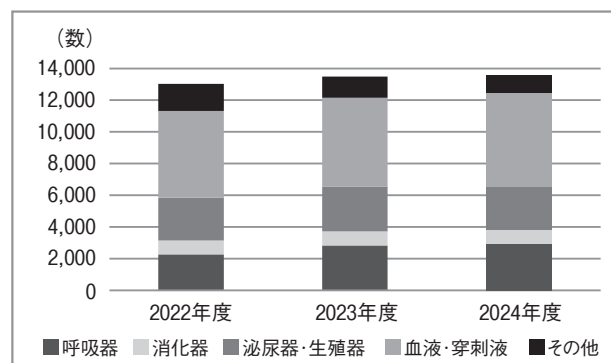


（図1）ICT/AST介入件数（COVID-19除く）



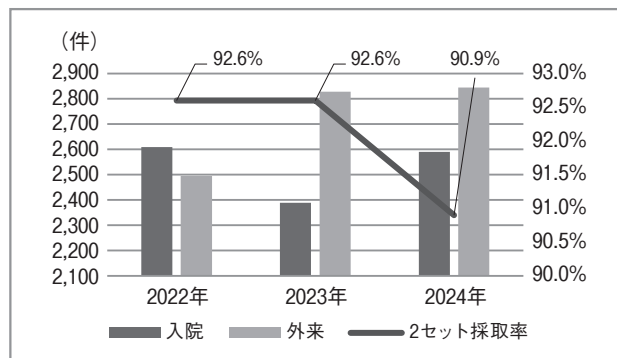
（図2）結核患者発生数

感染症診療において重要な指標となる微生物検査では、入院・外来患者において呼吸器では増加しており、泌尿器・生殖器では減少している。（図3）



（図3）微生物検査数 入院・外来

血液培養検査は5,435検体、2セット採取率は90.9%と昨年度より低下しているが、検体数は増加した。(図4)



(図4) 血液培養検査検体数 セット率

【院内感染防止への取り組み】

ICNによる毎日のラウンドとICT/ASTによる毎週木曜日のラウンドを行い、適宜指導・支援を行った。

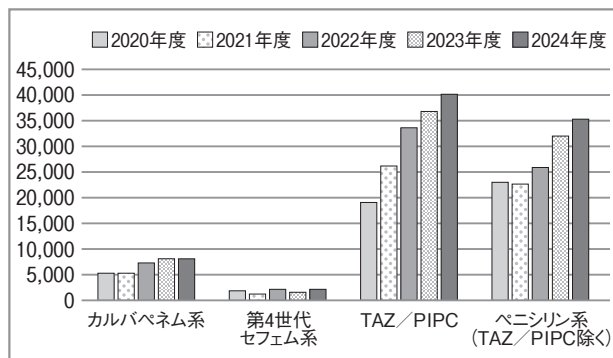
【耐性菌検出抑制、集団感染防止に対する取り組み】

今年度は、MRSAは入院52株、外来132株（2023年入院69株、外来145株）、ESBL産生（Escherichia coli）は、入院55株、外来108株（2023年入院47株、外来105株）、ESBL産生（Klebsiella pneumonia）は、入院18株、外来13株（2023年入院14株、外来14株）であり昨年度と比較し大きな増減はなかった。また、耐性菌の孤発症例はあったが、同一部署・診療科での集積はなく、検出した材料と菌種によって持込か院内発症か判断しICT/ASTカンファレンスで相談、連続検出の有無や過去の検出歴の紹介などを行い、感染対策室ではその紹介を受け抗菌薬の変更や終了を検討した。多剤耐性緑膿菌（MDRP）の検出が入院3株、外来1株（2023年入院0株、外来0株）であり、次年度以降も引き続き注意が必要である。抗菌関連下痢症の起因菌となるClostridioides difficile陽性数は8件/184検体（2023年8件/176検体）で昨年度と比較し大きな増減はなかった。その他の活動として、届け出抗菌薬使用者に対する検体採取の有無を確認、院内の環境培養実施による感染経路や微生物の把握を行った。

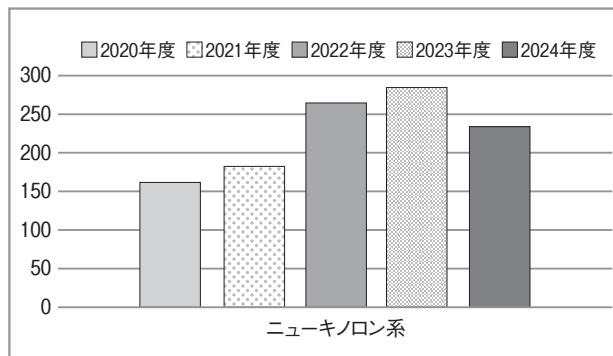
【抗菌薬適正使用に対する取り組み】

届出抗菌薬の新規開始患者と1週間以上継続患者をピックアップし、ASTカンファレンスで検討し、必要に応じて介入した。新規開始患者の情報については、早期介入と微生物検査の有無の確認を目的として、ICT/ASTメンバーと病棟担当薬剤師宛に、週2回院内メールで配信した。微生物検査と連携し薬剤感受性試験の結果を監視し、日常では医師へ直接報告、長期的にはアンチバイオグラムの更新と診療支援を行った。

届出抗菌薬の年間総使用量はカルバペネム系抗菌薬8045g（2023年度8,096g）で横這いとなった。タゾバクタム・ピペラシリンは40,026g（2023年度36,686g）、第4世代セフェム系抗菌薬は2227g（2023年度1,697g）と増加した。届出抗菌薬以外の狭域抗菌薬であるタゾバクタム・ピペラシリン以外の注射用ペニシリン系抗菌薬は35,152g（2023年度31,886g）と増加した。（図5）注射用キノロン系抗菌薬は233g（2023年度283g）と減少した。（図6）



(図5) 年間抗菌薬使用量 (g)

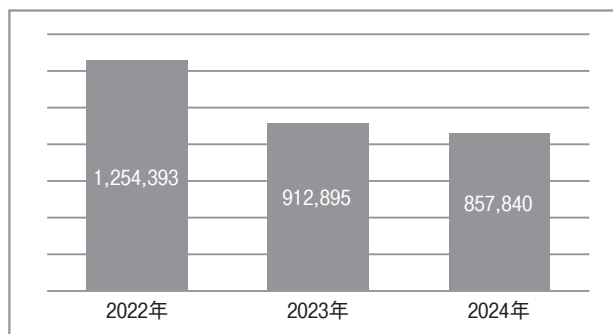


(図6) 注射用キノロン系抗菌薬 (g)

【手指衛生徹底への取り組み】

病棟・外来部門擦式手指消毒剤の年間購入量は大幅に減少した。（図7）今年度は、ICNによる多職種（理学療法士・作業療法士）への手指衛生直接観察法を実施した。その結果、3名の理学療法士が手指消毒剤の携帯を希望され手指衛生への意識向上への一歩となった。

また、手指衛生を適切な場面で実施できるように手指衛生の教育動画を看護感染委員と共同し作成した。



(図7) 病棟・外来部門擦式手指消毒剤年間購入量 (ml)

【地域連携施設における取り組み】

指導強化加算における外来加算連携医療機関である地域連携8診療所へ2024年10月18日～11月15日までに感染対策支援を目的に訪問した。また、医師会と連携し、感染対策や抗菌薬適正使用に関連する研修会を企画開催、「ICT便り」を発刊した。感染対策向上加算1取得病院との相互ラウンドは11月に大阪掖済会病院を訪問した。大阪府済生会野江病院による当院の訪問において、長期掲示物に対して、汚染毎の交換またはラミネート加工などを検討するよう指摘があった。汚染がある掲示物の交換と掲示が必要な物はラミネートするよう各部署へ周知した。感染対策向上加算2及

び3取得の病院との合同カンファレンスは6施設と計4回開催した。

【職員教育】

- ・第51回院内感染対策委員会教育講演（2024年5月28日）ワクチンUpdate～こどもたちも職員も感染から守る（ICT講演）、西垣敏紀,当院の抗菌薬使用量について～2024年度診療報酬改定を踏まえて～（AST講演）、薬剤部・ICT/AST平田貴宏：出席者794名（対象者875名）出席率90.7%
- ・第52回院内感染対策委員会教育講演（2024年9月12日）新興感染症と輸入感染症～大阪万博に備えて～、大阪大学医学系研究科感染制御学 忽那賢志：出席者276名（対象者900名）出席率30.7%
- ・第53回院内感染対策委員会教育講演（2024年11月19日）よく聞くESBLsについて～基本と耐性機序と臨床的意義（～ICT講演）、中央臨床検査部微生物検査室・ICT/AST 若原達哉、かしこく治して、明日につなぐ～抗菌薬を上手に使って薬剤耐性菌対策～（AST講演）、大野典子：出席者746名（対象者864名）出席率86.3%
- ・新採用者研修 大野典子：出席者45名（対象者46名）出席率97.8%
- ・看護補助者研修，感染症とは 手指衛生（2024年1月20日、27日）大野典子：28名
- ・産業医研修、就労者を感染症から守る 成人に接種するワクチン（2025年1月18日）西垣敏紀
- ・産業医研修，感染症のスティグマと労働者への影響 産業医の役割（2025年1月18日）大野典子
- ・臨床工学技士研修，感染経路の遮断 手指衛生と個人防護具の実践（2025年1月21日）大野典子：8名
- ・万博前の研修，大阪・関西万博を迎えるに当たっての輸入感染症に関する情報提供の会（2025年3月全5回開催）感染対策室 ICT/AST：86名

4. 業績

学会発表

1. 大野典子, 堤 早苗：リンクナースがICT/ASTに参加したことで気づいたリーダーとしての課題, 第39回日本環境感染学会総会・学術集会, 2024年7月, 京都

研究会発表

1. 西垣敏紀：就労者を感染症から守る 成人に接種するワクチン, 第17回日本生命病院産業医セミナー, 2025年1月, 大阪
2. 大野典子：感染症のスティグマが労働者に与える影響, 第17回日本生命病院産業医セミナー, 2025年1月, 大阪

あったかサポートセンター

スタッフ センター長：橋本久仁彦

(副院長、内分泌・代謝内科部長、糖尿病内分泌センター長、栄養管理室長)

部長：重谷政憲

(1) 地域医療サービスグループ

看護師：久留明子

事務員：西岡千幸、萩原佑気、山下智咲、山口美里、熊田洋子、岡山麻未、山田早織、渡辺喜代美、谷川志津香、横山麻紀子

(2) 入退院支援センター

看護師：阿部恭子(統括師長)、小山佐知子、土井美奈子、湯阪久美子、

鳴原景子(～2025年2月)、田村千穂、田畑文子、岩本真澄、久留明子、

谷口佑妃(2025年2月～)、石橋佳奈(2024年10月～)、八尾みゆき

事務員：小谷五月、幸得明美、大塚まゆみ

(3) 医療福祉相談グループ(入退院支援センター兼務)

医療ソーシャルワーカー：本家裕子(社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員)、

(Medical Social Worker:MSW)

松栄優子(社会福祉士・介護支援専門員)、

福庭加奈(社会福祉士・精神保健福祉士)、

黒川曜子(社会福祉士)、大島友貴(社会福祉士)、

菊池蒔子(社会福祉士・精神保健福祉士)、

谷岡あすか(社会福祉士)、清水美紗(社会福祉士)、

見崎香織(社会福祉士 2024年8月～2025年1月)

※患者サポートスタッフ：中野敬子、角野摩貴子、大槻三代

1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- 地域の医療機関からの診療・検査予約
- 紹介患者の受付
- 紹介患者の受診結果報告
- かかりつけ医の紹介(歯科含む)
- 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力
- 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急時入院希望の登録・契約手続き

g. 開放型病院登録医の共同診療時の対応

h. 病院紹介冊子の作成

i. 地域医療NETWORKの運用・管理

j. セカンドオピニオンの受付・他院への申込

2) サービス広報

a. 医療機関向け診療案内の発行

b. 登録医への診療日程案内・情報提供

c. 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行

■ 2024.4～2025.3 診療科別紹介・逆紹介患者数、あったかサポートセンター経由患者数(年間)

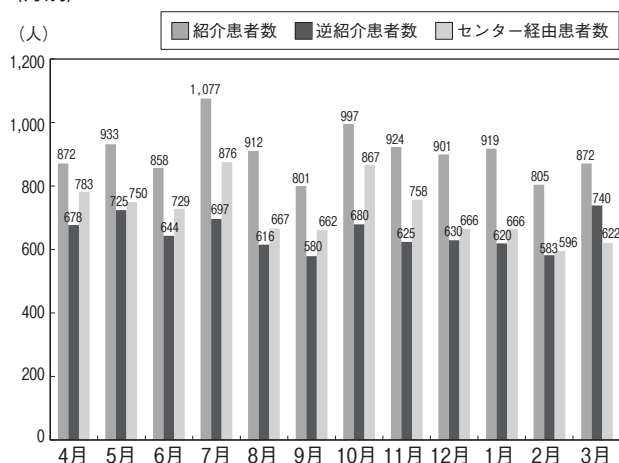
〈年間〉

科別	紹介患者数※1 (救急車搬入患者含む)	逆紹介患者数	あったかサポートセンター経由紹介患者数※2
循環器内科	365	536	307
消化器内科	536	572	650
内分泌・代謝内科	281	385	215
呼吸器・免疫内科	788	592	708
血液・化学療法内科	210	374	183
脳神経内科	311	237	343
腎臓内科	170	697	170
消化器外科	103	274	124
呼吸器外科	26	76	33
乳腺外科	78	99	77
心臓血管外科	84	136	105
産婦人科	1,894	1,600	1,275
小児科	511	176	468
神経科・精神科	75	157	109
脳神経外科	40	52	52
整形外科	315	423	355
皮膚科	616	208	568
泌尿器科	237	280	261
眼科	108	355	154
耳鼻咽喉・頭頸部外科	640	208	929
形成再建外科	165	24	144
放射線診断・IVR科	943	13	1,186
放射線治療科	3	10	8
麻酔・緩和医療科	13	30	19
救急総合診療科	2,320	304	160
リハビリテーション科	0	0	0
検査診断科	39	0	39
合計	10,871	7,818	8,642

※1 紹介患者数は初診算定数。

※2 センター経由患者数は再診を含む。

〈月別〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	872	933	858	1,077	912	801	997	924	901	919	805	872
逆紹介患者数	678	725	644	697	616	580	680	625	630	620	583	740
センター経由患者数	783	750	729	876	667	662	867	758	666	666	596	622

- d. 市民健康セミナー等の開催、開催協力（P151～153参照）
- e. 地域医療機関等の情報収集・調査
- f. 患者の声、意見収集等を踏まえた患者サービス体制管理
- g. 院内イベント企画・開催、開催協力
- h. 図書・情報コーナーの管理
- i. ボランティアの受付・調整

2. 入退院支援センターの活動内容

2016年より開設した入退院支援センターは、入院決定時から各職種が連携して安心して入院生活が送れるよう支援すること、入院時から退院後の生活をふまえた退院支援を実践し、より質の高い医療サービスを提供することを目的としている。

2023年10月から、PFM（Patient Flow Management）を開始した。

1) 業務内容

a. 医事部門・入院受付

- ①入院申し込み、入院当日の入院手続き、病室希望の把握、入院生活のご案内
- ②無料低額診療事業等の紹介

b. 看護師

- ①入院センター：患者基礎情報の収集、術前オリエンテーション、クリニカルパスの説明
- 2023年10月より、入院時支援の対象を従来の手術

（全身麻酔・腰椎麻酔）目的の入院患者から全予定入院患者（産科・小児科を除く）へ拡大した。それに伴い、入院療養計画書の作成及び説明を行い、必要時に入院前から専門チームや認定看護師等へ連携している。2024年1月からは、全てのクリニカルパスの説明を開始した。

②入院受付：病床管理・看護相談

③医療連携：紹介患者の受診・入院の受け入れ調整

④退院調整看護師：退院支援・退院調整

⑤がん相談・緩和ケアチーム：がん治療センター参照

c. 薬剤師

①術前内服確認

d. MSW

①退院支援・退院調整

②ソーシャルワーク業務

2) 活動実績

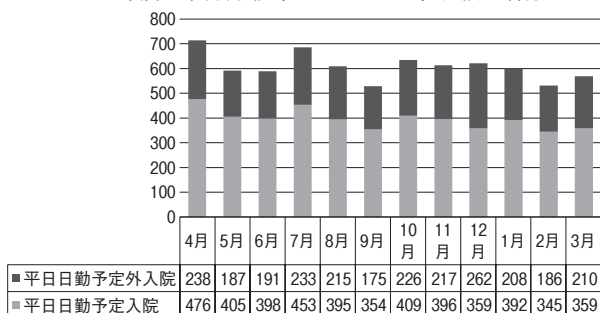
時間内（平日日勤）の入院患者数は月平均620件（昨年度586件）であった。

入院センターでの対応件数（周術期対応件数は含まず）は、月平均302.3件（4～9月平均198.8件、10～3月平均405.8件）（昨年度175.2件）であった。

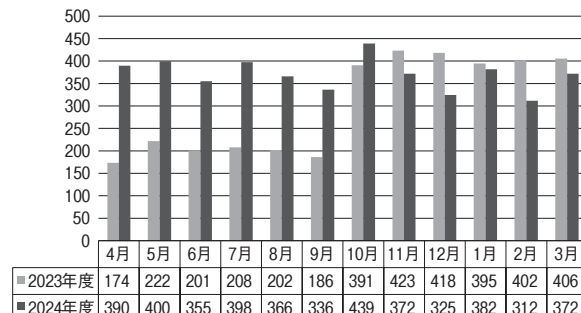
入退院支援加算1は月平均411.2件（4～9月平均237.6件、10～3月平均584.6件）（昨年度194.3件）、入院時支援加算1・2は月平均211.8件（4～9月平均100件、10～3月平均323.6件）（昨年度53.1件）であった。

■入退院支援センター 活動状況（2024.4～2025.3）

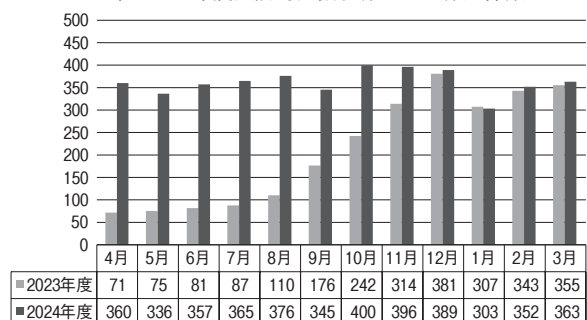
2024年度 平日日勤（8：30～17：00）入院患者数



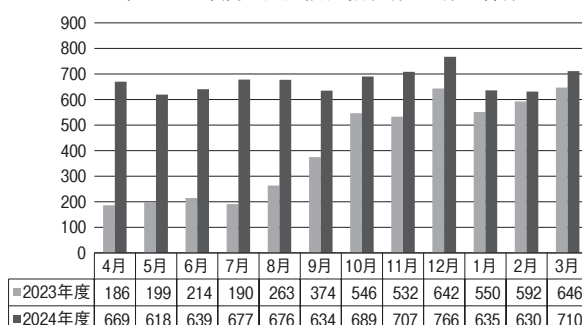
入院センター（入院時支援）対応件数



2023年・2024年度入院時支援加算1・2 算定件数



2023年・2024年度 入退院支援加算1 算定件数



3. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

a. 相談援助総件数

2024年度は総数16,479件（1日平均62.4件、月平均1373.2件）の相談を受けた。

b. 新規相談

2024年度の新規相談は4,087件（昨年：4,076件）であった。紹介経路別にみると、看護師（955件）、医師（714件）およびその他の職員を含めた院内スタッフからの支援依頼が45.6%（昨年：47.7%）を占め、本人（689件）と家族（530件）からの相談が29.8%（昨年：29.0%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が39.3%と最も多く、次いで無料・低額診療に関する相談援助（20.9%）、介護保険、身体障がい者手帳、指定難病、精神保健等の諸制度に関する説明や

申請援助（16.7%）、受診・受療に関する問題調整（11.4%）となった。

2) 地域活動

a. 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進

b. 地域連携バスおよび近隣医療機関との連携会議（なにより連携の会）による円滑な地域医療連携および地域全体の医療・ケアの質の向上への取り組み

c. 西区在宅医療・介護連携推進会議等への参画、地区医師会等と共同した地域の在宅医療の普及と医療・介護連携の推進

d. 西区認知症等高齢者支援地域連携事業（多職種交流会・講演会）参画による地域の高齢者施策等への貢献

e. 西区障がい者・高齢者虐待防止連絡会議および大阪市子ども虐待医療支援検討会参加による各関係機関との虐待防止・対応の連携強化

□ 医療福祉相談グループ

〈相談援助件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	104	92	61	105	137	90	101	131	43	77	48	85	1,074	1,055
消化器内科	71	59	48	53	55	59	93	108	107	86	85	95	919	1,066
内分泌・代謝内科	87	66	67	99	114	95	84	76	104	97	108	164	1,161	1,307
呼吸器・免疫内科	228	256	261	228	247	220	217	216	218	260	241	246	2,838	2,924
血液・化学療法内科	147	180	126	140	148	143	171	136	126	119	82	105	1,623	1,485
脳神経内科	109	130	127	141	93	102	113	98	118	112	106	83	1,332	1,159
腎臓内科	79	61	71	118	84	61	99	77	77	107	91	91	1,016	865
消化器外科	42	61	73	100	61	84	70	55	56	66	57	32	757	711
呼吸器外科	9	11	5	5	11	1	4	7	11	7	3	2	76	145
乳腺外科	8	12	7	18	20	6	20	18	1	5	10	3	128	327
心臓血管外科	19	17	14	17	19	15	19	20	11	26	35	11	223	243
脳神経外科	11	1	10	5	12	18	16	10	2	11	6	25	127	86
産婦人科	49	44	31	63	44	40	53	66	41	30	37	50	548	564
小児科	42	29	39	6	18	15	38	67	45	28	17	31	375	295
神経科・精神科	75	77	77	82	76	61	74	53	31	41	31	39	717	744
整形外科	75	65	61	49	57	37	59	69	70	63	23	40	668	604
皮膚科	25	39	40	41	28	14	31	40	22	16	3	31	330	238
泌尿器科	33	30	45	86	41	37	35	18	29	25	51	35	465	464
眼科	9	5	3	14	17	2	4	8	3	0	9	3	77	63
耳鼻咽喉・頭頸部外科	23	26	37	51	35	43	40	25	8	13	12	21	334	345
形成再建外科	1	1	6	6	11	12	9	4	10	5	0	0	65	56
放射線診断・IVR科	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	4
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
麻酔・緩和医療科	6	10	2	4	2	2	3	4	1	0	1	1	36	53
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
救急診療科	44	98	82	64	127	82	87	54	71	81	78	115	983	785
不明・その他	53	35	47	41	59	39	67	67	31	39	32	92	602	430
合計	1,349	1,406	1,340	1,536	1,516	1,278	1,509	1,428	1,237	1,314	1,166	1,400	16,479	16,021

※2021年10月～総合内科より内分泌・代謝内科、呼吸器・免疫内科へ分科

〈新規相談件数（紹介経路別）〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	41	7	0	25	6	1	35	13	0	104	23	2	87	11	0	37	12	1	50	17	1	48	14	0
家族	28	11	2	20	11	1	19	13	0	53	14	0	60	12	0	36	6	2	29	13	0	39	7	2
医師	21	26	0	23	35	0	22	37	0	23	34	0	19	50	0	17	42	0	25	24	0	17	40	0
看護師	12	58	1	25	70	0	18	56	0	20	78	0	9	62	0	22	63	0	16	56	0	13	52	0
その他院内職員	6	11	0	8	10	0	10	11	1	8	7	0	6	7	1	9	10	1	11	8	0	5	5	0
保健福祉関係機関	5	10	2	2	5	1	6	2	0	5	12	2	9	4	0	2	11	0	8	13	2	1	9	1
医療機関	14	4	1	13	5	0	15	8	0	6	3	0	9	6	0	8	4	1	13	8	1	11	9	2
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	19	34	1	19	25	1	18	24	1	20	35	2	13	32	0	11	20	1	12	25	1	14	21	1
その他	0	1	0	1	1	0	0	3	0	3	0	2	1	5	0	2	0	2	2	4	0	1	7	1
小計	146	162	7	136	168	4	143	167	2	242	206	8	213	189	1	144	168	8	166	168	5	149	164	7
総合計	315			308			312			456			403			320			339			320		

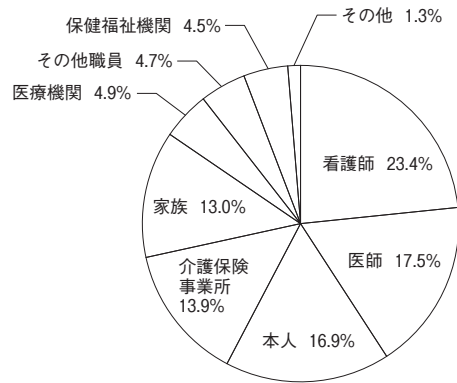
	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	30	11	0	32	7	0	25	9	0	32	7	1	546	137	6	586	85	7
家族	29	10	0	19	16	5	21	14	0	29	7	2	382	134	14	379	118	9
医師	18	49	0	26	51	2	26	23	0	21	42	1	258	453	3	264	417	3
看護師	20	63	0	12	77	2	17	57	0	16	60	0	200	752	3	257	796	2
その他院内職員	9	8	0	10	7	0	7	3	0	10	4	0	99	91	3	113	89	1
保健福祉関係機関	7	6	2	8	13	0	4	9	2	9	13	0	66	107	12	96	114	7
医療機関	8	8	1	6	6	0	2	5	1	9	13	1	114	79	8	112	48	7
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1
介護保険施設・事業所	15	27	1	17	52	0	12	37	0	20	36	0	190	368	9	223	299	6
その他	0	4	0	0	8	1	1	1	1	0	0	1	11	34	8	14	17	2
小計	136	186	4	130	237	10	115	158	4	146	182	6	1,866	2,155	66	2,047	1,984	45
総合計	326			377			277			334			4,087			4,076		

〈相談援助件数（年度比較）〉

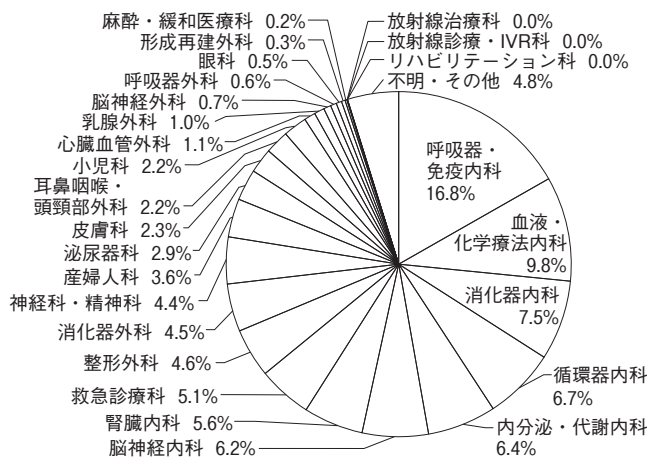
	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
循環器内科	1,074	1,055	1,350	1,321	940
消化器内科	919	1,066	1,318	644	589
内分泌・代謝内科 ^(※1)	1,161	1,307	1,120	2,461	2,733
呼吸器・免疫内科 ^(※1)	2,838	2,924	3,277		
血液・化学療法内科	1,623	1,485	1,681	1,428	1,232
脳神経内科	1,332	1,159	1,428	578	928
腎臓内科	1,016	865	1,176	965	990
消化器外科	757	711	684	518	629
呼吸器外科	76	145	73	39	60
乳腺外科	128	327	449	233	314
心臓血管外科	223	243	87	221	132
脳神経外科 ¹⁾	127	86	244	243	185
産婦人科	548	564	461	497	553
小児科	375	295	341	357	481
神経科・精神科	717	744	812	915	885
整形外科	668	604	1,005	995	1,238
皮膚科	330	238	469	357	254
泌尿器科	465	464	406	461	544
眼科	77	63	65	66	69
耳鼻咽喉・頭頸部外科	334	345	349	290	406
形成再建外科	65	56	54	38	32
放射線診療・IVR科	3	4	7	3	14
放射線治療科	1	3	3	0	0
麻酔・緩和医療科	36	53	19	19	14
リハビリテーション科	1	0	0	0	1
救急診療科	983	785	500	349	170
不明・その他	602	430	605	547	708
合計	16,479	16,021	17,983	13,545	14,101

※1 2021年10月～総合内科より分科

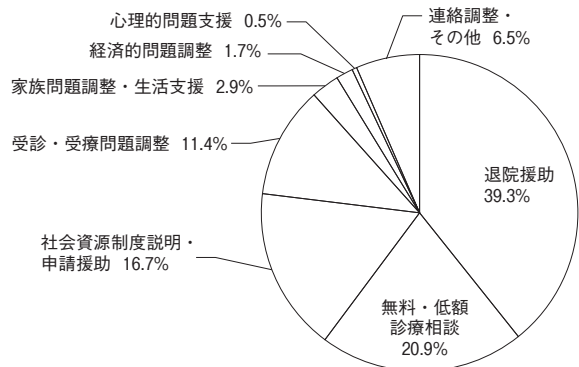
〈新規相談（紹介経路別）〉



〈新規相談（診療科別）〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(457名)

[敬称略](2025.3.31現在)

西 区 87	近江眼科クリニック	近江 源次郎
	健クリニック	三木 基子
	やまもとクリニック	山本 忍
	すぎた内科クリニック	杉田 潔
	医療法人 敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	京町堀整形外科	牧野 正
	大谷クリニック	大谷 眞一郎
	藤野歯科医院	藤野 明
	えのもとクリニック	榎本 準
	奥町内科	奥町 富久丸
	ISクリニック	糸原 房宣
	福中クリニック	福中 道男
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	かおるレディースクリニック	岡本 薫
	医療法人良和会 松浦内科クリニック	松浦 良和
	あわぎこどもクリニック	田中 篤志
	うつぼ本町キッズクリニック	辰巳 貴美子
	クリスタル本町クリニック	田中 健太郎
	九間クリニック	九間 祥一
	ながお医院	永尾 尚子
	王内科胃腸科クリニック	王 康義
	藤本クリニック	藤本 聡
	曲渕ペインクリニック	曲渕 達雄
	医療法人翠真会 桃源会クリニック	駒倉 啓大
	新町クリニック	濱田 和哉
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	弘清会 四ツ橋診療所	安井 博規
	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合	蒲生 健
	ふじわら整形外科	藤原 桂樹
	めぐみ耳鼻咽喉科・アレルギー科	巽 恵美子
	やだクリニック	矢田 智恵
	さゆり女性クリニック	後安 聡子
	西長堀やましたクリニック	山下 正真
	医療法人天野医院	天野 良亮
	医療法人天野医院	天野 祥子
	いぬい小児科	乾 一郎
	坪井眼科	坪井 俊児
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	上嶋内科消化器科クリニック	上嶋 弾
	耳鼻咽喉科 みやざきクリニック	宮崎 裕子
	四ツ橋 腎泌尿器科 こじまクリニック	児島 康行
	北堀江奏でレディースクリニック	寺田 裕之
	医療法人治生会 石村クリニック	石村 順治
	耳鼻咽喉科岸本医院	岸本 勝
	西長堀医院	則武 正三
	いとう消化器クリニック	伊藤 裕之
	医療法人三慧会 IVFなんばクリニック	森本 義晴
	島野医院	島野 直人
	下條内科クリニック	下條 信雄

西 区 87	医療法人丹生医院	丹生 純一
	医療法人丹生医院	丹生 真理子
	じっしょう内科	實正 哲
	平山眼科クリニック	平山 優子
	医療法人長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	本城整形外科	本城 昌
	はらだこどもクリニック	原田 由利香
	医療法人渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕
	後藤こころのクリニック	後藤 康人
	医療法人佐々木会 佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	吉川病院	吉川 守
	吉川病院	吉川 秀人
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	北川医院	北川 久能
	医療法人 佐々医院	佐々 仁美
	医療法人 佐々医院	佐々 成太郎
	さかざきこどもクリニック	坂崎 弘美
	医療法人杉本眼科	杉本 英之
	藤田外科胃腸科	藤田 宗行
	整形外科 おうクリニック	王 正道
	くらち皮フ科クリニック	倉知 貴志郎
	坂井医院	坂井 貴子
	九条サクラ診療所	中川 真宗
	ほりえキッズクリニック	山下 純英
	京町堀内外科外科クリニック	矢田 章人
	かもめクリニック第3	米虫 良允
	医療法人福仁会ウエナ産婦人科	大川 貴之
	医療法人朋明会 本町ファミリークリニック	河合 茂明
	本町ふしたに内科・消化器内視鏡クリニック	伏谷 英朗
	慶生会クリニック大阪	奥田 由佳
	医療法人悠千会 めぐみ皮膚科・アレルギー科	巽 一啓
	みよし眼科	三好 秀幸
	つじもと眼科クリニック阿波座院	西村 瑤子
	きよはら内科クリニック	清原 義幹
	阿波座とい内科クリニック	都井 律和
	内藤病院	内藤 方克
港 区 58	医療法人生野内科クリニック	生野 善康
	医療法人前田診療所	前田 勉
	医療法人頼医院	頼 明信
	脳神経外科たかせクリニック	高瀬 卓志
	塩見医院	塩見 啓二
	天斗会 中山医院	中山 富雄
	北代診療所	北代 勇夫
	北代診療所	北代 修司
	みなと生協診療所	倉澤 高志
	医療法人大和医院	大和 直久
	医療法人信愛会大和診療所	大和 宗久
	義元診療所	義元 徳祥
	えさきクリニック	江崙 秀和
	いはら内科	井原 義二
	野洲クリニック	野洲 武司

港 区 58	かもめクリニック	中濱 瑛太郎
	かもめクリニック	石本 英之
	かもめクリニック	木下 啓太
	坂元内科クリニック	坂元 一夫
	香山医院	香山 仁志
	医療法人西診療所	西 紀
	澤田内科クリニック	澤田 光孝
	聖愛会 山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞
	太田整形外科クリニック	太田 信彦
	しん眼科クリニック	秦 尚修
	溝口内科	溝口 理映子
	大塚医院	大塚 頼宏
	大塚医院	大塚 欣敏
	岸医院	岸 良治
	医療法人小嶋整形外科	小嶋 博司
	山田医院	山田 卓
	医療法人ゆうあい会 宮岡クリニック	宮岡 哲郎
	社団緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦
	社会福祉法人 秀生会ザイオン診療所	中山 秀雄
	金谷内科医院	金谷 英夫
	医療法人大奈会 やすだ耳鼻咽喉科	安田 大作
	やぎクリニック	八木 隆
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎
	医)隆明会 やぎ眼科クリニック	八木 明恵
	笹尾医院	出雲谷 剛
	医療法人堀井耳鼻咽喉科	堀井 睦
	谷内医院	石井 登志枝
	医療法人尚信会 整形外科河村医院	河村 禎人
	医療法人喜馬外科	喜馬 秀樹
	医療法人鈴木医院	鈴木 稔也
	土田クリニック	土田 茂
	西山眼科	西山 和夫
	やながクリニック	弥永 邦彦
	大阪医院	大阪 正視
	賀来医院	賀来 清高
	龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘
	金田クリニック	金田 眞一
	古林内科	古林 芳範
	北村医院	北村 雅哉
	医療法人ほのぼの会 にいつクリニック	新津 建樹
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優
	医療法人三愛会 中山整形外科	中山 博堯
	あや内科クリニック	篠原 亜弥
大 正 区 44	医療法人邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	アダチ眼科医院	郡 千栄
	医療法人田邊耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
	横山医院	横山 正博
	足立医院	足立 俊之
	医療法人秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸
	考優会 五味クリニック	五味 正裕
	加納レディースクリニック	加納 英男
	よしむら整形外科	吉村 弘治

大 正 区 44	しまもとクリニック	島本 敬三
	しまもとクリニック	島本 里絵
	柿原医院	柿原 幸司
	西平診療所	西平 守也
	西平診療所	西平 香代
	西平診療所	西平 守和
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸
	大阪きつがわ医療福祉生活協同組合	鈴木 昇平
	杏山会 山北内科クリニック	山北 哲也
	杏山会 山北内科クリニック	山北 直子
	一ノ名医院	一ノ名 正
	小正医院	小正 尚裕
	医療法人良仁会 西村外科	西村 良彦
	山北整形外科	山北 真也
	ひらいけ内科	平池 豊
	石村整形外科	石村 俊信
	船井医院	船井 俊彦
	医療法人健人会 弘田医院	弘田 俊行
	港南会 金城外科脳神経外科	金城 康夫
	北村診療所	北村 彰英
	久志会 黒川眼科	志水 一夫
	医療法人得伊会 中山診療所	中山 秀雄
	医療法人吉祥会 藤吉医院	藤吉 庸雅
	本山診療所	本山 忠
	本山耳鼻咽喉科	本山 壯一
	安井整形外科クリニック	安井 明
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	マツオ整形外科	松尾 澄治
	光風会 江口医院	江口 隆
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙
	よし内科クリニック	山田 義明
	医療法人結新会 結新会ホームケアクリニック	片上 大輔
	ほうもん診療 鈴木クリニック	鈴木 昇平
浪 速 区 26	医療法人薫風会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	本田クリニック	本田 秀明
	井上医院	井上 宏之
	川田医院	川田 信哉
	医療法人沢井眼科	澤井 貞子
	竹中医院	竹中 秀裕
	耳鼻咽喉科 中村クリニック	中村 泰久
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	なんば胃腸科内科クリニック	山口 貴也
	小池クリニック	小池 洋志
	えびす診療所	久保田 泰弘
	橋村医院	橋村 直隆
	医療法人理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫
	笹岡医院	笹岡 英明
	入野医院	入野 宏昭
	医) 瑠香会 あーべいんクリニック	池田 秀博

浪速区 26	かねだクリニック	金田 高次
	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史
	医療法人菱川クリニック	菱川 秀夫
	医療法人 岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正
	医療法人 孝尽会 透析クリニック大正橋	杉浦 清史
	医療法人徳田クリニック	徳田 修
	医療法人徳田クリニック	徳田 好勇
	桜川よしえクリニック	金子 良恵
	佐久間医院	佐久間 孝雄
福島区 23	林クリニック	林 為仁
	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
	田仲循環器科・内科医院	田仲 輝光
	福島アイクリニック	桑山 泰明
	医療法人優幸会 中村クリニック	中村 幸生
	医療法人臨研会 今川クリニック	福本 素由己
	まさこレディースクリニック	霞 雅子
	江頭医院	江頭 明盛
	よこいクリニック	横井 秀保
	森山眼科	森山 穂積
	福島医療生活共同組合 野田診療所	小濱 譲次
	ちもりメディカルクリニック	千森 弘子
	あおやま医院	青山 晃子
	猿渡レディースクリニック	猿渡 善治
	松下医院	松下 正幸
	中島小児科診療院	中島 滋郎
	イシイ内科クリニック	石井 誠剛
	阪神野田駅前ファミリークリニック	衣畑 成紀
	森山眼科	辻川 睦
	医療法人好輝会 梶本クリニック	岡田 倫之
	医療法人愛幸会 くまだ内科・小児科クリニック	井根 省二
	医療法人AWNC きし脳神経外科リハビリクリニック	岸 昌宏
住之江区 10	てづか内科クリニック	宇津 典明
	医療法人 桑江クリニック	桑江 秀樹
	長谷川内科	長谷川 精一
	長谷川内科	長谷川 浩司
	医療法人中島クリニック	中島 静一
	岡村クリニック	岡村 弘光
	はなのまちファミリークリニック	杉本 匡弘
	森ノ宮医療大学附属大阪バイククリニック	久保 忠彦
	中道眼科	中道 明
	医療法人西山産婦人科医院	西山 浩司
中央区(東) 37	財団法人洪庵記念会 産婦人科	緒方 高志
	かただクリニック	堅田 明浩
	ながわ中之島クリニック	中川 晶
	医療法人西恵会 西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
	岩間クリニック	岩間 令道
	大阪婦人子供既製服健康保険組合	間島 行春
	船場森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
	一般財団法人 大阪府結核予防会 大阪健康相談所	寺坂 邦広
	トミタクリニック	富田 忠宏

中央区(東) 37	日本生命健康管理所	石神 真人
	医療法人政明会 春次医院	春次 智三郎
	小川眼科	小川 憲治
	ラ・クオール本町クリニック	瀧野 敏子
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
	本町 林クリニック	林 宏明
	医療法人アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	なかむらクリニック	山本 昌弘
	医療法人紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	医療法人高折医院	高折 和男
	たがや内科	多賀谷 昌史
	森ノ宮胃腸内視鏡ふじたクリニック	藤田 実
	こうむら女性クリニック	甲村 弘子
	なかじまちあき内科クリニック	中嶋 千晶
	山口あきこクリニック	山口 晶子
	よどやばしメディカルクリニック	田中 基幹
	大織診療所	藤原 大美
	前久保クリニック	前久保 邦昭
	ウィメンズクリニック本町	藤野 祐司
	浅田クリニック	浅田 洋造
	こもれびレディースクリニック大阪本町	萬代 喜代美
	医療法人 むらのクリニック	村野 実之
	医療法人 むらのクリニック	村野 直子
	医療法人佳樹会 のりおかクリニック	則岡 直樹
	(株)大林組大阪診療所	高島 義嗣
	上町しまぶくろ眼科	島袋 幹子
	クマタカ小林クリニック	小林 光男
	医療法人山田医院	山田 洋
	医療法人田中小児科医院	田中 祥介
	医療法人 松本内科クリニック	松本 淳
	きむ医療連携クリニック	金 永進
	岩佐クリニック	岩佐 厚
	谷口レディースクリニック	谷口 幸一
	河合皮フ科医院	河合 公子
	医療法人岩佐診療所	岩佐 真人
	なんばくろとびハートクリニック	黒飛 俊哉
中央区(南) 31	寺内クリニック	寺内 勇
	心斎橋いぬい皮フ科	乾 重樹
	春木レディースクリニック	春木 篤
	大須賀内科	大須賀 康文
	東迎クリニック	東迎 高意
	益田クリニック	益田 元子
	さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子
	さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
	みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
	すとうレディースクリニック	周藤 雄二
	廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
	ふじたクリニック	藤田 富雄
	医療法人大生會 さくま診療所	佐久間 航
	小島クリニック	小島 昭重
	創正会 イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
	大島内科医院	大島 久明

中央区(南)	安田クリニック	安田 光隆
	川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
	早川クリニック	早川 謙一
	早川クリニック	早川 潤
	松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
31	医療法人晴愛会 大阪リウマチ・膠原病クリニック	西本 憲弘
北区	湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
	医療法人豊仁会 荻野レディースクリニック	荻野 瑠美
	北中レディースクリニック	北中 孝司
	田中内科	田中 裕也
	(有) 阪神労働衛生コンサルタント	廣部 一彦
	医療法人聖授会フェスティバルタワークリニック	八木 美佐子
	中之島フェスティバルタワー・さくらクリニック	苗村 敏
	HORACグランフロント大阪クリニック	森本 義晴
	医療法人ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	井手 一夫
	志村ウイメンズクリニック	志村 研太郎
	医療法人もりた医院	森田 哲史
	堂山レディースクリニック	本間 裕朗
	本出診療所	本出 肇
	ふくだあやレディースクリニック	福田 綾
	南森町レディースクリニック	平井 光三
	天神橋ゆかこレディースクリニック	南 裕佳子
	江川メンタルクリニック	江川 功
	双日株式会社大阪診療所	橋本 久仁彦
	小西統合医療内科	小西 康弘
	医療法人華美会 ほその耳鼻咽喉科	細野 研二
	てんじん整形外科リウマチ科	史 賢林
	加納内科	加納 康至
	西梅田静脈瘤・痛みのクリニック	小田 晃義
旭区	(医) 圭香会 梅ヶ崎クリニック	梅ヶ崎 圭吾
	うつのみやクリニック	宇都宮 健弘
	医療法人昭征会 新森透析クリニック	神原 直樹
城東区	つくもクリニック	新開 健司
	金井産婦人科	金井 宏之
	医療法人島田クリニック クローバークリニック	荒木 良守
	医療法人あとも会 かねみつクリニック	金光 俊行
	石川消化器内科・内視鏡クリニック	石川 嶺
東成区	山崎診療所	連 美知子
	いなぎレディースクリニック	稲垣 実
天王寺区	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
	遠藤クリニック	遠藤 友一郎
	(医) 瑞穂会 ともの木クリニック	三浦 一浩
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	池田クリニック	池田 光慶
	宮原レディースクリニック	宮原 義良
	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
	小出内科神経科	小出 泰道
	夕陽ヶ丘佐藤クリニック	佐藤 利彦
	てんのうじ ちひろウイメンズクリニック	宇垣 弘美
	みぞぐち循環器クリニック	溝口 裕規
	ゆきこ&ようこレディースクリニック	岡本 由記子

生野区	岸田内科	岸田 泰弘
	(医) 協同診療所	稲次 征人
	医療法人祐星会 桃クリニック	後藤 克子
	医療法人弘善会 弘善会クリニック	伊藤 章
阿倍野区	湖崎眼科	湖崎 亮
	(医) 柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
	医療法人心明会レディースクリニックさわだ	澤田 育子
	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
6	よりおか胎児クリニック	依岡 寛和
	医療法人平治会 SALALレディースクリニック	榎田 充彦
東住吉区	(医) 山口クリニック	山口 時雄
	山田医院	山田 和彦
	にしかわクリニック	西河 潤
平野区	元林産婦人科内科	元林 和彦
	日野レディースクリニック	日野 晃治
此花区	栗栖クリニック	栗栖 孝一
	(医) 奥見診療所	奥見 敏彦
	(医) 良純会 朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
	こじまクリニック	小島 研太郎
	医療法人微生会 村上内科	村上 毅
	(医) 森内科	森 滋喜
	木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
	大庭眼科医院	大庭 省三
	(医) 板東医院	板東 博志
	はやしだ診療所	林田 嘉彦
	(医) 小山医院	小山 高澄
	(医) 小山医院	小山 貴子
	谷本医院	谷本 尚穂
淀川区	医療法人医誠会 新大阪医誠会クリニック	横田 甚
	希咲クリニック	山分 ネルソン祥興
	かわばたレディースクリニック	河端 良一
	なかにしキッズクリニック	中西 康詞
	医療法人良樹会T内科クリニックよどがわ院	徳嶋 良輔
	さくらレディースクリニック	香林 正樹
1 東淀川区	医療法人 タツミ医院	巽 壽一
西淀川区	じくはら医院	竺原 俊光
	医療法人 福田診療所	福田 弥一郎
	(医) 北野クリニック	北野 英基
	医療法人 若杉診療所	若杉 太郎
	(医) 善心会 いせき整形外科	井石 聡
	(医) 松仁会 大和田診療所	藤原 久義
7	高岡診療所	高岡 均
	イワタ医院	岩田 以津子
	腎・泌尿器科 安本クリニック	安本 亮二
	医療法人ばばやクリニック	馬場谷 勝廣
西成区	(医) 純和会 竹本診療所	八木 純
	桂診療所	桂 勇人
1 住吉区	祐クリニック	道清 勉

大阪市外

豊中市5	ふなこし呼吸器内科	船越 俊幹
	(医) 上宮医院	上宮 正直
	槇野クリニック	槇野 淑子
	(医) 廣仁会 直原ウィメンズクリニック	直原 廣明
	ポプラクリニック	山内 菜都美
池田市2	やまだクリニック	山田 祥晴
	松崎産婦人科クリニック	松崎 昇
吹田市2	たてかわ内科クリニック	立川 豊史
	医療法人学縁会おおさか往診クリニック	田村 学
茨木市2	中尾内科クリニック	中尾 誠
	大河内医院	大河内 寿一
高槻市1	なかにし産婦人科クリニック	中西 一吉
寝屋川市1	森田医院	森田 真也
大東市1	松下診療所	松下 和広
東大阪市9	医療法人三慧会 IVF大阪クリニック	福田 愛作
	由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
	(医) 近藤医院	近藤 和秀
	森産婦人科	森 政雄
	医療法人弘和会 いわさきクリニック	岩崎 弘登
	永井医院	山崎 章子
	田路医院	田路 秀明
	西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
松原市1	西岡医院	西岡 良泰
	医療法人光仁幸会 西本産婦人科	西本 関男
八尾市3	なかじまレディースクリニック	中嶋 康雄
	萩原クリニック	萩原 正久
	きくちレディースクリニック	菊池 知之
藤井寺市1	数尾診療所	数尾 展
狭山市1	たかはしクリニック	高橋 徹
堺市4	清水レディースクリニック	清水 千賀子
	典子エンジェルクリニック	船越 典子
	医療法人俊仁会 きららファミリークリニック	吉良 俊彦
	小野クリニック	小野 晃範
岸和田市1	医療法人仁睦会 岡森医院	岡森 仁昭

他府県

奈良県4	宇山内科クリニック	宇山 宏和
	田中泌尿器科医院	田中 雅登
	久産婦人科・内科	久 靖男
	久産婦人科・内科	久 裕

兵庫県7	宮本内科	宮本 裕之
	黒田医院	黒田 昌男
	にしな内科・糖尿病内分泌クリニック	仁科 周平
	玉田クリニック	玉田 大介
	玉田クリニック	北村 哲宏
	風川医院	安田 雄紀
京都府1	(医) 社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之
	やつい眼科クリニック	谷井 啓一

ニッセイ訪問看護ステーション

スタッフ 統括責任者：二艘舟浩子（看護部長兼務）

管 理 者：丸山洋子（訪問看護ステーション師長）

常勤看護師：酒井希代子（リンパ浮腫療法士）、吉井好夏、渡部美沙、小森奈緒子、安東初美、
巽 陽子

非常勤看護師：山内祐子、永田悦子、青木絵里子、田 弓子（保健師・介護支援専門員有資格）
岡村 要

訪問リハビリ：（日本生命病院リハビリテーション室兼務、理学療法士）

片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将司、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、安達幸恵、
泉本亮二

1. 活動報告

地域医療支援病院併設の訪問看護ステーションとして、「予防から治療、在宅まで一貫した総合的な医療サービス」を提供するとともに、地域住民の暮らしを繋ぐ役割を担う医療者として、地域の行政、他機関、多職種と連携を図りながら、住民に寄り添う医療体制を整備し、地域から必要とされる看護が提供できるよう効率的で質の高い訪問看護を提供し、地域の人々の健康維持に努めた。

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象とし、医療依存度の高い利用者や、がん・非がんの終末期、認知症、精神疾患など重度化・多様化・複雑化する医療ニーズに対応するために、訪問看護師と訪問リハビリテーションが協働して自立機能の維持とQOLの向上に配慮した在宅療養の継続に努めた。

月平均利用者数は146名、月平均訪問回数は899件（リハビリテーション0件）であった。介護保険利用者は月平均95名（介護予防16名 介護79名）、医療保険利用者は月平均51名であった。（表1） 退院後の在宅移行期の医療的ケアの取得及び介護体制の整備や病状の悪化等により、特別指示書が発行された件数は月平均2件であった。

日本生命病院を主体としつつ、西区を中心とした西部医療圏において多くの医療機関や居宅介護支援事業所と連携を図っている。利用者の居住地は西区が最も多く、次いで港区、大正区の順であった。（表2）

新規利用者の約半数が、日本生命病院から依頼を受け、主治医及び病棟看護師、あったかサポートセンターとの協働による切れ目のない医療・看護の提供及び連携強化に努めた。（表3）

看取りを含め、安心して在宅療養が継続できるよう緊急時及び24時間対応体制を充実させ約6割の利用者が契約している。また、医療機関及び在宅療養診療所との連携、日本生命病院における救急外来との連携や後方支援病院としての入院病床の確保などを行ない日本生命済生会全体として地域の在宅医療の推進に努めた。在宅での看取り件数は20件/年であった。

2. 訪問体制

1) 営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、年末年始は除く）また、状況に応じては、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外も対応している。

希望者には電話等により24時間常時電話連絡が可能な体制を整備し、事業所の電話以外に法人契約の携帯電話2台で対応している。

2) 通常の実施地域（概ね事業所より半径3km圏内）

大阪市西区、浪速区、港区、大正区、中央区、福島区、此花区

3. 地域包括ケアシステムへの貢献

地域に開かれた訪問看護事業所として人材育成や教育機関として多機能化への取り組みと地域ネットワーク事業への参画に尽力した。

1) 教育機能

（1）看護学生の実習受け入れ：森ノ宮医療大学、大阪保健福祉専門学校、大阪保健福祉専門学校（通信）、大阪医専

（2）大阪府訪問看護実践研修（教育ステーション）事業の協力ステーションとして体験研修の受け入れ実施

2) 地域ネットワーク事業への参画

（1）西区在宅医療・介護連携相談支援事業、認知症等高齢者支援地域連携事業連絡会、認知症初期集中支援事業に参画し地域の高齢者施策へ貢献

表 1 保険種別割合 (n=146)

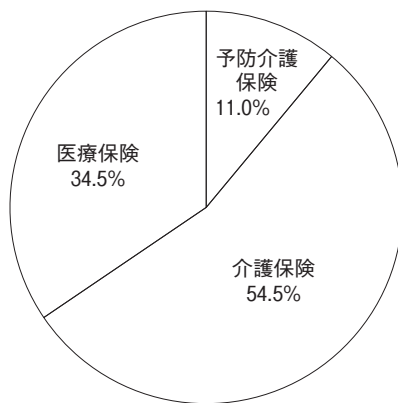


表 2 利用者の住居地別割合 (n=146)

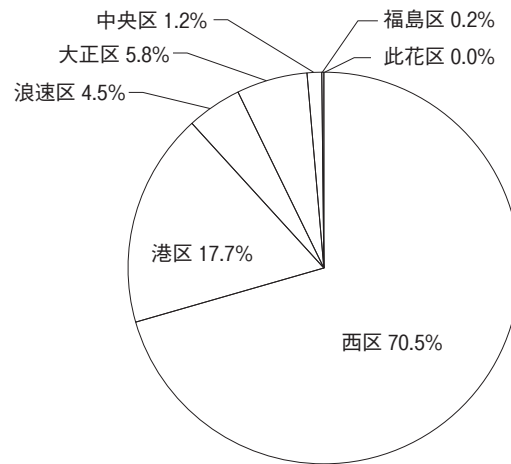


表 3 新規利用者 (n=63)

依頼経路		人	割合	
日本生命病院	医師	3	4.8%	52.4%
	あったかサポートセンター	30	47.6%	
他医療機関医師		3	4.8%	12.7%
他医療機関相談員		5	7.9%	
行政・地域包括支援センター		0	0%	
本人・家族		3	4.8%	
訪問看護師		0	0%	
ケアマネジャー・相談支援センター		19	30.1%	
計		63	100%	

看護部

スタッフ	看護部長	二艘舟浩子		
	副看護部長	島津庸子		
	副看護部長(医療安全担当者)	賀戸ひとみ		
	調査役	前川明子(～2024年10月)		
	7階病棟看護師長	依田恵美	11階病棟看護師長	森蘭祐子
	8階病棟看護師長	大和由紀子	12階病棟看護師長	高崎かおり
	9階病棟看護師長	篠部 郁	13階病棟看護師長	石井広美
	10階病棟看護師長	戸田陽子	14階病棟看護師長	神谷香里
	集中治療室看護師長	千嶋しおり	手術室統括看護師長	木下園子
	外来・救急外来統括看護師長	酒井亜紀子・新部里美		
	入退院支援センター看護師長	阿部恭子		

1. 看護部の理念

当院を頼りにして下さる皆さんに安心していただける看護を提供します。

国際化、多様化に対応できる豊かな人間性と高い倫理観を持った専門職者を育成し、病院と看護の発展に寄与します。

〈基本方針〉

1. 当院を頼りにして下さる方々に寄り添った、安全で安心な看護サービスを提供します。
2. 患者の生命と生活、権利を尊重し、「その人らしく生きる」を支えます。
3. 専門職として研鑽し、持てる力を最大限発揮することが職務満足につながる職場を目指します。
4. 人々の多様な価値観を理解し、関わることができる柔軟性、自律性、創造性、倫理観を持った看護者の育成に取り組みます。
5. 他職種と協働し、チーム医療の発展に貢献します。

2. 2024年度看護部目標

2024年度は前年度の結果を基に、以下の4つを重点課題とした。

- 1) 診療報酬改定に伴う近隣病院及び当院への影響を理解し、安全な医療・看護サービスが提供できる体制改革に取り組む。
- 2) 一人ひとりが経営に関心を持って収支改善に取り組む。
- 3) 当院の看護の「これから」を考え、看護職、看護補助者の自己成長(経験から学ぶ)と次世代を担う人材の育成に取り組む。
- 4) 「良い面を捉える」、「できることから始める」などポジティブ・シンキングの職場風土を創る。

そして、各基本方針に沿って①安全な医療・サービス、②業務の効率化、③組織の成長・人材育成、④財務の視点で31の目標を挙げた。

部内の各種委員会・チーム会、部署は看護部の目標達成に向けて活動計画を立案するとともに、個々人の目標管理シートに連動するようにした。

3. 看護部の概要

施設基準：急性期一般入院料 1 7 : 1

夜間看護体制加算 12 : 1

急性期看護補助体制加算 25 : 1

看護補助体制充実加算 2

看護体制：二交代制(夜勤時間16時間)

看護方式：固定チームナーシング(ペアナース制)受け持ち制

4. 看護職員数(2025年3月31日現在)

看護師・助産師・准看護師：350名

看護補助者：41名

5. 研修・学会参加状況

- 1) 院内研修(別表1)
- 2) 院外研修(別表2)
- 3) 学会発表9題

6. 看護基礎教育、認定・専門看護師実習受け入れ状況

- ・甲南女子大学；慢性期、母性
- ・森之宮医療大学；成人Ⅰ急性期、老年、母性、主題Ⅰ
- ・関西医療大学；慢性期、母性
- ・四條畷学園大学；母性
- ・南大阪看護専門学校(3年課程)；小児
- ・大阪医専(3年課程)；成人Ⅰ急性期、成人Ⅱリハビリ期、成人Ⅲ慢性期、老年Ⅱ、小児、統合
- ・大阪保健福祉専門学校(3年課程)；成人Ⅰ慢性期、母性
- ・大阪府病院協会看護専門学校(3年課程)；成人Ⅲ慢性期Ⅱ、母性
- ・日本看護協会(神戸)認定看護師教育課程；がん薬物療法看護課程

7. 看護フェア

5/16に実施。4年ぶりとなる体験型イベントやポスター展示を行い当院の看護の魅力をPRした。参加者21名

8. 日本生命病院地域連携看護セミナー

- 第18回 2024年6月21日（参加者75名）
「食事介助とポジショニング」
摂食・嚥下障害看護認定看護師 森山綾乃
- 第19回 2024年9月20日（参加者68名）
「認知症のその人らしさを支えるケア」
認知症看護認定看護師 井上けい子
- 第20回 2024年12月20日（参加者58名）
「がん薬物療法を受ける患者の緊急時の受診のタイミング」
がん薬物療法看護認定看護師 鄭 恩愛

- 第21回 2025年3月21日（参加者63名）
「オピオイド誘発性便秘症に対するケア」
がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子
- 「訪問看護における排便ケア」
よどき訪問看護ステーション
緩和ケア認定看護師 氏平景子

9. 病棟、外来の状況

	定床	2024年度 平均患者数	平均病床稼働率	平均在院日数	看護職配置数 内（ ）パート	入院基本料1（7：1）	
						平日日勤配置	夜勤配置（12：1）
7階	41	34	83.4	5.3	32 (1)	12～14	4
8階	44	38	86.6	9.2	28	12～13	3～4
9階	43	37	86.0	14.6	26	12～13	3～4
10階	42	36	85.3	13.8	25	11～13	3～4
11階	43	38	89.5	15.2	27	12～13	3～4
12階	44	38	85.7	14.1	23	12～13	3～4
13階	43	36	83.4	8.6	30 (1)	15～16	3～4
14階	42	36	86.0	10.7	28	12～13	3～4
救急・集中治療室 看護配置（4：1）	8	3	38.5	15.8	25	6	3
外来	-	-	-	-	55 (20)		
手術室	7室	-	-	-	25 (1)		
入退院支援センター					11 (1)		
計	350				335(24)		

10. 委員会活動

1) 看護教育委員会 大和 由紀子

〈目標〉

- ①研修のねらいを理解し、各部署で受講生に動機づけを行う。
- ②研修中の受講生の受講態度や研修後の理解度を見て研修評価を行い次年度の研修に活かす。
- ③部署内教育の現状と課題を見つける。

〈活動報告〉

- ①担当する研修についてはねらいを理解し、各部署で研修生に動機付けはできていた。担当以外の研修については課題である。
- ②研修中の受講態度や研修内容とアンケート結果からの理解度を合わせて評価し、次年度の研修に活かせるよう教育企画倫理委員会と連携を取り、教育計画に反映させた。
- ③部署内教育と課題については、各部署で検討した。部署内での中堅スタッフが、研修内容について興味をもち、部署内教育に繋げることができて

いることが少ないため課題として残った。

2) 看護記録委員会 戸田 陽子

〈目標〉

- ①昨年度作成した形式監査が定着する
- ②継続看護につながる退院時看護サマリーができる

〈活動報告〉

- ①毎月の委員会で部署で行った形式監査と委員会メンバーで行った形式監査の結果に相違がないか確認した。相違があった部分の内容を修正した。
- ②継続するケアが分かるように、退院時看護サマリーの見本を退院先に応じた4パターン（外来・訪問看護・施設・転院用）に分けて作成した。今後は見本の活用の利便性や有効性を評価していく。

3) 看護CS委員会 森蘭 祐子

〈目標〉

- ①リソースナース会と連携し、地域連携看護セミナー、看護フェアを企画・運営・評価することで当院の看護を知ってもらう。

- ②社会情勢や学生のニーズに応じた病院見学会や就職説明会などを企画・運営・評価をすることで人材確保に寄与する。
- ③CSに関する接遇等の内容・対応を啓蒙・教育することで職業人としての倫理観を高める。

〈活動報告〉

- ①地域連携看護セミナーはリソースナース会を中心として予定通り4回実施した。看護フェアを5月16日に催事形式で行った。集客に難渋したものの、当院の看護を知ってもらう一助にはなった。
- ②病院見学会、就職説明会に使用するパワーポイントの修正を行った。病院見学会は計4回実施、62名が参加、合同就職説明会には127名が当院のブースに参加した。持参したパンフレットも250部配布した。また、ふれあい看護体験や高校生看護体験を実施し、看護職への指向の促進や体験を通して当院の看護を知ってもらう機会となった。
- ③昨年度に実施した接遇、身だしなみアンケート結果を伝え、適切な対応をCS委員より伝達した。その後も定期的にアンケートを実施することで意識付けを促した。

4) 看護安全委員会 篠部 郁

〈目標〉

- ①レベル2以上及びレベル3b以上の転倒・転落事故事例から改定したアセスメントシートの有効性と看護ケア実践フローを評価する。
- ②看護師要因の薬剤インシデント（注射・内服）のうち、指示（インチャージ）受け間違い、指示受けルールアウト、医師の指示だしルールの不備（ローカル、マイルール等）によるインシデントを前年50%減らす。

〈活動報告〉

- ①転倒・転落アセスメントシートの修正、テンプレート、センサー選定・設定フロー、入院時記録の修正を行い、運用を開始した。運用開始後の記録監査を行い、評価・記録が正しく行えるよう指導を継続していく。
- ②薬剤インシデントの分析を行い、各部署のインシデント事例の共有を行った。なぜなぜ分析を行い、問題の本質を考え、各部署での取り組みが実施できるように、対策について検討を行った。薬剤に限らず、検査等でも最終確認ができておらず、インシデントに至るといった同様な事象が見受けられており、インシデント事例から次年度も引き続き改善策の検討をしていく。

5) 看護感染委員会 依田 恵美

〈目標〉

- ①標準予防策、感染経路別予防策の正しい知識を普及することができる。
- ②各部署のゴージョー使用量を前年度より20%増加する。
- ③医療器材の誤った使用方法による針刺し事故をゼロにする。

ロにする。

- ④廃棄物を分別し、プラボックスの廃棄量を前年度より20%削減する。

〈活動報告〉

- ①標準予防策・感染経路別予防策では、委員会でいった勉強会の内容を各部署で伝達し2回のペーパーテストとラウンド時の聞き取りにてスタッフの知識の確認を行った。ガウンの着脱のタイミングなど間違いやすい項目が明確になり、今後も繰り返し伝達、確認の必要があると認識した。
- ②手指衛生について、ゴージョーの使用量は目標である20%の増加とはならなかった。また前年度に引き続き、直接観察法を年間を通して行った。対象者を部署全員に広げ観察を行ったが、前年と比較し実施率は低下していた。引き続き正しいタイミングで手指衛生を行えるよう次年度も委員会で活動する必要がある。
- ③針刺し事故に関しては、誤った使用方法によるものはなかった。ペン型インスリンの針による事故があり、糖尿病チームと連携しリムーバーを各部署に定数配置し、インスリン製剤とセットで使用するよう掲示も含めて啓発を行った。啓発活動後も残っていたペン型インスリンの針による事故があったため、引き続き注意喚起を含め活動を行う予定である。
- ④感染性廃棄物については、毎週ICTラウンドで各部署の分別状況を確認した。指摘は減少しているが、未だ分別間違いがあるため引き続き活動を行う。

6) 継続看護委員会 高崎 かおり

〈目標〉

- ①継続看護に必要な、各部門の機能と役割を理解し退院・転院時看護要約の有効な活用方法を検討出来る
- ②退院支援が必要な患者・家族を早期に発見し介入できるシステムを確立できる
- ③継続看護について部署での中心的な役割を果たせる
- ④倫理調整を行うための教育と、役割の確立を行える

〈活動報告〉

- ①病棟で実際に記載した退院・転院時看護要約を元に継続看護をする上で困難がないか委員会で検討した。
入退から退院までの患者へ行った支援を振り返り他部署の役割と自部署の役割を再認識するため症例をだしカンファレンスを行った。
- ②大阪市の入退院支援マニュアルと照らし合わせ継続看護マニュアルの作成した。
患者指導を行うためチェックリスト（エクセルチャート）の運用方法を検討した。
- ③退院調整に関する院外研修へ参加し研修内容を委

員会で伝達した。

- ④もしばなカードを活用し倫理観の違いや価値観の相違を学ぶ場をもうけACPの倫理的な基盤や4分割法についての学習を委員会内で行った。

7) リソースナース会 小山 佐知子

〈目標〉

- ①各専門分野の臨床看護実践の可視化を行い、CN、CNSと他職種が協力、協働することで患者にとって最適な看護ケアが提供できる。
- ②異なる領域の認定看護師間の連携、協働を促進することができる。
- ③専門各チームのメンバーを育成し、メンバーが中心となり、自部署で専門分野の看護に積極的に参画できる動悸づけと支援を行う

〈活動報告〉

- ①マニュアル、テンプレート、エクセルチャートなど各分野で作成修正を行った。また院内外にリソースナースの活動発信の場として、広報誌(SAISEI RIMIN、NISSAY NURSE TIMES)を作成、地域連携看護セミナーを4回開催した(8参照)。
- ②様々な課題を取りあげ、意見の調整や考え方の共有を図ってきた。その結果各CNS、CNが活動上の困りごとや悩みを発言し、それに対する意見交換ができています。
- ③各専門チームがそれぞれ課題をもってチーム運営を行えた。リンクナースの育成に務めそれぞれの部署で核となり役割を果たしていただいた。

11. 業績

学会発表

1. 小山佐知子, 土井美奈子, 玉井 祐, 日野未来, 清水梨恵, 松榮優子, 西田幸弘 他: 乳がん局所再発に伴う難治性疼痛に対して患者の意向を尊重し通院で10年以上の長期に症状コントロールをしている一例, 第29回日本緩和医療学会学術大会第37回日本サイオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024年6月, 神戸
2. 日野未来, 玉井 裕, 清水梨恵, 土井美奈子, 花田留美: コントロール困難な癌性髄膜炎による疼痛に対してケタミン持続投与が有用であった一例, 第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024年6月, 神戸
3. 大野典子, 依田恵美, 堤 早苗: リンクナースがICT/ASTラウンドに参加したことで気づいたリーダーとしての課題, 日本環境感染学会, 2024年7月, 京都
4. 二井千里, 齋藤 愛: 手術室看護師が入院前の手術患者と術前看護外来から関わりを持つことで周術期看護に与える影響, 第38回日本手術看護学会学術大会, 2024年10月, 札幌
5. 飯田志保, 吉村恵利子, 高熊俊恵, 野口夕香子, 玉井千春, 酒井亜紀子, 高崎かおり, 西田幸弘: ホルモン療法を受ける乳がん患者の服薬アドヒアランス調査Medication adherence survey of breast cancer patients undergoing hormone therapy., 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024年10月, 福岡
6. 村上弘子, 奥出侑華田中穂乃香, 立岩ゆり, 篠部 郁: 造血幹細胞移植患者に対する退院指導への取り組み, 大阪府看護学会, 2024年12月, 大阪
7. 藪下里桜, 二井千里: 手術看護記録の質向上への取り組み, 第46回日本手術医学会総会, 2024年12月, 大阪
8. 田中敬子, 岩崎由希子: 臍部に造設した一時的回腸ストーマの皮膚保護についての検討, 第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2025年2月, 郡山

研究会発表

1. 小山佐知子: がんの痛みを抱える患者の生活を支えるケア, 第166回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年5月, 大阪
2. 鄭恩 愛: がん薬物療法中患者の緊急時の受診タイミング, 第20回日本生命病院地域連携看護セミナー, 2024年12月, 大阪 (WEB開催)
3. 宮田綾佳: 当院のリウマチ入院加療における他職種の関わり, 第10回リウマチセンター合同カンファレンス, 2025年2月, 加古川
4. 小山佐知子: オピオイド誘発性便秘症に対するケア, 第21回日本生命病院地域連携看護セミナー, 2025年3月, 大阪 (WEB開催)

2024年度 看護部現任教育実績(院内)

研修対象	年月	内容	講師	参加者数
1 年目	2024年 4 月	医療職としての接遇・マナー	あったかサポートセンター 西岡	44
	2024年 4 月	防災、非常時・緊急時の対応	総務人事G 阪本	44
	2024年 4 月	看護部理念／看護教育について	看護部長 二艘舟	24
	2024年 4 月	医療安全について	医療安全管理者 賀戸	45
	2024年 4 月	リスク管理について	総合企画 福井	44
	2024年 4 月	当院のネットワークシステムと電子カルテシステムの概要、サイボーズの使い方とマナー	情報システム 高松	44
	2024年 4 月	個人情報保護、著作権、SNSについて	総合企画 福井	44
	2024年 4 月	チーム医療	教育委員 大和	44
	2024年 4 月	安全な薬剤管理	薬剤部部長 足立	35
	2024年 4 月	放射線暴露防止	放射線科技師長 長澤	35
	2024年 4 月	薬剤曝露防止	がん化学療法看護認定看護師 玉井 がん化学療法看護認定看護師 鄭	35
	2024年 4 月	院内感染対策	感染対策室副室長 大野 ICTリンク ナース 堤	45
	2024年 4 月	看護記録	記録委員 戸田	24
	2024年 4 月	仲間作り研修	教育委員	24
	2024年 4 月	臨床倫理 I	がん性疼痛看護認定看護師 小山	39
	2024年 4 月	静脈採血法と血糖測定	9 階 次席師長 伊勢	30
	2024年 4 月	注射法(筋肉・皮下・静脈内)	外来 次席師長 新部	30
	2024年 4 月	電子カルテの基本操作	記録委員	24
	2024年 4 月	当院の看護過程と看護実践	教育委員 大和	24
	2024年 5 月	患者・家族と信頼関係を結ぶ基本	看護部長 二艘舟	24
	2024年 5 月	ボディメカニズムと安全な体位変換、移乗、移送	10階 次席師長・理学療法士 宮田・田中	24

研修対象	年月	内容	講師	参加者数
1 年目	2024年 5 月	転倒転落予防アセスメントと環境整備	13階師長 石井	24
	2024年 5 月	褥瘡リスクマネジメントと予防ケアとしての清潔・排泄ケア	皮膚排泄ケア認定看護師 岩崎	24
	2024年 5 月	看護が見える看護記録	記録委員 戸田	24
	2024年 6 月	安全な与薬と管理	13階 次席師長 源	23
	2024年 6 月	注射薬を正しく投与するための基本	13階 次席師長 源	23
	2024年 6 月	重症度、医療・看護必要度	次席師長 下山	21
	2024年 6 月	3 ヶ月フォローアップ	教育委員	21
	2024年 6 月	ストレスマネジメント	臨床心理士 丸山	21
	2024年 7 月	栄養アセスメントと「食べる」ということ	摂食・嚥下障害看護認定看護師 森山	22
	2024年 7 月	せん妄予防と認知症ケアの基本	せん妄・認知症ケア認定看護師 井上	22
	2024年 7 月	輸液ポンプとシリンジポンプの使い方と看護	臨床工学技師・集中治療室 田中・松本	22
	2024年 7 月	フィジカルイグザミネーションとアセスメント	クリニカルケア認定看護師 木村	22
	2024年 8 月	安全を考える～ヒューマンエラー～	9 階師長・医療安全 篠部・賀戸	22
	2024年 8 月	輸血療法、血液製剤について	9 階 次席師長 村上	22
	2024年10月	多職種合同研修	看護部教育委員会	20
	2024年10月	急変時の予測と看護	クリニカルケア認定看護師 木村	20
	2024年11月	12誘導心電図、生体モニターの活用結果を読み解く	14階 次席師長 宇埜	20
	2024年11月	看護補助者と協働のための研修	14階師長 神谷	20
	2024年12月	多重課題	7 階 次席師長、11階 次席師長 浅利・柱本	20
	2025年 2 月	看護を語る（経験から学ぶ）	教育委員	20
2 年目	2024年 6 月	メンバーシップ	12階 次席師長 森山	21
	2024年 6 月	フォローアップ研修	10階師長 戸田	21

研修対象	年月	内容	講師	参加者数
2年目	2024年6月	IVナース認定研修	看護部 教育委員	21
	2024年6月	受け持ち看護師として 「看護がの対象」を観る	9階 看護師長・ 11階 次席師長 篠部・林	21
	2024年7月	看護研究の基礎①	12階 次席師長 小谷口	21
	2024年8月	人工呼吸器装着中の患者の看護	集中治療室 次席師長 原	21
	2024年8月	急変時の看護	救急看護 認定看護師 牧田	21
	2024年9月	事例から学ぶ医療安全	看護安全委員会委員長 篠部	21
	2024年10月	臨床倫理Ⅱ	がん性疼痛 看護認定 看護師 小山	21
	2025年2月	看護研究の基礎②	12階 次席師長 小谷口	21
3年目	2024年5月	リーダーシップ論	7階 看護師長 依田	24
	2024年7月	教えるということ	外来 統括師長 高崎	24
	2024年9月	アサーション	11階 看護師長 森園	25
	2024年10月	専門チームの活動と活用 の実例	リソース ナース	25
	2024年11月	スペシャリストから学ぶ アセスメント	リソース ナース	25
	2024年1月	事例発表会	教育企画・ 倫理委員会	24
4年目	2024年6月	キャリアデザイン	教育委員会	15
	2024年8月	臨床倫理Ⅲ	がん性疼痛 看護認定 看護師 小山	16
	2024年11月	急変時の看護（マネジ メント編）	救急看護 認定看護師 牧田	15
	2024年12月	リフレクション	12階 次席師長 小谷口	14
5年目	2024年6月	臨床倫理Ⅳ	がん性疼痛 看護認定 看護師 小山	23
	2024年7月	看護を語る（ナラティブ）	8階師長 大和	21
	2024年9月	看護研究指導について	12階 次席師長 小谷口	22
	2025年1月	災害発生時の対応～自 部署でどうする？～	救急看護 認定看護師 牧田	22

研修対象	年月	内容	講師	参加者数
6・7年目	2024年11月	フォロワーシップと具 体的行動	10階 次席師長 宮田	29
	2024年7月	チューターフォローア ップ研修	看護教育 委員長 大和	21
	2025年2月	次年度新人教育担当者 研修	教育委員 宇埜	5

2024年度 看護部教育実績(院外)

主催	研修テーマ	部署	氏名	研修期間
医療・福祉サービス事業者サポート機構	人生会議（ACP）ファシリテーター養成研修	外来	河村理香	6月9日
日本臨床看護マネジメント学会	24「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	12階	高崎かおり	6月28日
大阪府看護協会	災害支援ナース養成研修	7階手術室	溝辺由美 吉岡菜奈美	9月12・13日
大阪府看護協会	看護職員認知症対応力向上研修	9階 10階救急・集中治療室	堀見曜子 藪内由梨 近明日美	10月25日
日本造血・免疫細胞療法学会	同種造血細胞移植後フォローアップのための看護師研修会	9階	前川涼子	11月2日
大阪府看護協会	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	9階 11階 14階	村上弘子 柱本明子 宇埜美奈子	11月6日
大阪府看護協会	災害支援ナース養成研修	救急・集中治療室	根来 楓	11月5・6日
大阪府看護協会	災害支援ナース養成研修	手術室	津田智香	1月28・29日
大阪府看護協会	看護職員認知症対応力向上研修	外来	新部里美 河村理香	3月14日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	外来	野口夕香子	5月8日～6月6日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	7階	藤本玲奈	5月8日～6月6日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	10階	宮田綾佳	9月24日～10月24日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	看護部管理室	堤 早苗	12月3日～1月30日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	8階	大和由紀子	11月12日～1月29日
大阪府看護協会	認定看護管理者教育課程 サードレベル	看護部管理室	島津庸子	9月3日～12月4日
大阪府看護協会	感染管理認定看護師教育課程	看護部管理室	堤 早苗	2023年9月1日～2024年6月21日

国 際 室

スタッフ 室 長 前田俊哉（事務局長兼事務管理部長兼任）
副 室 長 陶 彬毅（国際医療コーディネーター ～2024年7月）
中国語医療通訳 飯田 香（常勤）、倉貝郁絵（非常勤）

概要：

在日・訪日外国人の増加に伴い、言語の壁を無くし、日本語の不自由な患者さんが安全・安心な医療を受けられるように、2017年から非常勤中国語医療通訳を採用し、中国語のサポートを開始した。更に、2019年4月から国際医療コーディネーターを配置するなど対応体制を充実し、中国語と英語のサポートを開始した。同年5月には、「大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関」に選定され、また対応患者数が増加してきたため、医療の国際化への対応を推進すべく、同年10月に国際室を新設した。

2022年12月にビデオ通話（遠隔通訳）を導入し、対応言語は中国語と英語に加え、韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語の7言語に拡大した。

2023年2月には、外国人患者受入れに適した医療機関として「ジャパンインターナショナルホスピタルズ(JIH)」推奨病院の更新を受審し、同年4月に認証された。

1. 業務内容

1) 日本語の不自由な患者さんが受診する際に、言語サポートを行っている。

①対面通訳

原則として、外来診療日の診療時間内に、中国語と英語（～2025年7月）の対面通訳が対応できる体制を整えている。

②ビデオ通訳（遠隔通訳）

中国語・英語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語（24時間365日）
ベトナム語・ネパール語（平日9：00～17：30）

③電話通訳

英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語・タイ語・ロシア語・フランス語・タガログ語・インドネシア語・ドイツ語・イタリア語・マレー語・クメール語・ミャンマー語・モンゴル語・シンハラ語・ヒンディー語・ベンガル語の21言語（24時間365日）

④その他のツールの活用

- ・各現場に合わせ、オリジナルのコミュニケーションツール（指差しボード）を作成・活用している。
- ・通訳のニーズが高い部署には翻訳機器（ポケット、74言語対応）を配置し、簡単なコミュニケーションが現場で取れるようにしている。

2) 医療の国際化に対応する院内体制の整備

院内表示や院内書類の多言語化など、日本語の不自由な患者さんがスムーズに受入れられる環境を整備している。

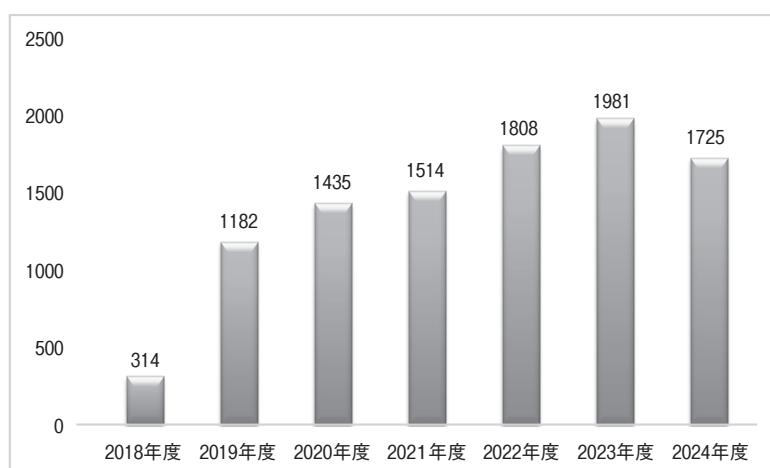
3) 国際関係の連絡窓口

日本語・中国語・英語での診療問合せ等（電話・メール）に対応している。

2. 業務実績

当年度における国際室が対応したLJP患者の延べ件数は1,725件となり、年度途中でのスタッフ要員減の影響は最小限度に止めることができた。

年度別対応件数推移



スタッフ センター長：栗波仁美

副センター長：大山摩佐子、松岡洋人

常勤医師：泉由紀子、浅野彰彦、梅下光子、松島 希、吉田好機、是近彩香、芳村悠太、
笠山宗正（名誉院長）、中村秀次（顧問）、三木俊治

1. 2024年の概要

予防医学センターは2018年4月30日に新築開院した日本生命病院に移転後、人間ドックおよび定期健診受診者数は増加傾向にあったが、2019年に始まったコロナ禍により受診者数は一旦減少、その後徐々に回復し、2024年は14,385名となった。なお定期健診受診者は契約終了となった企業もあり18,839名と前年を下回る結果となった（表1）。

健診の質および快適な受診環境の維持・向上を目指して、専門医師による診察、内視鏡検査、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、放射線技師、臨床検査技師による専門的検査を行うようにしている。また人間ドックの午前3診体制を平日毎日実施するとともに、午後の診察も平日毎日実施し、受診者ニーズに応えるよう取り組んだ。上部消化管内視鏡検査は消化器内視鏡センターと緊密に連携しながら対応し、2024年からはコロナ感染拡大時に縮小した午前ドックの上部消化管内視鏡枠を前年より拡大し、さらに2023年から開始した午後の枠も火、木、金と拡大した結果5,351件となった。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科検診を平日毎日実施するとともに、レディースデイを月2回、2診体制としている。こうした取組みにより、2024年度の受診者は人間ドック全体で14,385名と2023年を上回った。メンタルヘルスサポート事業では、産業医受託企業を中心に34社、1万名弱のストレスチェックを実施し、そのうち16社で集団分析を実施し報告した。精神科医師、公認心理師によるコンサルテーションも実施し、メンタルサポート体制をより充実させ、産業医も含めてストレスチェックの実績は着実に積みあがっている。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として18施設、入所者773名を対象として無料健診を継続実施した。また、8月に行ってきた母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を2024年度も実施した。

日本生命と共同で開発し最新の情報通信技術を活用して遠隔指導を行う「糖尿病予防プログラム」に加え、2021年度からは「血糖変動チェックプラン」の提供を開始している。日本生命職員や地方自治体職員等を対象に実施し指導結果が判明している団体データでは体重や血糖値などで着実な改善が認められた。

2024年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で12.0%、48.8%であり、昨年度と比較するとやや減という結果であった。年代別、性別の要治療（D1）率、要精密検査（D2）率を表2に示す。今回の要治療率は、男

性は50～60歳未満が高く、女性は40～50歳未満が高い傾向があった。要精密検査率では、男性は40歳未満では38.6%だが、50歳未満は44.3%、50歳以上では49.3%、60歳以上で58.6%と年齢とともに増加傾向がみられた。女性の要精密検査率については、40歳未満は39.3%で、年齢とともに上昇して60歳以上では51.2%であった。なお、これらの割合は前年度よりやや低い水準であった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。要治療では、男性はTop 5すべてが今年度も生活習慣病であり、1～5位まで昨年と同じであった。1位は高血圧で28.5%、2位は高コレステロール血症で21.8%、3位は高中性脂肪17.4%であった。4位は糖尿病で11.6%、5位は高尿酸血症で10.7%であった。女性も1～4位まで昨年と全く同じであった。高尿酸血症が女性では少なく男性で多いのは飲酒の影響と考えられた。要精密検査では、眼科疾患が男女とも1位でそれぞれ24.3%、15.8%であった。男性では肝機能疾患が2位で15.9%、3位が呼吸器疾患、4位は肝臓・大腸疾患、5位が腎・尿路疾患であった。女性では婦人科疾患が2位、3位が呼吸器疾患、4位が肝機能疾患、5位が腎・尿路疾患であった。男女とも呼吸器疾患がランクインしているのは、2024年度より呼吸機能検査を再開したことによると考えられた。

D1、D2判定者で日本生命病院各診療科に紹介した人間ドック受診者の内訳を表4に示す。病院の受診者数は1,356名と前年を下回っており、眼科、消化器内科、内分泌・代謝内科、呼吸器・免疫内科、産婦人科、循環器内科、予防診療科が上位を占めた。精密検査の確実な実施を含めたD1、D2フォロー体制を強化するため、1か月後フォローの実施と3か月フォローの複数回勧奨を定着させ、人間ドック診察説明時の対応も工夫し、要治療要精密検査者の病院受診率の向上に努めている。

2. 業績

学会発表

1. 是近彩香, 中谷理恵子, 桂 央土, 向井康祐, 小幡佳也, 宮下和幸, 小澤純二, 福原淳範, 下村伊一郎：甲状腺全摘術後にもかかわらず甲状腺自己抗体価の上昇と脛骨前粘液水腫再発を認めた甲状腺眼症の一例, 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月, 神奈川
2. 徳山由佳, 南谷美樹, 馬場里映, 中尾沙希, 栗波仁美：人間ドックで偶然発見された腎Anaastomosing hemangiomaの一例, 第65回日本人間ドック・予防医療学会学術大会, 2024年9月, 神奈川

研究会発表

1. 松岡洋人：呼吸器疾患の診断, 第167回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2024年6月, 大阪

表 1 定期健康診断・人間ドック受診者数(運営会議資料抜粋)

	2024年度	対前年	備考
	名	%	
定期健康診断	18,839	96%	
人間ドック (日帰り)	7,806	105%	標準コースの人間 ドック
人間ドック (生活習慣病)	6,514	103%	協会けんぽなどの 簡易ドック
専門ドック (脳・肺ドック)	65	151%	
人間ドック 合計	14,385	104%	

表 2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療と要精密検査の頻度

	要治療 (D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	8.5%	25	6.0%	20	7.2%	45
40－49歳	11.2%	82	14.1%	142	12.9%	224
50－59歳	13.3%	180	11.9%	167	12.6%	347
60歳以上	12.3%	141	11.1%	96	11.8%	237
総計	12.1%	428	11.8%	425	12.0%	853

	要精密検査 (D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	38.6%	113	39.3%	131	39.0%	244
40－49歳	44.3%	324	44.7%	451	44.5%	775
50－59歳	49.3%	667	48.7%	682	49.0%	1,349
60歳以上	58.6%	673	51.2%	441	55.4%	1,114
総計	50.4%	1,777	47.3%	1,705	48.8%	3,482

※健診システム（タック）より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1（要治療）、D2（要精密検査）を抽出
％は年齢別要治療・要精密検査数／年齢別全受診者数＊100
総計の％は性別総計数／全受診者数＊100

表 3 性別による要治療（治療中含）・要精密検査の上位 5 項目（日帰り人間ドック受診者）

NO	男性			NO	男性		
	要治療 (D1)	%	人数		要精密検査 (D2)	%	人数
1	高血圧	28.5%	1,004	1	眼科疾患	24.3%	854
2	高コレステロール血症	21.8%	768	2	肝機能疾患	15.9%	561
3	高中性脂肪血症	17.4%	612	3	呼吸器疾患	12.7%	447
4	糖尿病	11.6%	409	4	肛門・大腸疾患	5.5%	188
5	高尿酸	10.7%	376	5	腎・尿路疾患	5.1%	179

NO	女性			NO	女性		
	要治療 (D1)	%	人数		要精密検査 (D2)	%	人数
1	高コレステロール血症	17.5%	632	1	眼科疾患	15.8%	570
2	高血圧	13.7%	494	2	婦人科疾患	11.7%	309
3	高中性脂肪血症	11.4%	406	3	呼吸器疾患	7.5%	270
4	眼科疾患	7.0%	268	4	肝機能疾患	7.0%	253
5	糖尿病	4.0%	145	5	腎・尿路疾患	6.2%	224

※各検査項目の数値・判定より抽出（センター医師による判断）
要治療・要精密検査項目は治療中Eを含む
％は各検査要治療受診者数／各検査受診者数＊100 ％は各検査要精密受診者数／各検査受診者数＊100

表 4 要治療・要精密検査判定者の日本生命病院への紹介（運営会議資料より抜粋）

総数	1,356人		
眼科	339人	循環器内科	76人
消化器内科	310人	予防診療科	75人
内視鏡センター	7人	乳腺外科	48人
内分泌・代謝内科	208人	腎臓内科	36人
呼吸器・免疫内科	128人	泌尿器科	15人
産婦人科	108人	脳神経外科	6人

表 5 2024年度 人間ドック・協会けんぽリピート率

	前年リピート数	リピート率
人間ドック（日帰り）	5,765	73.9%
協会けんぽ（生活習慣病）	4,316	66.3%

リピート率は前年リピート数/人間ドック（協会けんぽ）総受診者数＊100

1. 日本生命病院医学セミナーUpdate

開催月日	テ　　マ	講　　師		参加人数
2024年5月10日	「がんの痛みを抱える患者の生活を支えるケア」	あったかサポートセンター 専門部長	小山佐知子	73名
2024年6月7日	「呼吸器疾患の診断」	予防医学センター 副センター長	松岡　洋人	57名
2024年7月5日	「冠動脈疾患に対する包括的機能診断」	循環器内科　担当部長	中川　　厚	53名
2024年8月2日	「消化器内視鏡診療の現況」	消化器内科　副部長	萩巢　恭平	54名
2024年9月6日	「なぜ、今、腹膜透析なのか」	腎臓内科　副部長	光本　憲祐	71名
2024年10月4日	「ヒトの免疫の仕組み ～感染症、アレルギー、膠原病を題材に～」	呼吸器・免疫内科　医長	小中　八郎	71名
2024年11月1日	「日常遭遇する脳外科疾患」	脳神経外科　部長	鈴木　　強	55名
2024年12月6日	「診断学入門 (初診外来の症例を通して)」	救急総合診療科 副部長 兼 臨床研修部　部長代行	宇都　佳彦	62名
2025年1月10日	「胃癌患者の身体機能の低下」	消化器外科　部長	川田　純司	44名
2025年2月7日	「脳波によるアルツハイマー型認知症の 早期予測」	神経科・精神科　副部長	青木　保典	43名
2025年3月7日	「高齢者の腰痛 (腰椎圧迫骨折を中心に)」	整形外科 副部長（部長待遇）	行方　雅人	43名

2. 1年目研修医オリエンテーション

日程	時間	場所	研修内容	担当
4月1日(月)	8:30～8:45	5階 大会議室2	辞令交付	総務人事G
	9:00～10:05	5階 大会議室1	研修医の就業規則、入会書類説明、その他	総務人事G
	10:05～10:20		写真撮影	総務人事G
	10:20～11:05		社会保険、保険医登録、麻薬免許申請 等	総務人事G
	11:05～11:20		ロッカー案内	総務人事G
	11:20～12:00		勤務管理システム	総務人事G
	13:00～		入会式・オリエンテーション	
	14:00～16:20	1階 あったかふれあいホール	社会・地域に求められる当院の役割と機能	事務長
			済生会におけるリスク管理・個人情報保護などに関わるマニュアル、他	事務担当者
	16:30～17:10	5階 大会議室1	研修プログラム説明・4月オリエンテーション説明・ローテーション作り方	臨床研修部長
17:15～18:15	1階 あったかふれあいホール	進発式	総合企画部・総務人事G	
4月2日(火)	8:30～9:50	1階 あったかふれあいホール	医療職としての接遇・マナー	あったかサポートセンター
	10:00～11:10		当院のネットワークシステムと電子カルテシステムの概要、サイボウズの使い方とマナー	情報システムG
	11:20～12:00		個人情報保護、著作権、SNSについて	総合企画部
	13:00～14:20		防犯・防災・非常時・緊急時の対応	総務人事G・看護部
	14:30～16:00		各職種への関連部署案内	部署所属長
	16:00～17:00		関連部署案内後の意見交換会	看護部教育委員会
4月3日(水)	8:30～17:00	1階 あったかふれあいホール	院内感染対策	感染対策室／看護部
4月4日(木)	10:30～	3階 予防医学センター	健康診断① (①か②へ参加)	
	16:00～17:00	5階 役員会議室	医療倫理:ヘルシンキ宣言、リスボン宣言 (人間の尊厳、守秘義務、倫理的ジレンマ、利益相反、ハラスメント、不法行為の防止 等)	臨床研修部
4月5日(金)	8:30～9:30	1階 あったかふれあいホール	医療安全について	医療安全対策室
	9:40～12:30		チーム医療について	看護部教育委員会
	13:30～14:30		安全な薬剤管理	薬剤部
	14:40～15:40		放射線暴露防止	放射線科
	15:50～17:00		薬剤暴露防止	がん化学療法認定看護師
4月8日(月)	10:30～	3階 予防医学センター	健康診断② (①か②へ参加)	
	13:00～13:50	5階 大会議室1	電子カルテ基本操作	情報システムG
	14:00～14:50		救急診療	救急総合診療科
	15:00～15:50	5階 会議室3	時間外診療について	臨床研修部
	16:00～17:00		死亡診断書、その他	臨床研修部
4月9日(火)	9:00～9:50	5階 大会議室1	抗菌薬適正使用	感染対策委員会
	9:50～10:30		病診連携	あったかサポートセンター
	10:30～12:00	1階 あったかふれあいホール	臨床倫理Ⅰ	がん性疼痛認定看護師
	13:00～17:00		静脈採血法と血糖測定	看護部次席師長
4月10日(水)	8:30～12:00	1階 あったかふれあいホール	注射法 (筋肉・皮下・静脈内)	看護部次席師長 救急看護認定看護師
	13:30～16:00	4階 中央臨床検査部	剖検、CPC	中央臨床検査部
			生化学・免疫学・血液学、輸血検査	
			血液ガス分析	
			生理学検査 (心電図)	
			腹部・心エコー検査	
			微生物 (グラム染色)、病理検査	
	16:30～17:00	5階 大会議室1	栄養指導	栄養管理室
4月11日(木)	9:00～9:50	5階 大会議室1	退院支援・医療福祉相談・地域包括ケア	医療福祉相談G
	10:00～10:50		薬剤処方	薬剤部
	11:00～11:50		レセプト、医療費など	医事サービス部
	13:00～13:50		造影CT検査	放射線・IVR科
	14:00～14:30		リハビリ依頼について	リハビリテーション室
	15:00～15:50	5階 役員会議室	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室
	16:00～16:40		インフォームド・コンセント	臨床研修部
4月12日(金)	8:30～17:00	鶴見緑地公園	親睦を深める研修	看護部、教育委員会
4月17日(水)	16:00～17:00	5階 トレーニングルーム	皮膚縫合	消化器外科

3. 実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
循環器内科	大阪医科薬科大学	2023.4.3～2023.4.28	2名
		2023.5.8～2023.6.2	1名
		2023.6.5～2023.6.30	1名
		2024.2.5～2024.3.1	2名
		2024.3.4～2024.3.29	1名
内分泌・代謝内科	大阪大学(4・5年次)	2023.4.24～2023.4.28	3名
呼吸器・免疫内科		2023.5.8～2023.5.19	1名
血液・化学療法内科		2023.4.17～2023.4.28	1名
		2023.7.18～2023.7.28	2名
		2024.1.4～2024.1.12	2名
神経科・精神科	大阪大学(6年次)	2023.4.24～2023.4.27	1名
		2023.5.29～2023.6.1	1名
2023.6.26～2023.6.29		1名	
泌尿器科		2023.6.26～2023.6.30	1名
呼吸器・免疫内科		2023.9.25～2023.10.6	1名
内分泌・代謝内科	兵庫医科大学(6年次)	2023.5.8～2023.6.2	1名
血液・化学療法内科		2023.5.8～2023.6.2	1名
形成再建外科		2024.3.4～2024.3.8	2名
血液・化学療法内科	兵庫医科大学(5年次)	2024.3.4～2024.3.8	2名
		2024.3.11～2024.3.22	1名
内分泌・代謝内科	東京女子医科大学	2023.4.10～2023.4.22	2名
消化器内科	神戸大学(6年次)	2023.5.8～2023.6.2	1名
		2024.2.19～2024.3.1	1名
神経科・精神科	神戸学院大学 (心理学研究科生)	2024.9.9	合計 11名
		2024.9.30	
		2024.10.7	
		2024.10.21	
麻酔・緩和医療科	大阪市消防局 (救急救命士)	2024.7.1～2024.7.31	1名
		2025.1.6～2025.1.31	1名
チーム医療	神戸大学・神戸薬科大学 合同	2024.9.10	7名
中央臨床検査部	大阪医療技術学園専門学校	2024.6.18～2024.9.6	4名
	関西医療大学保健医療学部	2024.9.30～2024.12.6	2名
	森ノ宮医療大学医療 技術学部臨床検査学科	2024.9.24～2024.12.6	2名
中央放射線部	森ノ宮医療大学	2024.5.13～2024.5.24	2名
		2025.1.9～2025.3.18	2名
	大阪物療大学	2024.9.24～2024.12.23	1名
	大阪行岡医療専門学校	2024.6.3～2024.7.31	6名
		2024.9.2～2024.10.31	2名
薬 剤 部	京 都 薬 科 大 学	2024.8.19～2024.11.3	1名
	大 阪 大 谷 大 学	2024.6.3 (14:00から16:00) 見学	4名
リハビリテーション室	大阪リハビリテーション専門学校	2024.4.8～2024.4.26	1名
	大阪医療技術学園専門学校	2024.9.17～2024.11.29	1名
	藍 野 大 学	2024.11.11～2024.12.7	1名
	奈 良 学 園 大 学	2024.6.10～2024.8.2	1名
	大阪保健医療大学	2024.4.8～2024.5.25	1名
	関西学研医療福祉学院	2024.9.30～2024.10.26	1名

部門	学校名	期間	人数
リハビリテーション室	大和大学白鳳短期大学部	2025.1.20～2025.2.8	1名
	関西医療学園専門学校	2025.2.17～2025.3.8	1名
	森ノ宮医療大学	2025.2.3～2025.2.7	1名
感染対策室	北里大学大学院看護学研究科	2024.5.13～2024.5.17	1名
看護部	南大阪看護専門学校	2024.5.9～2024.9.11	16名
	大阪保健福祉専門学校	2024.4.16～2024.4.25 (内4日間)	6名
		2024.6.1～2024.6.20 (内4日間)	10名
		2024.8.5～2024.8.21 (内4日間)	12名
		2025.1.15～2025.1.30	5名
	日本看護協会	2024.11.5～2024.12.6	2名
	四条畷学園大学	2025.1.6～2025.1.10	5名
		2025.1.14～2025.1.17	4名
		2025.1.20～2025.1.24	4名
		2024.9.3～2025.1.29	28名
	甲南女子大学	2024.9.9～2025.1.31	57名
		2025.9.17～2024.10.9	24名
	関西医療大学保健看護学科	2024.10.29～2024.12.19	20名
		2024.9.2～2024.11.1	15名
	大阪府病院協会看護専門学校	2024.5.20～2024.7.20	10名
看護部	神戸研修センター	2024.11.5～2024.12.6	2名
	森ノ宮医療大学	2024.10.21～2024.10.31	5名
		2024.10.21～2024.10.22	5名
		2024.10.28～2024.11.7	5名
		2024.11.6～2024.11.7	5名
		2024.11.18～2024.11.28	5名
		2024.12.2～2024.12.3	5名
		2025.2.3～2025.2.13	5名
		2025.2.17～2025.2.18	5名
	大阪医専	2024.12.2～2024.12.17	4名
		2024.5.7～2024.5.22	9名
		2024.5.27～2024.6.7	9名
		2024.8.26～2024.9.10	9名
		2024.9.24～2024.10.9	5名
		2024.10.15～2024.10.30	4名
ニッセイ訪問看護ステーション	大阪保健福祉専門学校	2025.2.17～2025.3.5	9名
		2024.4.22～2024.4.25	2名
		2024.9.9～2024.9.12	2名
		2024.10.28～2024.10.31	2名
	大阪保健福祉専門学校(通信)	2024.11.11～2024.11.14	2名
		2024.9.2～2024.10.1 (2日ずつ×10名)	10名
	大阪医専	2024.5.13～2024.5.23	2名
		2024.8.19～2024.8.20	2名
		2024.8.21～2024.8.22	2名
		2024.8.26～2024.8.27	2名
	森ノ宮医療大学	2024.6.4～2024.6.13	2名
		2024.7.2～2024.7.11	2名

4. 講演会・研修会

【院内職員対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
4月4日	2024年 第1回保険診療講習会 兼 診療報酬改定説明会 講師：医事サービス部 村上 学	医事サービス部	あったかふれあいホール
5月28日	第51回院内感染対策委員会教育講演 〈第1部〉AST勉強会 「当院の抗菌薬使用量について ～2024年度診療報酬改定を踏まえて～」 講師：薬剤部 平田 貴宏 〈第2部〉ICT勉強会 「ワクチンUpdate ～こどもたちも職員も感染から守る～」 講師：感染対策室 室長 西垣 敏紀	感染対策委員会	あったかふれあいホール
5月31日	倫理委員会／治験審査委員会 院内講習会 テーマ：「臨床研究をはじめするには」 講師：神戸大学医学部附属病院 歯科口腔外科／ 臨床研究推進センター 笥 康正 先生	倫理委員会／ 治験審査委員会	あったかふれあいホール
7月30日	2024年度 合同研修（医事サービス部・認知症ケアチーム共催） ① 保険診療に関する研修 1）診療報酬改定による入院基本料、認知症ケア加算の変更点について 医事サービス部 村上 学 2）身体拘束最小化チームについて～キックオフと指針～ 認知症看護認定看護師 井上 けい子 ② 認知症ケア加算1に関する研修 ・MCI（軽度認知機能障害）について～鑑別診断と対応～ 脳機能センター長・脳神経内科部長 芳川 浩男	医事サービス部／ 脳機能センター	あったかふれあいホール
8月8日	第1回 医療安全研修会 1.「医療用麻薬等の取り扱いと医薬品安全管理WG活動報告」 講師：薬剤部長 足立 充司 2.「虐待対策チームの活動について」 講師：MSW 福庭 加奈	医療安全管理委員会	あったかふれあいホール
9月12日	第52回院内感染対策委員会教育講演 テーマ：「新興再興感染症と輸入感染症 ～大阪万博に備えて～」 講師：大阪大学大学院医学系研究科感染制御学教授 忽那 賢志 先生	感染対策委員会	あったかふれあいホール
10月3日	NST講演会 テーマ：「GLIM基準について」 「フレイル・サルコペニアと栄養」 講師：Meiji	栄養・給食委員会	あったかふれあいホール
10月29日	倫理委員会・医療安全管理委員会主催講演 テーマ：「DNAR指示をもっと理解する」 講師：大阪大学大学院医学系研究科 古結 敦士 先生	倫理委員会／ 医療安全管理委員会	あったかふれあいホール
11月7日	2024年度クリティカルパス症例検討会	クリティカルパス委員会	あったかふれあいホール
11月19日	第53回院内感染対策委員会教育講演 第1部 院内感染対策 テーマ：「よく聞くESBLsについて ～基本と耐性機序と臨床的意義～」 講師：中央臨床検査部（ICT／AST）若原 達哉 第2部 抗菌薬適正使用 テーマ：「かしこく治して、明日につなぐ ～抗菌薬を上手に使うって薬剤耐性菌対策～」 講師：感染対策室（ICT／AST）大野 典子	感染対策委員会	あったかふれあいホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
11月26日	2024年度 第2回医療安全研修会 テーマ:「パートナーからの暴力と妊娠期からの支援」 講師: 聖泉大学 別科助産専攻 教授 別科長 佐保 美奈子 先生	医療安全管理委員会	あったか ふれあい ホール
12月12日 12月13日	【体験会】(12月12,13日) ダビンチシステム製品説明&操作体験会 【講演会】(12月13日) 「ロボットを活用した今後の病院経営戦略」 講師: 倉敷成人病センター 病院事務部 副部長 診療支援部 臨床工学科 技士長 山下 由美子 先生	あったかサポート センター 総合企画部 事務管理部	あったか ふれあい ホール
12月16日	医療ガスの安全な取り扱い研修会	事務管理部 施設用度G	あったか ふれあい ホール
1月16日	2024年度 人権研修 テーマ:「人権問題について考える」 講師: 大阪企業人権協議会 講師 古野 哲司 先生	総務人事G 教育委員会	あったか ふれあい ホール
1月21日	大阪西部地区 在宅血液透析勉強会 講演Ⅰ『在宅血液透析を導入するクリニックの実際』 演者: 医療法人なごみ会 大正くすのきクリニック 近藤 昭彦 室長 講演Ⅱ『在宅血液透析の啓発と普及のために ～HHD先進県・滋賀と当院の取り組み～』 演者: 医療法人社団 富田クリニック (本院) 院長 日本在宅血液透析学会 理事 (学術委員長) 一色 啓二 先生	腎臓内科 あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
1月28日	認知症ケア研修 テーマ:「抗Aβ抗体療法の現状」 講師: 脳機能センター長 芳川 浩男	脳機能センター (緩和ケアチーム)	あったか ふれあい ホール
1月31日	輸血療法講演会 テーマ:「クイズで学ぶ 輸血療法 パートⅡ」 講師: 血液・化学療法内科 川上 学	輸血療法委員会	あったか ふれあい ホール
2月28日	1年目研修医症例報告会	臨床研修部	あったか ふれあい ホール
3月6日	2年目研修医症例報告会	臨床研修部	あったか ふれあい ホール

【医療関係者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
6月21日	第18回日本生命病院地域連携看護セミナー 「食事介助とポジショニング」 摂食・嚥下障害認定看護師 森山 綾乃	看護部	あったか ふれあい ホール
7月20日	第25回 日本生命済生会 創立100周年記念 あわぎフォーラム 病診連携学術講演会 Ⅰ. 講演会 「腰痛と画像診断」 放射線診断・IVR科 部長 小林 美登利 「災害医療に関する基礎知識～当院での災害対応に向けて～」 副院長 救急総合診療科 部長 岸 正司 Ⅱ. 特別講演 「がん近赤外光線免疫療法（光免疫療法）」 アメリカ国立衛生研究所／国立がん研究所主任研究員 関西医科大学特別教授 光免疫医学研究所所長 小林 久隆	あったかサポート センター	リーガ ロイヤル ホテル 大阪
9月20日	第19回日本生命病院地域連携看護セミナー 「認知症の人のその人らしさを支えるケア」 認知症看護認定看護師 井上 けい子	看護部	あったか ふれあい ホール
12月20日	第20回 日本生命病院地域連携看護セミナー 「がん薬物療法を受ける患者の緊急時の受診のタイミング」 がん薬物療法看護認定看護師 鄭 恩愛	看護部	あったか ふれあい ホール
1月18日	第16回 日本生命病院産業医セミナー テーマ：『就労者における感染対策』 講演①『感染症のスティグマが労働者に与える影響』 感染対策室 副室長 大野 典子 講演②『就労者を感染症から守る 成人に接種するワクチン』 感染対策室 室長 西垣 敏紀 特別講演 『産業医が知っておくべき 感染症にまつわるエトセトラ』 大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授 忽那 賢志 先生	予防医学センター	あったか ふれあい ホール
2月15日	日本生命緩和ケア研修会	医事サービス部 あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
3月21日	第21回 日本生命病院地域連携看護セミナー 「オピオイド誘発性便秘症に対するケア」 がん性疼痛看護認定看護師 小山 佐知子 「訪問看護における排便ケア」 よどきり訪問看護ステーション 緩和ケア認定看護師 氏平 景子	看護部	あったか ふれあい ホール

【一般・患者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
4月12日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「尿検査の実際～」 中央臨床検査部 主任 大澤 由布子	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
5月17日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「アルツハイマー病の新しい治療薬について」 脳機能センター長・脳神経内科部長 芳川 浩男	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
6月14日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「夜中にトイレへ何回行きますか？～夜間頻尿のはなし～」 泌尿器科 主任部長 垣本 健一	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
7月5日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「下肢静脈瘤、どうしたら良いの？」 心臓血管外科 部長代行 新谷 隆	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
8月23日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「知っておきたい、災害時に役立つお薬の話」 薬剤部 主任 野村 暢彦	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
9月13日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「自宅でできる！けがの応急処置」 形成再建外科 部長代行 齋藤 拓也	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
10月28日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「あなたは大丈夫ですか？乳がん」 乳腺外科 部長 西田 幸弘	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
11月8日	日本生命病院 いい皮膚の日 講演会 ○講演1「帯状疱疹ってなに？」 (講師：皮膚科 医師 藤田 悠花) ○講演2「眼科下垂ってなににあ？」 (講師：形成再建外科部長代行 齋藤 拓也) ○講演3「頭のフケ気になりませんか？」 (講師：外来看護師 高山 由美子 (日本皮膚学会認定皮膚疾患ケア看護師) ○講演4「フットケアについて」 (講師：11階病棟看護師 前田 歩美・川崎 理恵)	皮膚科 あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
11月15日	日本生命病院 糖尿病フェア Ⅰ 各種測定・相談 ・医師相談 ・血糖値測定 ・血管年齢測定 ・筋肉量・握力測定 ・栄養相談・ベジチェック ・お薬相談 Ⅱ 医師によるミニセミナー 内分泌・代謝内科 森田 尚喜	糖尿病・内分泌セン ター あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
12月9日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「貧血について～見逃さないで、あなたの貧血～」 血液・化学療法内科 主任部長 川上 学	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
1月30日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「消化器がんの早期診断」 消化器外科 副部長 星野 宏光	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
2月14日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「軽度認知症障害（MCI）って何だろう？」 認知症看護認定看護師 井上 けい子	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール
3月21日	よくわかる健康講座「腎臓をまもろう」 講演会 世界腎臓デー健康講座 講演1：「慢性腎臓病（CKD）ってなんでしょう」 講師：腎臓内科 副院長兼腎臓内科部長 宇津 貴 講演2：「知っておきたい、慢性腎臓病（CKD）の大切なこと」 講師：腎臓内科 西垣内 俊也 講演3：「CKDのクッキング講座」 講師：栄養管理室 管理栄養士 坂本 彩弥	あったかサポート センター	あったか ふれあい ホール

5. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞

日本生命病院医学賞

所属	氏名	受賞内容
呼吸器・免疫内科	甲原雄平	Durvalumab維持療法中の肺臓炎がステージ3非小細胞肺癌患者の生存に与える影響の検討
整形外科	高見賢司	乾癬性関節炎に対するIL-17阻害薬およびTNF阻害薬の長期臨床成績

日本生命病院医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
腎臓内科	西垣内俊也	多発性骨髄腫に伴った結晶円柱と高カルシウム血症による急性腎障害
皮膚科	井上栄美	両側中心静脈閉塞症を発症した掌蹠膿疱症性骨関節炎の1例
腎臓内科	山下千賀子	ロキサデュスタットと輸血に伴う鉄過剰症によって甲状腺機能低下症を生じた血液透析患者の1例
呼吸器・免疫内科	小中八郎	イクセキズマブ投与後早期に全身性エリテマトーデスを発症した乾癬性関節炎の1例
呼吸器・免疫内科	本郷卓英	乳がん治療を契機に自己免疫性肺胞蛋白症が寛解した1例

6. 地域活動等

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	8月12日(月祝) 10:00~17:00	三浦夕子	小児科担当
	中央急病診療所	11月21日(木) 22:00~2:00	宇都佳彦	内科担当
1歳6か月児健康診査	西区保健福祉センター	第4月曜日 午後	三浦夕子	年7回(4・5・7・8・10・11・1月)出務
3歳児健康診査	西区保健福祉センター	第4月曜日 午後	三浦夕子	年4回(6・9・12・3月)出務
令和6年度第1回 学術講演会	リーガロイヤルホテル	6月1日(土) 16:45~18:15	芳川浩男	演題「レカネマブの適正使用について～使用経験を踏まえて～」
西区民まつり 「文化と健康のつどい」	堀江中学校体育館・ 土佐公園等	11月3日(日) 10:00~15:00	中川 厚 本郷卓英 牧田佐和子 木村祐貴	医師会健康コーナー、 消防署AED講習会に出務
認知症講演会 「認知症をよりよく 理解するために」	西区民センター	11月16日(土) 14:00~16:00	芳川浩男	「認知症等高齢者支援地域連携事業」の市民向け講演会

7. ボランティアについて

地域に開かれた病院としてボランティアを一般市民から受け入れ、地域との信頼関係を強化し、より一層地域社会に貢献したい。

また、ボランティアは職員と協力し、患者さんが安心して治療を受けられるよう一人一人の患者さんにきめ細かいサービスを提供し、より良い療養環境を作り上げるよう努めていく。

■概要

名 称 「あったかサポートクラブ」

発 足 2001年（平成13年）

登録人数 13人（男性1人、女性12人）

活動内容

案内ボランティア

初再診手続きのサポート、車いす患者の介助、診察・検査等場所の案内 等

ガーデンボランティア

ニッセイ四季彩ガーデンの手入れ

ものづくりボランティア

外来イベント掲示板への「季節の飾り」製作

図書ボランティア（活動休止中）

外来図書コーナー、病棟図書コーナーの管理

8. 広報関係（各種メディア、表彰等）

(1) 表彰

2025年 3 月

優良民間社会福祉事業施設・団体に対する天皇誕生日に際しての御下賜金拝受

(2) 新聞

- ・2024年 8 月 2 日 日本経済新聞「電子版」
夏休みこども医療体験2024
- ・2024年 8 月 2 日 日本金融通信社「ニッキンONLINE」
夏休みこども医療体験2024
- ・2024年 9 月 2 日 新日本保険新聞（生保版 2 面）
夏休みこども医療体験2024

(3) 情報サイト

森ノ宮医療大学セラピア（一般の方向けの健康情報を伝えるWEBメディア）

- ・2024年12月 6 日 糖尿病フェア@日本生命病院に行ってきました
- ・2025年 1 月 1 日【医療の仕事に迫る！】チーム医療で患者をサポートする“緩和ケアチーム”って？
- ・2025年 1 月 2 日【医療の仕事に迫る！】看護師とどう違う？“認定看護師”ってなに？
- ・2025年 1 月 3 日【医療の仕事に迫る！】社会制度の専門家「医療ソーシャルワーカー」の仕事って？
- ・2025年 2 月 7 日 医療の進化を体感！ダビンチ体験会で見た医療の明日

(4) 監修（日本生命関連）

- ・3 大疾病読本（2025年度版）
- ・NISSAYデータブック（2025年度版）



森ノ宮医療大学セラピア



NISSAYデータブック（2025年度版）



がん読本（2025年度版）

9. 院内行事

〈2024年〉

4月1日	・2024年度新入職員入会式
4月1日	・2024年度進発式
4月4日	・診療報酬改定説明会・保険診療講習会
4月12日	・よくわかる健康講座（4/12、5/17、6/14、7/5、8/23、9/13、10/28、12/9、1/30、2/14）
4月17日	・CS・ES推進委員進発会議
4月17日	・がん患者さん・ご家族のための「ニッセイあったか茶論（サロン）」（～3月19日まで全11回）
5月10日	・日本生命病院 医学セミナーUpdate（～3/7まで全11回）
5月16日	・ニッセイ看護フェア
5月28日	・院内感染対策委員会 第51回教育講演
5月29日	・日本生命済生会理事会
5月31日	・倫理委員会/治験審査委員会 院内講習会
6月5日	・ニッセイオレンジ茶論（認知症カフェ）（6/5、9/4、12/4、3/5）
6月17日	・日本生命済生会評議員会
6月18日	・日本生命病院 地域医療支援運営委員会（6/18、9/17、12/17、3/18）
6月18日	・2023年度決算報告会ならびに表彰式
6月21日	・日本生命病院 地域連携看護セミナー（6/21、9/20、12/20、3/21）
7月1日	・日生稲荷神社・日生白玉神社 神事（稲荷祭）
7月1日	・日本生命済生会 創立100周年
7月12日	・日本生命済生会 創立100周年記念式典
7月20日	・日本生命済生会創立100周年記念 第25回あわぎフォーラム（特別講演：「がんの近赤外光線免疫療法（光免疫療法）」アメリカ国立衛生研究所（NIH）/国立がん研究所（NCI）主任研究員、関西医科大学附属 光免疫医学研究所 所長・特別教授 小林久隆先生） 開放型病院運営委員会、登録医総会
7月30日	・2024年度合同研修（医事サービス部・認知症ケアチーム主催） ①保険診療に関する研修 ②認知症ケア加算1に関する研修
8月2日	・ニッセイ夏休みこども医療体験2024
8月8日	・医療安全研修会（8/8、11/26）
8月18日	・日本生命病院 JMECC（8/18・2/16）
8月23日	・消防・防災訓練
8月25日	・母子家庭の母親を対象とした「無料乳がん検診・健康診査」
8月27日	・献血協力（大阪府赤十字血液センター）（8/27、3/12）
8月30日	・CPC（8/30、11/22、12/24、1/28、3/4、3/25）
9月3日	・大阪880万人訓練
9月10日	・神戸大学・神戸薬科大学合同初期研修
9月12日	・院内感染対策委員会 第52回教育講演
9月28日	・日本生命病院ICLS

10月2日	・新卒者多職種合同研修「災害を知り、災害に備える」
10月2日	・保健所立ち入り検査
10月3日	・NST講演会
10月18日	・2024年度下期進発式、日本生命病院医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
10月29日	・倫理委員会/医療安全管理委員会主催講演会 「DNAR指示をもっと理解する」
11月7日	・2024年度クリティカルパス症例検討会
11月8日	・日本生命病院 いい皮膚の日
11月13日	・篤志解剖者慰霊祭
11月14日	・日本生命エリア総合職指導層見学受け入れ
11月15日	・日本生命病院 糖尿病フェア
11月19日	・院内感染対策委員会 第53回教育講演
11月22日	・大阪市西部3病院 合同がんサロン
11月29日	・『大腿骨頸部骨折患者の二次性骨折予防について』研修会
12月10日	・外来消防・防災訓練
12月12日	・ダビンチ体験会（～12/13）
12月13日	・【講演会】ロボットを活用した今後の病院経営戦略
12月16日	・医療ガスの安全な取扱い研修会
〈2025年〉	
1月6日	・新年互礼会
1月16日	・人権研修会「人権問題について考える」
1月18日	・日本生命病院 産業医セミナー
1月28日	・認知症ケア研修会
1月31日	・輸血療法講演会「クイズで学ぶ 輸血療法パートⅡ」
1月21日	・大阪西部地区 在宅血液透析勉強会
2月15日	・日本生命病院 緩和ケア研修会
2月28日	・1年目研修医 症例報告会
3月6日	・2年目研修医 臨床研修発表会
3月21日	・世界腎臓デー市民健康講座
3月24日	・日本生命済生会理事会・評議員会

公益財団法人 日本生命済生会
日 本 生 命 病 院 年 報
公第13巻（通算第24巻） 2025年 9 月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 年報WG
発 行 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院
住 所 〒550-0006 大阪市西区江之子島 2 丁目 1 番54号
T E L (06) 644-33-446（代表）
U R L <https://www.nissay-hp.or.jp/>